

方保田東原遺跡11

サンチェリー工業増設工事に伴う発掘調査報告書

山鹿市文化財調査報告書第8集

2009

熊本県山鹿市教育委員会

序 文

山鹿市には数多くの文化財が残されております。私たちはこの文化財を山鹿市の財産として守り、市民一人ひとりが郷土の誇りとして文化財を理解できる人材の育成を行うことも行政の重要な責務であります。

山鹿市の長い歴史の中で、集落としての形態と、今日の生活の基盤を築いたのが弥生時代の稲作文化であります。特に方保田東原遺跡は中九州でも最大級の拠点集落で、邪馬台国と共に栄えた国々の一つであったであろうと考えております。

方保田東原遺跡の調査は、公共事業はもとより、民間開発でも、所有者の皆様のご協力のもと実施してまいりました。

今回の調査は平成2年度に実施したもので、縫製工場増築工事に伴うものであります。調査の結果、弥生時代における人々の暮らしぶりをうかがい知ることが出来る成果が得られ、遺跡の価値を理解する上で貴重な資料となりました。

本報告書を皆様に活用いただきたく願う次第であります。

平成21年2月28日

山鹿市教育長 田中 宏

例 言

- 1 本書は山鹿市教育委員会が、サンチェリー工業増築工事に際し平成2年度に実施した発掘調査報告書である。
- 2 本調査は山鹿市立博物館で実施した。
- 3 整理作業は山鹿市出土文化財管理センターにおいて行った。
- 4 遺物および図面、写真などは全て山鹿市出土文化財管理センターに保管している。
- 5 本書に掲載した写真は全て中村幸史郎が撮影した。なお、遺物写真右下の数字は遺物実測図番号である。
- 6 本書に掲載した遺物実測図は大森よう子、小原朱実、城葉子、野満彩子が作成した。
- 7 本書の執筆および編集は中村が行った。



1 赤色顔料精製用甕 (299) (熊本県指定重要文化財・平成 20 年 6 月 23 日指定)



2 赤色顔料精製用石杵 (48)

本文目次

巻頭図版

I	調査の経過	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	1
3	調査の経過	2
II	立地環境	5
III	調査の成果	5
1	調査区の設定	5
2	遺構と遺物	5
(1)	1号住居跡	10
(2)	2号住居跡	10
(3)	3号住居跡	12
(4)	4号住居跡	13
(5)	5号住居跡	15
(6)	6号住居跡	16
(7)	7号住居跡	17
(8)	8号住居跡	18
(9)	9号住居跡	18
(10)	11号住居跡	21
(11)	12号住居跡	22
(12)	1号溝	22
(13)	2号溝	25
(14)	2号溝埋没後土器溜め	29
(15)	3号溝	31
(16)	4号溝	33
(17)	大溝	46
(18)	周溝	49
(19)	遺構に伴わない遺物	58
①E - 1区出土遺物		58
②W - 1区出土遺物		58
③E・W - 1区出土遺物		58
④E - 2区出土遺物		66
⑤W - 2区出土遺物		66
⑥北側一括出土遺物		66

⑦E・W - 2区出土遺物	66
⑧E - 3区出土遺物	66
⑨W - 3区出土遺物	66
⑩W - 4区出土遺物	66
⑪W - 6・7区出土遺物	66
⑫E - 7区出土遺物	66
⑬W - 7区出土遺物	66
⑭周溝西側出土遺物	68
⑮W - 8区出土遺物	68
⑯南側一括出土遺物	68
⑰南側上層出土遺物	68
⑱南側2層出土遺物	68
⑲調査区一括出土遺物	68

IV	まとめ	70
----	-----	----

あとがき	72
------	----

挿図目次

第1図	市内遺跡分布図	3
第2図	遺跡地形図	4
第3図	調査区位置図	6
第4図	遺構配置図	7
第5図	1号住居跡実測図	8
第6図	1号住居跡出土遺物実測図	9
第7図	2号住居跡実測図	11
第8図	2号住居跡出土遺物実測図	11
第9図	3号住居跡出土遺物実測図	12
第10図	4号住居跡実測図	13
第11図	4号住居跡出土遺物実測図	13
第12図	5号住居跡実測図	13
第13図	5号住居跡出土遺物実測図	14
第14図	5号住居跡出土遺物実測図	15
第15図	6号住居跡実測図	16
第16図	6号住居跡出土遺物実測図	17
第17図	7号住居跡実測図	17
第18図	8号住居跡実測図	18
第19図	8号住居跡出土遺物実測図	18
第20図	9号住居跡実測図	19

第21図	9号住居跡出土遺物実測図	19
第22図	11号住居跡実測図	20
第23図	11号住居跡出土遺物実測図	20
第24図	12号住居跡実測図	21
第25図	12号住居跡出土遺物実測図	22
第26図	1号～4号溝実測図	23～24
第27図	1号溝出土遺物実測図	25
第28図	2号溝出土遺物実測図	26
第29図	2号溝出土遺物実測図	27
第30図	2号溝出土遺物実測図	28
第31図	2号溝出土遺物実測図	29
第32図	2号溝埋没後土器溜め実測図	30
第33図	土器溜め出土遺物実測図	31
第34図	3号溝出土遺物実測図	32
第35図	3号溝出土遺物実測図	33
第36図	4号溝出土遺物実測図①	34
第37図	4号溝出土遺物実測図②	35
第38図	4号溝出土遺物実測図③	36
第39図	4号溝出土遺物実測図④	37
第40図	4号溝出土遺物実測図⑤	38
第41図	4号溝出土遺物実測図⑥	39
第42図	4号溝出土遺物実測図⑦	40
第43図	4号溝出土遺物実測図⑧	41
第44図	4号溝出土遺物実測図⑨	42
第45図	4号溝出土遺物実測図⑩	43
第46図	大溝実測図	44
第47図	大溝出土遺物実測図	45
第48図	大溝出土遺物実測図	46
第49図	周溝実測図	47～48
第50図	周溝出土遺物実測図①	49
第51図	周溝出土遺物実測図②	50
第52図	周溝出土遺物実測図③	51
第53図	周溝出土遺物実測図④	52
第54図	周溝出土遺物実測図⑤	53
第55図	周溝出土遺物実測図⑥	54
第56図	周溝出土遺物実測図⑦	55
第57図	周溝出土遺物実測図⑧	56
第58図	周溝出土遺物実測図⑨	57
第59図	遺構に伴わない遺物実測図①	59
第60図	遺構に伴わない遺物実測図②	60

第61図	遺構に伴わない遺物実測図③	61
第62図	遺構に伴わない遺物実測図④	62
第63図	遺構に伴わない遺物実測図⑤	63
第64図	遺構に伴わない遺物実測図⑥	64
第65図	遺構に伴わない遺物実測図⑦	65
第66図	遺構に伴わない遺物実測図⑧	67
第67図	遺構に伴わない遺物実測図⑨	68
第68図	遺構に伴わない遺物実測図⑩	69
第69図	遺構に伴わない遺物実測図⑪	70
第70図	遺構に伴わない遺物実測図⑫	71

表 目 次

第1表	遺物観察表その1	74
第2表	遺物観察表その2	75
第3表	遺物観察表その3	76
第4表	遺物観察表その4	77
第5表	遺物観察表その5	78
第6表	遺物観察表その6	79
第7表	遺物観察表その7	80
第8表	遺物観察表その8	81
第9表	遺物観察表その9	82
第10表	遺物観察表その10	83
第11表	遺物観察表その11	84
第12表	遺物観察表その12	85
第13表	遺物観察表その13	86
第14表	遺物観察表その14	87
第15表	遺物観察表その15	88
第16表	遺物観察表その16	89
第17表	遺物観察表その17	90
第18表	遺物観察表その18	91
第19表	遺物観察表その19	92
第20表	遺物観察表その20	93

図版目次

巻頭図版

1	赤色顔料精製用甕	
2	赤色顔料精製用石杵	
PL 1	1 調査区全景	97

	2	調査風景		5	1号住居跡出土遺物 (11)	
PL 2	1	遺構検出作業風景……………98		6	〃 (12)	
	2	調査区全景		7	〃 (13)	
	3	1号住居跡 (北側から)		8	〃 (14)	
PL 3	1	1号住居跡遺物出土状況……………99	PL15	1	〃 (15) …… 111	
	2	1号住居跡完掘状況		2	〃 (16)	
	3	2号住居跡遺物出土状況		3	〃 (17)	
PL 4	1	3号住居跡…………… 100		4	〃 (18)	
	2	2号住居跡と4号住居跡		5	2号住居跡出土遺物 (19)	
	3	5号住居跡遺物出土状況		6	〃 (24)	
PL 5	1	5号住居跡遺物出土状況…………… 101		7	〃 (27)	
	2	6号住居跡遺物出土状況		8	〃 (27)	
	3	6号住居跡遺物出土状況	PL16	1	〃 (27) …… 112	
PL 6	1	11号住居跡…………… 102		2	〃 (27)	
	2	11号住居跡遺物出土状況		3	3号住居跡出土遺物 (28)	
	3	12号住居跡		4	〃 (29)	
PL 7	1	12号住居跡 (東側から) …… 103		5	〃 (32)	
	2	1号溝		6	5号住居跡出土遺物 (36)	
PL 8	1	2号溝…………… 104		7	〃 (37)	
	2	2号溝		8	〃 (39)	
	3	2号溝	PL17	1	〃 (41) …… 113	
PL 9	1	2号溝埋没後土器溜め…………… 105		2	〃 (42)	
	2	2号溝埋没後土器溜め		3	〃 (45)	
	3	2号溝埋没後土器溜め		4	〃 (46)	
PL10	1	3号溝…………… 106		5	〃 (48)	
	2	3号溝		6	〃 (48)	
	3	4号溝		7	〃 (48)	
PL11	1	4号溝 (西側から) …… 107		8	〃 (49)	
	2	4号溝 (東側から)	PL18	1	〃 (50) …… 114	
	3	4号溝遺物出土状況		2	〃 (51)	
PL12	1	大溝全景…………… 108		3	〃 (51)	
	2	大溝 (西側部分)		4	〃 (52)	
	3	大溝 (東側部分)		5	〃 (53)	
PL13	1	大溝底面…………… 109		6	〃 (54)	
	2	周溝全景		7	〃 (55)	
	3	周溝調査風景		8	〃 (55)	
PL14	1	1号住居跡出土遺物 (1) …… 110	PL19	1	6号住居跡出土遺物 (56) …… 115	
	2	〃 (4)		2	〃 (57)	
	3	〃 (6)		3	〃 (62)	
	4	〃 (8)		4	9号住居跡出土遺物 (68)	

	5	9号住居跡出土遺物 (69)		5	3号溝出土遺物 (155)
	6	〃 (70)		6	〃 (160)
	7	〃 (71)		7	〃 (161)
	8	11号住居跡出土遺物 (73)		8	〃 (162)
PL20	1	〃 (76) …… 116	PL25	1	〃 (164) …… 121
	2	〃 (77)		2	〃 (165)
	3	〃 (78)		3	〃 (166)
	4	〃 (78)		4	4号溝出土遺物 (167)
	5	11号住居跡出土遺物 (79)		5	〃 (168)
	6	12号住居跡出土遺物 (84)		6	〃 (169)
	7	〃 (84)		7	〃 (170)
	8	〃 (88)		8	〃 (171)
PL21	1	1号溝出土遺物 (89) …… 117	PL26	1	〃 (172) …… 122
	2	〃 (90)		2	〃 (177)
	3	〃 (92)		3	〃 (179)
	4	2号溝出土遺物 (93)		4	〃 (181)
	5	〃 (96)		5	〃 (182)
	6	〃 (100)		6	〃 (183)
	7	〃 (101)		7	〃 (187)
	8	〃 (106)		8	〃 (195)
PL22	1	〃 (107) …… 118	PL27	1	〃 (198) …… 123
	2	〃 (108)		2	〃 (199)
	3	〃 (110)		3	〃 (200)
	4	〃 (111)		4	〃 (201)
	5	〃 (112)		5	〃 (202)
	6	〃 (115)		6	〃 (203)
	7	〃 (118)		7	〃 (204)
	8	〃 (122)		8	〃 (206)
PL23	1	〃 (123) …… 119	PL28	1	〃 (207) …… 124
	2	〃 (124)		2	〃 (208)
	3	〃 (125)		3	〃 (210)
	4	〃 (127)		4	〃 (212)
	5	2号溝埋没後遺物 (134)		5	〃 (213)
	6	〃 (137)		6	〃 (217)
	7	〃 (139)		7	〃 (218)
	8	〃 (140)		8	〃 (219)
PL24	1	3号溝出土遺物 (146) …… 120	PL29	1	〃 (220) …… 125
	2	〃 (147)		2	〃 (221)
	3	〃 (149)		3	〃 (224)
	4	〃 (153)		4	〃 (225)

	5	4号溝出土遺物 (226)	
	6	〃 (230)	
	7	〃 (231)	
	8	〃 (232)	
PL30	1	〃 (237)……………	126
	2	〃 (239)	
	3	〃 (240)	
	4	〃 (241)	
	5	〃 (245)	
	6	〃 (246)	
	7	〃 (248)	
	8	〃 (249)	
PL31	1	〃 (252・253) ……	127
	2	〃 (259)	
	3	〃 (266)	
	4	〃 (267)	
	5	〃 (268)	
	6	〃 (269)	
	7	〃 (270)	
	8	〃 (270)	
PL32	1	大溝出土遺物 (272)……………	128
	2	〃 (273)	
	3	〃 (274)	
	4	〃 (275)	
	5	〃 (283)	
	6	〃 (283)	
	7	〃 (277)	
	8	〃 (285)	
PL33	1	〃 (286)……………	129
	2	〃 (287)	
	3	〃 (289)	
	4	〃 (290)	
	5	〃 (291)	
	6	〃 (292)	
	7	〃 (293)	
	8	〃 (294)	
PL34	1	周溝出土遺物 (299)……………	130
	2	〃 (299)	
	3	〃 (300)	
	4	〃 (301)	

	5	周溝出土遺物 (309)	
	6	〃 (309)	
	7	〃 (309)	
	8	〃 (309)	
PL35	1	〃 (305)……………	131
	2	〃 (315)	
	3	〃 (320)	
	4	〃 (326)	
	5	〃 (329)	
	6	〃 (331)	
	7	〃 (333)	
	8	〃 (336)	
PL36	1	〃 (341)……………	132
	2	〃 (352)	
	3	〃 (354)	
	4	〃 (360)	
	5	〃 (366)	
	6	〃 (382ほか)	
	7	〃 (420)	
	8	〃 (421)	
PL37	1	〃 (426)……………	133
	2	〃 (430)	
	3	〃 (438)	
	4	〃 (441)	
	5	〃 (443)	
	6	〃 (445)	
	7	〃 (446～448)	
	8	〃 (454)	
PL38	1	遺構に伴わない遺物 (457)……………	134
	2	〃 (463)	
	3	〃 (487)	
	4	〃 (496)	
	5	〃 (519)	
	6	〃 (526)	
	7	〃 (527)	
	8	〃 (535)	
PL39	1	〃 (540)……………	135
	2	〃 (543)	
	3	〃 (564)	
	4	〃 (565)	

	5	遺構に伴わない遺物 (566)	
	6	〃 (568)	
	7	〃 (569)	
	8	〃 (578)	
PL40	1	〃 (593) … 136	
	2	〃 (606)	
	3	〃 (607)	
	4	〃 (608)	
	5	〃 (図なし)	
	6	〃 (図なし)	
	7	〃 (図なし)	
	8	〃 (図なし)	

I 調査の経過

1 調査に至る経過

平成2年(1990)10月中旬、国庫補助を得て方保田東原遺跡周辺の水田調査を行っていたところ、サンチェリー工業の増築工事の話が飛び込んできた。このため、サンチェリー工業に対し10月12日文書で埋蔵文化財調査の必要性について協力要請を行った。

山鹿市としては博物館で文化財を行っており、現状では調査体制も整っておらず、国庫補助の調査も行っているため、会社側には工事の延期をお願いした。しかしながら、会社側は年度末には操業開始を目指しており、会社の経営に影響を与えかねないので、早急の調査実施を求められた。このため10月30日には発掘調査を回避する方法として、地下の遺構に影響のない工法が取れないかを設計担当の本山建設の黒田氏と協議した。

翌日の31日県文化課に出向いて、地下の遺構に影響のない方法で基礎工事を行うことが可能であると、設計担当の確認が取れたので、発掘調査が回避出来ないかを相談した。

県文化課からは、遺構に影響が無くとも永久構造物を建設するからには発掘調査を行うべきであるとの指導があり、発掘調査をしなければならなくなった。

このため調査員1名では対応できなくなり、博物館職員5名のうち2名の事務職員を急遽動員して、国庫補助で行っている水田調査と平行してサンチェリー工業の調査を行うこととした。

11月2日発掘調査に関して、サンチェリー工業および親会社の大阪西川と協議し、調査経費については理解を示され、原因者負担で行うこととなった。

11月21日文化財保護法第57条の2に基づく発掘届けが提出され、県文化課へ送る。

12月5日(水)文化財保護法第98条の2第1項

に基づく発掘届けを作成し県に提出した。

12月7日(金)調査開始時期について話し合い、2月には工事着手をしたいので、1月末までには調査終了を希望された。

12月8日(土)工事施工会社の担当と共に調査範囲に杭打ちを行う。

2 調査の組織

調査主体 山鹿市教育委員会
山鹿市立博物館

総括 北井澄生(山鹿市教育長)
調査団長 轟木正斗(山鹿市立博物館長)

調査事務 次木万里子(主任主事)

調査担当 中村幸史郎(博物館副館長)
大森 勲(主事)
山下 透(技師補)

発掘作業 飯田民子、飯田ツヤ子、飯田ミツ子、池田一子、石橋アサ子、井上秀実、奥村千鶴子、鹿子木アヤオ、鹿子木勇、鹿子木ナオコ、亀井十三男、北原美和子、木下武彦、木庭エツコ、木庭常人、木庭ユキノ、坂本安子、高橋信子、高橋道昭、高森ミサヲ、竹下泰行、竹下ユリ子、立山翠子、中井亀一、中川忠助、中村キヨコ、永本京子、野田辰起、福山須美子、福山千代美、福山陽子、前川コユキ、前川キミエ、前川誠一、松野千尋、松本定、松永ミハル、松永サエ、森田ヒロ子、吉井新助、吉川陽子、吉田利春、若杉美也子、若杉桂子、若杉敬子

整理作業 生島統夫、石橋洋子、大森よう子、小原朱実、城葉子、野満彩子、淵上厚子、森みつよ、山口美智子、渡辺晃

調査協力 株式会社大坂西川・見谷耕作、サンチェリー工業・前川政治、本山建設・黒田明、

3 調査の経過

平成2年(1990)

12月10日(月)

表土剥ぎ作業開始。ユンボとダンプ2台をフル稼働で行う。

12月15日(土)

何とか表土剥ぎ終了。遺構が見えている。

12月17日(月)

昭和57年に範囲確認調査を行った際の、近江工業内第5トレンチの痕跡が検出されている。調査区の中央に溝が見えている。

12月19日(水)

写真撮影のため調査区南端にローリングタワーを2列で4段に組み立てる。工場東側のカイヅカイブキ8本を切り倒す。

12月28日(金)

年内の作業は本日までとする。

平成3年(1991)

1月8日(火)

本日よりサンチェリーの調査を一時離れて国庫補助の水田調査に専念する。

1月12日(土)

南端部と中央部の溝を掘り下げる。

1月16日(水)

中央部の溝を掘り下げる。

1月19日(土)

休日返上で2カ所の調査を進める。中央部の溝の検出に全力を傾ける。

1月26日(土)

調査区北側の溝の検出と実測を行う。中央の溝の底検出。南端の遺物取り上げ作業実施。中央の溝は幅7m、深さ2.6mの規模で、白磁片が出土しており中世の溝の可能性が高い。

2月8日(金)

北端部溝内より炭化粃がまとまって出土した。この溝ではかつての調査でも出土しており、その時の炭化米と同じであろう。

2月12日(火)

南端部の床面がようやく出始めており、平坦になっている。弥生終末の土器と共に、古式土師器が出土している。

2月13日(水)

南側の住居内より銅鏃1点が出土した。状態が悪く原形を保っていない。

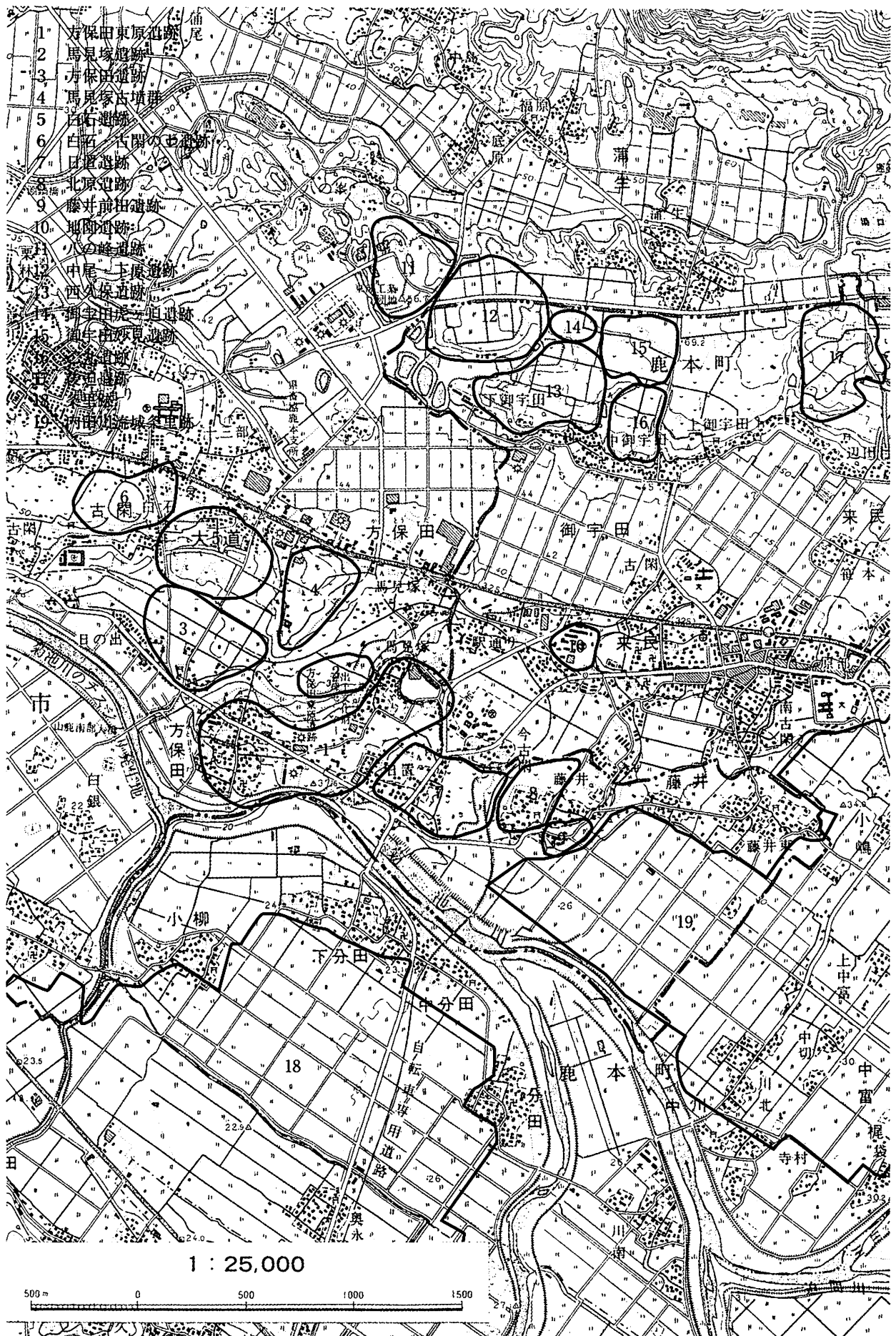
2月18日(月)

遺構の全容が明らかになってきたが、朝から霜柱の除去に手を取られ、状態も悪い。この日以降水田調査を行いつつ実測に専念する。

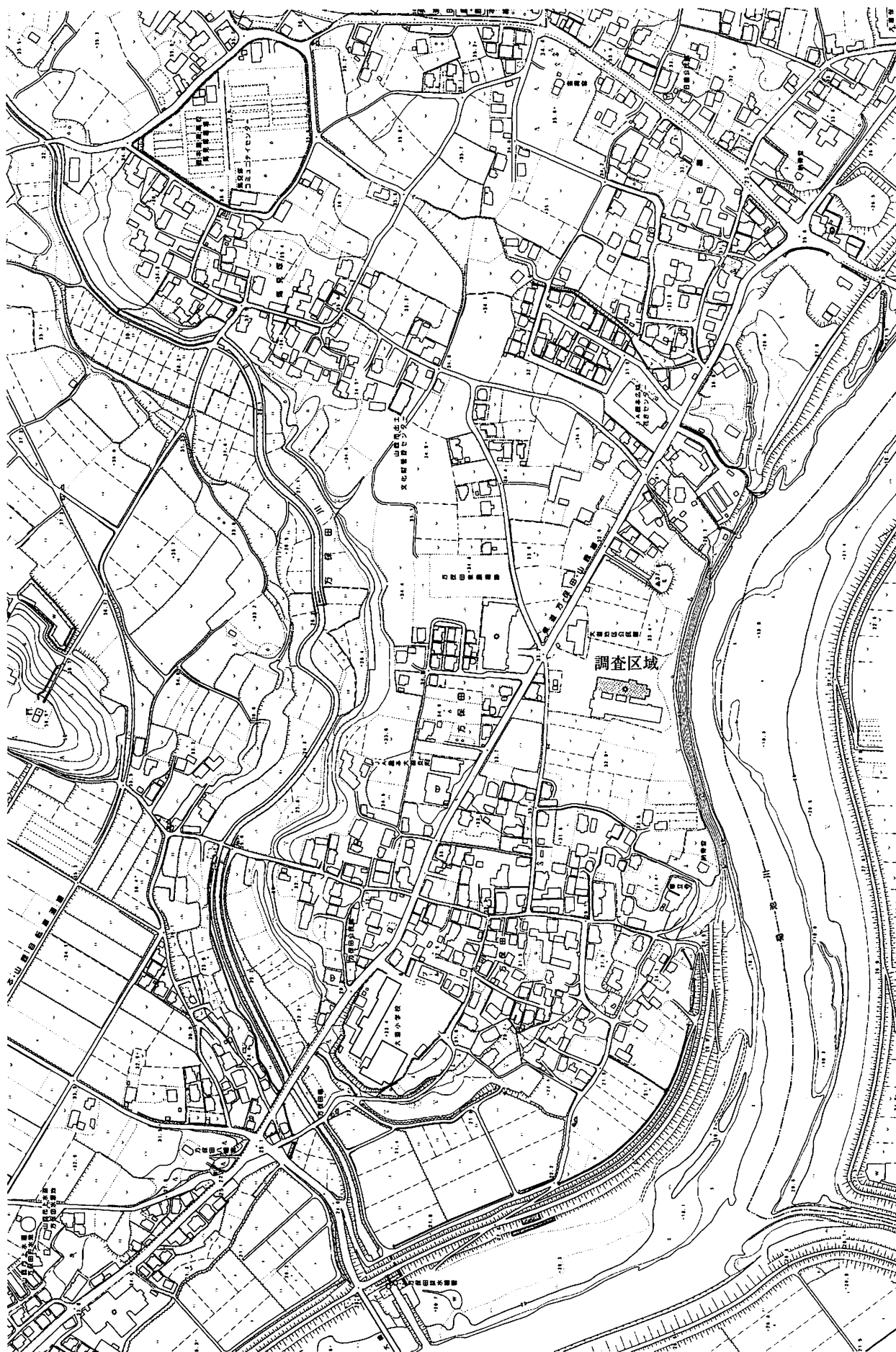
4月4日(木)

調査完了。

ひとえに3現場を掛け持ちで調査進行せざるを得なかった事情と、調査に応援してくれた大森、山下の両氏には事務担当にもかかわらず現場作業等多大な負担を強いる結果となった。専門調査員の少ない脆弱な調査体制で、迫りくる時間との戦いの中での調査であった事で、遺跡内から十分な情報を得られたのかと自問自答するような次第で調査員としての責務が果たせたか、はなはだ疑問である。



第1図 市内遺跡分布図



第2図 遺跡地形図（平成13年段階）

Ⅱ 立地環境

熊本県北部を流れる菊池川は、阿蘇外輪山北側の菊池溪谷に源を発し、周辺の大小75の流れを集めて有明海へと注いでいる。

また、阿蘇の噴火活動によって形成された火砕流による台地が形成され、川の流れと密接に関係し、氾濫源の形成に深く関わっている。

このため、菊池市から山鹿市にかけてと、玉名市では広大な氾濫原を形成し、肥沃な穀倉地帯となっている。

このほかにも河岸段丘なども見られ、古くから人々の生活の基盤となっている。

方保田東原遺跡は菊池川中流域の河岸段丘上に営まれた遺跡である。この段丘の近くでは合志川、千田川、方保田川が合流しているため、本流である菊池川は蛇行しつつ流れている。そのため方保田の台地を浸食し続けている。また、地形的には東から西に向かって延びる舌状を形成しており、南には菊池川、北から西には方保田川が回り込んで合流している。

今回調査を行った部分は菊池川を南に見下ろす様な場所で、遺跡の南側を著しく浸食されている場所である。このため、台地の縁に築造されている端山塚古墳（山鹿市指定文化財）は南側半分を削り取られ、墳頂部から川へと一直線に崖面を形成している。かつては古墳の南側に畑が存在していたが、今では姿形も見られない。

この部分には現在確認されているだけでも、東から清水山古墳、亀塚古墳、端山塚古墳、京塚古墳へと続いている。古墳そのものは石棺系の埋葬主体であろう。

弥生時代後期から古墳時代前期にかけては集落遺跡で、古墳時代中期には墓域としての機能性を有している。

Ⅲ 調査の成果

1 調査区の設定（第3図）

今回の発掘調査は、サンチェリー工業の増築工事に伴って行うものであり、既存の工場に平行するように建設が計画されていた。

このため増築部分のみを調査対象として、既存工場の東側7mの位置に南北59m、東西18mの範囲とした。

調査区は主軸をN17°Eに向けており、長軸中心線で杭を打ち東西地区に分けたが、設定がずれたためE区8m、W区9mの幅で杭を打つ結果となった。さらに、南北には10m間隔で杭打ちしたが、実測に際し方眼紙の広さで1～9区に分けたため、多少煩雑な区分けになってしまった。

調査区北端部では、昭和56年度に実施した範囲確認調査時の近江工業内第5トレンチとしていた一部が検出された。このときの溝の番号を踏襲し、1号溝、2号溝とした。

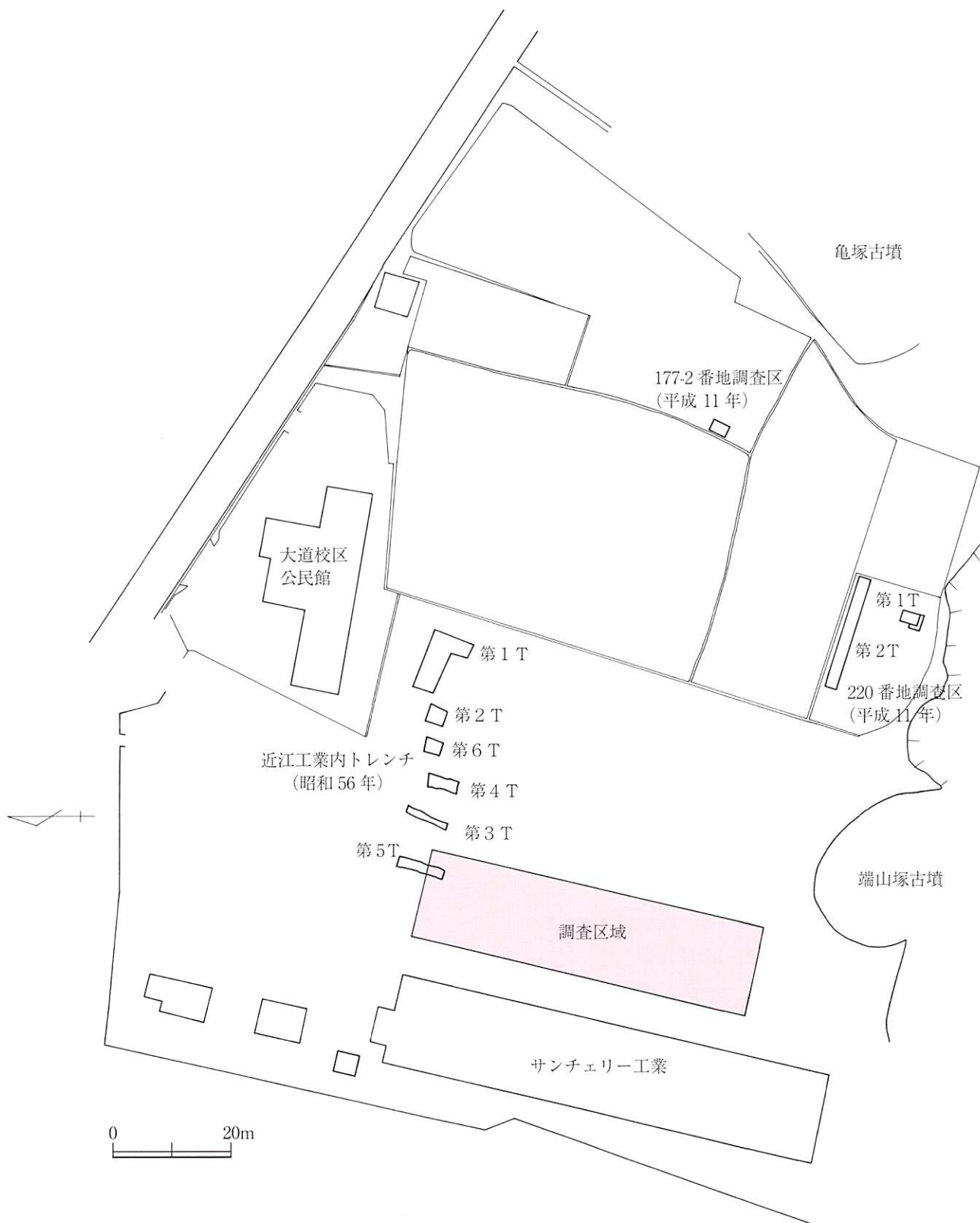
なおサンチェリー工業の名称は、以前近江工業と称していたもので、同一の会社である。

2 遺構と遺物（第4図）

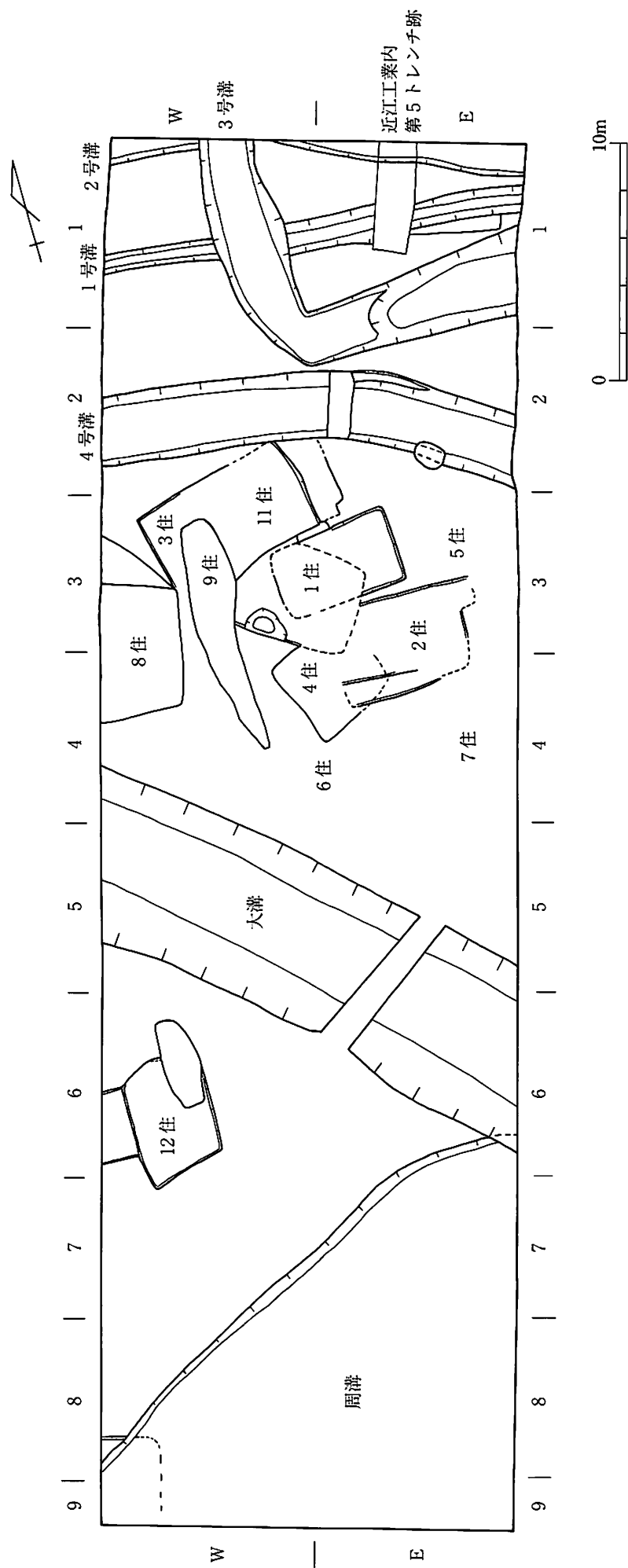
今回の調査で検出された遺構としては、竪穴住居と溝状遺構が主な遺構である。

調査区北側には弥生時代の溝が4本検出され、1、2、4号溝は東西方向に走り、3号溝はL字状に折れて検出された。

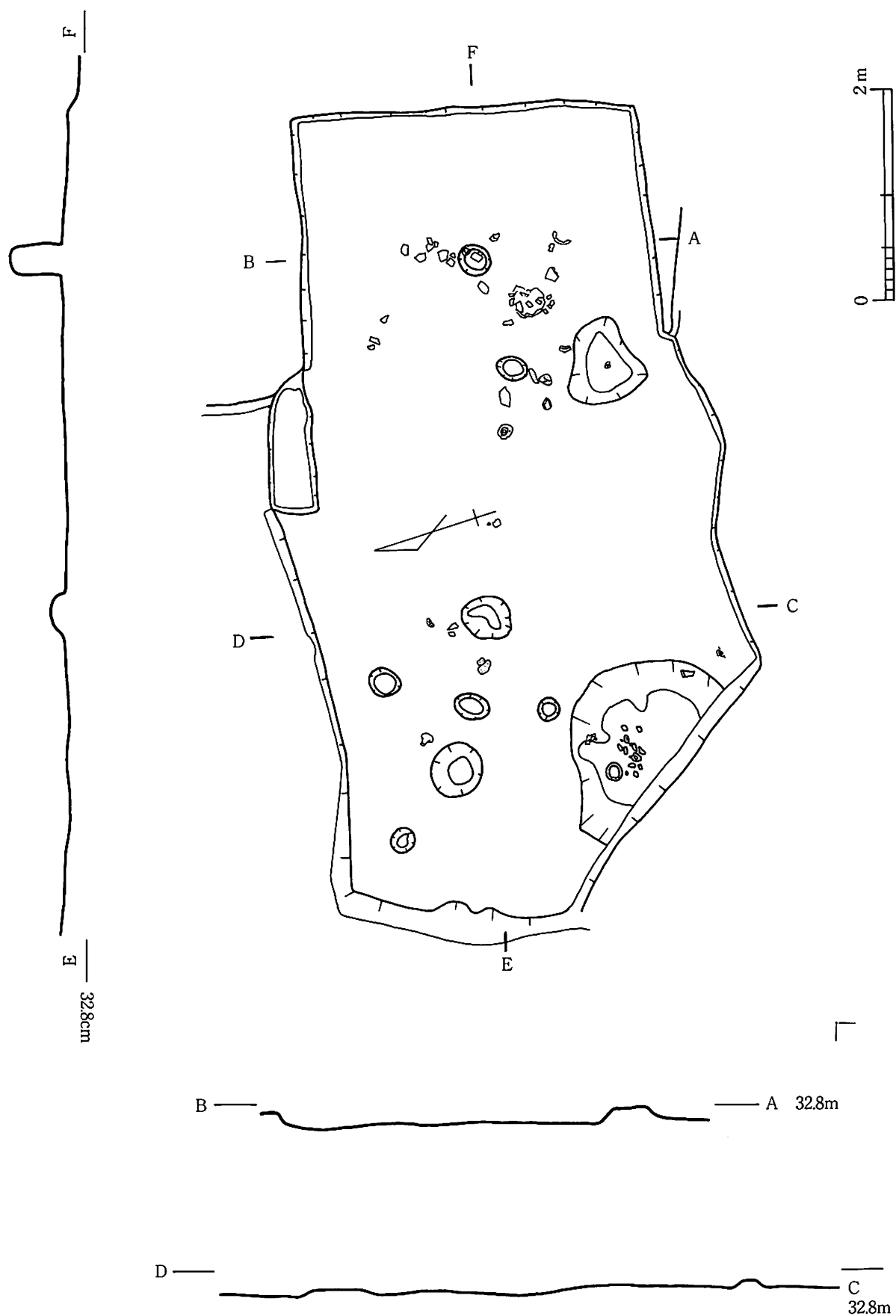
中央部には、中世の大溝が調査区を斜めに走っていた。南端部では溝といえるか微妙なところで、端山塚古墳を中心に円を描きながら平坦面が形成されている。古墳の周濠であれば深く掘り下げるところであり、調査時には古墳築造に際し平坦面を構築したものと推察した。しかし、平坦面であり周濠としての形状ではなかった。さらに整理作業を進めていく中で遺物の時間的位置づけが古墳



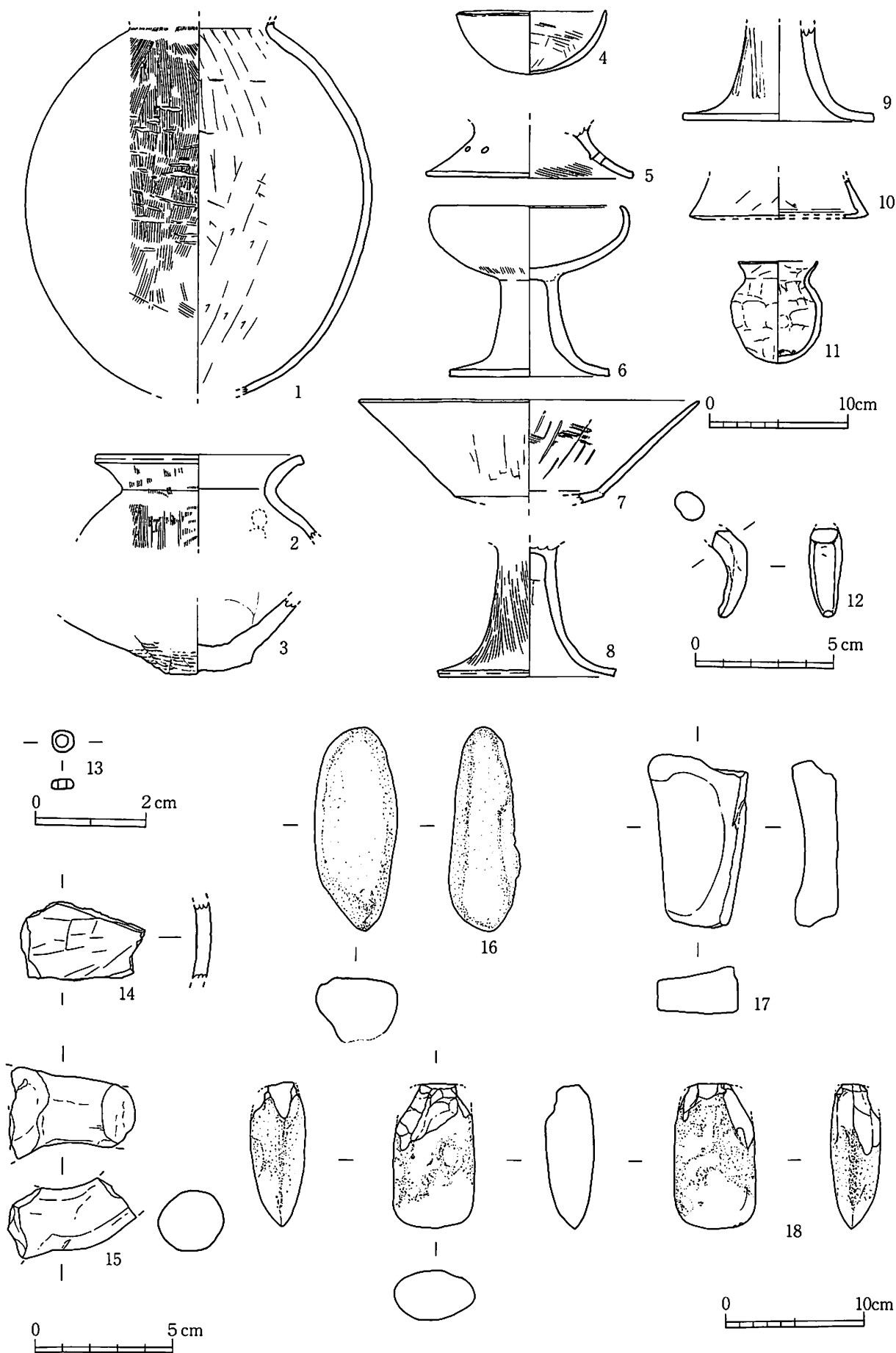
第 3 図 調査区位置図



第4図 遺構配置図



第5図 1号住居跡実測図



第6图 1号住居跡出土遺物実測図

時代とは異なり、中世以降の産物であると考えざるを得ない結果となってきた。調査段階の名称で整理を行ったことから便宜上この名称をつかうものである。

住居跡は、4号溝と大溝の間に切り合いながら、まとまって検出されたが、壁の確認が出来ずに床面のみで確認できたものもある。

遺構の番号については発掘した順番になっており、切り合い関係や地区別に分けたものではない。

(1) 1号住居跡 (第5図)

E-3区とW-3区にまたがり4号溝南側に位置し、2号住居跡と11号住居跡に挟まれる形で検出した。2号住居跡とは壁の向きが同じである。同時期に存在していた可能性もある。東壁は確認できたが、西側および南北の壁の一部は確認できなかった。特に東西に長い形状なので西側に別の住居跡が重なっているようであったが、切り合いなど明確にできなかった。東壁面は長さ3.2mを測る。床面は硬く締まっており硬化面が広がっていた。遺物は床面近くでまとまっているが、数は少ない。西側には貯蔵穴を配しているが壁の方向に違いが見られ別の住居の可能性が高い。

遺物 (第6図)

1は口縁部を欠損した壺である。球形をした胴部には粗い叩き目を施した後2種類のハケ目調整を行っている。内面は下部では搔き上げる様なヘラ削りを行い、上部では指圧痕による調整を行っている。2も壺である。口縁部から頸部片である。3も壺である。底部片であるが、作りが雑で変形したうえに植物繊維の圧痕が多く見られる。

4は鉢である。口縁部の一部を欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。5は脚付き鉢の脚部である。2個の穿孔を3カ所に配している。6も脚付き鉢である。上部は鉢であるところから高杯とはしなかった。

7から9は高杯である。7は杯部片で内面に細い暗文が見られる。8と9は脚部である。10はジョッキ形土器の破片である。11は手握の壺であ

る。完全な姿を残している。12は土製勾玉である。頭部を欠損している。13はコバルトブルー色をしたガラス小玉である。孔が大きく、全体に細い感じのするガラス小玉である。

14は内面に赤色顔料が付着した土器片である。くすんだ色からベンガラであろう。15は把手である。スプーンの柄とも考えられたが湾曲が強いので把手と判断した。16は赤色顔料が付着した礫である。17は砥石である。一面を使用しており、中央部がくぼんでいる。18は石斧である。刃部は研磨しているが、本体は敲打痕を残している。基部は欠損している。

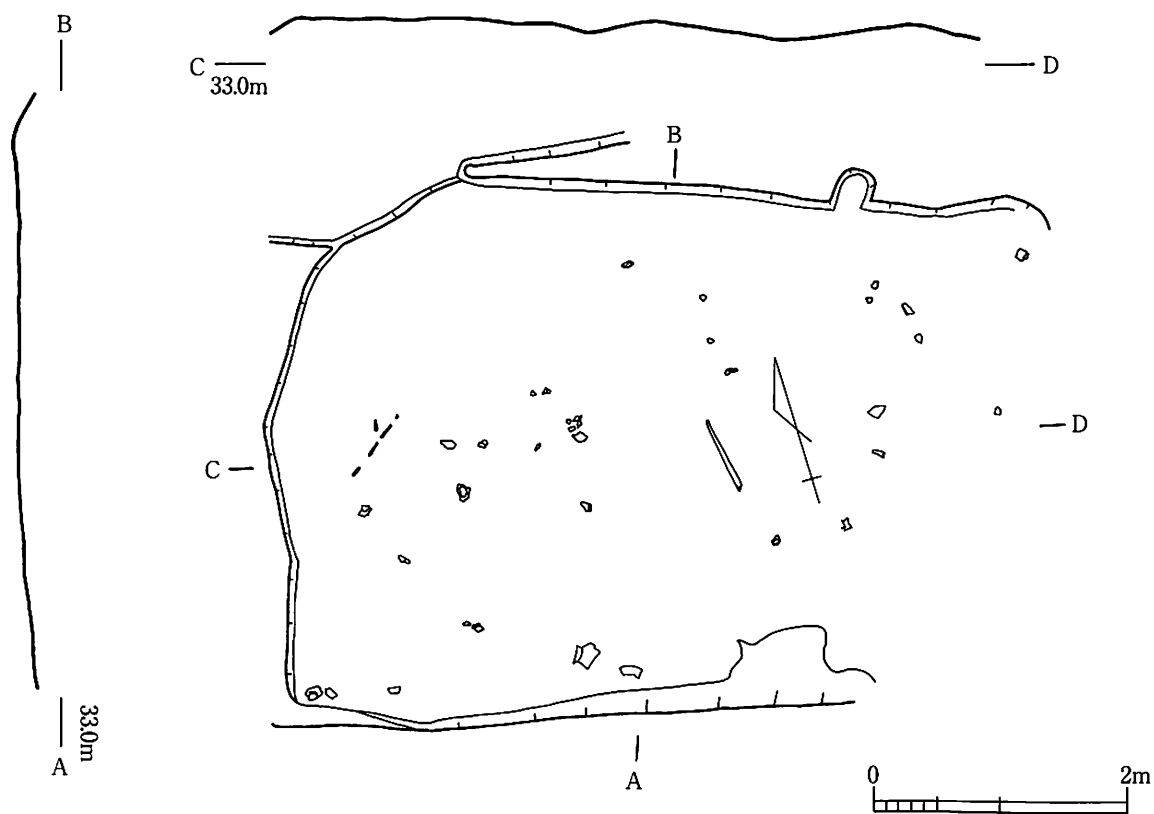
(2) 2号住居跡 (第7図)

E-3区と4区にまたがり1号住居の南側に位置し、西側壁で4号住居を切っていた。遺物は少なく散在する形で出土している。床面は強く締まっている。中央部には炭化材が検出された。

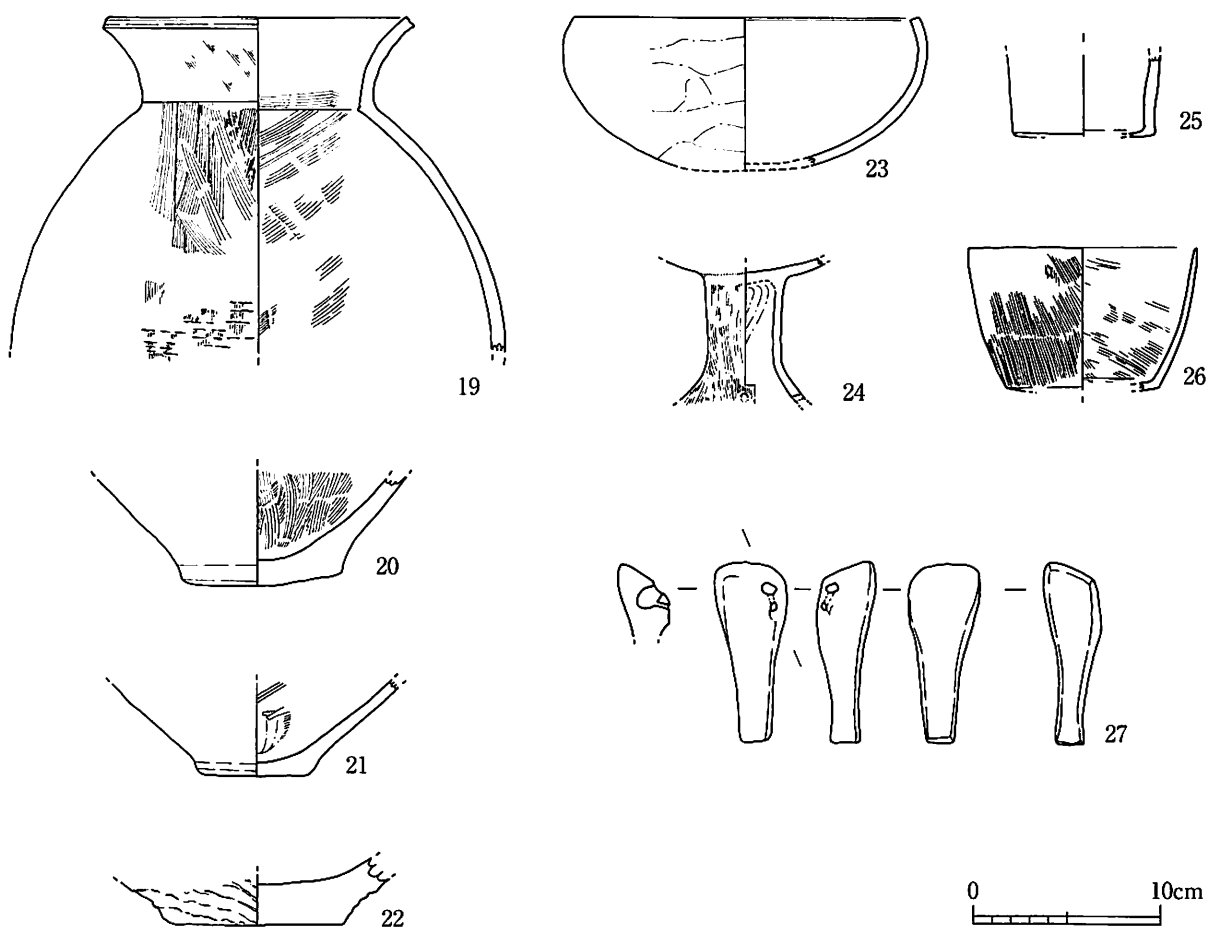
遺物 (第8図)

19は口縁部から胴部中位までの壺の破片である。焼成は良く強く締まっている。20も壺で底部のみである。21と22も壺の底部である。22は粗い叩き目が施されている。

23は鉢の破片である。24は高杯の脚部である。裾部を欠損している。25と26はジョッキ形土器片である。27は携帯用砥石である。かなり使い込まれた砥石で、基部に2個の穴が穿たれ、内部でつながり紐を通せるように加工していた。使用した人の知恵と工夫の跡を確認できる極めて珍しい砥石である。



第7图 2号住居跡実測図



第8图 2号住居跡出土遺物実測図

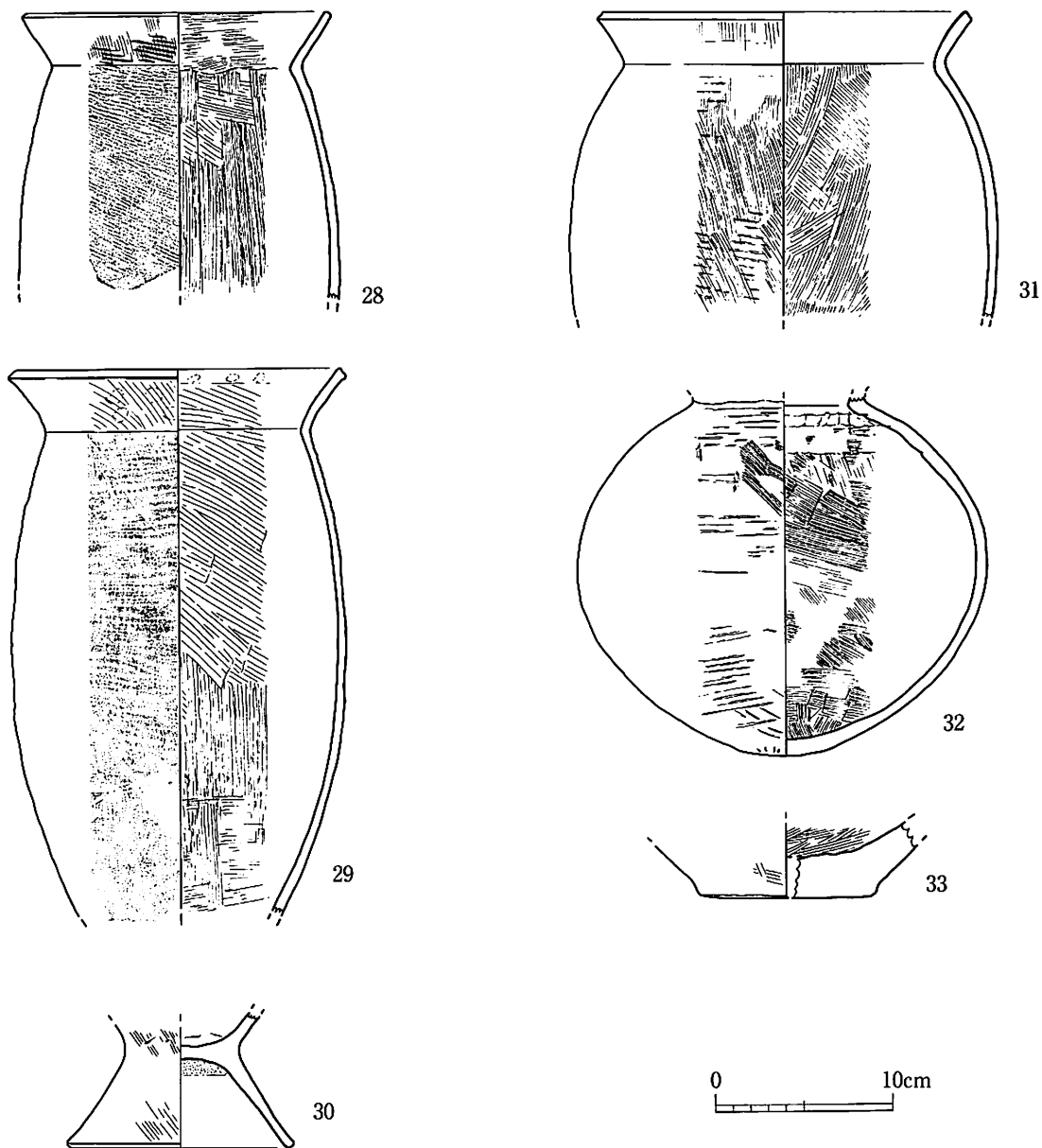
(3) 3号住居跡

W-3区で11号住居の西側に位置するが、明確な輪郭をつかむことが出来なかった。遺物の出土と硬化した床面の状態から住居跡とした。

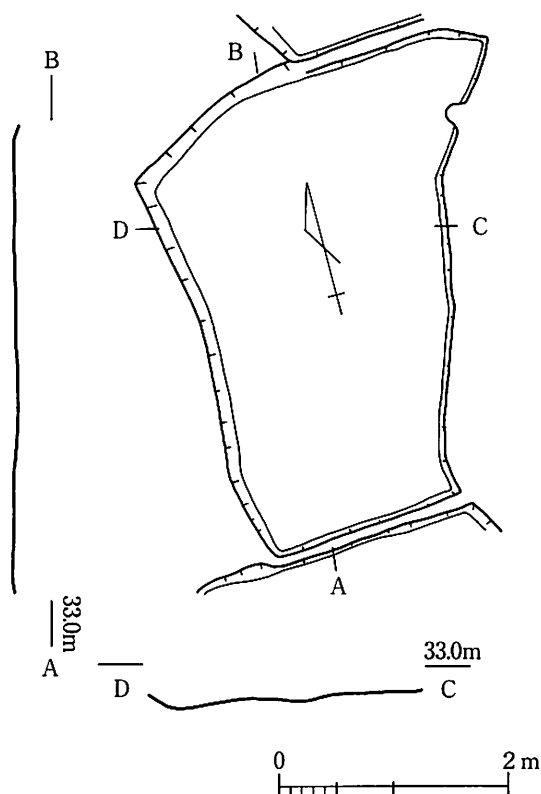
遺物 (第9図)

28から31は在地系の甕である。28は表面にきめ細かい叩き目を施している。29は長胴で脚が着きそうである。表面の叩き目は粗い。30は脚台である。31も粗い叩き目とハケ目を施している。32は精製された粘土を使用した土師器の壺で、口縁部

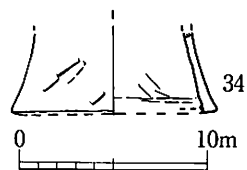
を欠いている。器面は細かなヘラ研磨を施し、内面には細かな刷毛目で調整を行っている。33は壺の底部片である。大型の壺になりそうである。



第9図 3号住居跡出土遺物実測図



第10図 4号住居跡実測図



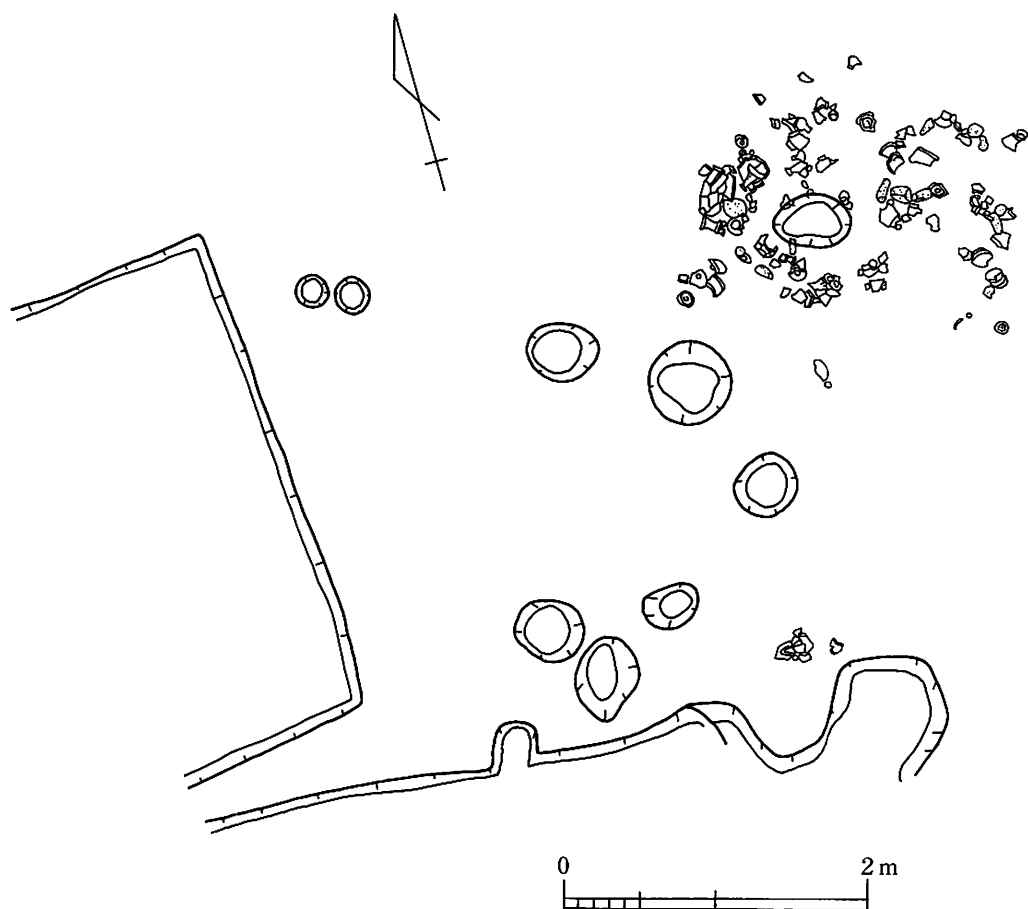
第11図 4号住居跡出土遺物実測図

(4) 4号住居跡(第10図)

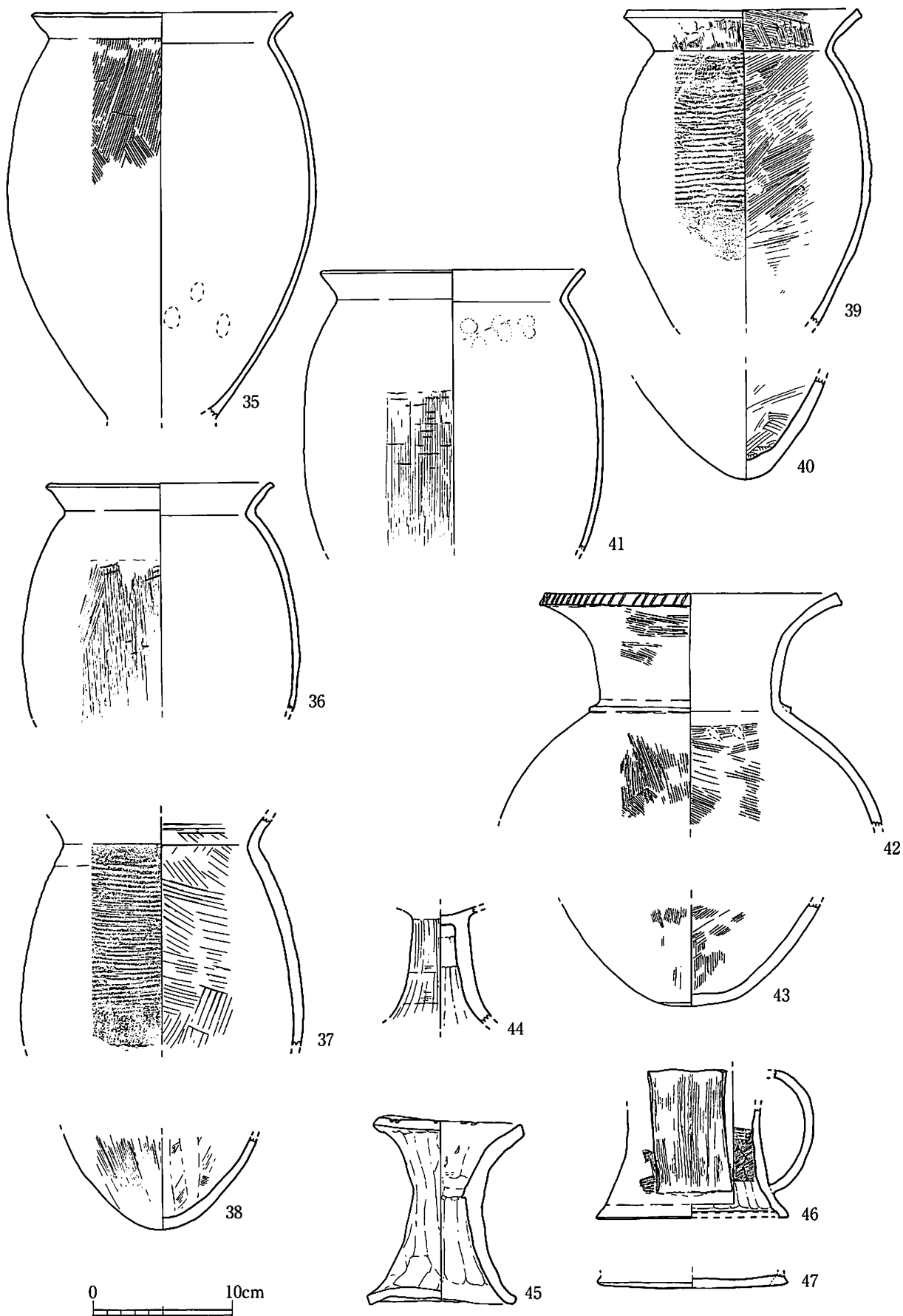
E-4区とW-4区にまたがり2号住居の西側に位置し、東側の大半を2号住居から切られている。そのため西側の壁のみが残り、南北の壁は途中までである。遺物は殆ど見られず、実測できたのは1点であった。

遺物(第11図)

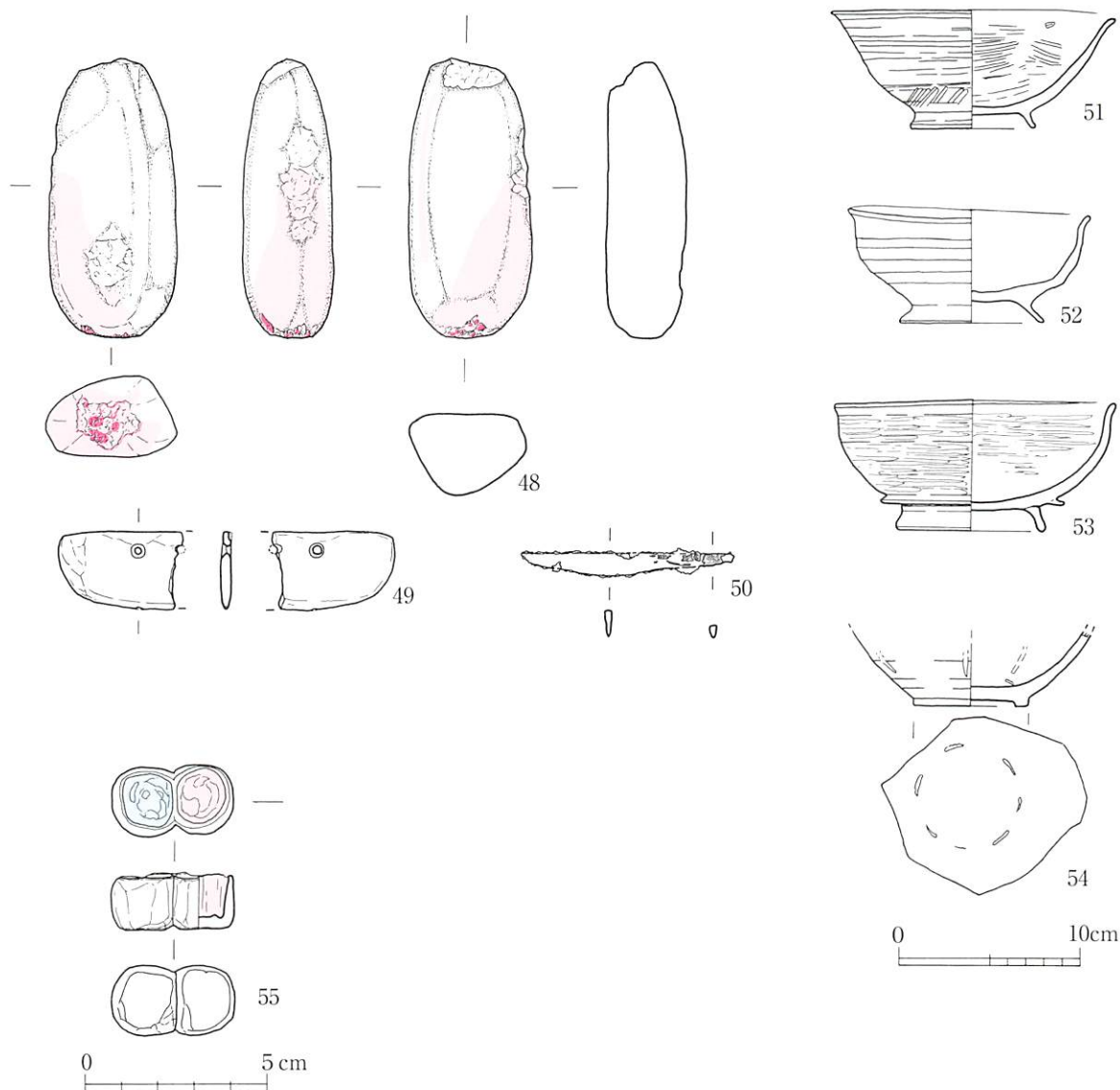
34はジョッキ形土器の破片で、器壁は薄い。



第12図 5号住居跡実測図



第13図 5号住居跡出土遺物実測図



第14図 5号住居跡出土遺物実測図

(5) 5号住居跡 (第12図)

E-3区で4号溝の南側に位置し、2号住居と11号住居に挟まれた区域である。明確な壁は確認できなかったが、遺物の出土と床面としての硬化面が広がっていたところから住居跡とした。規模は不明である。遺物の時期に開きがあり、中世の攪乱も考えられる。

遺物 (第13・14図)

35から41までは在地系の甕である。35はハケ目調整の甕で底部は脚台になる。器高に比べ口縁部は短い。表面は煮沸により煤の付着が著しい。36も口縁部が短く、煤の付着が著しい。37は口縁部先端を意図的に打ち欠いている。胴部中位以下を

欠損している。水平方向の叩き目が鮮やかである。38は長胴甕の底部である。煤の付着が見られる。39と40は同一個体と思われるが接点を確認できない。41はハケ目と僅かに叩き目を残している。35と同様に口縁部が短い。

42は壺である。口縁部から胴部上位までの破片である。口縁部は大きく開き、口唇部には刻み目を配している。頸部には凸帯を巡らしている。43も壺で底部のみである。44は高杯の脚部である。裾部を欠いているため穿孔は確認できない。45は完形の器台である。指の痕が残り、作りとしては粗い。内部は一旦下側から穴を広げ、その後上から押し広げているので、粘土がめくれたようになっている。46と47はジョッキ形土器である。46

は口縁部と底部を欠いている。47は底部のみである。

48は赤色顔料を加工した石杵である。自然礫を利用したもので、端部は敲打痕を残し赤色顔料が付着している。くすんだ色からベンガラであろうと判断した。この杵では叩き潰すような作業を行っており、磨り潰す動作は確認できない。49は石包丁の破片である。変成岩製である。50は刀子である。かなり研ぎ減りしている。51と52は土師器の碗である。51は全面を研磨しており光沢を有している。高台を有し大きく口を開いている。51も高台を有している。53は黒色土器の托付碗である。全面黒く光沢を保っている。高台の直上には茶托を表現し、碗へと続いている。54は青磁の碗である。口縁部を欠いているが花卉状の切り込みが確認できる。見込みには重ね焼きの痕跡を確認できた。色彩はくすんでおり、青色が薄く越州窯系青磁器である。55は滑石製の連杯である。出土例が少ないが熊本県内では荒尾市の前田遺跡から出土している¹。小さな容器として利用されていたのであろうが、用途は不明である。

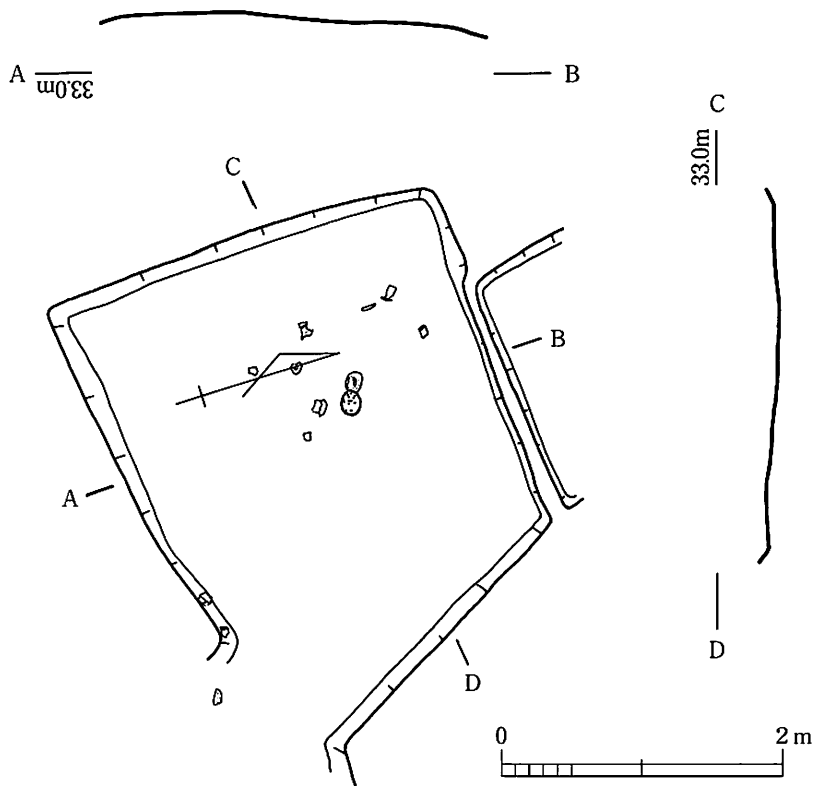
(6) 6号住居跡 (第15図)

E-4区で2号住居跡と4号住居跡の南側に位置している。西側の壁を残し、北側と東側の壁は直角にならず、南東壁は7号住居に切られている。炉跡は確認できなかったが遺物の出土と床面の硬化状況から住居とした。

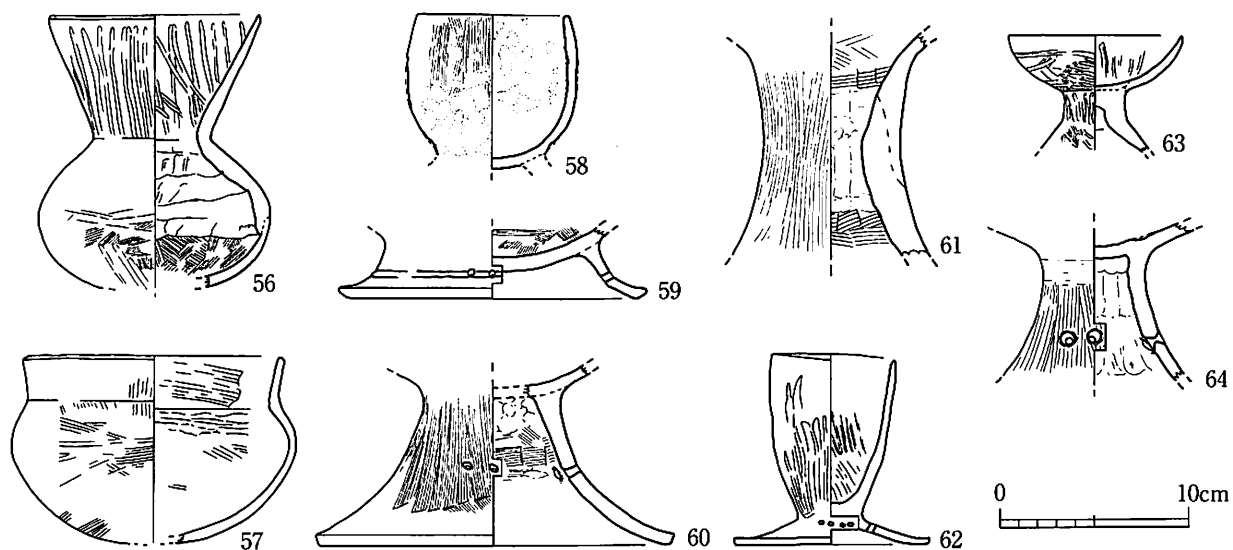
遺物 (第16図)

56は土師器の壺である。口縁部は直線的に広がり、両面にヘラによる暗文が施され、胴部には輪積みの痕跡を明瞭に残している。

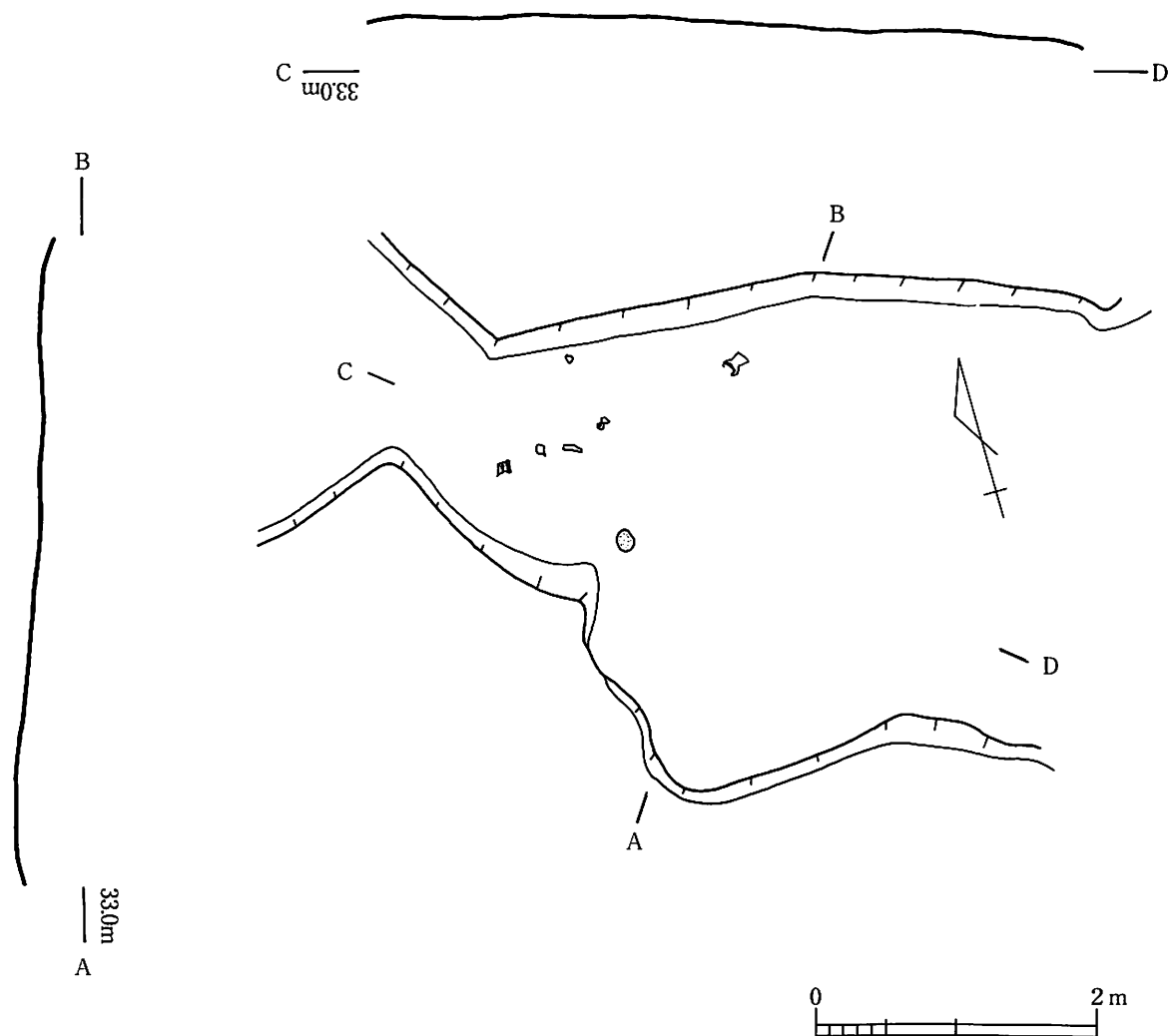
57は半欠状態の鉢である。58も鉢であるが、コップ状の本体に脚を有している。使用によるものか器面の剥離が著しい。59も鉢で脚部のみである。2個の穿孔がある。60も鉢の脚部で2個の穿孔を有している。61は器台である。62は脚を有する鉢である。ジョッキ型土器と異なり把手は見られない。脚には3個と4個の穿孔が見られる。63は土師器の脚付き鉢である。表面と脚内面には赤色顔料の塗布が見られる。64は高杯の脚部である。脚には2個の穿孔が4カ所に配置されている。



第15図 6号住居跡実測図



第16図 6号住居跡出土遺物実測図

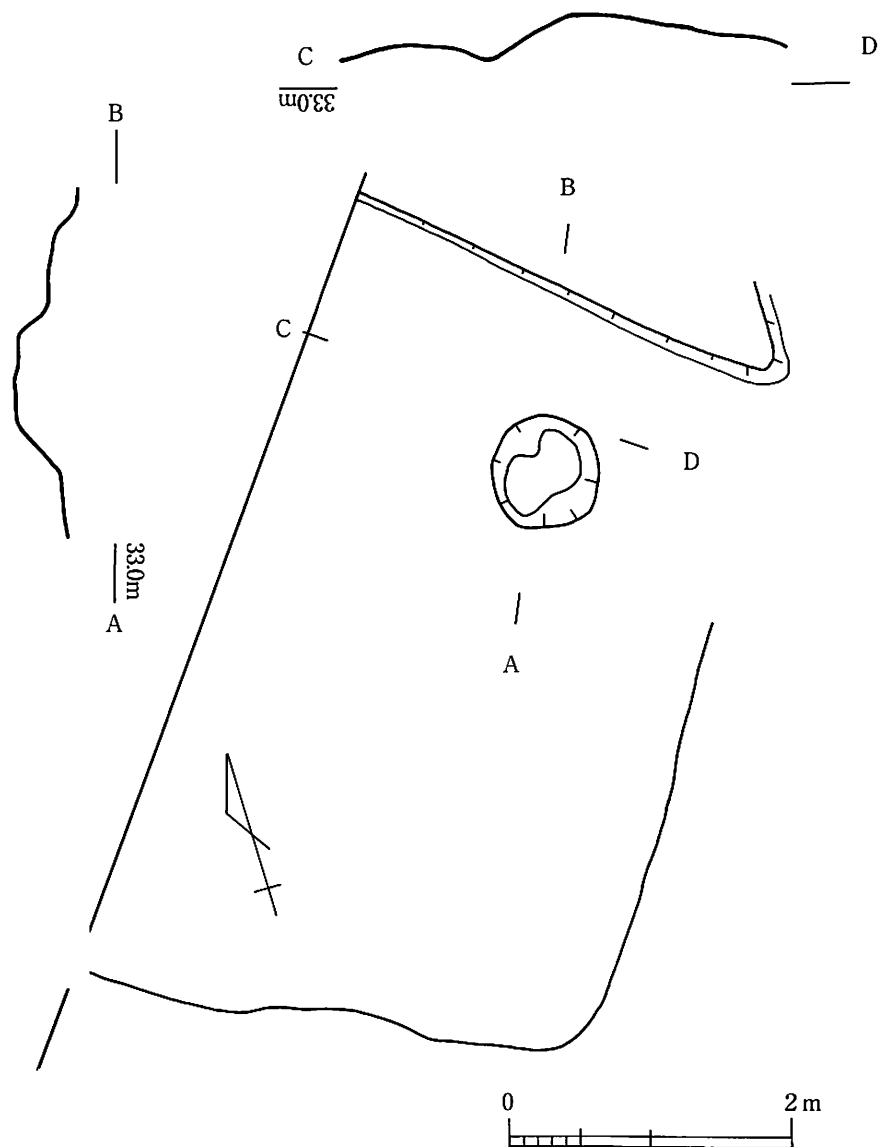


第17図 7号住居跡実測図

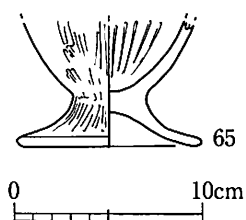
(7) 7号住居跡 (第17図)

E-4区で2号住居の南側に位置し、6号住居と西側壁が切り合っている。壁のラインは確認で

きたが、住居と言えるか疑問も残る。遺物の出土は破片のみで実測に耐えうる資料は見られなかった。



第18図 8号住居跡実測図



第19図 8号住居跡出土遺物実測図

(8) 8号住居跡 (第18図)

W-3区と4区にまたがり、住居の半分は調査区の西側に延びていた。南側の壁は3.6m、東側の壁は3.1mまで確認できた。

遺物 (第19図)

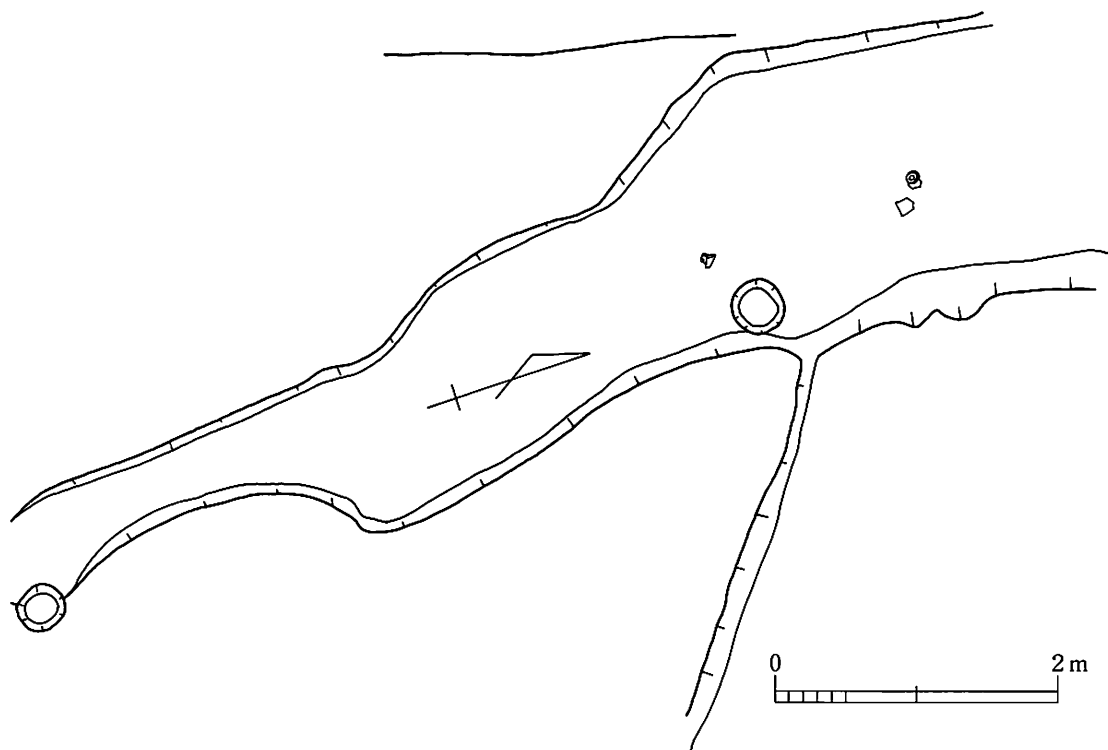
65は脚付き鉢である。器面には縦方向のヘラによる研磨が見られる。

(9) 9号住居跡 (第20図)

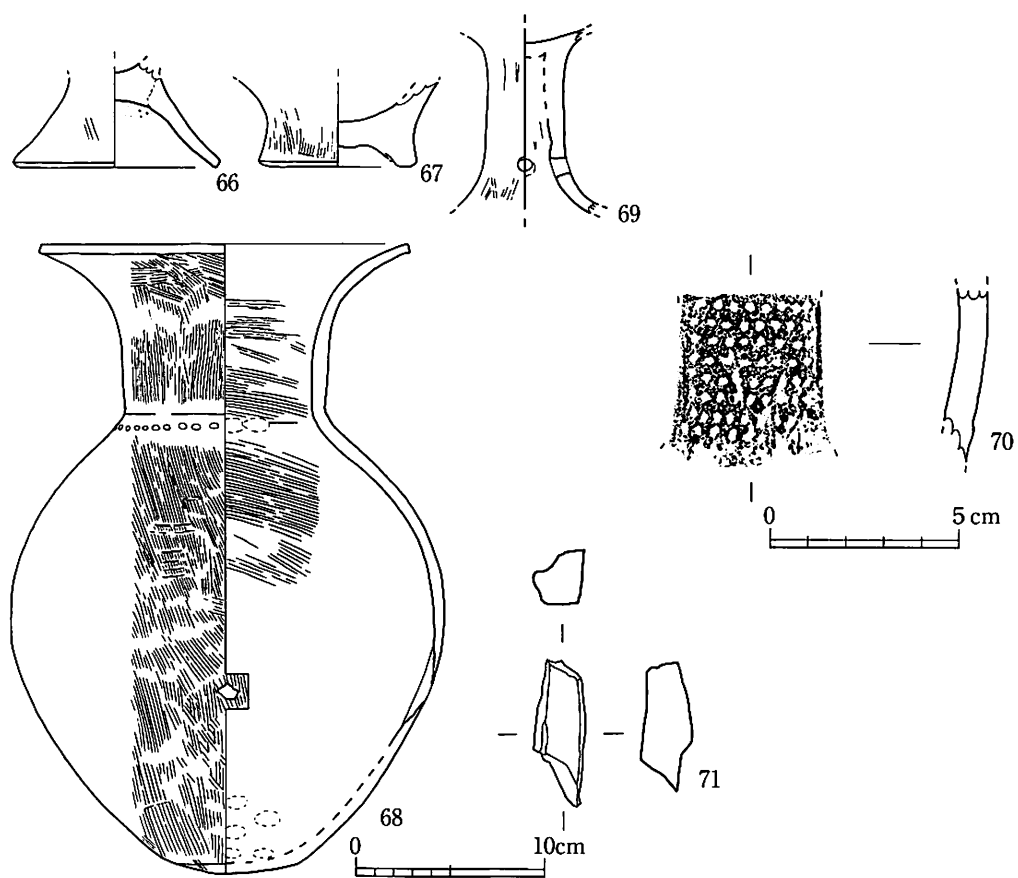
W-3区と4区にまたがり11号住居を切っている。しかし、住居跡としているが形状は不明瞭で、床面の検出と遺物の出土から住居跡とした。

遺物 (第21図)

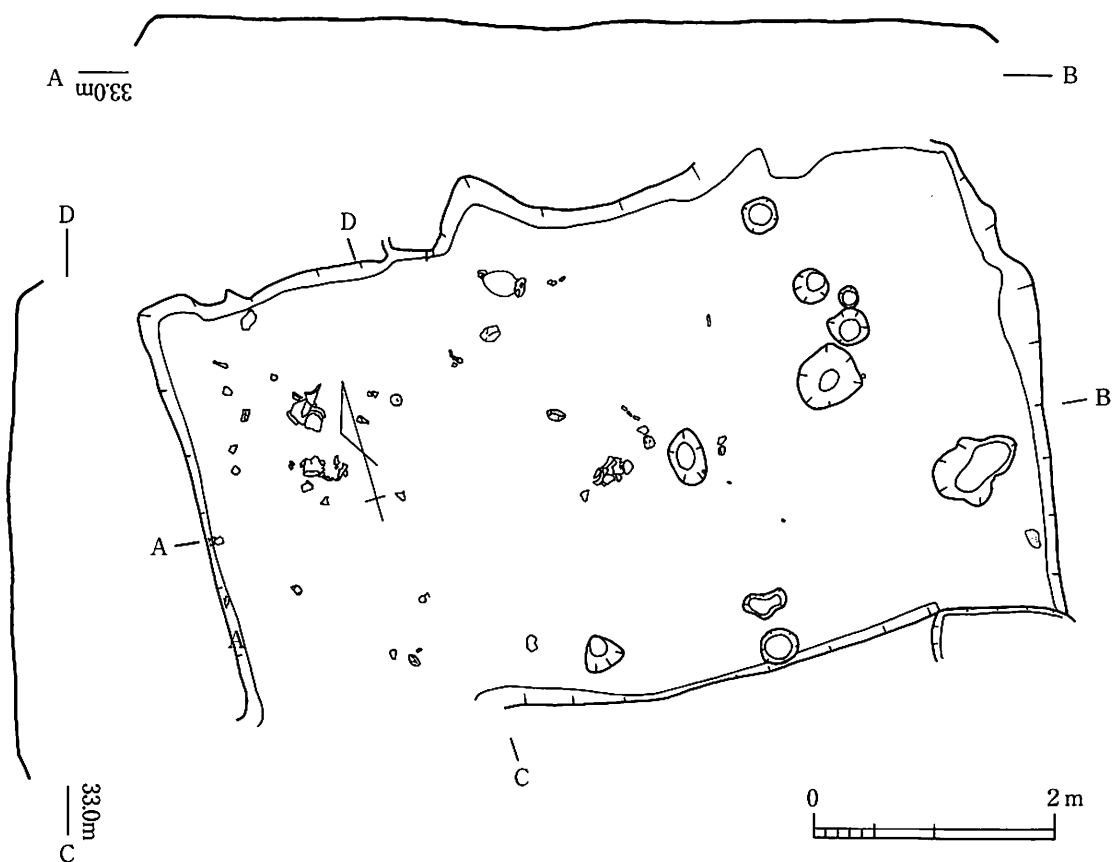
66と67は甕の脚台である。68は壺で口縁部を一部欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。口縁部は大きく開き、頸部には34個の竹管文を配している。胴部には対角線上に2個の穿孔が二次的に施されている。69は高杯の脚部である。4個の穿孔が見られる。70はジョッキ形土器の把手である。幅広の把手で外側には刺突文を横一列に、全面施している。71は砥石の破片である。僅かに一面に研磨面を残している。剥離面においても使用のための手ずれが見られる。



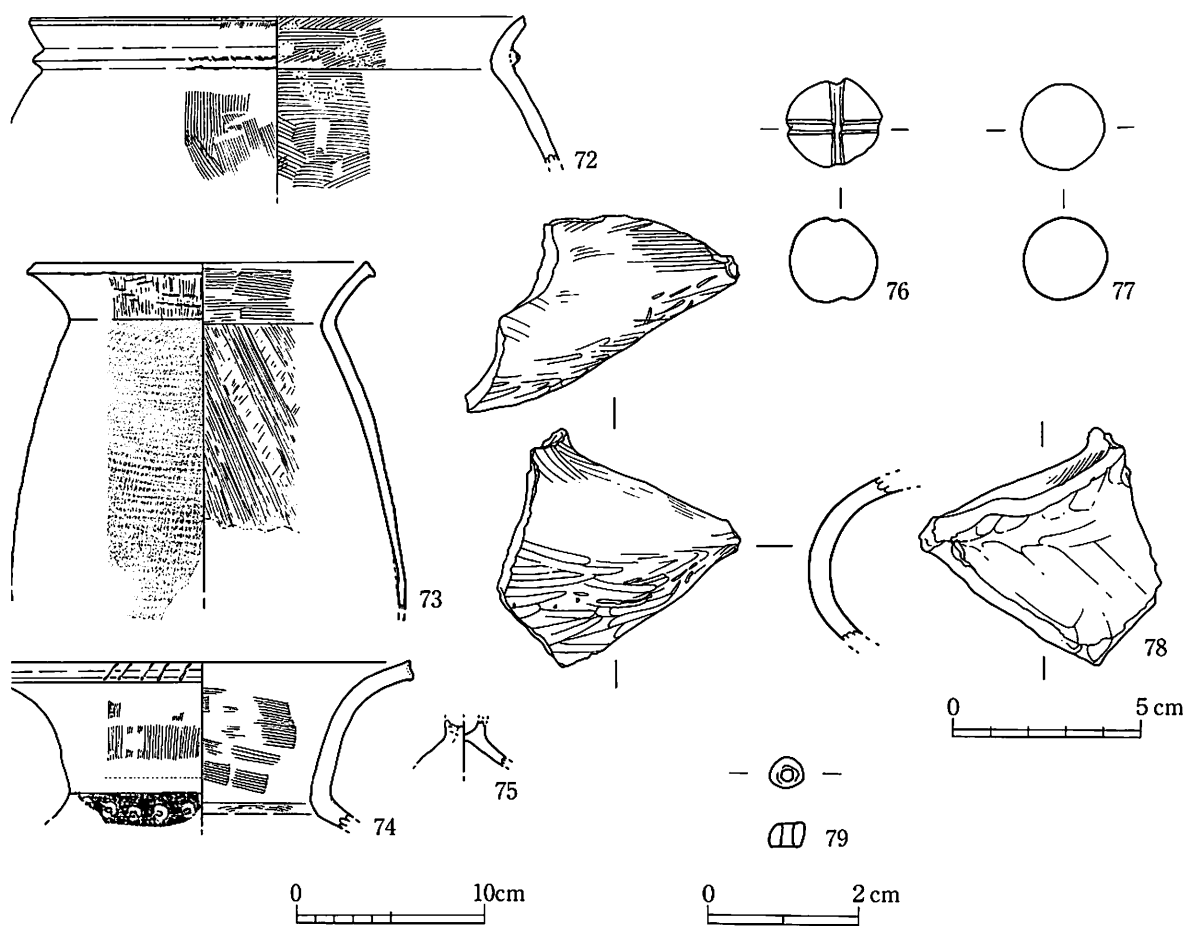
第20图 9号住居跡実測図



第21图 9号住居跡出土遺物実測図



第22图 11号住居跡実測図



第23图 11号住居跡出土遺物実測図

(10) 11号住居 (第22図)

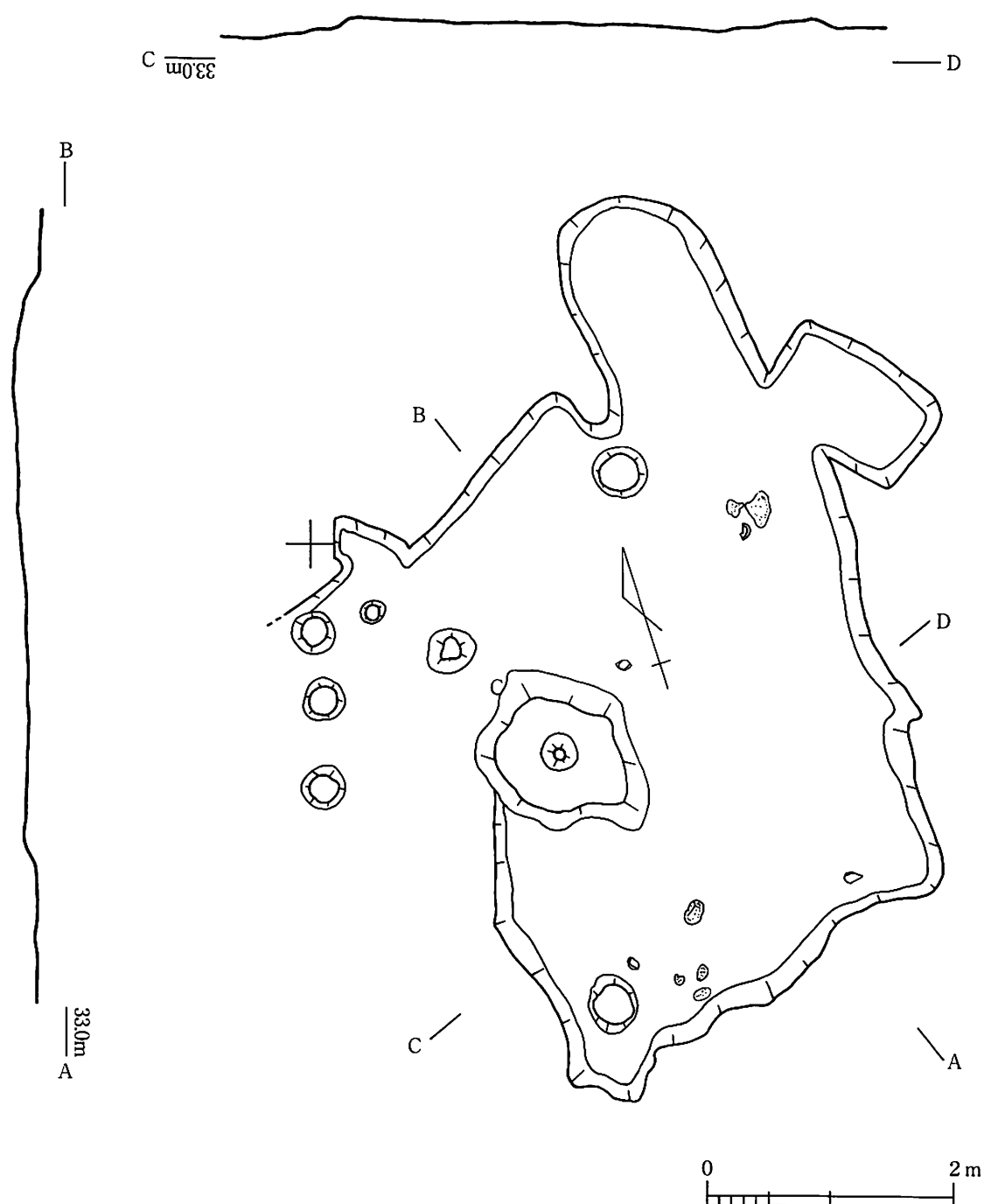
W-2区と3区にまたがり、3号住居と連続するように検出されている。間を9号住居で切られており、明確には輪郭を捉えることが出来なかった。

遺物 (第23図)

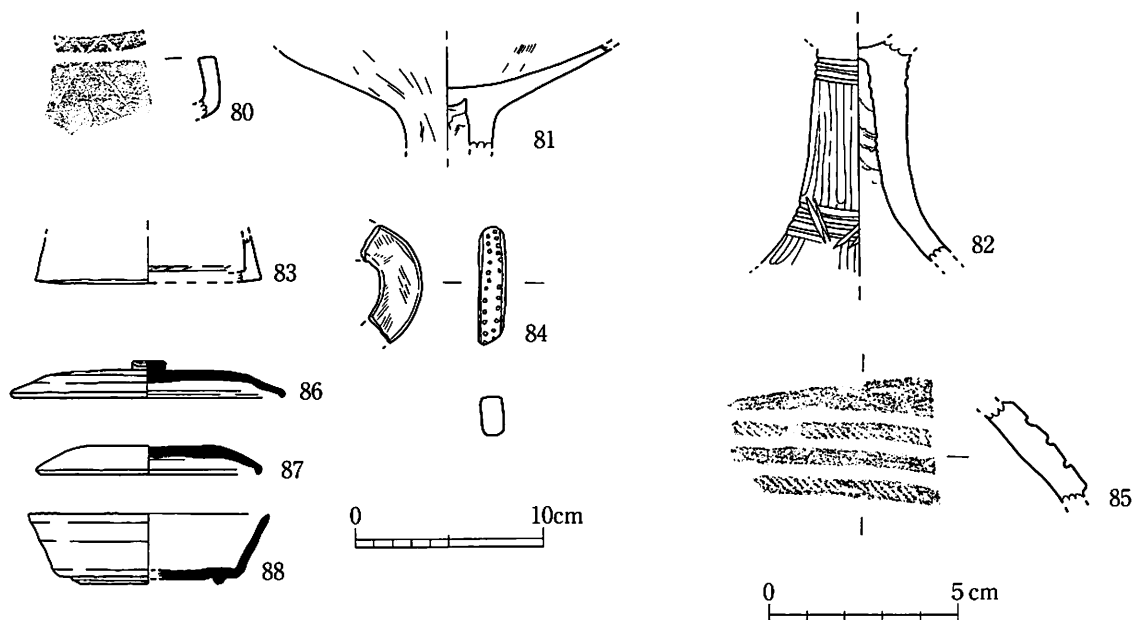
72と73は甕である。72は口径が大きく、鉢にもなりそうな物である。頸部に凸帯を巡らし、口縁

部と共に刻目文を施している。73は在地系甕で底部を欠損しているため、脚台になるのか、丸底になるか判断できない。74は壺の口縁部片である。頸部に竹管文を施している。75はミニチュア土器である。76と77は土製の玉で76には十文字に刻みが施され土錘としての機能性も考えられる。78は特殊土器でかつてオカリナ形土器と称した物である。ⁱⁱ

79はガラス小玉で深い紺色を呈している。



第24図 12号住居跡実測図



第25図 12号住居跡出土遺物実測図

(11) 12号住居跡 (第24図)

W - 6 区で大溝の南側に位置している。形状はやや不整形であるが、床面は硬化している。

遺物 (第25図)

80は壺の口縁部片である。二重口縁で口唇部と外面には三角形に刻目を施している。81は高杯の杯部である。口縁部と脚部を欠損している。口縁部の一部は意識的に打ち欠いているようである。82も高杯で、小型品である。脚部で、裾部を欠損している。杯部との接合点には2条の沈線を巡らしている。83と84はジョッキ形土器である。83は底部片で、84は把手である。70と同様に外面に刺突文を施している。

85は縄文土器片である。沈線と磨り消し縄文を施し、西平式土器である。86から88は須恵器である。86と87は杯蓋でつまみを有する物と有しない物が見られる。88は高台を有する杯である。85から88は混入した物である。

(12) 1号溝 (第26図)

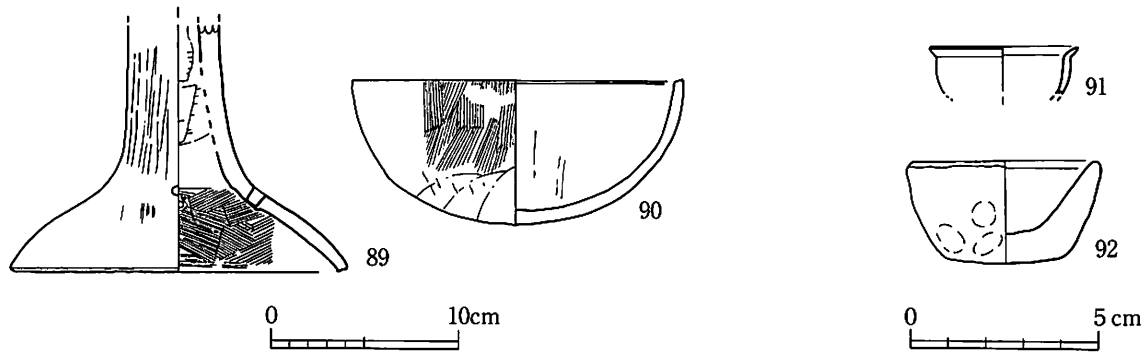
昭和56年(1981)に実施した第3次調査の際、近江工業(当時)内で5本のトレンチを入れて調査した。このとき全てのトレンチを貫くように東西方向に細い1本の溝が検出され、これを1号溝と称した。今回の調査では、この溝が西側に延びてきたものであることから、当時の名称を踏襲した。3号溝によって一部切られているが、ほぼ一直線に東西方向に伸びていることが確認できた。当時の調査結果と今回の結果から、この溝は54m以上の長さまでは確認できたことになる。上部幅は1.7m~0.9m、下部幅0.8m~0.3m、深さ0.3mで東側が広く、西側に向かって細くなっている。

遺物 (第27図)

89は高杯の脚部で、裾部を半分欠損している。90は鉢で僅かに口縁部の一部を欠損している。91と92はミニチュアの鉢である。



第26図 1号～4号溝実測図



第27図 1号溝出土遺物実測図

(13) 2号溝 (第26図)

この溝も昭和56年の第3次調査の際に検出されたもので、調査区の北端部に沿って僅かに湾曲しており、あたかも4号溝と平行に走るようにも見える。今回の調査区内では溝の幅は確認できなかったが、第3次調査の際の第5トレンチが重なっていたことで上部幅2.2m、下部幅1.7mを確認できた。

長さも当時の3トレンチと4トレンチまで伸びており、27mの長さまでは確認できたことになる。

なお、調査区の南東方向に平成11年度調査した220番地第2トレンチが存在しているが、この中の2号溝もしくは3号溝が、この溝と繋がっている可能性が高い。ⁱⁱⁱ

さらに、第3次調査でも炭化米が出土したが、今回も塊の状態出土した。

遺物 (第28～31図)

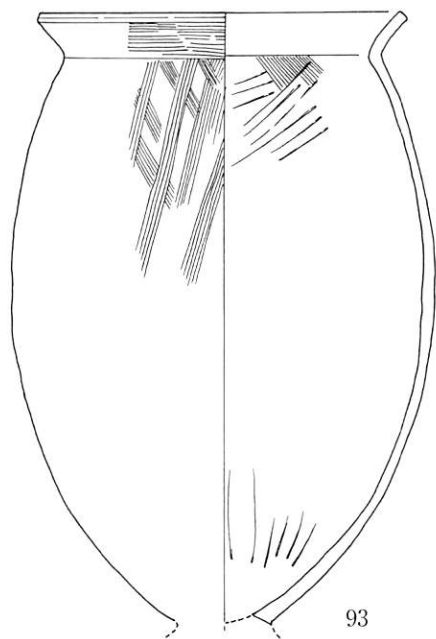
93から99は在地系の甕である。93は底部を欠損しているが、脚台になる。表面には煤の付着が見られる。94は口縁部から胴部中位にかけての破片である。表面には叩き目とハケ目を施しており、煤の付着が著しい。95も口縁部から胴部上位にかけての破片である。共に底部は脚台の可能性が高い。96は小型の甕で胴部下位から底部を欠損している。使用段階での被熱による器面剥離が認められる。97は口縁部のくびれが緩やかな甕で、表面に叩き目が施されているが、器面の剥離も見られる。底部は丸底の可能性も残している。98と99は

脚台で、98の内面には鉄分の付着が確認できる。

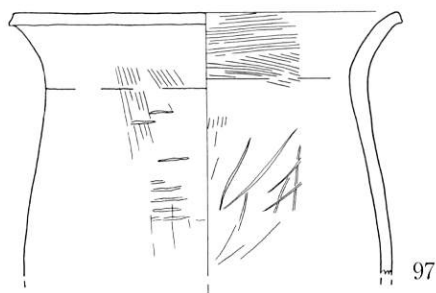
100から110は壺である。100は二重口縁の壺で底部まで残っている。口縁部外側には連続三角形になるよう刻目を施している。内面は使用時の器面剥離が著しい。頸部には1条の凸帯を巡らし、刻目を施している。胴部上位には粗い叩き目、下位はかき消している。

101は口縁部および胴部の一部と底部を欠損している。頸部には刻目を配している。部分的に赤色顔料の付着が認められる。102は口縁部のみである。器面の剥離などは認められない。103は半欠状態の口縁部である。小さく二重口縁を形成し、頸部には刻目を配している。内面は器面の剥離が見られ、黒色に塗られている。漆の可能性が高い。104は103に類似した口縁部である。頸部には刻目を配しているが、短い口縁部である。105は胴部下位から底部を残している。底部は平底である。106は口縁部から底部まで残す物であるが、口縁部は一部のみである。胴部はきめ細かなハケ目調整である。底部は完全な姿を残している。107は口縁部から胴部上位にかけての破片である。口縁部は短く直線的に立ち上がっている。頸部には刻目を配し、胴部表面には粗い叩き目を施している。108は短頸壺である。口縁部の一部を欠損しているが、ほぼ完全な姿を留めている。109は肩部の破片であるが、全面に櫛描文を施している。11本単位の櫛で描いている。110はミニチュアの壺で半欠状態である。

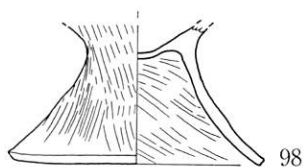
111から113は高杯である。111と112は杯部のみ



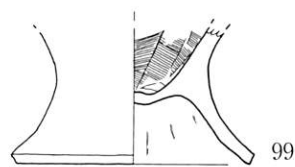
93



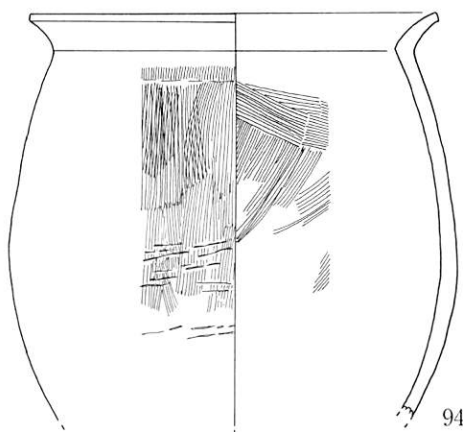
97



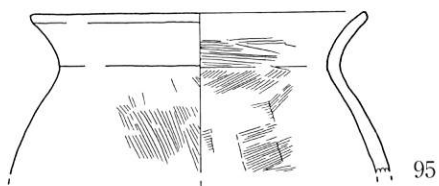
98



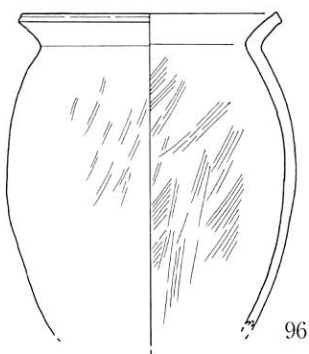
99



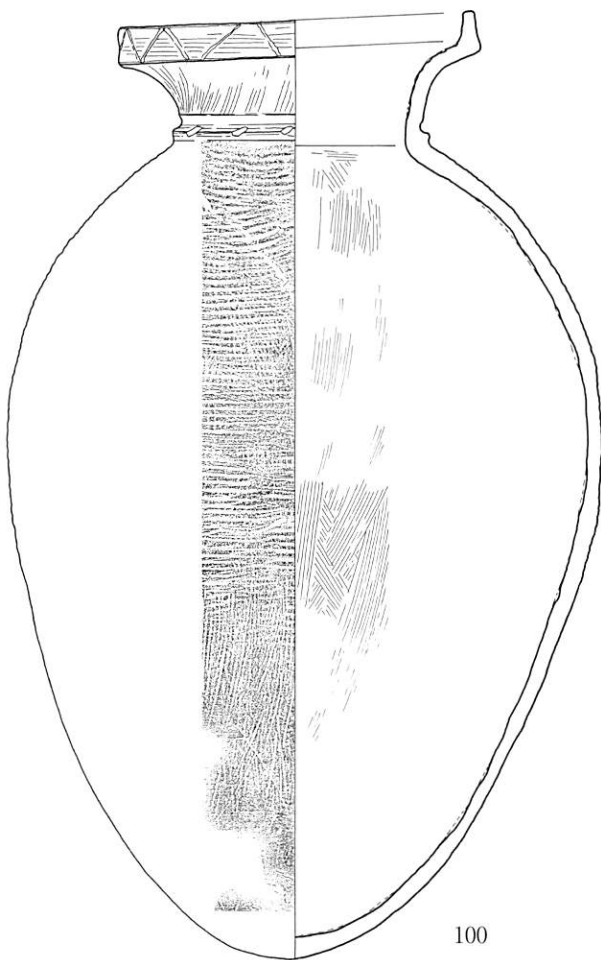
94



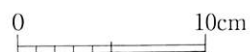
95



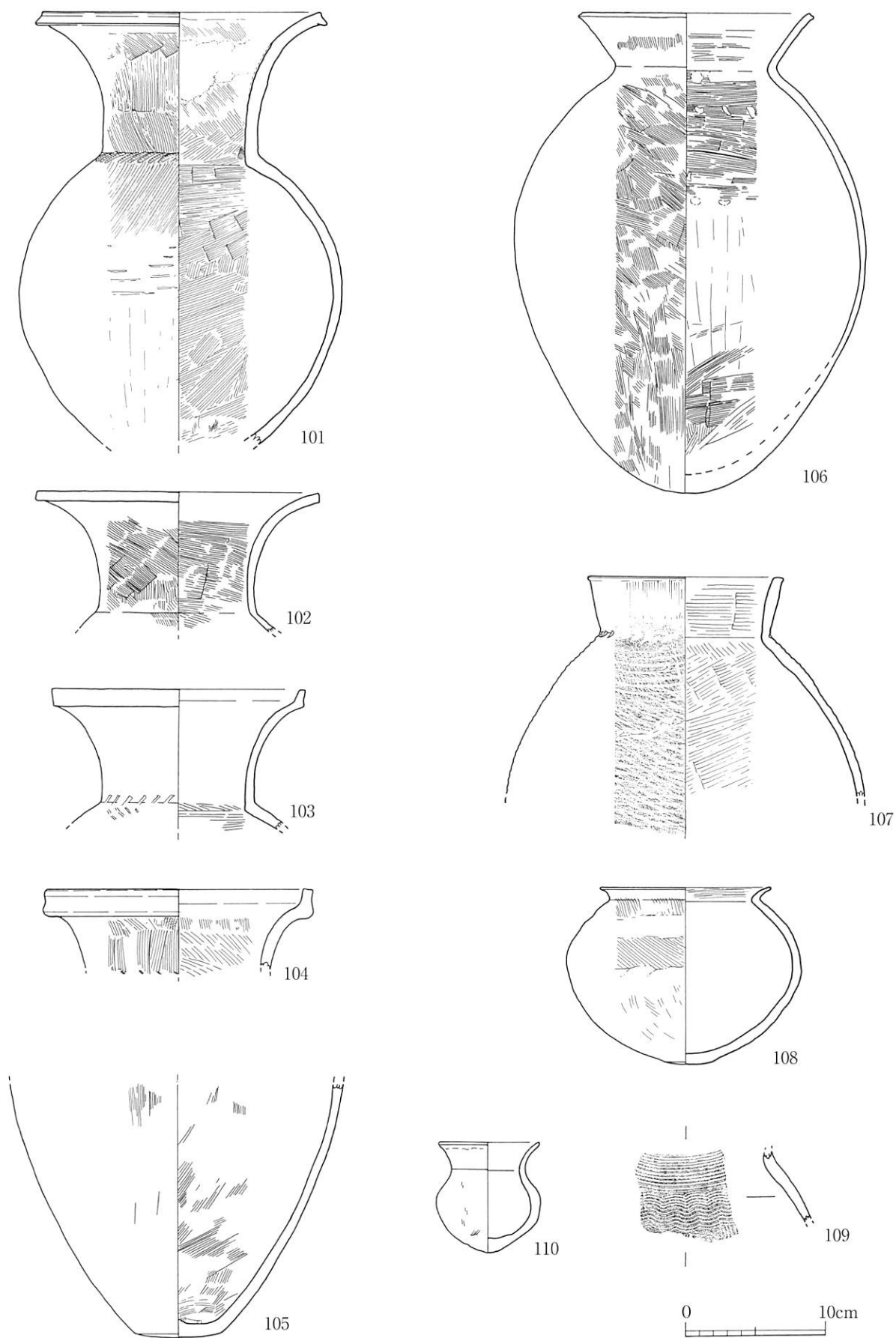
96



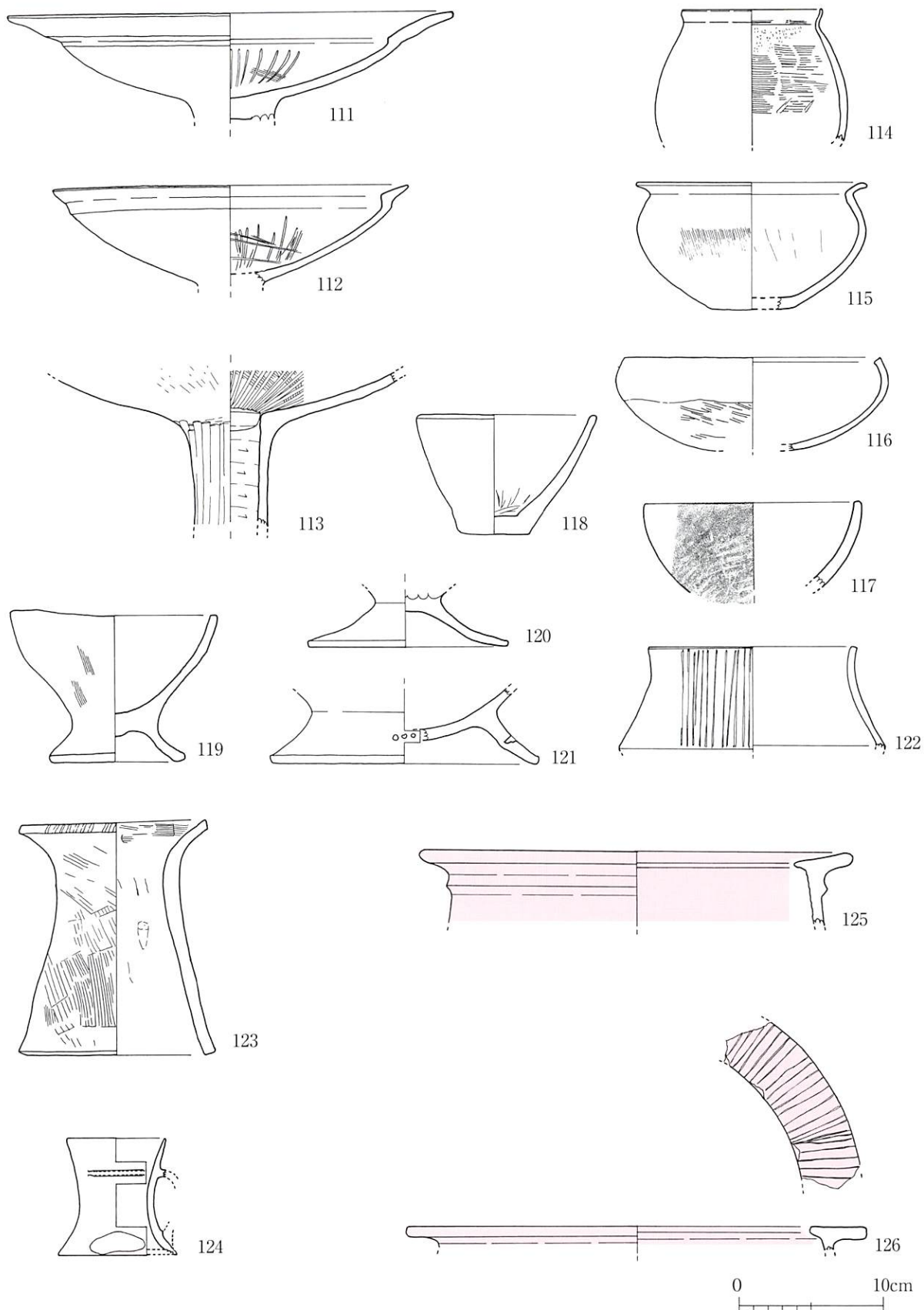
100



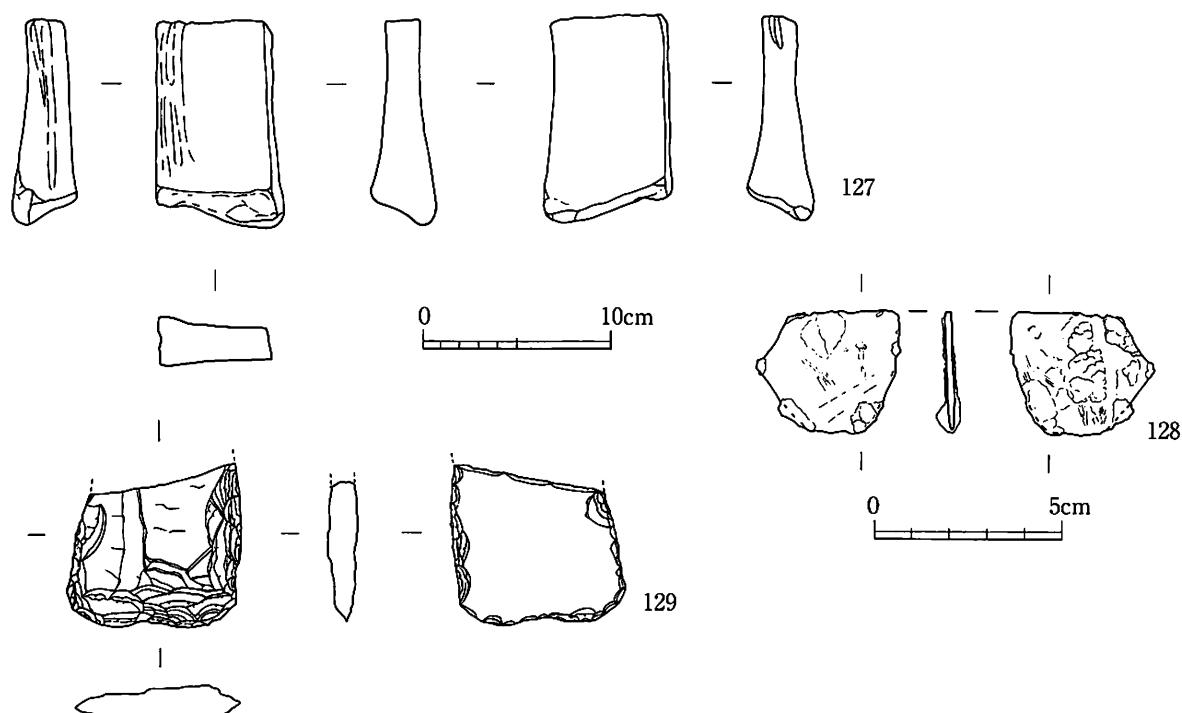
第28图 2号沟出土文物实测图



第29図 2号溝出土遺物実測図



第30图 2号沟出土遺物実測図



第31図 2号溝出土遺物実測図

で脚部を欠損している。特に112は亀裂すら見られない完全な形を留めている。使い方次第では漏斗としても使えそうである。113は杯部と脚部の接合部である。中空の脚を作り、その後中に詰め物をした後、杯部を接合したものと理解できる。

114から122は鉢である。114は口縁部が小さく胴部下位に最大径を有しており、壺としてもおかしくない物である。115は半欠状態で底部は平底である。116と117は碗形鉢の破片である。117には粗い叩き目が施されている。118は小型のもので口縁部の一部を欠損している。119から122は脚台付鉢である。119はあたかも甕の上部を切ったような形状である。121は裾部の穿孔は貫通しておらず、刺突文の様な状況である。122は4号溝出土の245と246に類似した脚付き鉢で、玉名市南大門遺跡で類似した資料が出土している。^{iv}

123は器台で、くびれが上位に位置している。124は小型のジョッキ形土器である。半欠で底部も見られない。把手は幅広いが残っていない。125と126は丹塗り土器の甕である。126には暗文による施文が見られ、色彩も鮮やかである。

127は砥石である。アルコーズ質砂岩製で側面には細くくぼんだ面があり、玉専用の砥石としての使用も窺える砥石である。128は鉄器で、手鎌の破片である。129は変成岩製の打製石斧の破片である。3面に刃部を作り、基部近くで折れている。

(14) 2号溝埋没後土器溜め (第32図)

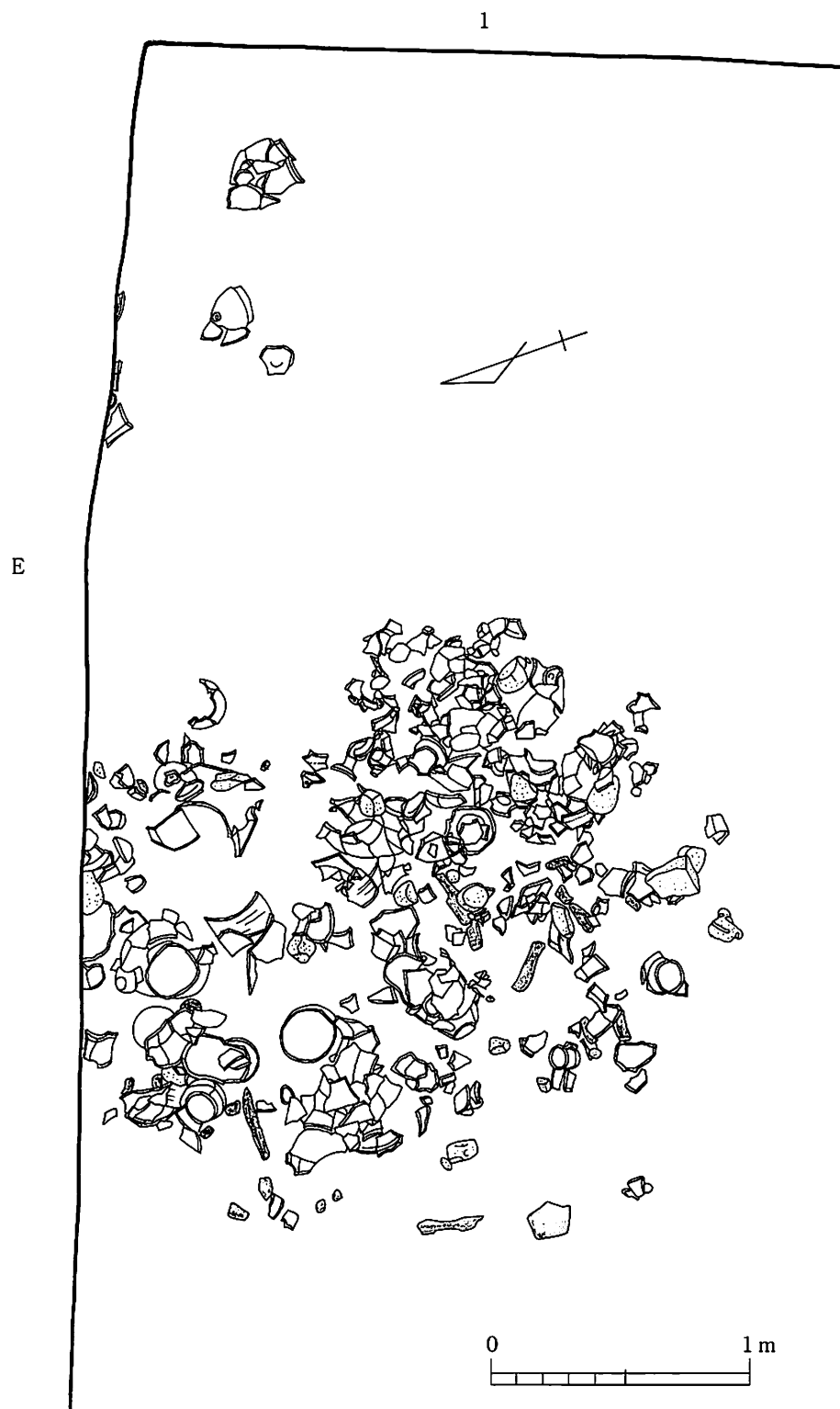
調査区北端部で、2号溝が埋没した後に土器を廃棄しており、2号溝より時間的に新しいものである。硬化面も見られ、南側には壁も確認できたが、明確に住居と確認するには至らなかった。特筆すべきは土器と共に炭化物が多く存在していたことである。あたかも土器を焼いていたかのような出土状況であった。

遺物 (第33図)

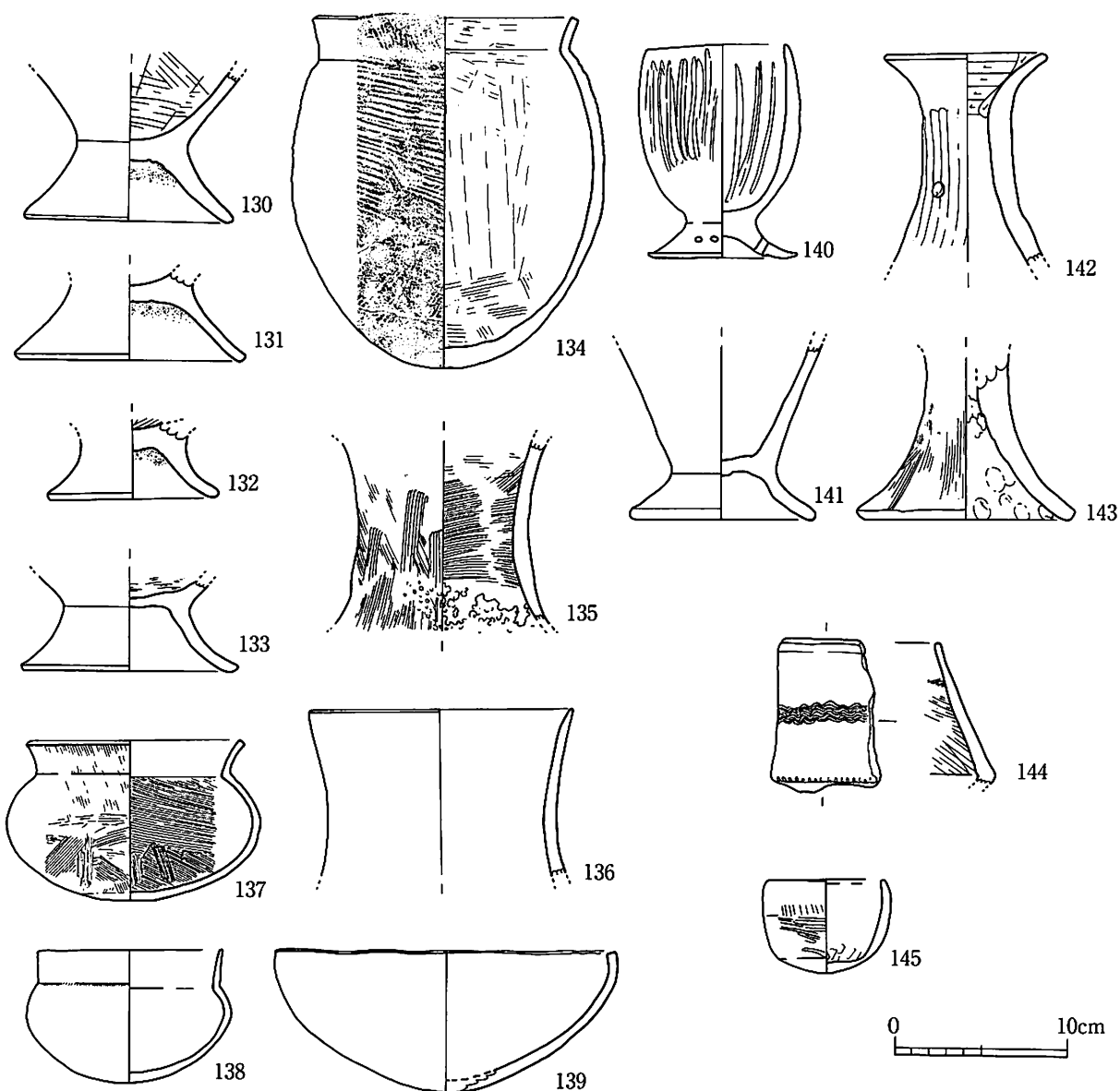
130から133は甕の脚台である。134は在地系の小型の甕である。底部は丸底で、胴部上位には粗い叩き目、下位では掻き消している。135は壺の口縁部で半欠状態である。136はジョッキ形土器

の破片である。137から141までは鉢である。140と141は脚台付である。142と143は器台である。144は台付鉢で、122と同様の形状になろう。外面

には細かな櫛描き波状文を巡らし、下部には刻目を施している。145はミニチュアの鉢である。



第32図 2号溝埋没後土器溜め実測図



第33図 土器溜め出土遺物実測図

(15) 3号溝 (第26図)

調査区北側でL字状に曲がる溝で、1号溝と2号溝を切っている。全体は不明だが、方形周濠墓の可能性が高い。出土遺物から布留期の溝である。溝は上部幅3.5m～2.3m、下部幅2m、深さ0.7m、長さは東西9.7m、南北7.5mである。

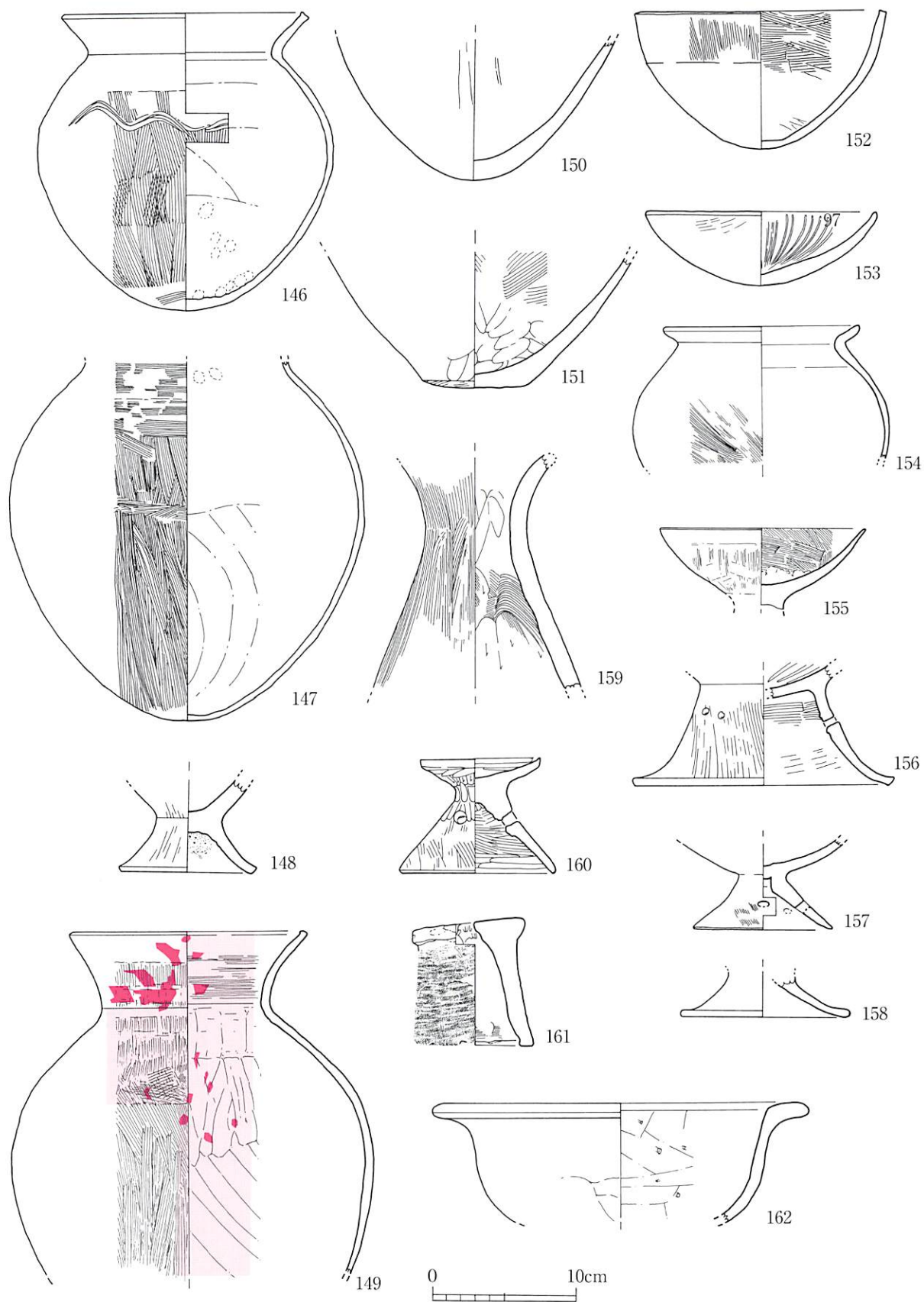
遺物 (第34～35図)

146から148は甕である。146は布留系で半欠状態である。肩部には波状文を巡らし、内側から外に向かって1個の穿孔が見られる。剥離面には煤の付着が見られないところから使用後二次的に行われたものである。147も布留系で、胴部のみで

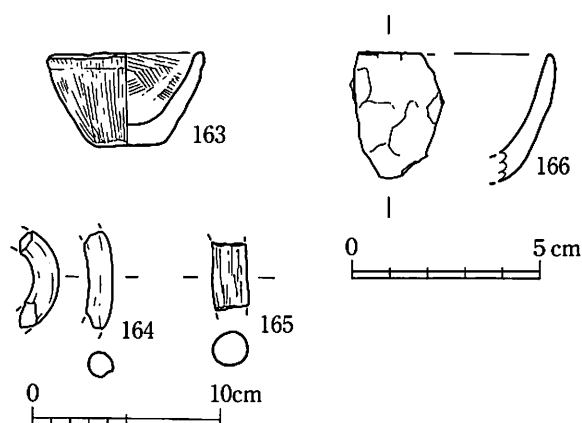
半欠状態である。148は在地系甕の脚台である。

149から151は壺である。149には外面に赤色顔料を塗っており、内面にも付着している。くすんだ赤色から判断してベンガラであろう。150と151は胴部上位を欠いている。

152と153は碗形の鉢である。154は短頸の壺片である。154から158は脚付き鉢である。159から161は器台である。160は畿内系で、161は北部九州に見られる杵形である。162は土師器の鉢である。163から166はミニチュア土器と土製品である。163と166は鉢のミニチュアで、164は土製勾玉片、165はスプーンの柄であろう。



第34图 3号溝出土遺物実測図



第35図 3号溝出土遺物実測図

(16) 4号溝 (第26図)

E-2区と3区にまたがって延びている溝である。南側を中心に弧を描いており、2号溝の内側に10mの間隔をもって並行するように掘られている。

時期も長胴脚台付の在地系甕を主体としており、2号溝とほぼ同時期である。

溝は上部幅2.9m、下部幅2.5m、深さ0.8m、長さ18mの規模であった。

この溝は、平成11年度調査の220番地第2トレンチの2号溝もしくは3号溝に延びていくものと推察できる。*

遺物 (第36～45図)

167から197までは在地系甕である。167は口縁部から胴部の一部を欠損しているが、底部まで全体の姿を見ることができる。外面には煤、内面には焦げ付きが見られ、傾きを持って付着しているところから使用状況が理解できる資料である。168も口縁部と胴部の一部を欠損しているが、全体の姿を見ることができる。口縁部から胴部上部に煤を付着している。169も口縁部と胴部の一部を欠損しているが、底部まで全体の姿を見ることができる。脚台から胴部に直線的に広がっている。

170は脚台を欠損している。全体に煤が付着し頻繁に使用されたことが窺える。171は脚台の裾部を欠損している。胴部が膨らんでおり、この甕もかなり使い込んでおり、全面に煤が付着してい

る。

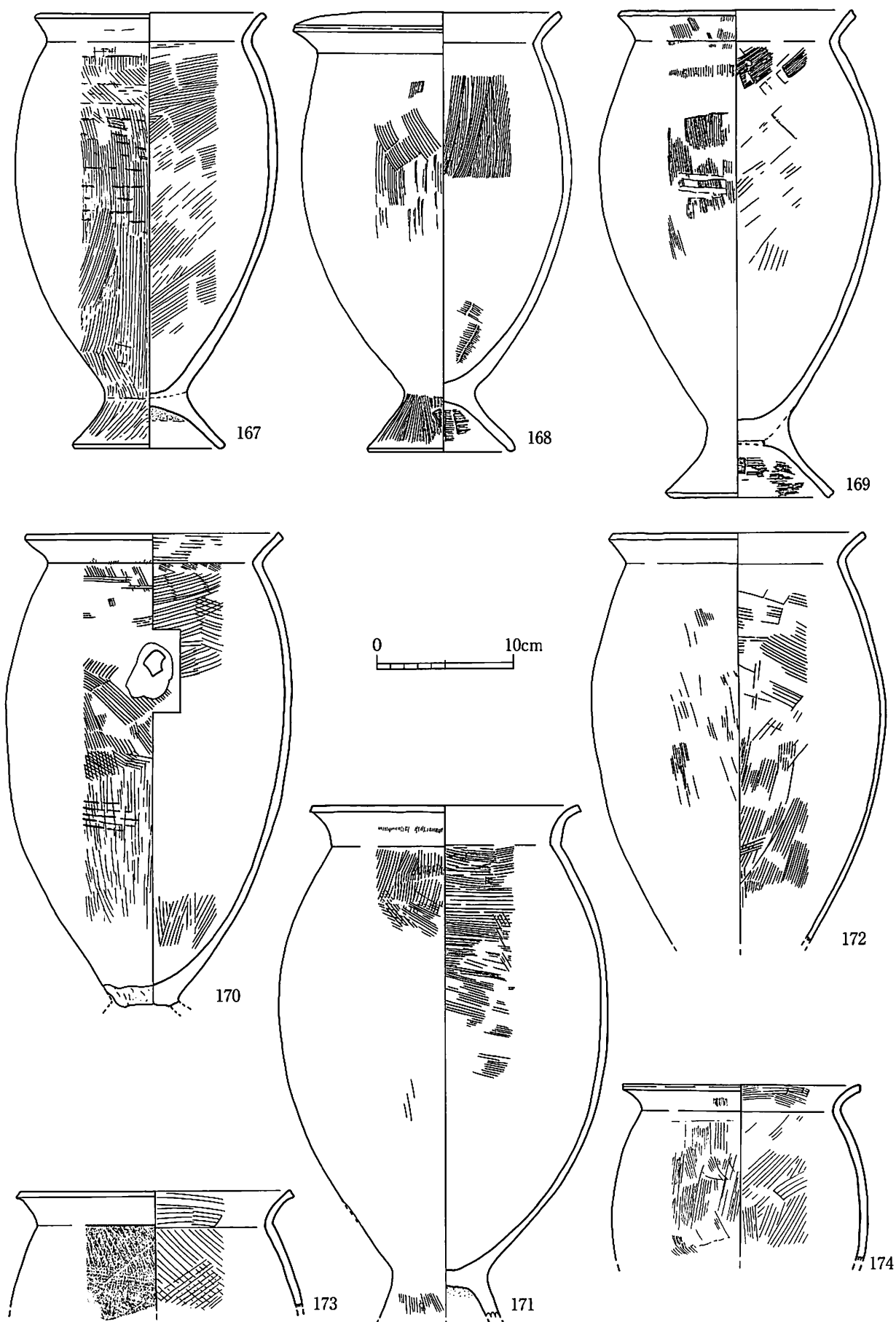
172も脚台を欠損している。胴部の張りが少なく直線的である。173と174は口縁部から肩部までの破片である。175も口縁部から胴部中位までの破片であるが、大型の甕である。表面はハケ目調整である。煤の付着は確認できない。176も大型の甕で口縁部から胴部上位までの破片である。煤は確認できない。177は胴部中位から底部を欠損している。表面には煤の付着が確認できる。178は大型の甕の口縁部で、半欠状態である。煤の付着が見られる。179は胴部下位を欠損する。器面の剥離がひどく、使用の際の火によるものであろう。180は口縁部から胴部下位の破片である。表面には煤の付着が著しい。181は小型の甕で使用のため表面の剥離が著しい。182も小型の甕である。僅かに煤が付着している。183は胴部下位から下を欠損している。表面は全面に煤の付着が見られる。184は口縁部から胴部上位の破片である。煤の付着が全面に認められる。

185から197までは底部で脚台である。185は表面には煤、内面には焦げ付きが著しい。

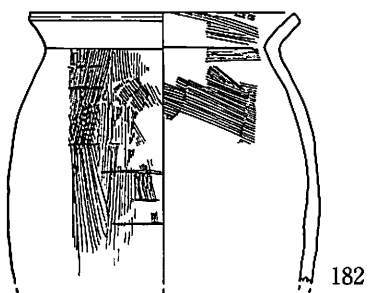
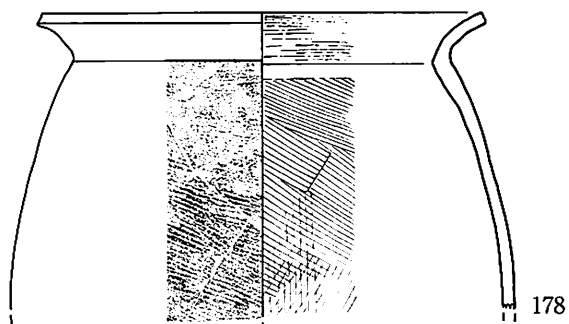
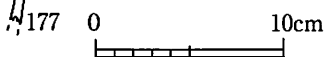
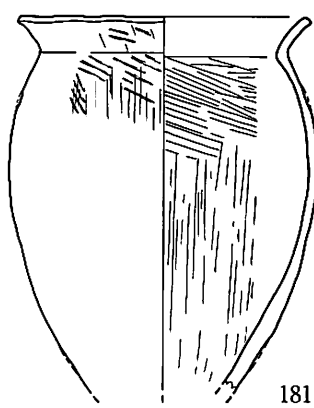
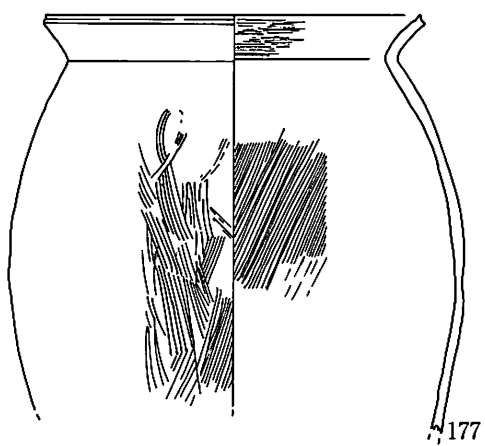
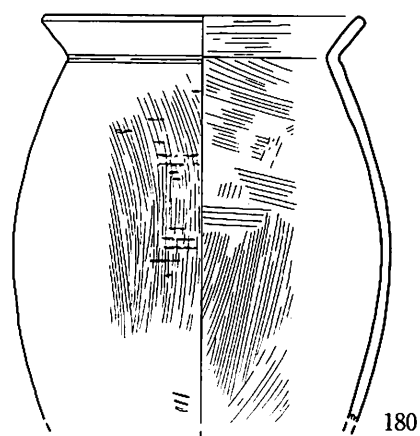
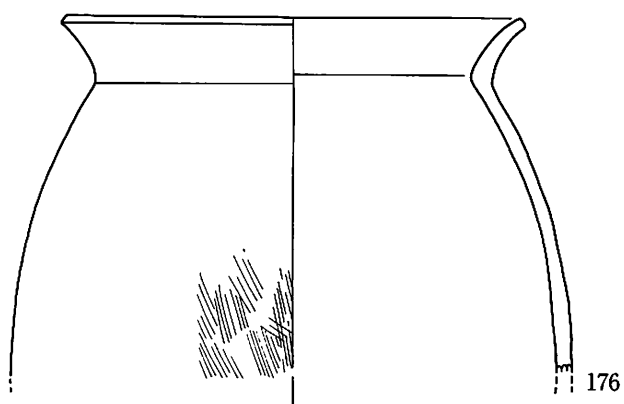
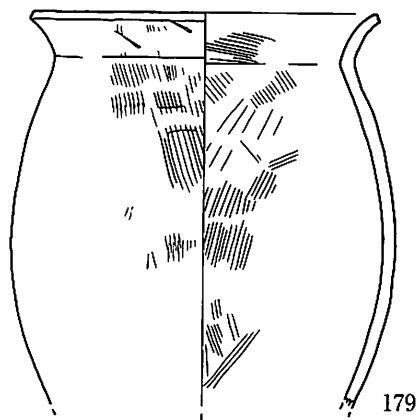
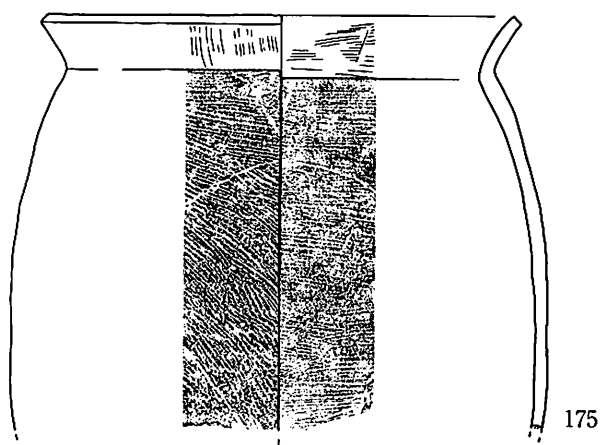
186は口縁部と脚台を欠損しているが、脚台欠損状態で火にかけられており煤の付着が確認できる。187は内面に焦げ付きが見られるが、表面には煤は見られない。188は表面に煤の付着と器面剥離が見られる。189と194は表面に煤の付着が確認できる。

198は外来系の甕で布留系である。199も外来系甕で、庄内系である。200は北部九州系の大型甕である。201と202は小型甕である。底部は小さな平底となっている。203と204は小型の鉢である。

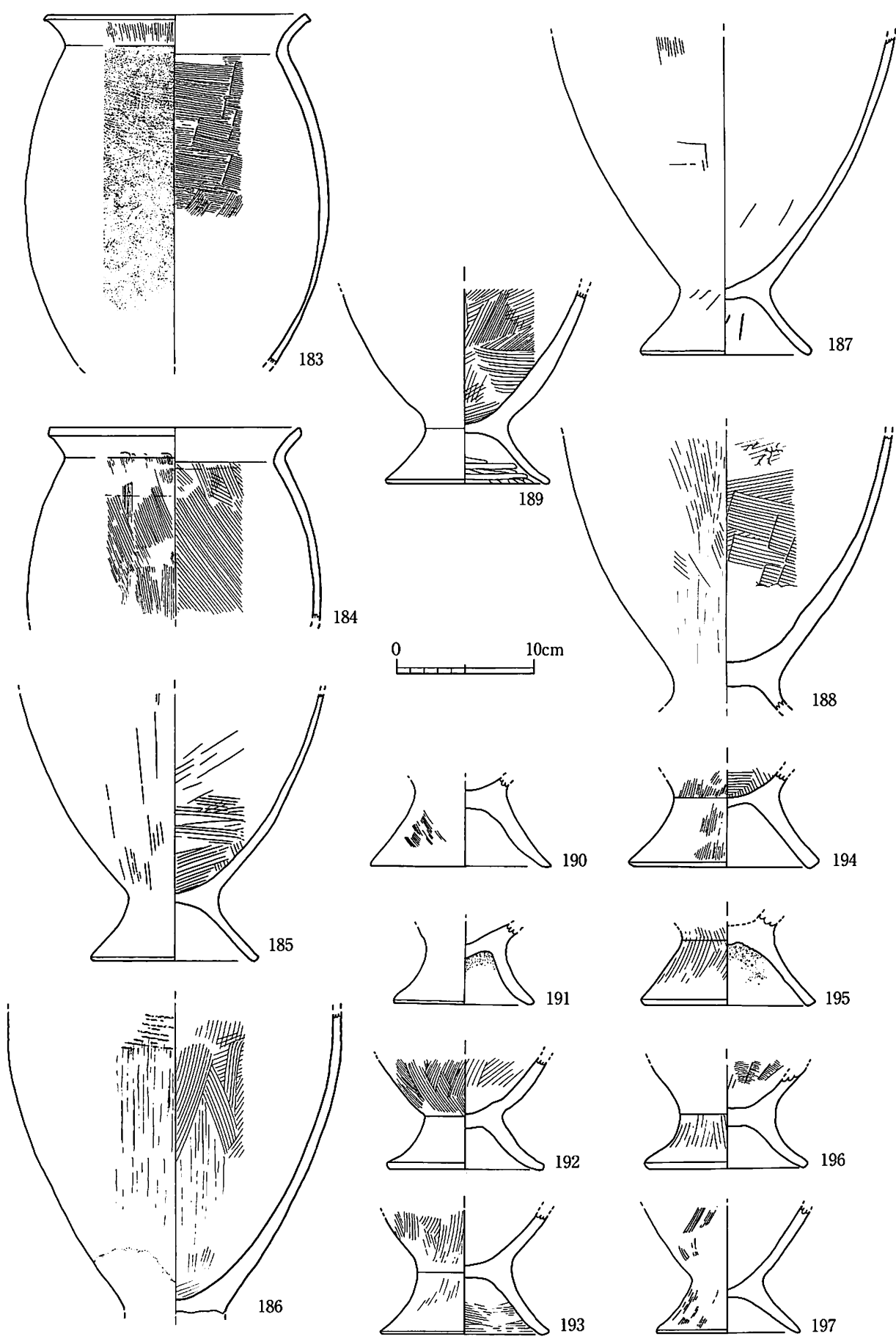
205から223は壺である。205は口縁部から肩部を残し、口唇部と肩部には櫛描き文を施している。頸部には凸帯を巡らし、刻目を行っている。206は口縁部のみであるが、内外両面に赤色顔料を塗っている。207は口唇部を意識的に打ち欠いている。頸部には櫛描き文を巡らしている。208と209も頸部に粗い櫛描き文を巡らしている。210は土師器の精製の壺である。頸部に細かな櫛描き波状文を巡らしている。211は小型の壺の破片であ



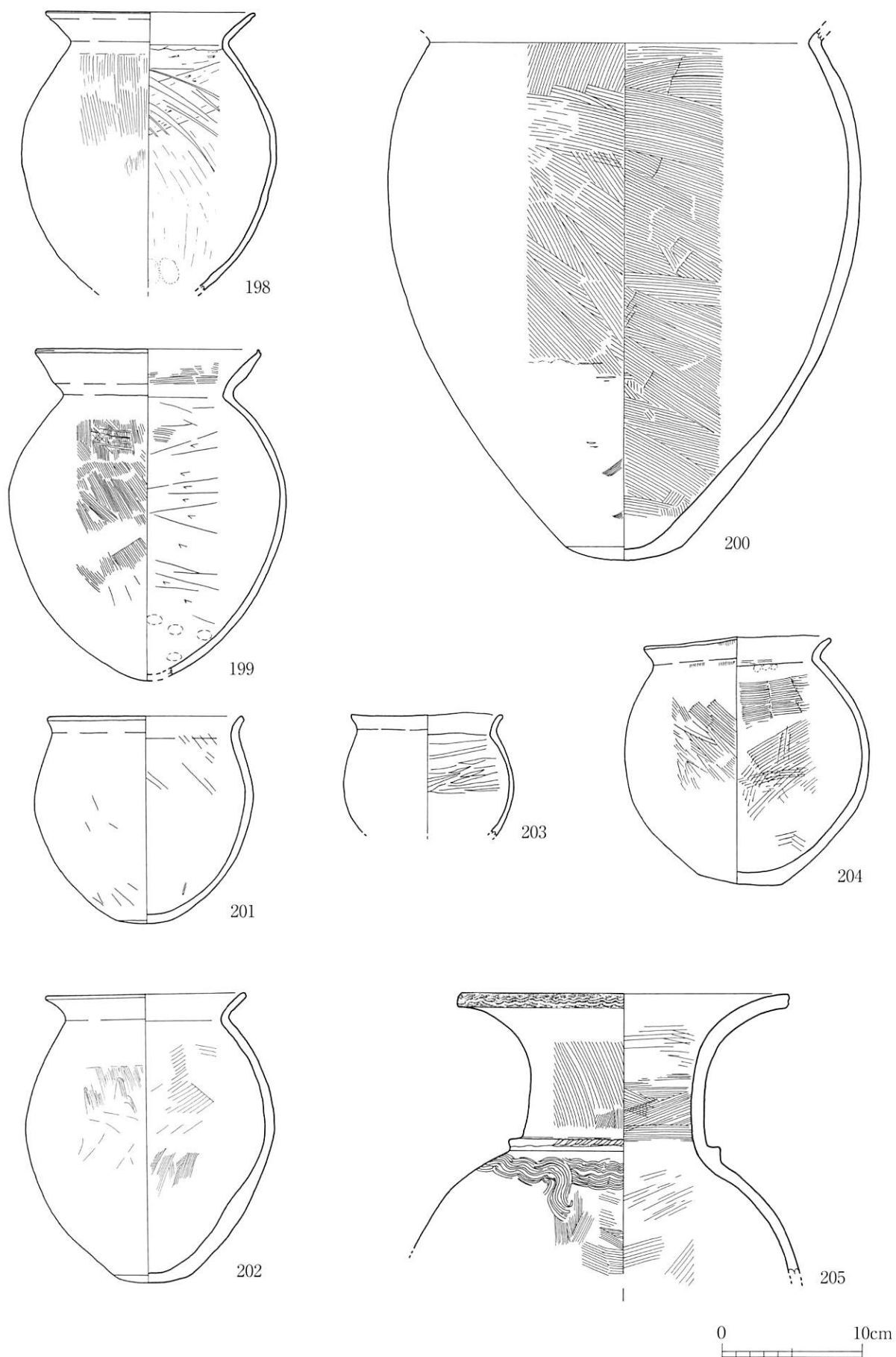
第36图 4号沟出土遗物实测图①



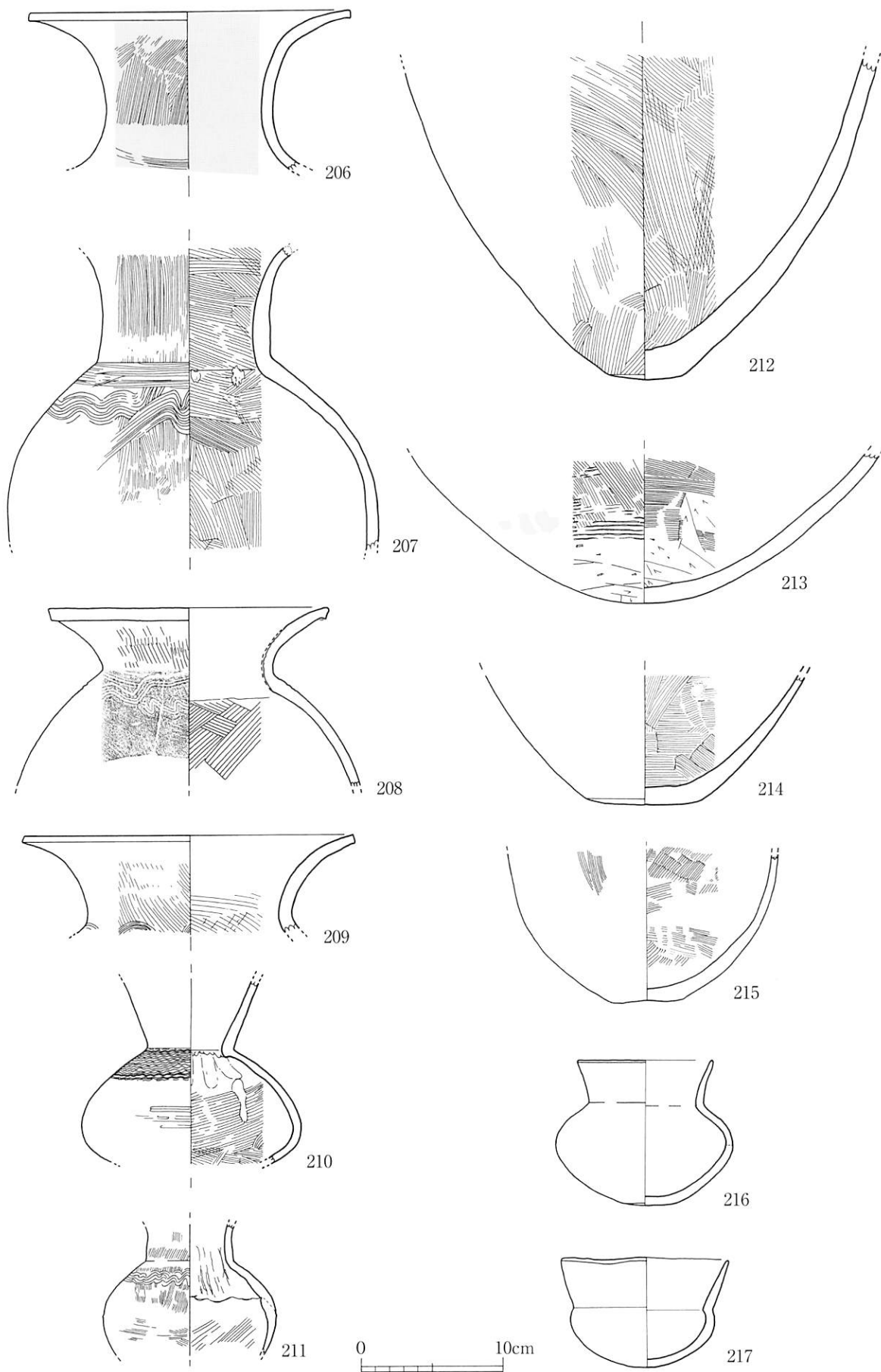
第37图 4号溝出土遺物実測図②



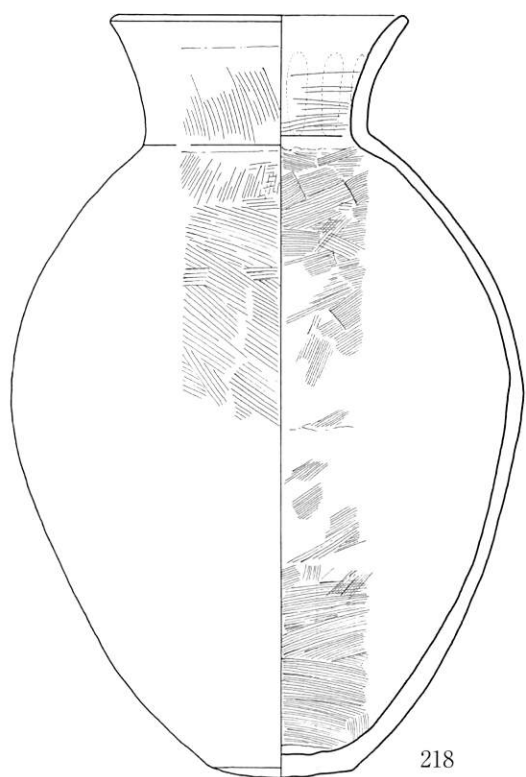
第38图 4号沟出土遗物实测图③



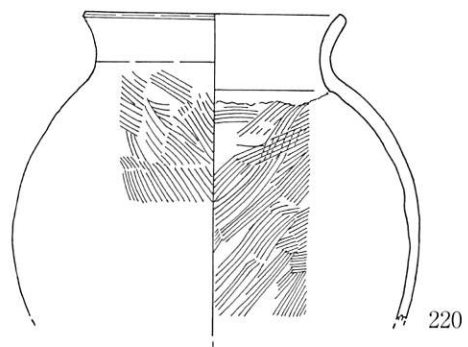
第39图 4号沟出土遺物実測図④



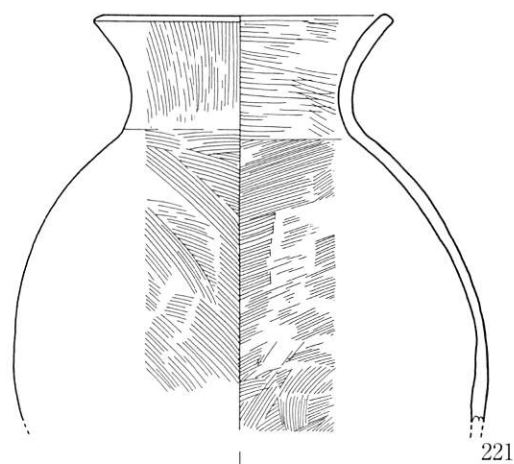
第40图 4号溝出土遺物実測図⑤



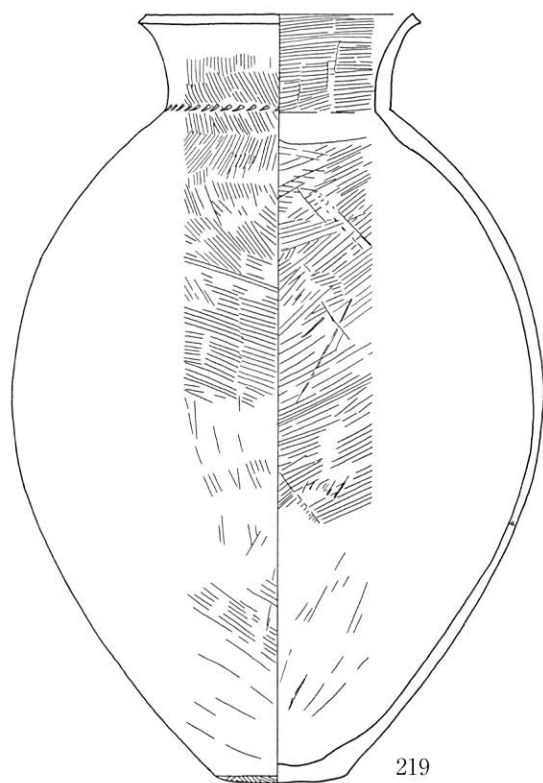
218



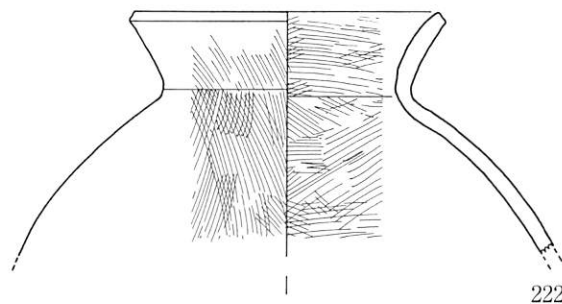
220



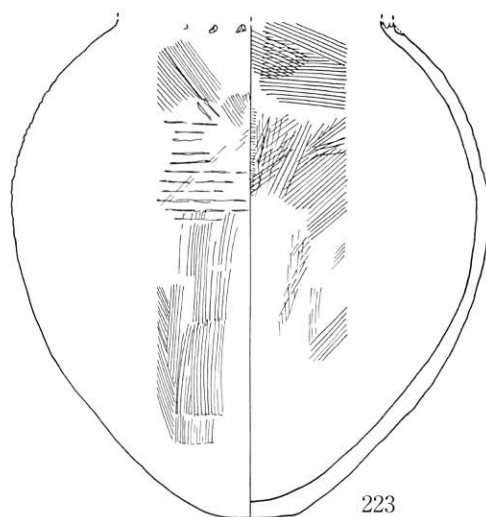
221



219



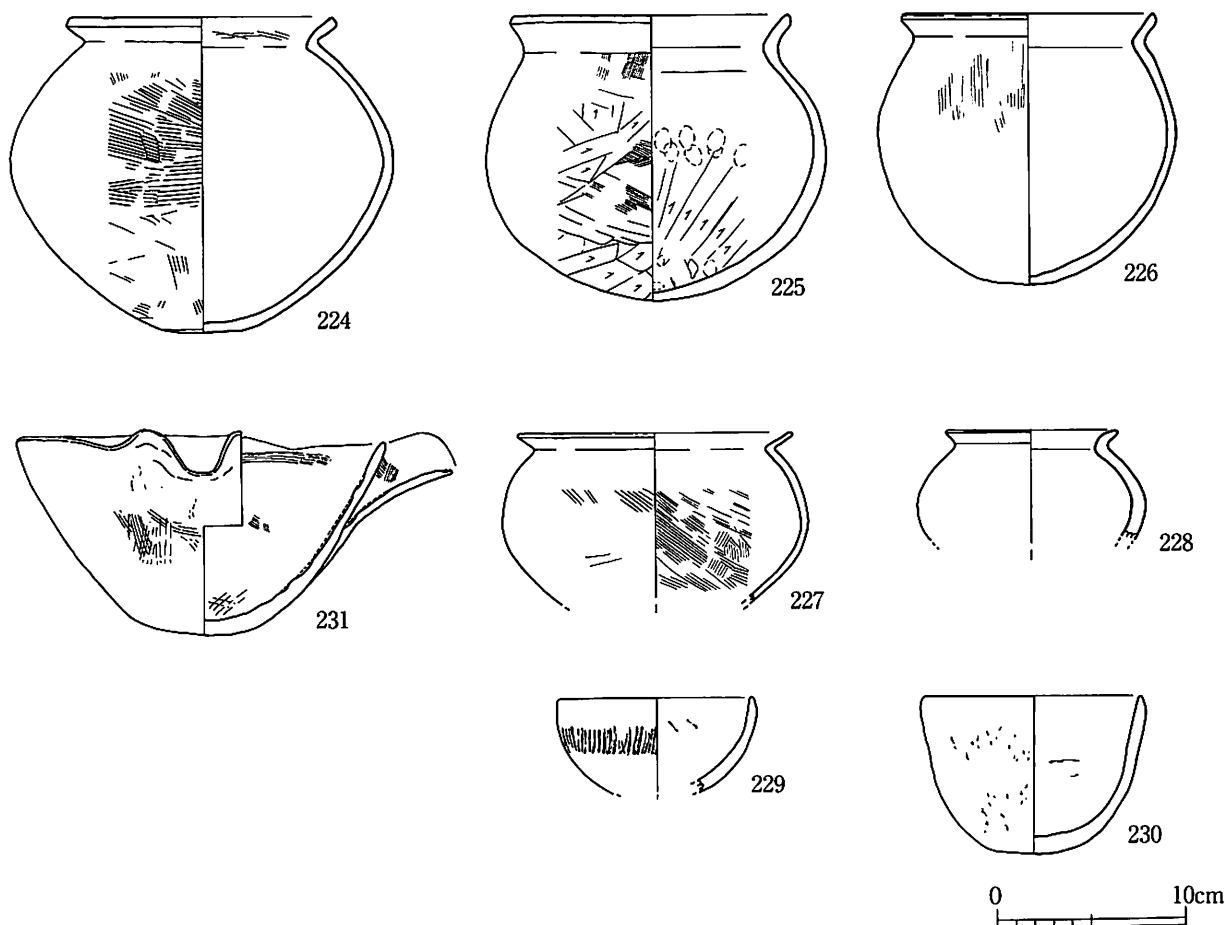
222



223

0 10cm

第41図 4号溝出土遺物実測図⑥



第42図 4号溝出土遺物実測図⑦

る。頸部に粗い櫛描き文を施している。

212から215は壺の底部である。特に213は断面部に赤色顔料が付着している。215は小型の壺で、216は土師器の小型丸底壺である。218から223は短頸の長胴壺である。218はほぼ完全な姿である。底部近くに器面剥離が見られる。219は図面上で接合したもので、遺物では接合点が見られなかった。頸部に刻目を巡らしている。220は小型で胴部下位を欠損している。221と222も胴部下位を欠損している。223は頸部から底部の破片である。底部近くで器面の剥離が見られる。頸部には刺突文を施している。

224から231は鉢である。224から227は口縁部が小さく広がっており、225まではほぼ完全な姿である。231は片口である。内面に器面剥離が見られる。

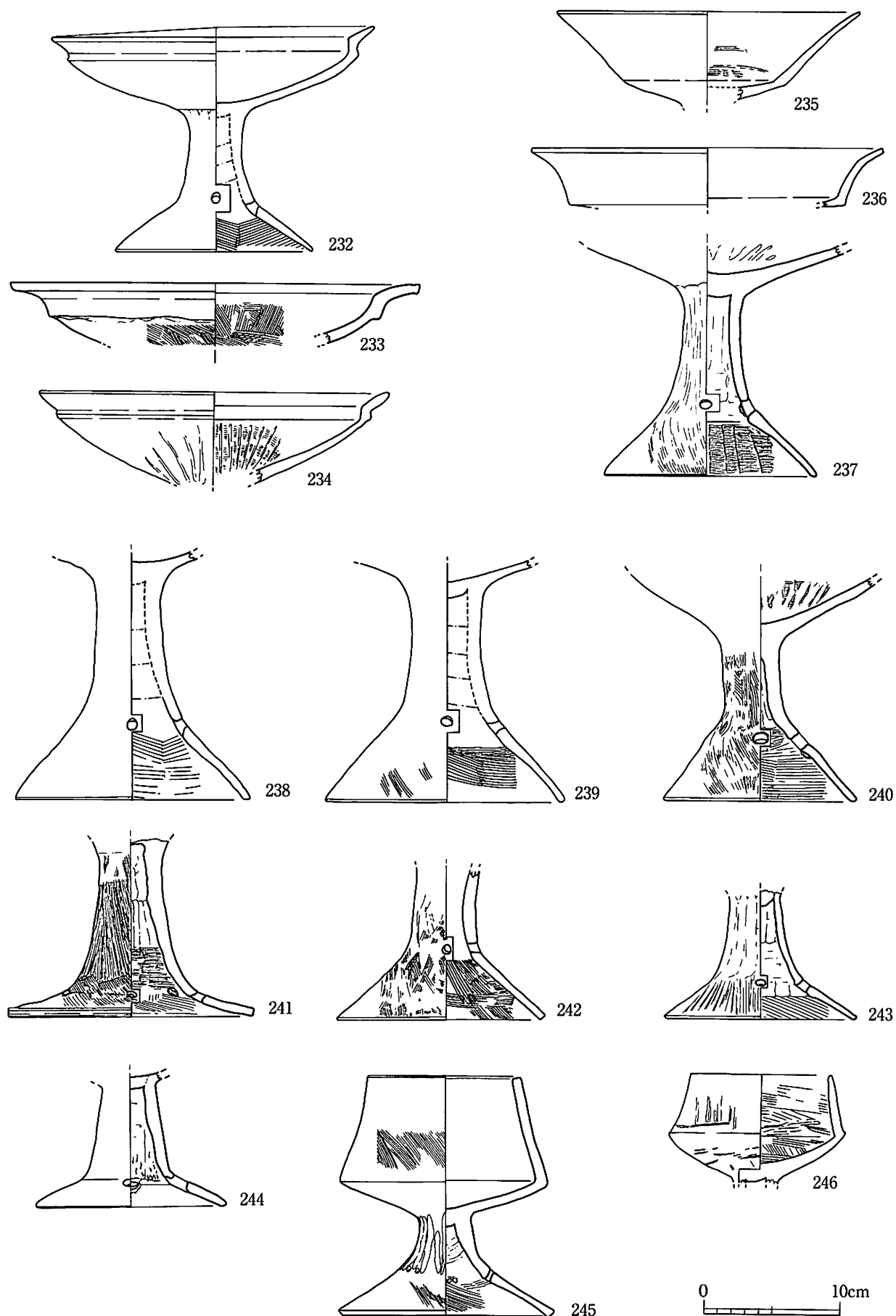
232から244までは高杯である。232は僅かに脚裾部を欠損しているが、ほぼ完全な姿に近い。杯

内面には使用による器面剥離が見られる。233から236は杯部のみであり、237から244は脚部のみである。

245から251までは脚台付き鉢である。245と246はブランデーグラス状の鉢で、2号溝出土の122の形状に類似している。247は脚部のみで、248は完全な姿を残している。249と251は脚台を欠損し、250は口縁部も欠損している。

252から256は器台である。252と253は形状、胎土、施文方法など極めて類似しており、同じ工人の手によるものであろう。254と255も焼成の色調は似たものである。256は粗い叩き目を残している。

257はジョッキ形土器の把手である。258は把手と思われるが、土製勾玉の可能性も残している。259は土製玉で、孔は見られない。そのため首飾りなど装飾用の玉にはならない。11号住居跡出土の77の玉と共通した形状である。260は貼り付け

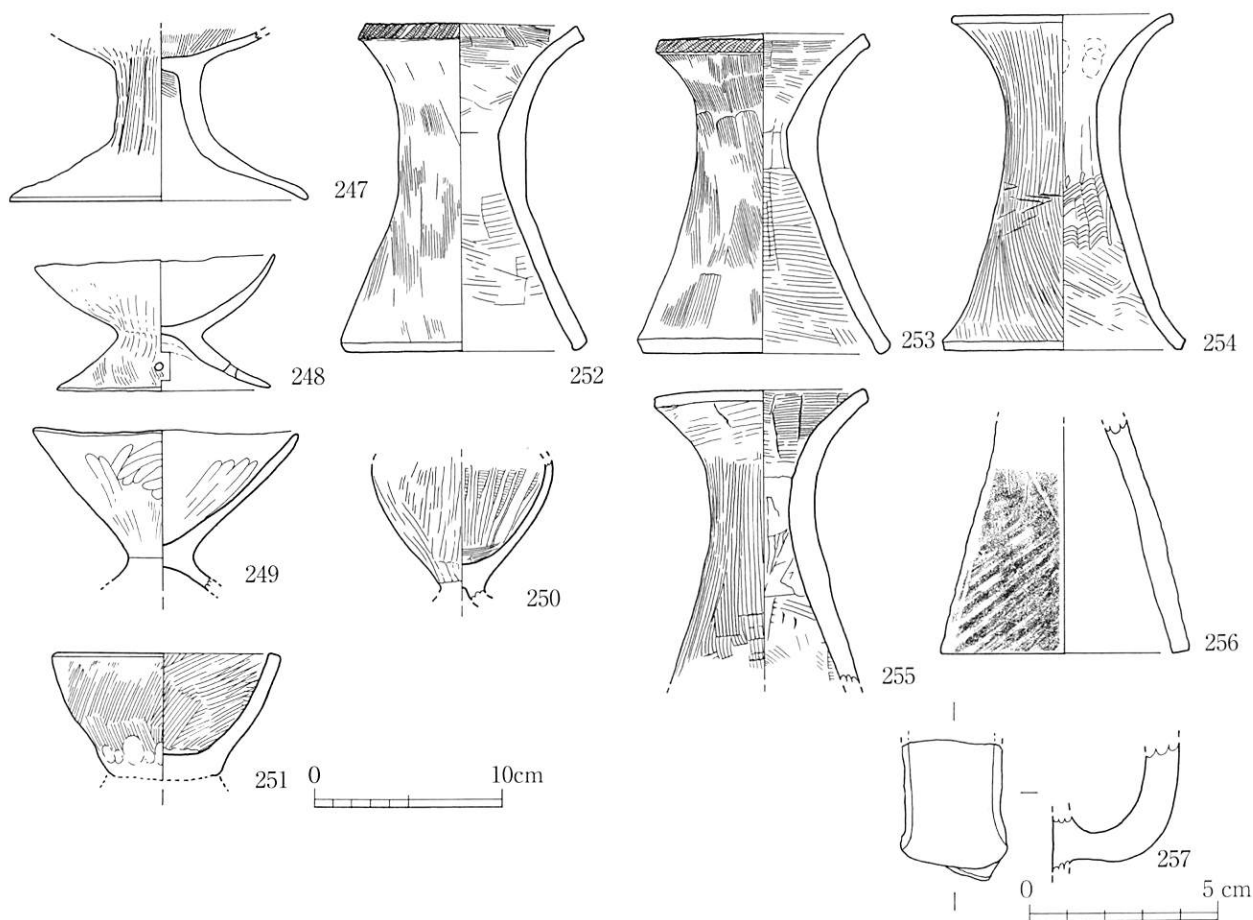


第43图 4号沟出土遗物实测图⑧

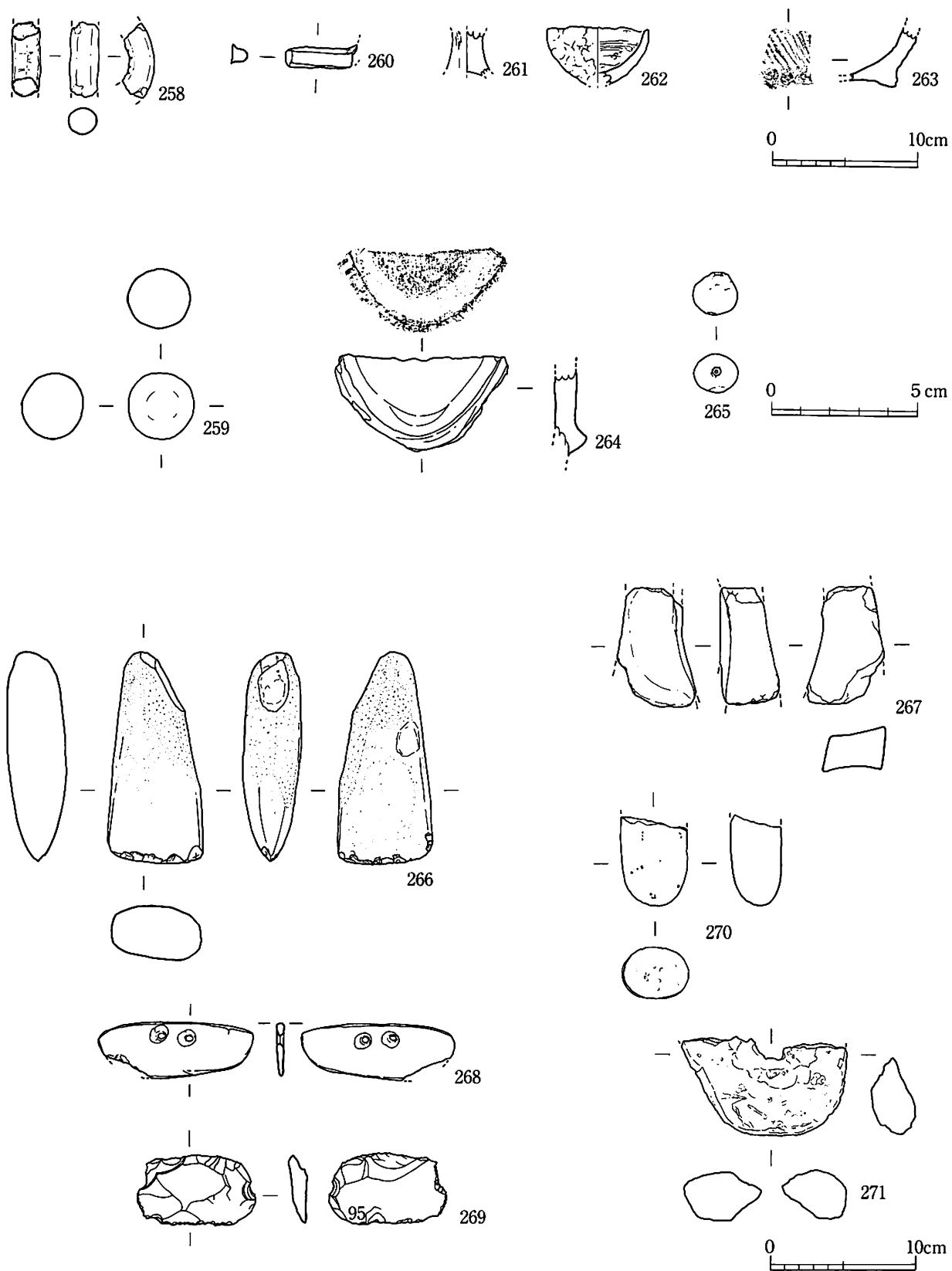
文が剥離したものである。261はミニチュア土器である。262は手捏土器の鉢である。263は高台を持つ鉢である。粗い叩き目を残している。内面には赤色顔料の付着が見られる。264は甕の胴部に施された鈎状の貼り付け文である。265は土製の玉で中心に紐を通す孔を穿っている。

266から271は石器である。266は磨製石斧である。刃部を中心に研磨しており、基部には敲打痕を残している。僅かに赤色顔料の付着が認められる。267は砥石である。4面は熱を受けており、

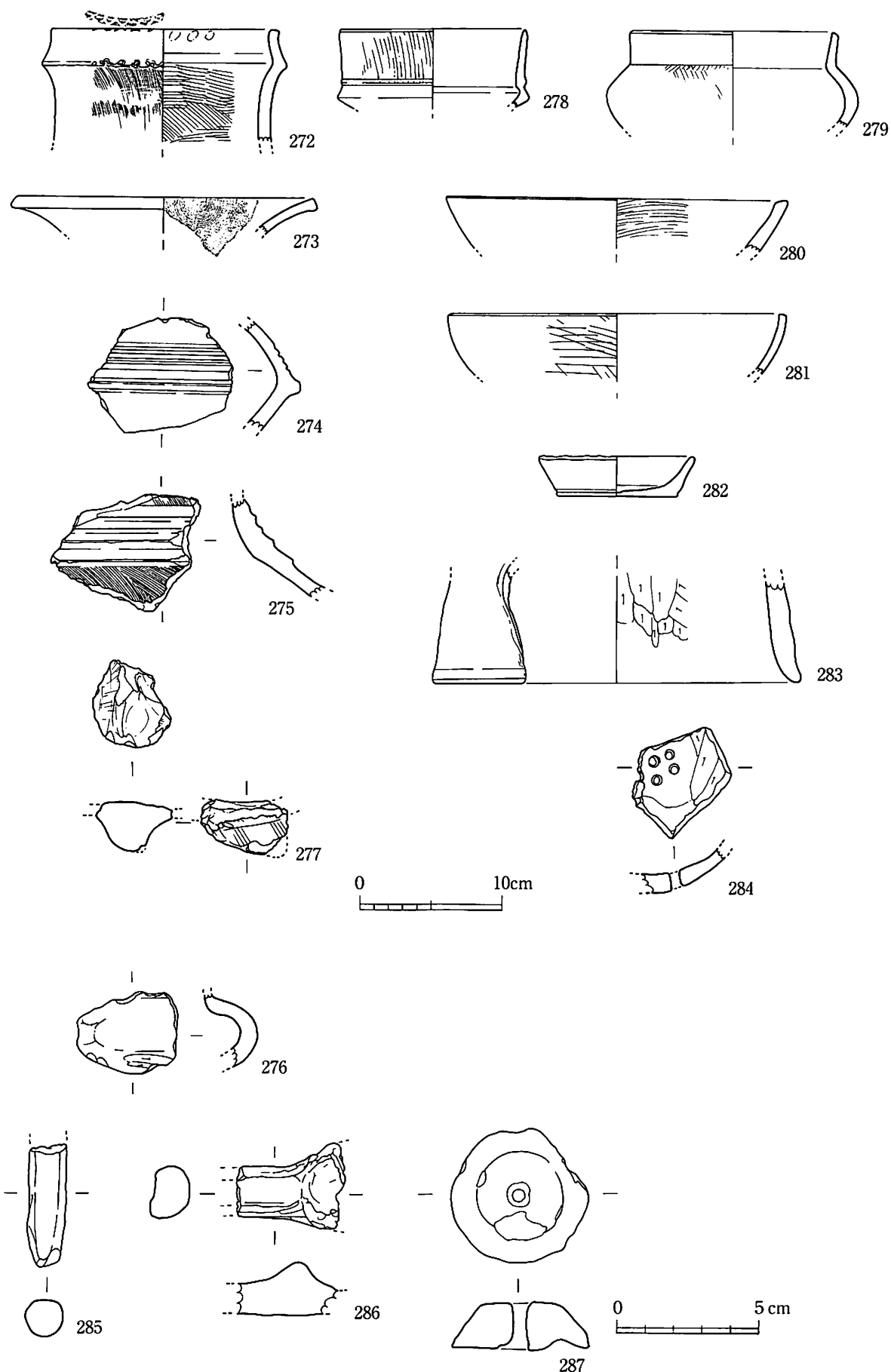
2面が主に使用されたようで色が白い。268は石包丁である。刃の一部を欠損している。穿孔の技術が粗く表裏でずれが見られる。269は周囲に刃部を形成した石器である。刃部は摩滅が認められ使用頻度の高さを示している。270は礫を利用した石杵である。端部を利用して赤色顔料を叩き潰している。そのため窪んだ部分に顔料が残っている。271は軽石製品である。中央には両側から窪ませて穿孔しており、円盤状石器のような形状である。



第44図 4号溝出土遺物実測図⑨



第45图 4号溝出土遺物実測図⑩



第47図 大溝出土遺物実測図

(17) 大溝 (第46図)

調査区のほぼ中央部に位置し、調査区に対し斜め方向に掘られている。上部幅8.8m～6.4m、下部幅3.5m、地表から3mの深さがある。この数値は遺構を確認した地点からで、本来の規模はさらに大きくなる。土層断面にも見られるが、南側に掘られた「周溝」が完全に埋没した段階で掘られていることが確認できる。

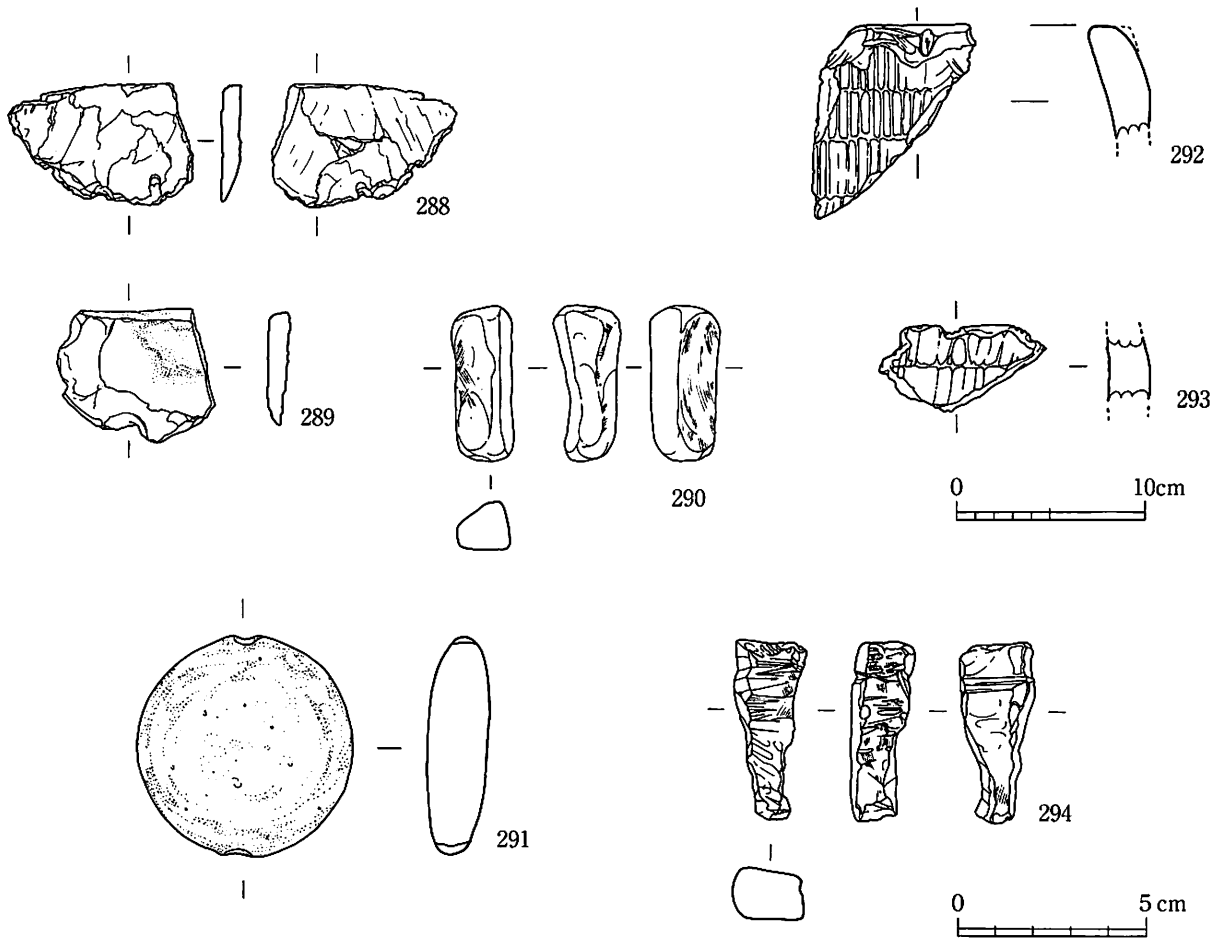
従って、時間的には出土遺物から中世の所産である。なお、溝底には床面で高さが異なっている部分を確認された。これは、溝を掘る作業の段階で、役割分担の違いから生じた可能性を示している。

溝は南東方向では、平成11年度に調査した220番地第2トレンチの1号溝まで延びていくことが確認された。さらに北西方向では平成12年度調査

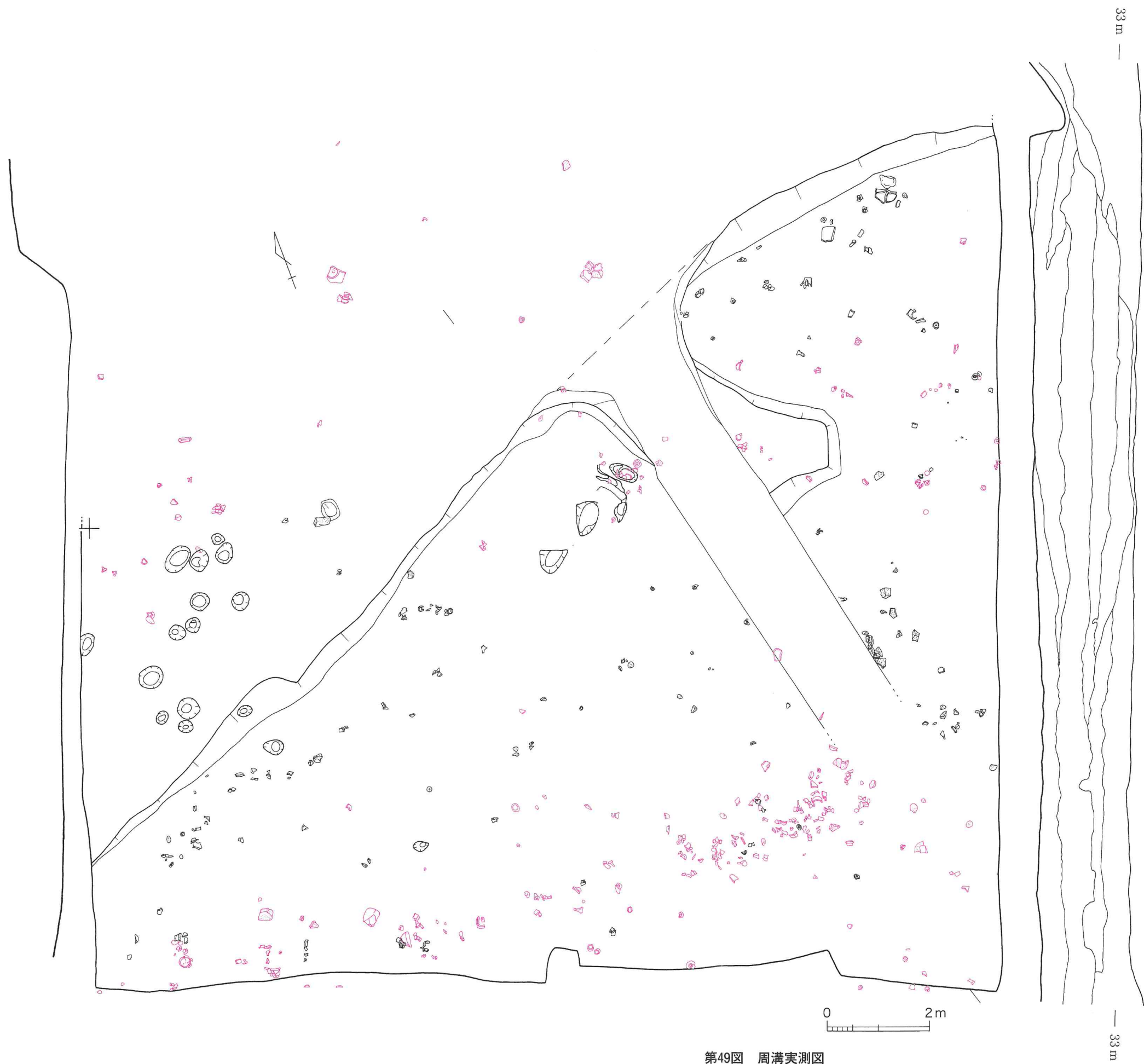
の196-1番地のトレンチ南端部に幅5.5mの溝が確認された。この溝まで一直線に伸びていることが推察される。220番地から196-1番地の間が145mの間隔があり、溝としてはそれ以上の長さを有していると理解できる。^{vi}

遺物 (第47～48図)

272から275は壺の破片である。272は二重口縁の壺で、口唇部には「×」状に刻目を施している。273は口縁部の破片で内面に櫛描きによる半円が見られる。274は無頸壺の胴部である。算盤玉の形状をした胴部には凸帯を巡らし、その上段に沈線を8本巡らしている。275は頸部のみの破片であるが、4本の凸帯を巡らしている。276はミニチュアの壺で、胴部のみの破片である。277は把手の破片である。278から281は鉢である。



第48図 大溝出土遺物実測図



第49図 周溝実測図

※赤は上層の遺物

282から284は土師器である。282は糸切り底の皿である。283は移動式竈の破片である。284は甑の破片である。

285から287は土製品である。285と286はスプーンの柄である。287は紡錘車である。

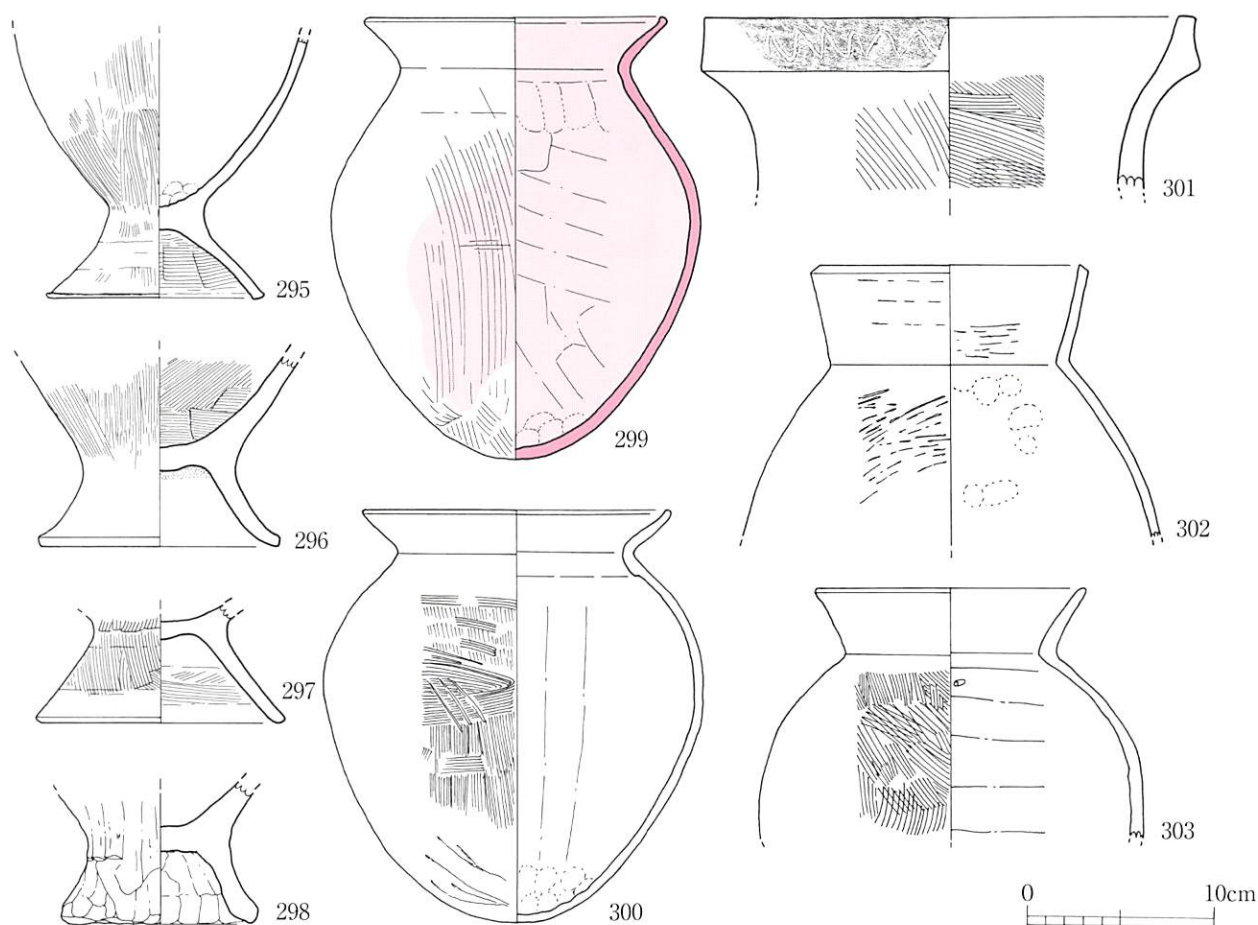
288から294は石器である。288は石包丁未製品の破片である。形を整えた段階で、穿孔の痕跡すら見られない。289は砥石の破片である。290は礫を利用した石杵である。周囲に赤色顔料の付着が見られる。摩滅や敲打痕は見られないが赤色顔料の加工道具と思われる。291は石錘であるが、全面に赤色顔料の付着が認められる。292から294は滑石製品である。292と293は石鍋の破片であるが、転用され加工の痕跡がある。294は本来の形状も用途も不明である。

(18) 周溝 (第49図)

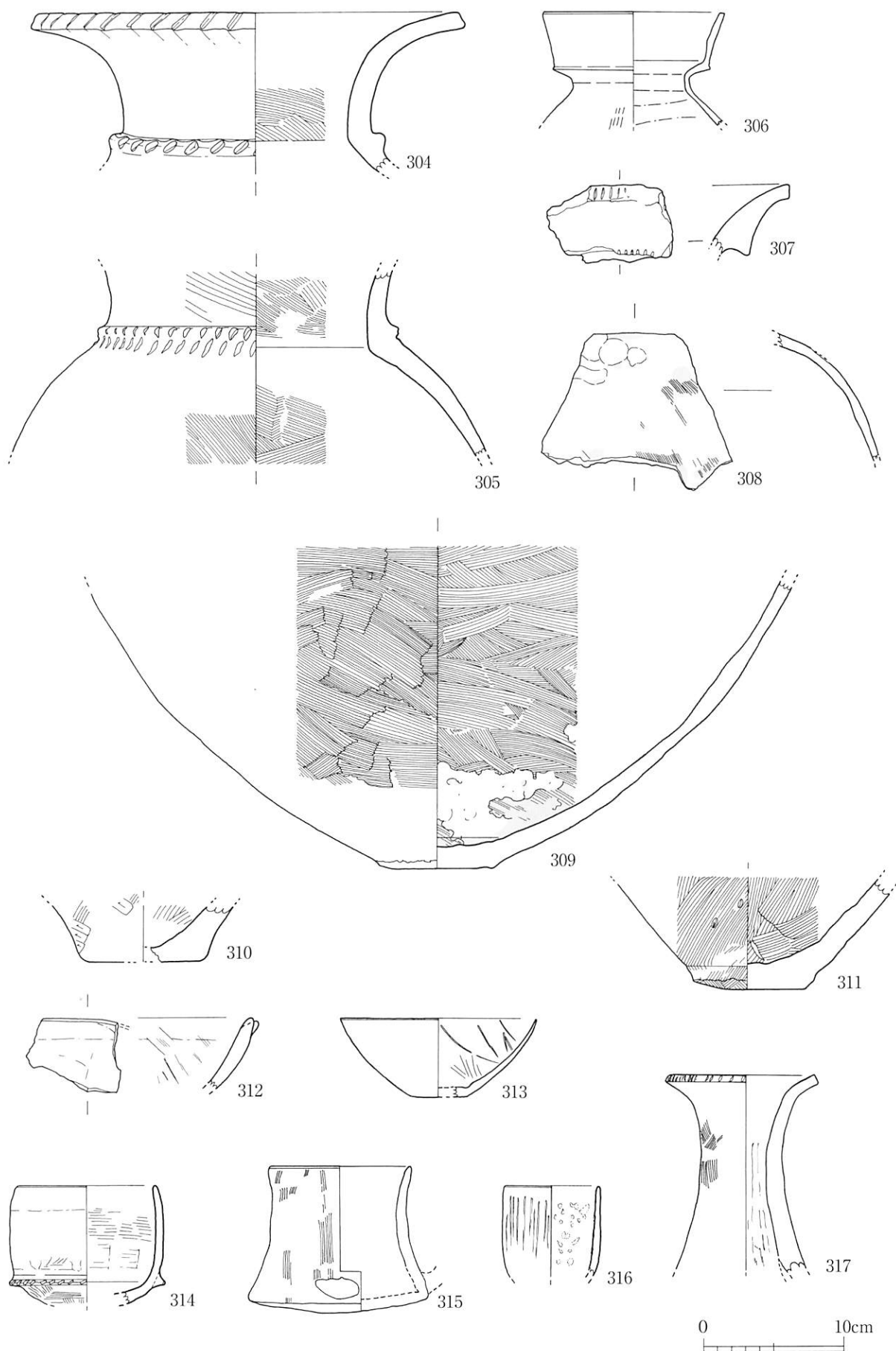
調査区の南に山鹿市指定文化財の端山塚古墳が残っている。この古墳を中心に円弧を描くかのように深さ0.9mで平坦な落ち込みが検出された。このため、古墳築造に際して地盤の整形を行い、この上に古墳を築いたのではないかと推察し周溝とした。しかし、本来の周溝とは形状的に異なることから、この名称が適切に遺構の性格を表現したものか疑問をもちつつ採用したものである。

規模的には、古墳東側で平成11年度調査した220番地の第2トレンチ2号溝の西端部まで平坦部が広がっていることが確認でき、^{vii}直径40mの円を描いていることが明らかとなった。古墳裾部を除いて幅25m程度になる。

遺物の出土状況も散在しており、遺物の時代も時間的にもまとまりがないものであった。恐らく溝と異なり短期間での埋没に至らなかったため、時間的な幅が認められるのであろう。



第50図 周溝出土遺物実測図①



第51図 周溝出土遺物実測図②

遺物（第50～58図）

295から298は在地系甕の脚台である。298は手捏風で粗雑な造りである。299と300は外来系の甕で布留系である。299は焼成後意識的に打ち欠いて半截されている。断面に赤色顔料が付着し、内外面にも付着が見られる。おそらく赤色顔料の製作に際し使用されていたものであろう。平成7年度に調査した、出土文化財管理センター建設地からも同様の資料が出土している。^{vii}

300は完全な姿の甕である。

301から311は壺である。301は二重口縁でヘラによる連続三角文を描いている。302と303は口縁部から肩部までの破片である。304は口唇部と頸部の凸帯に刻目を施している。305にも刻目が見られるが、こちらは2段になっている。306は山陰系の壺である。

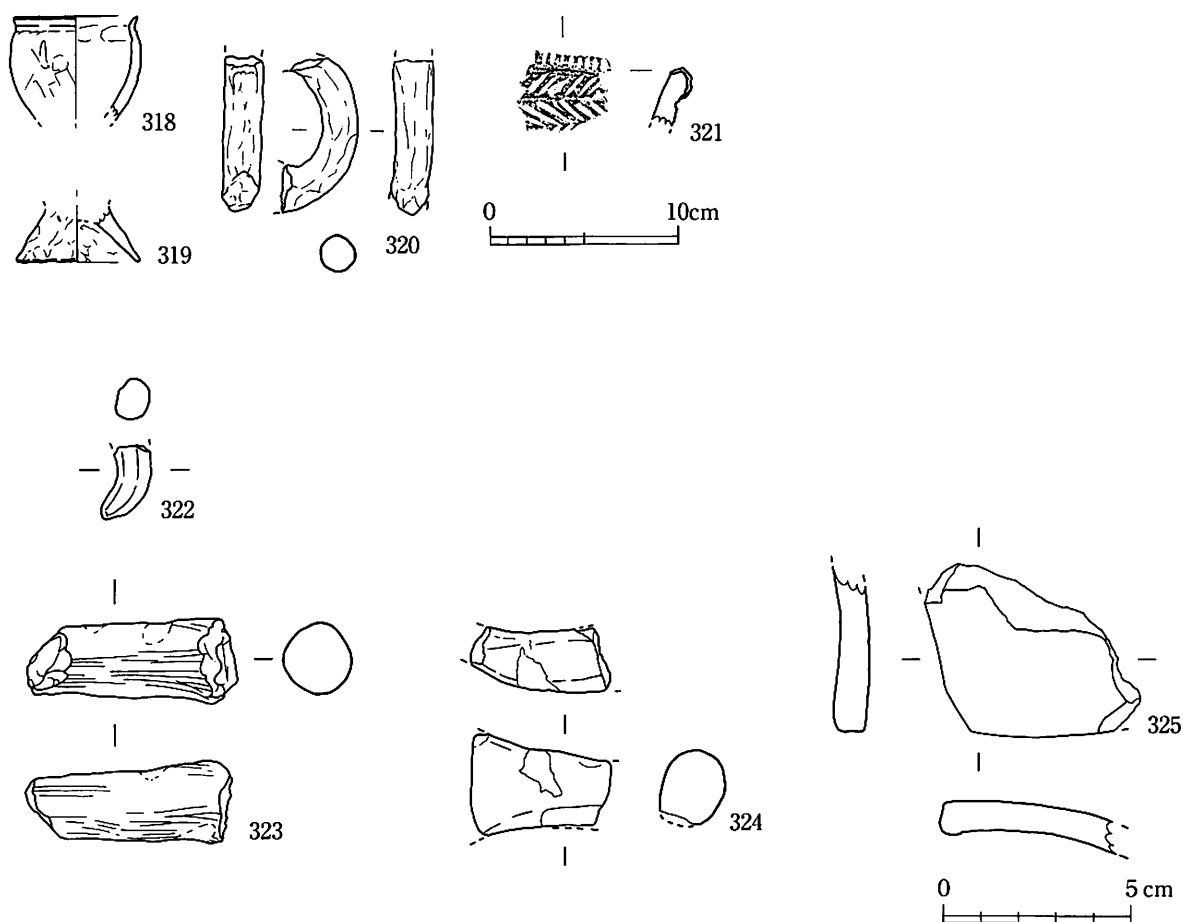
307も外来系の壺の口縁部片で、内面を黒く塗っている。308は胴部の破片である。外面に赤

色顔料の付着が確認できる。309は大型壺の底部である。6個に割れていたが断面および内面に赤色顔料が付着している。赤色顔料の生産に関連する資料である。310と311は底部のみの破片である。

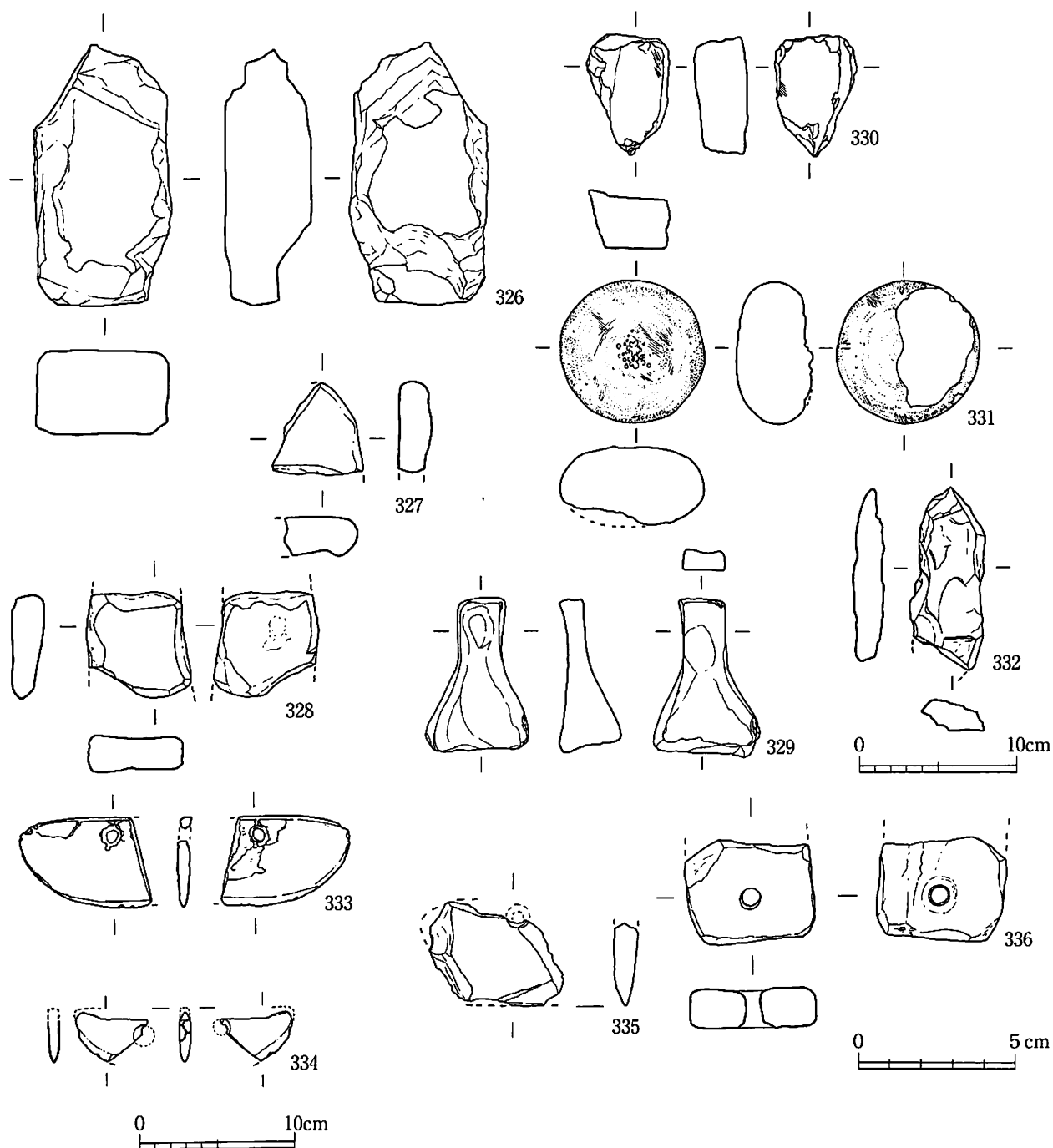
312は土師器で鉢の破片である。僅かに片口の形状を作り出している。313は小型の鉢である。314は脚台付の鉢で、脚台を欠損している。315はジョッキ形土器である。把手を欠損し、器壁は肉厚である。316はコップ形の土器片である。317は器台である。

318から325は土製品および縄文土器である。318と319はミニチュア土器である。320は把手である。321は縄文土器で北久根山式土器である。322は土製勾玉の破片で、小形のものである。323と324はスプーンの柄である。325は二側面を整形している土器で、形状は不明である。

326から336は石器である。326から330は砥石である。331は磨り石である。研磨面と中央には敲



第52図 周溝出土遺物実測図③



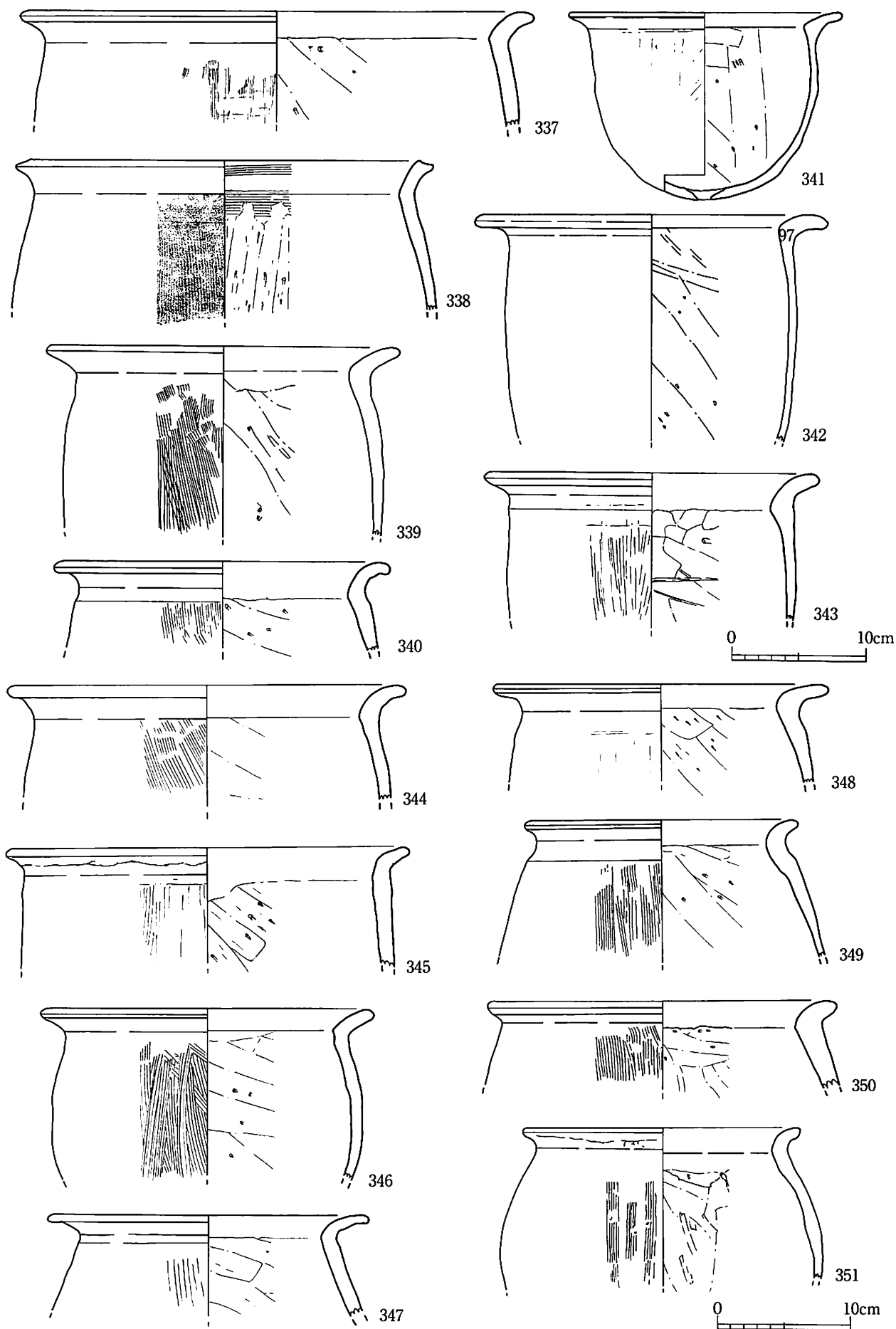
第53図 周溝出土遺物実測図④

打痕も残しており、赤色顔料を加工したもので僅かに顔料を確認することが出来る。332は打製石器の破片である。333から335は石包丁の破片である。336は変成岩製の石器三辺を整形し折れたもので、中央に穿孔が見られるところから石剣の基部の可能性が高い。

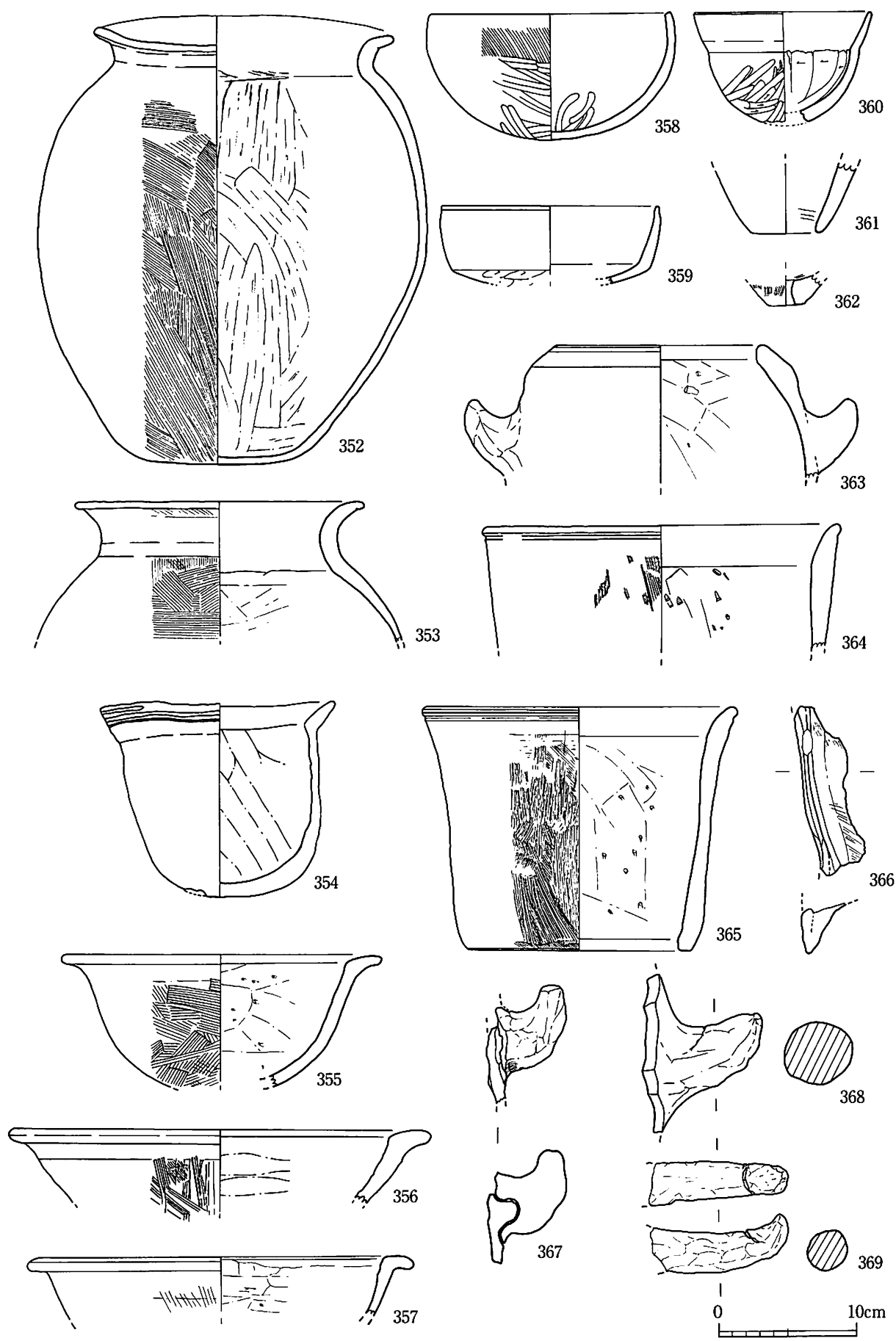
337から353は土師器の鉢である。大半は破片であるが、341と352は完形に近い。349と350は赤色顔料を塗っている。

354から357までは土師器の鉢である。354は半截状態である。358は弥生時代後期の鉢である。359は土師器の杯である。全面に赤色顔料で塗られ、その後の煤の付着が著しい。

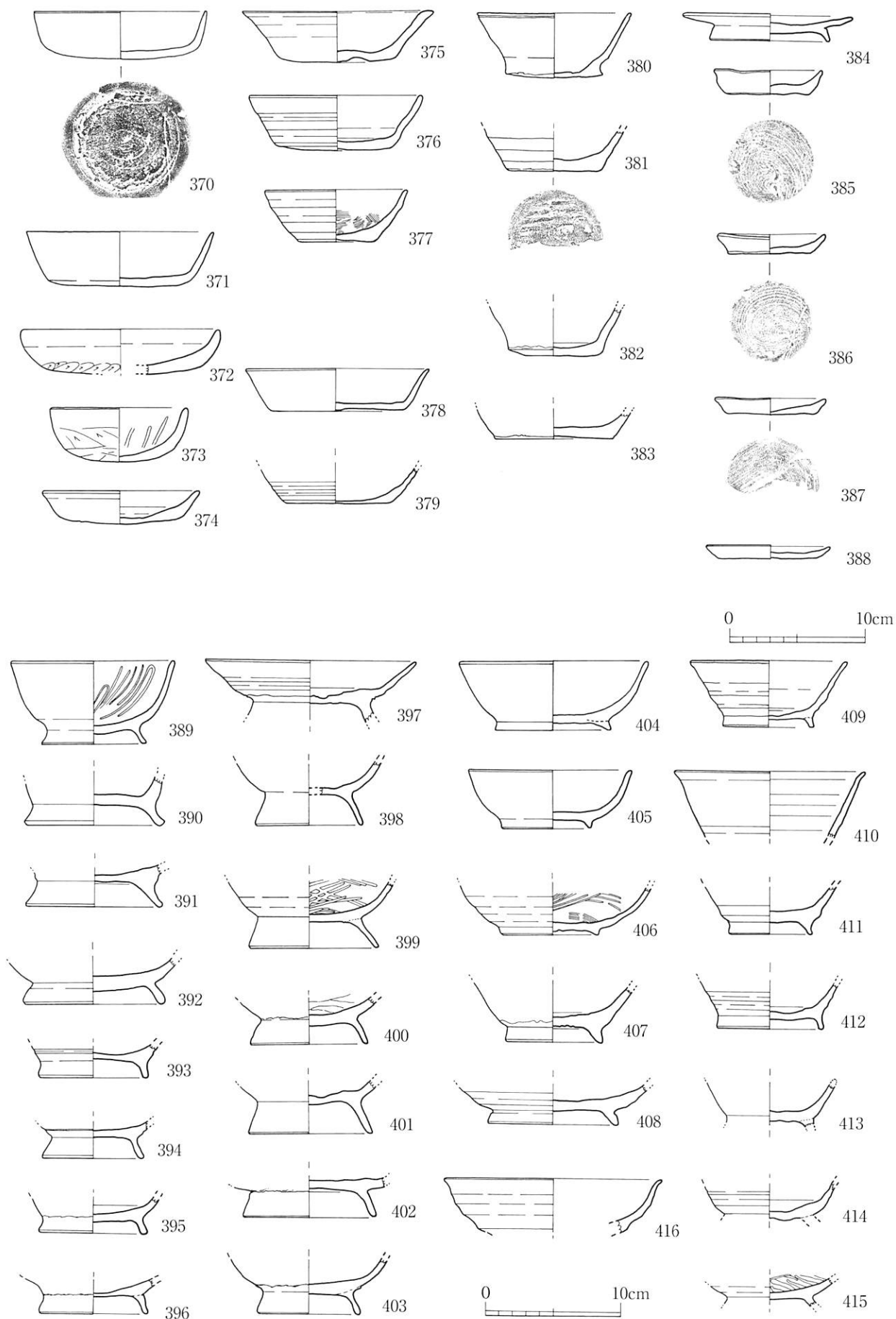
360は小型丸底壺を甑に転用したものである。底部に二次的な穿孔が見られる。361と362は甑の底部片である。363は底部が無いため断定できないので鉢としている。把手が着いている状況である。表面には赤色顔料を塗っている。364も鉢で



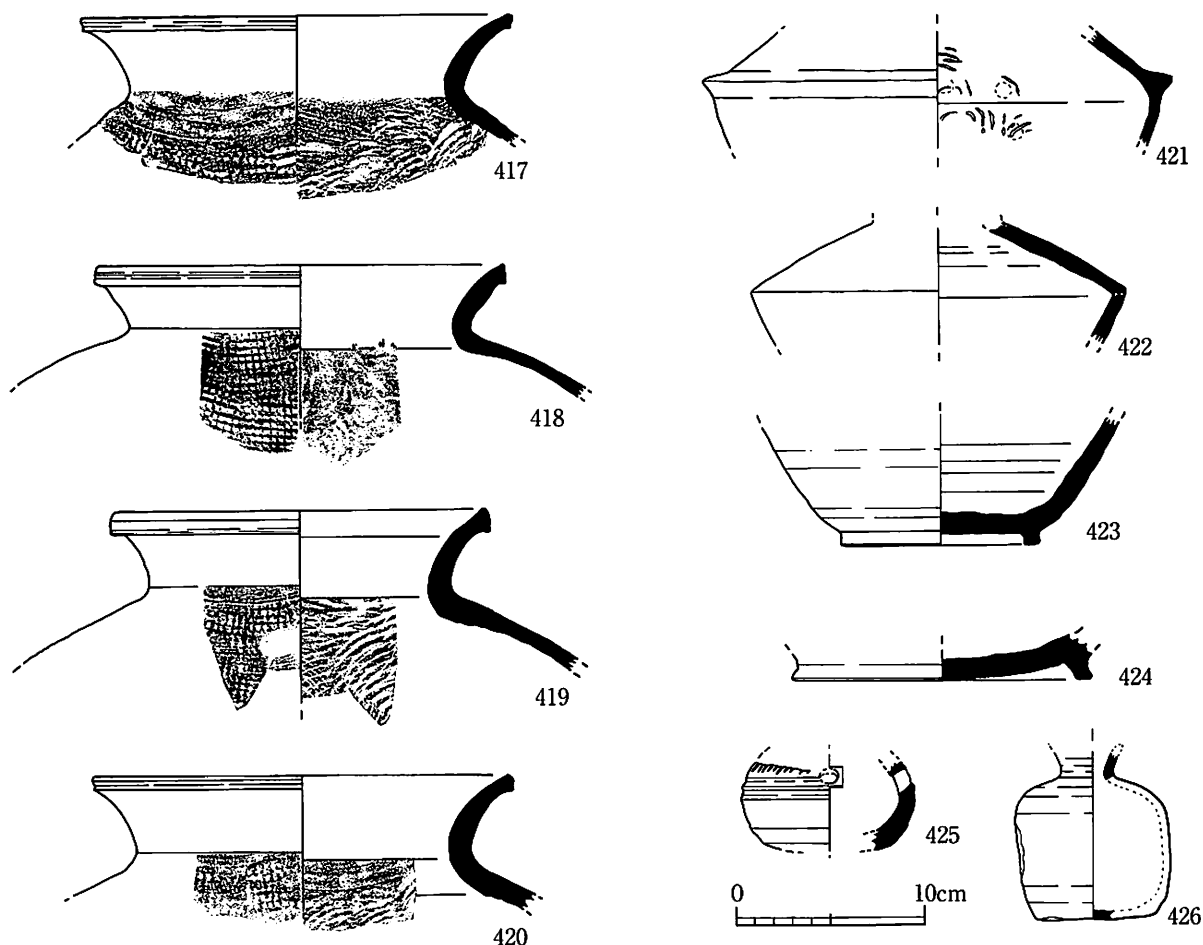
第54図 周溝出土遺物実測図⑤



第55图 周溝出土遺物実測図⑥



第56图 周溝出土遺物実測図⑦



第57図 周溝出土遺物実測図⑧

あろう。365は円筒形をしている鉢である。甗となるかは不明である。366は移動式竈の破片である。367から369は把手であり、367は接合面から剥離しており、製作工程が理解できる。369は湾曲しつつ延びており支脚の可能性もある。

370から383は土師器の碗である。374と375は完形品である。377は灯明皿として使用されており灯芯の煤の付着が見られる。379は瓦質土器である。384は托形土器である。

385から388は土師皿である。389から415は高台付きの碗である。389と399、400、405、415は内面を黒色研磨している。390と404の内面には煤が付着している。395は須恵器である。412は瓦質土器である。

417から442は須恵器である。417から420は短頸で外反する甕の口縁部片である。421と422は長頸壺の破片である。共に肩の部分のみである。423

と424は壺の底部で高台を有している。425は甗(はそう)の破片である。426は小型壺で口縁部を僅かに欠損している。

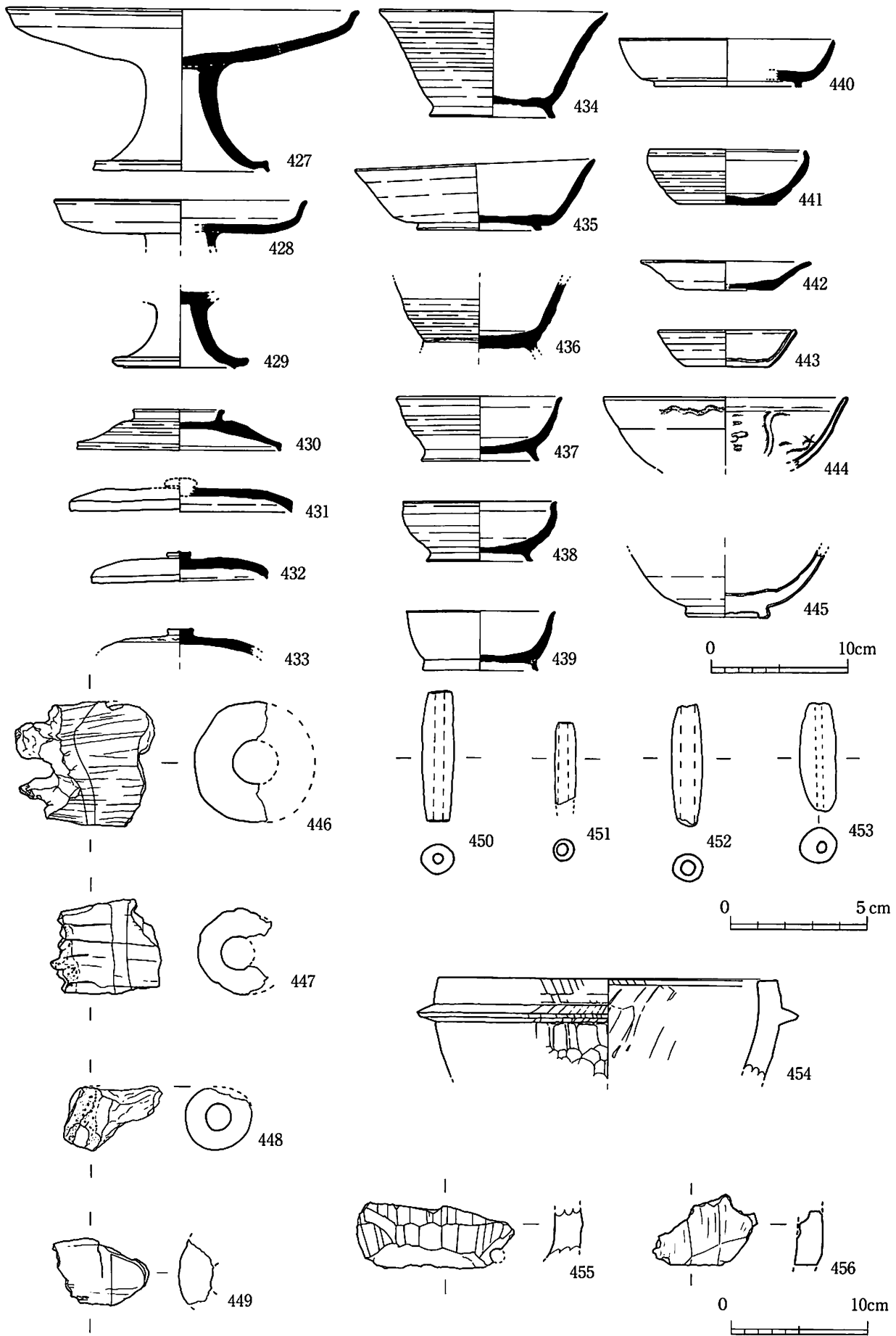
427から429は高杯である。427は同一個体であるが接点が見られなかったので図上で復元している。428は杯部の破片である。429は脚台である。

430から433は杯蓋である。430は高台状の摘みで、ほぼ完全な姿である。431は摘みを欠損している。432と433はボタン状の摘みである。434から440までは高台をもつ碗である。441は平底の碗である。442は杯である。

443は半欠状態の白磁の小皿である。444と445は青磁碗の破片である。

446から449は甗の羽口片である。熱により溶変している。450から453は土錘である。

454から456は滑石製石鍋片である。455には穿孔が見られる。



第58图 周溝出土遺物実測図⑨

(19) 遺構に伴わない遺物 (第59～70図)

調査段階で取り上げたものであるが、遺構の確認が出来ないものを紹介するものである。

地区別に分けたので、北側から南側に向かって説明する。

① E-1区出土遺物 (第59～61図)

457から463は在地系甕である。457は底部を欠損しているが脚台である。表面には煤、内面には焦げ付きが見られ、さらに初めの圧痕が確認できる。458は脚部のみである。459は口縁部から胴部下位までの破片である。煤の付着は見られない。460は口縁部から肩部までである。煤は見られない。461は口縁部を欠損している。表面には煤が付着し、内面には焦げ付きが見られる。462は口縁部から肩部までの破片であるが、表面には粗い叩き目を施している。463は丸底である。ほぼ完全な形である。

464から467は壺である。464は緩い二重口縁の破片である。465は頸部から胴部下位までの破片である。頸部には凸帯を巡らし斜めの刻目を施している。胴部には粗い叩き目が施されている。466は胴部中位から底部までを残している。全面に粗い叩き目を施し、その後底部近くをナデ消している。467は大型の壺で胴部の半欠状態である。

468から471は鉢である。470は完形品である。471は破片である。472は手捏風の皺が多く見られる。

473から476までは脚台付鉢である。476以外はほぼ完全な姿を留めている。475は土器溜近くからの出土である。476は2号溝出土の122、4号溝出土の245の脚台付鉢と類似している。

477は高杯の杯部片である。脚台は付け根から折れている。478は器台で、裾の一部を欠損している。479と480および485はジョッキ形土器の破片である。485は把手の破片である。482から484はミニチュアの鉢である。486はミニチュアの高杯である。

487から491は石器である。487と488は石包丁である。487は穿孔が2個あるが、途中でやめている未貫通の孔が1個見られる。

489は砥石である。鉄錆の付着が見られる。

490も砥石である。研磨面は光沢を持ち細い傷跡が多く残されている。491は凝灰岩製で、表裏二面に平坦面を形成し、研磨している。

② W-1区出土遺物 (第62図)

1号溝と4号溝の間を中心に出土している。

492と493は甕の破片である。492は小型の甕の破片で煤の付着が著しい。494と495は壺の破片である。494は口縁部片であるが、表面に濃く赤色顔料を塗り、内面にも薄く付着している。495は算盤玉状の無頸壺片である。胴部に稚拙な鋸歯文を描いている。496は大型の壺で胴部の一部から底部を欠損している。内面には粘土接合が確認できる。497と498は壺の底部である。499と500は鉢である。501は鉢の破片で、口縁部の一部であるが、被熱のため煤の付着と変色が見られる。

502と503は石包丁の破片である。504はガラス製小玉である。505は土師器の碗である。506は土師器の皿である。507は須恵器の杯蓋である。

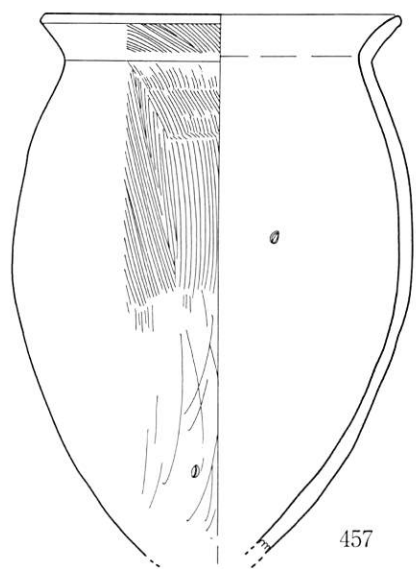
③ E・W-1区出土遺物 (第63図)

北側拡張部の土器溜周辺出土の遺物が見られる。

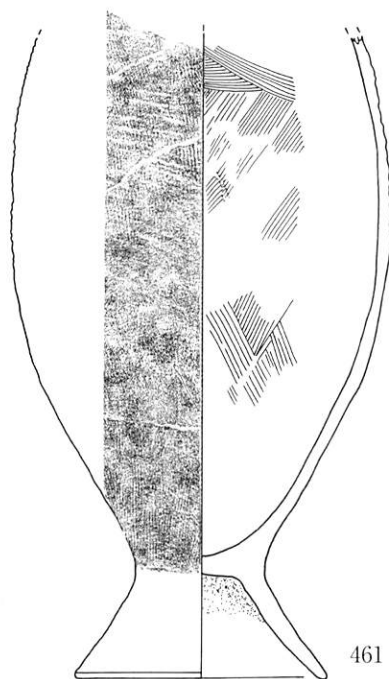
508は在地系甕で底部を欠損している。表面には煤が付着している。509と510は接点が見られないが、胎土の色調や器面調整の状況から同一個体の可能性がある。509は在地系甕の口縁部の破片で、510は口縁部から胴部下位まで部分的に欠損している。

511から513までは壺である。511は口縁部のみである。頸部には凸帯を巡らしている。512は口縁部と胴部の一部を欠損している。頸部には刺突文を巡らしている。513は口縁部から肩部までの一部を欠損している。

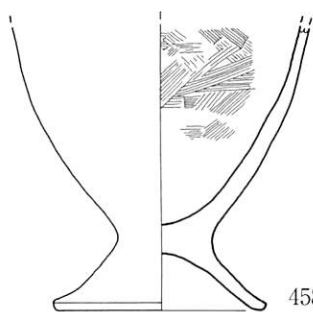
514と515は鉢である。516は手捏の甕の破片である。482と接合面は見られないが同一個体の可能性が高い。517はスプーン形土製品の把手である。



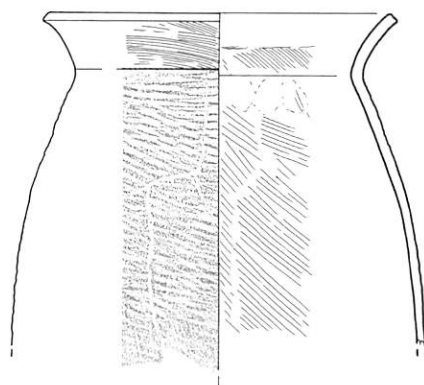
457



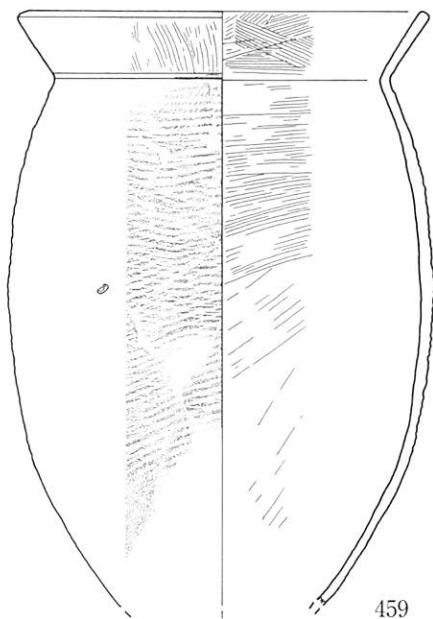
461



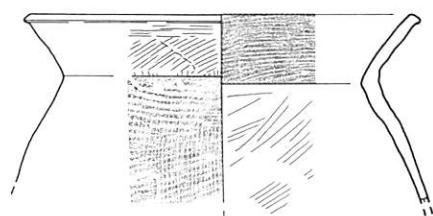
458



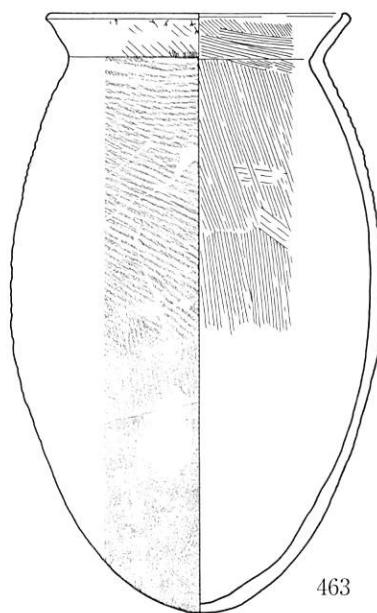
462



459



460

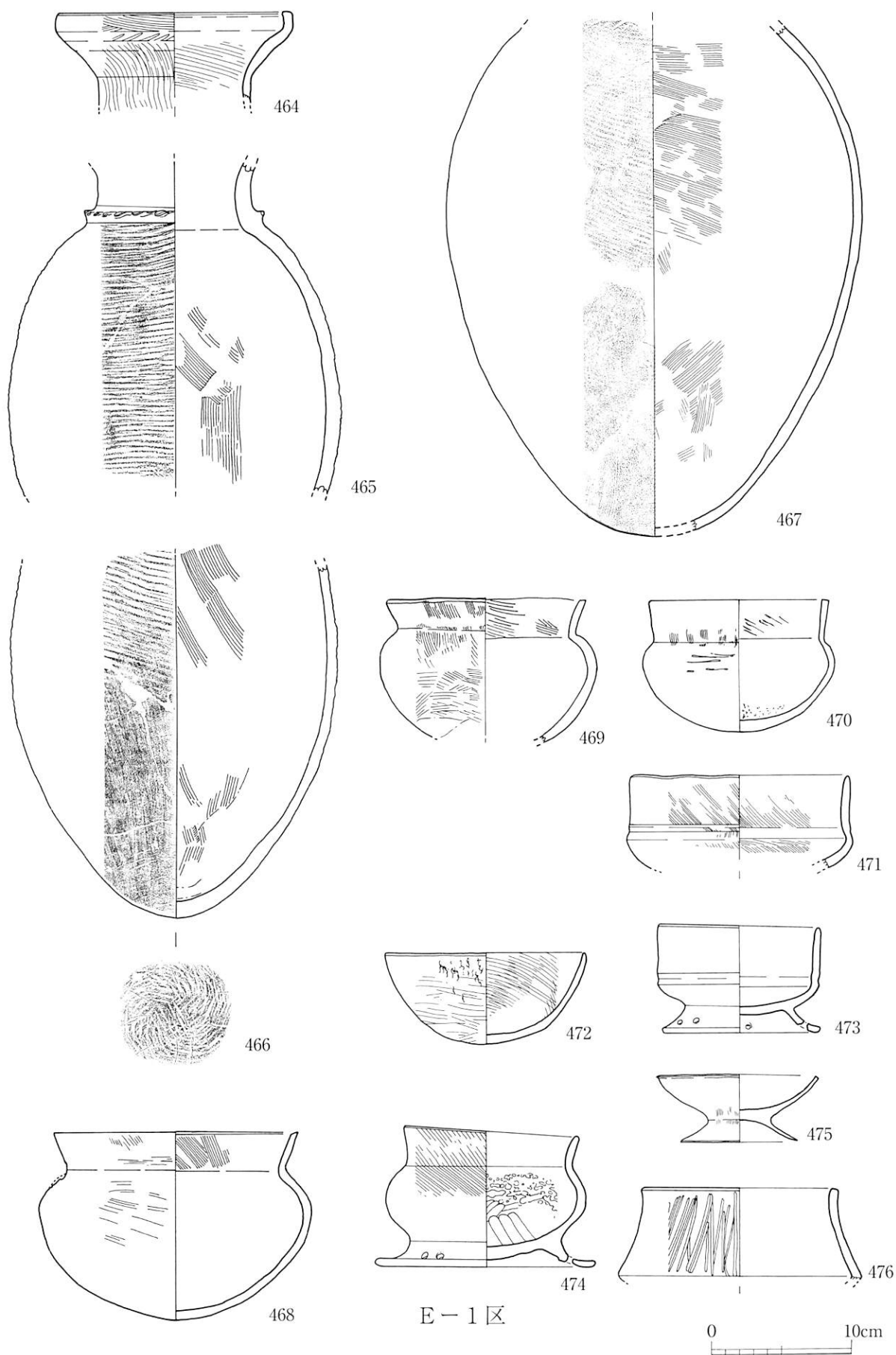


463

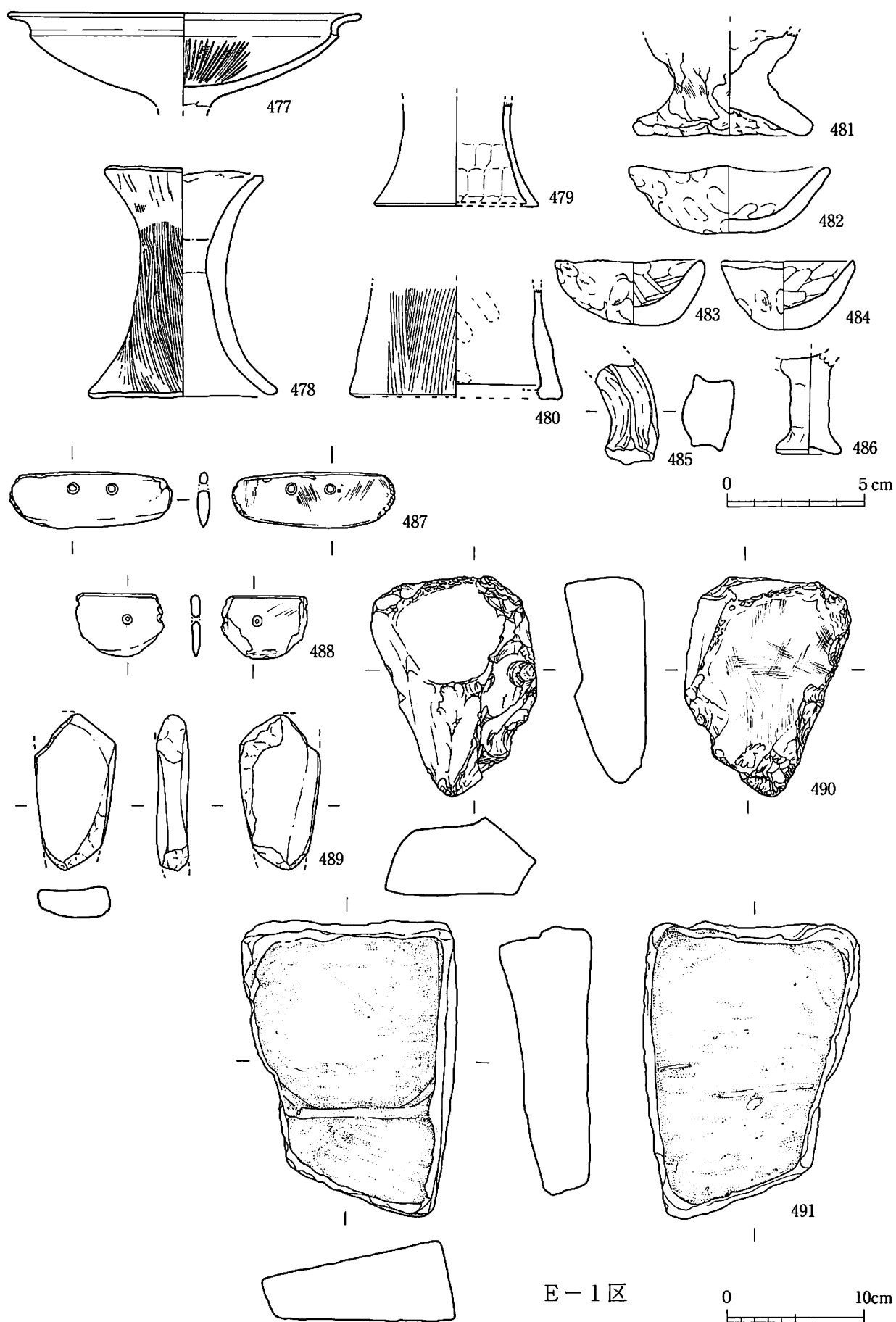
E-1区

0 10cm

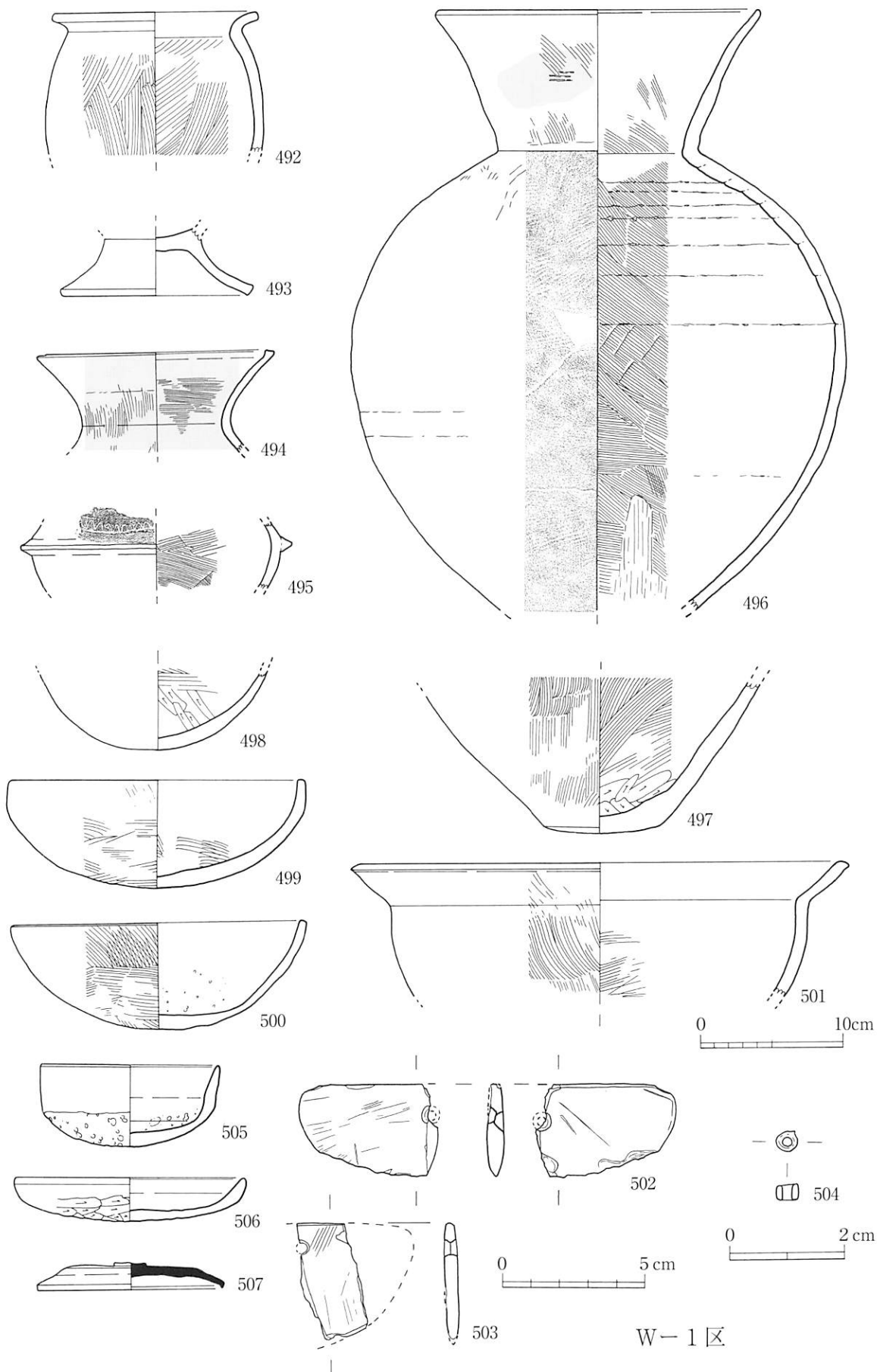
第59図 遺構に伴わない遺物実測図①



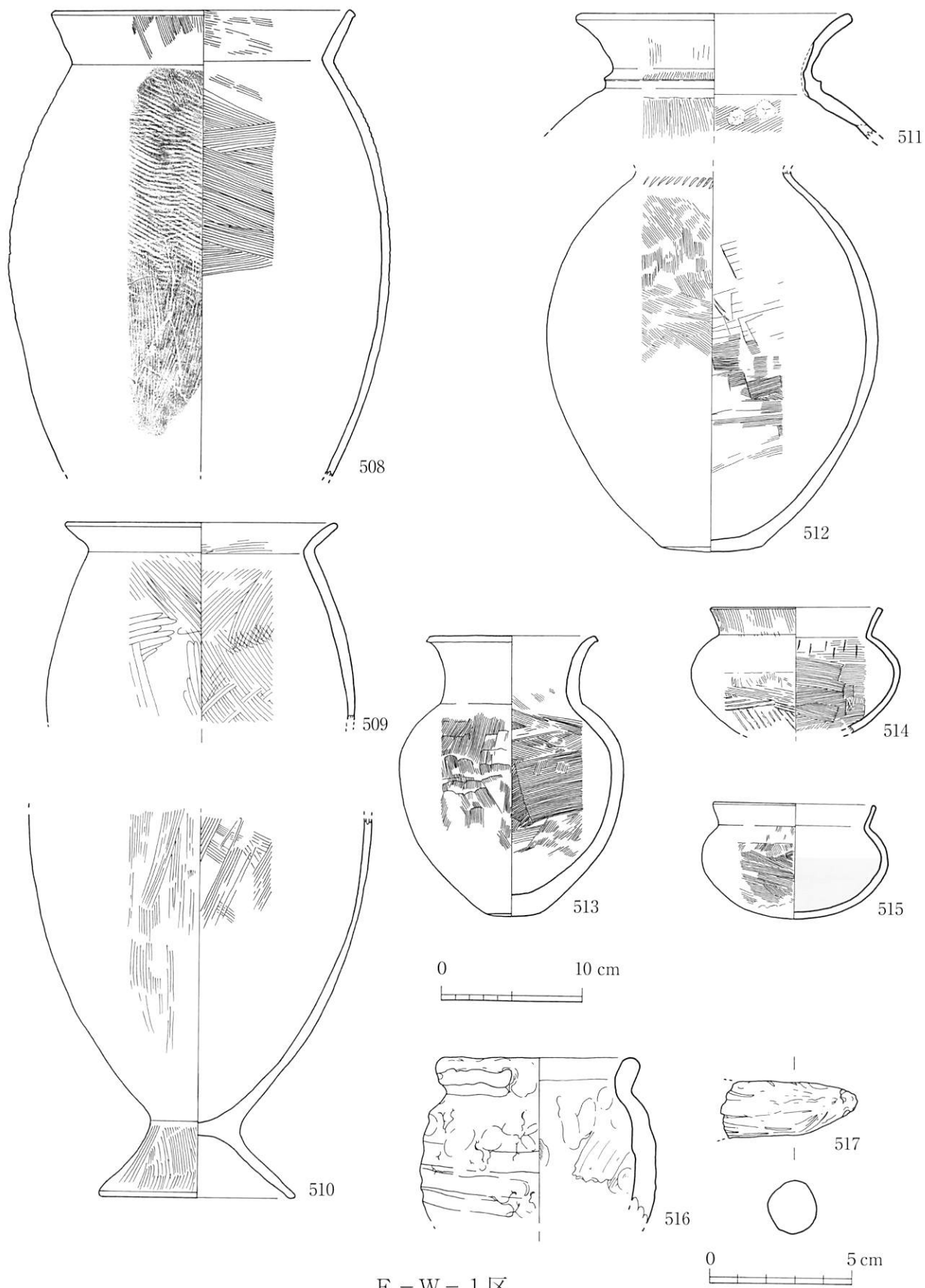
第60図 遺構に伴わない遺物実測図②



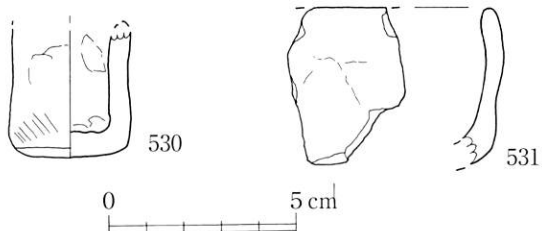
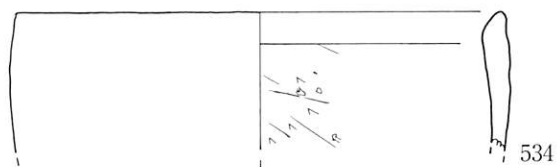
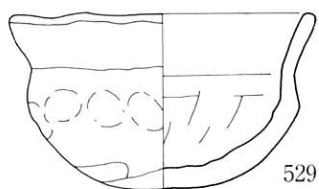
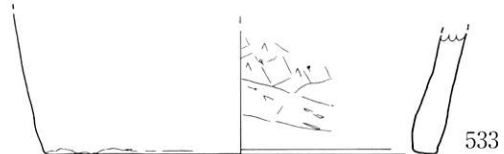
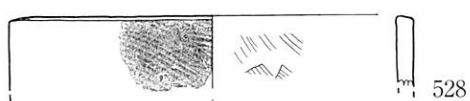
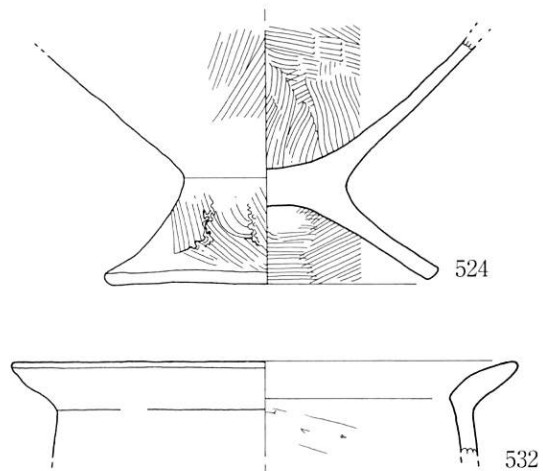
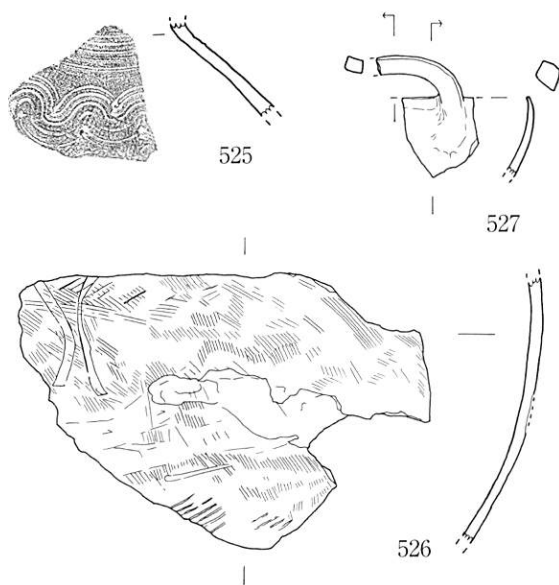
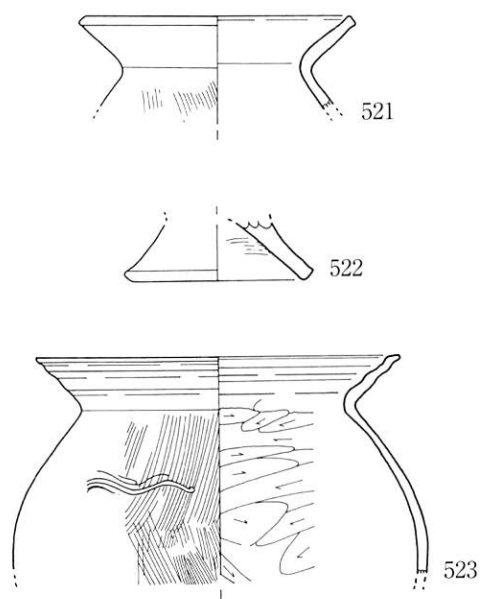
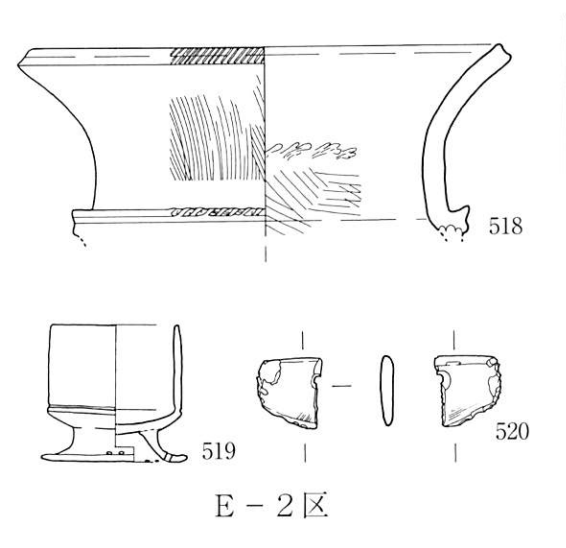
第61図 遺構に伴わない遺物実測図③



第62図 遺構に伴わない遺物実測図④

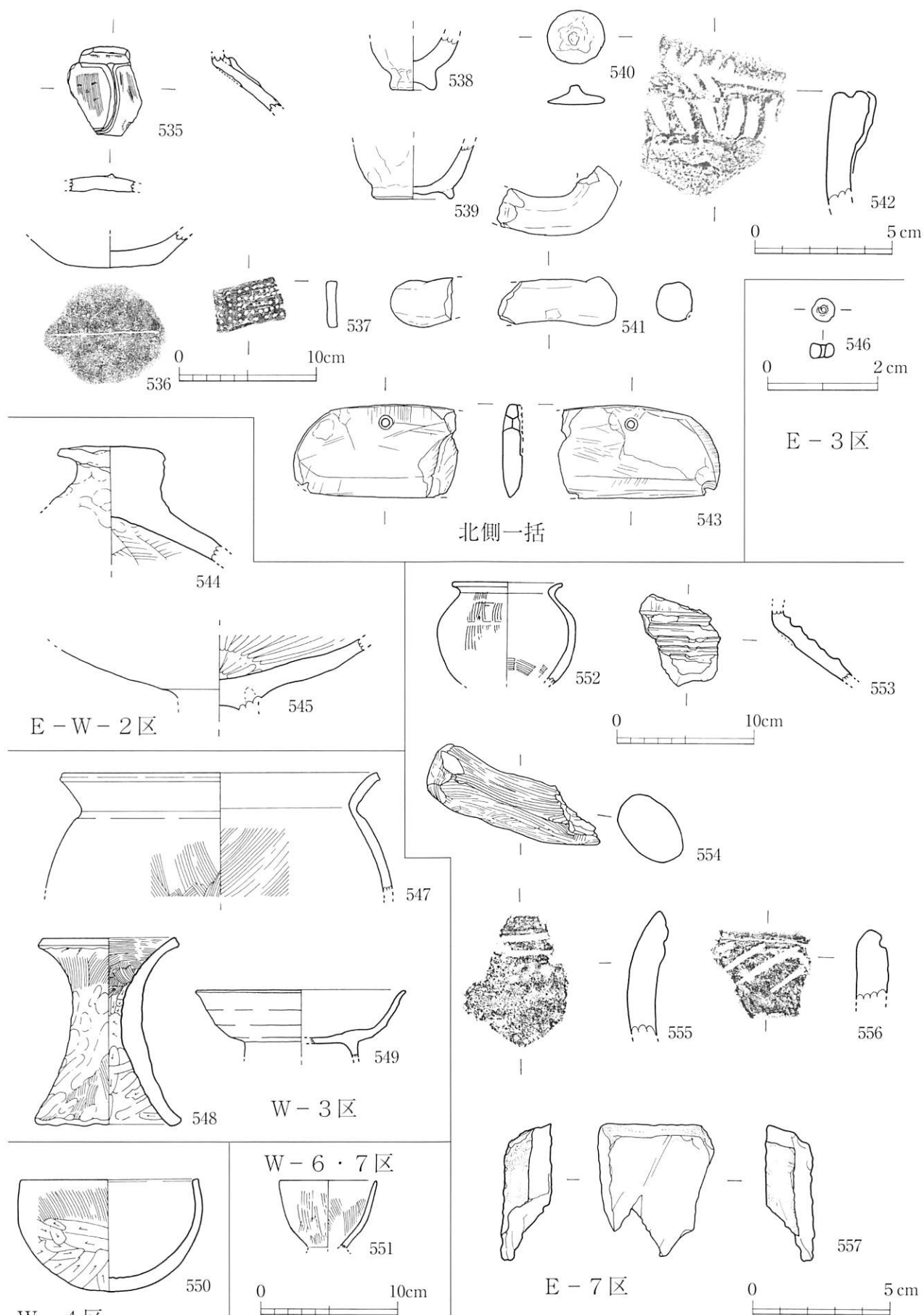


第63図 遺構に伴わない遺物実測図⑤



W - 2 区

第64図 遺構に伴わない遺物実測図⑥



第65図 遺構に伴わない遺物実測図⑦

④ E-2区出土遺物（第64図）

518は壺の口縁部である。口唇部には刻目を施し、頸部には凸帯を巡らし、刻目を確認することが出来る。519は小型の脚台付鉢である。ほぼ完全な姿である。コップ形土器ともいえるものである。520は石包丁の破片である。

⑤ W-2区出土遺物（第64図）

521から524は甕である。521と523は口縁部の破片である。共に外来系の甕で布留系である。522と524は脚台である。524は大型の甕の脚である。525と526は壺の破片である。525には肩部に櫛描文を施し、526は線描きの模様が見られる。527は把手をもつ小型の土器である。破片のため全体の形がつかめないが、口縁部に沿って、半環状に四角の断面をもつ把手が付いている特殊な土器で、今まで類例を知らない。528は口縁部が平坦な鉢の破片である。529から531はミニチュア土器である。532から534は土師器の甕と甑の破片である。

⑥ 北側一括出土遺物（第65図）

535は壺の肩部の破片である。頸部には凸帯を巡らしその下に延びるように鈎形の貼付文を配している。4号溝出土の264の遺物と類似している。同様の遺物が平成7年度に調査した出土文化財管理センター内10号溝からも出土している。^{ix}

536は壺の底部である。中央に1本へラ描きによる筋状の施文が見られる。この施文についてはかつて注目したところである。^x

出土文化財管理センター調査でも2点出土しており、少しずつ類例が増している。^{xi}

537は把手の破片である。ジョッキ形土器の把手とは類似しているが、接着面が把手の主軸と直角になっておらず、傾斜した形になっているところから口縁部に対し平行に付く把手であると判断した。いわゆる鍋の把手のような形状になる。表面には細い竹管文が列状に施してある。

538から541は土製品である。538と539はミニチュアの甕の破片である。540はミニチュアの土製鏡である。鈕を中央部に表現している。541は

537と同様に、口縁部に対し水平に付く把手である。542は縄文土器の破片である。口縁部と口唇部にも刻目を配している。542は石包丁の破片である。この資料は基部が湾曲し、刃部が直線である。

⑦ E・W-2区出土遺物（第65図）

544は手捏の摘みをもつ土器で、不整形のため脚にはならないと判断し、蓋とした。

545は高杯の破片である。

⑧ E-3区出土遺物（第65図）

546は淡い青色のガラス小玉である。

⑨ W-3区出土遺物（第65図）

547は甕の破片である。表面には煤の付着が著しい。548は器台である。手捏のように粗い造りである。549は土師器の皿で高台を有している。口縁部には煤の付着が見られる。

⑩ W-4区出土遺物（第65図）

550は半欠状態の碗である。

⑪ W-6・7区出土遺物（第65図）

551はミニチュア土器の破片で脚付き鉢である。

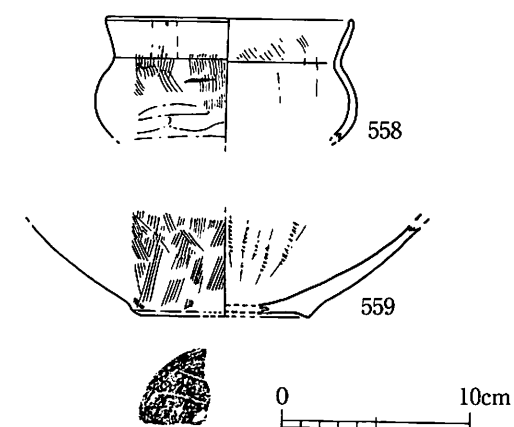
⑫ E-7区出土遺物（第65図）

552は小型の鉢の破片である。553は壺の肩部の破片である。5本の凸帯を巡らしており、長頸壺であろう。大溝出土の275や一括出土遺物の585と類似している。554は土製品の把手である。支脚とも考えられるが、端部が脹らみをもっており、不安定になるので把手とした。

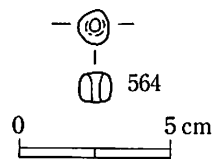
555と556は縄文土器である。557は砥石である。側面に研磨面を残しているが、多くは剥離している。

⑬ W-7区出土遺物（第66図）

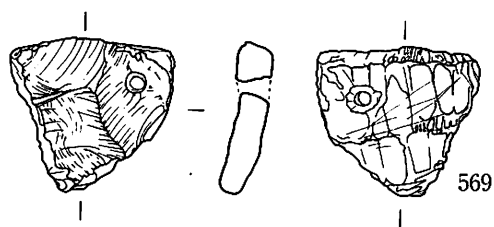
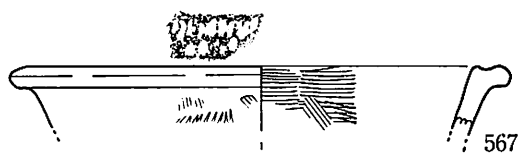
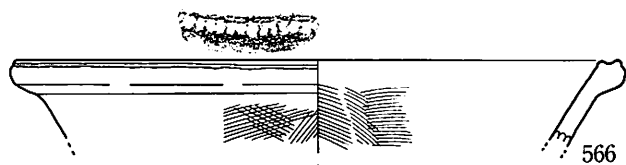
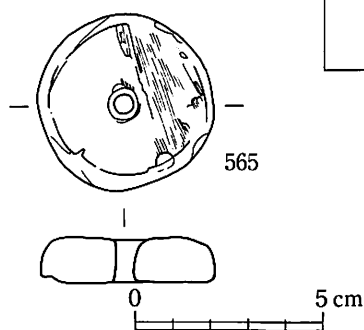
558は鉢の破片である。559は壺の底部の破片である。



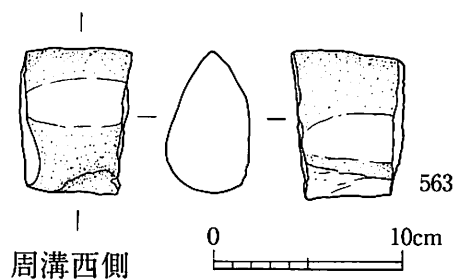
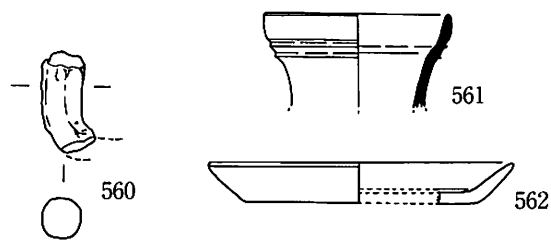
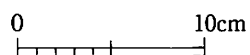
W-7区



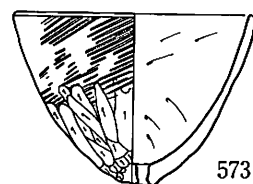
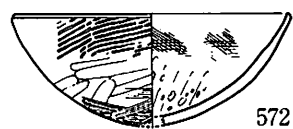
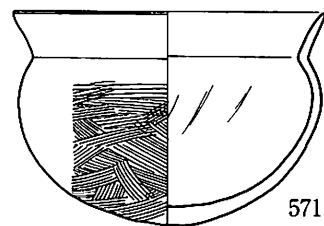
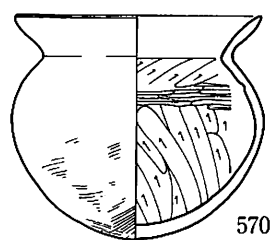
W-8区



南側一括



周溝西側



上層一括



第66図 遺構に伴わない遺物実測図⑧

⑭ 周溝西側出土遺物（第66図）

560は把手の破片である。561は須恵器の壺の口縁部片である。562は土師器の皿の破片である。563は研磨面を残す礫片である。微量ではあるが赤色顔料が見られる。

⑮ W-8区出土遺物（第66図）

564はガラス小玉である。

⑯ 南側一括出土遺物（第66図）

565は土製の紡錘車である。表面には鉄分が付着して錆に包まれている。566と567は中世の遺物である。口唇部に刺突文を配している。類似資料として中皆本遺跡出土遺物がある。ⁱⁱⁱ

568と569は滑石製の石鍋片である。568には口縁部直下に穿孔と縁に切り込みを入れている。569にも穿孔が見られ周囲を加工している。

⑰ 南側上層出土遺物（第66図）

570は小型壺である。口縁部の一部を欠損している。571は鉢である。口縁部から胴部にかけて一部欠損している。572は鉢の破片である。573は完形の小型甌である。

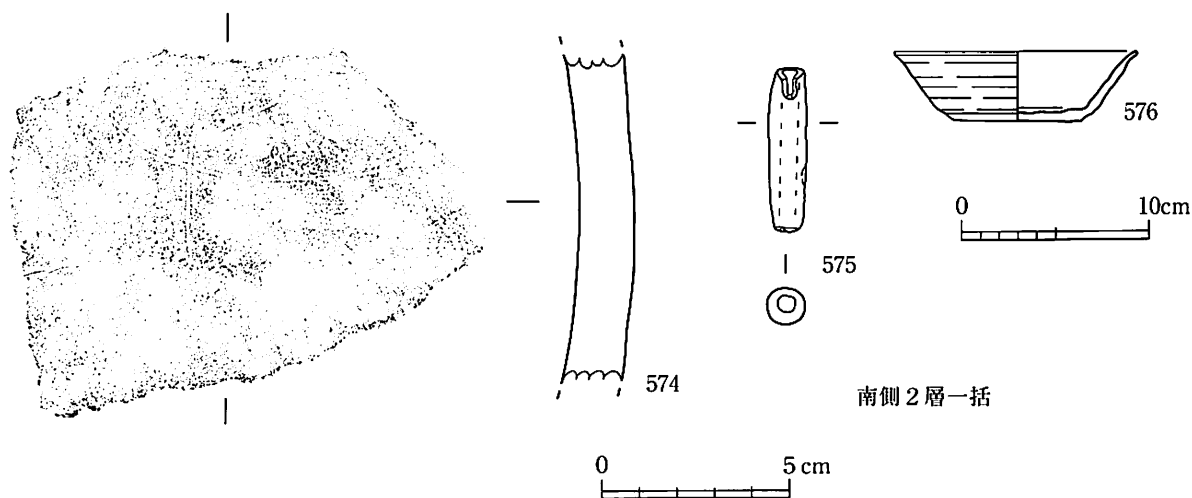
⑱ 南側2層出土遺物（第67図）

574は壺の胴部片である。表面には細いヘラに

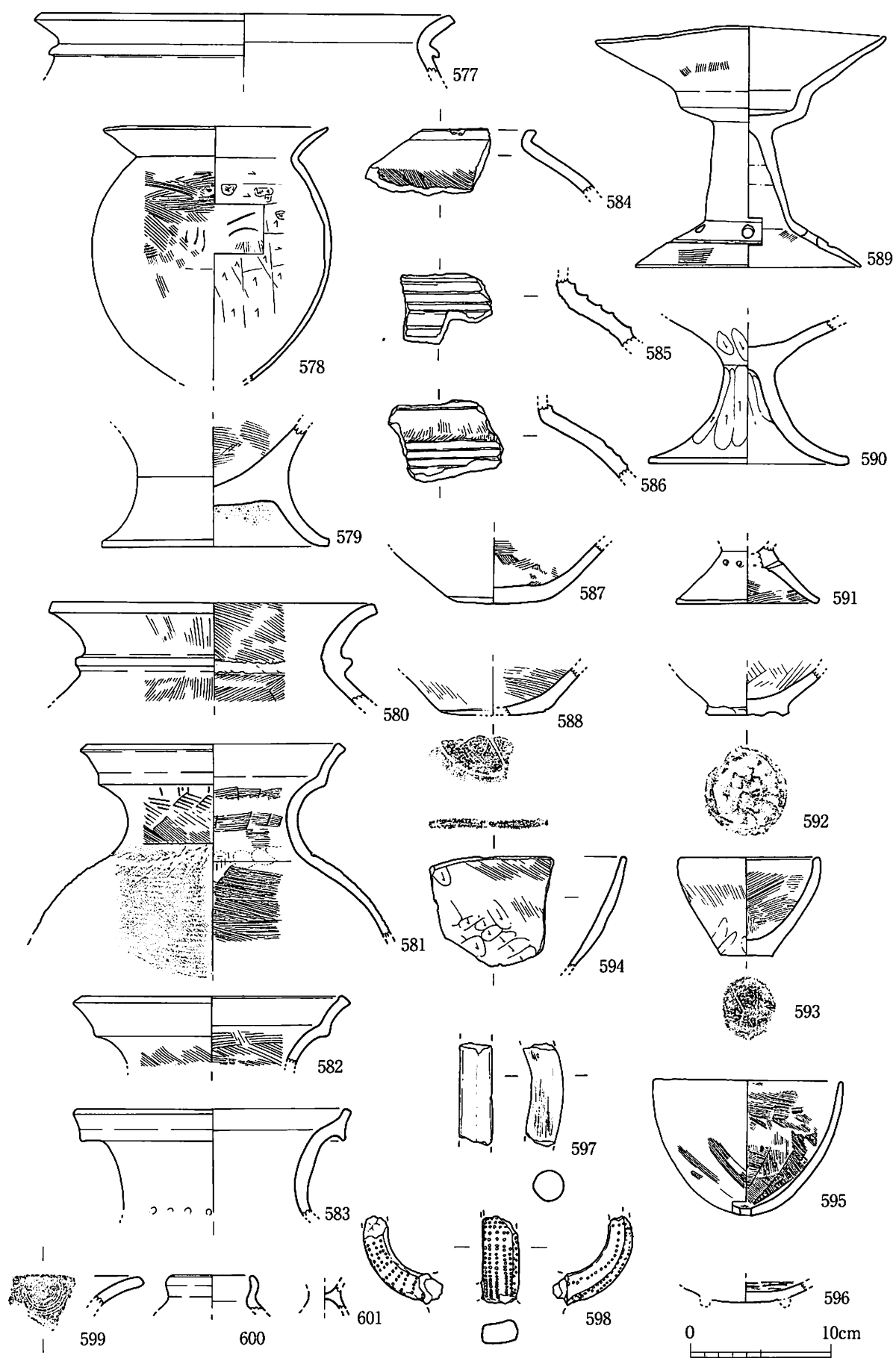
よる文様が描かれている。湾曲した櫛状に3本の直線を交叉させている。575は土錘である。576は土師器の皿である。

⑲ 調査区一括出土遺物（第68・69図）

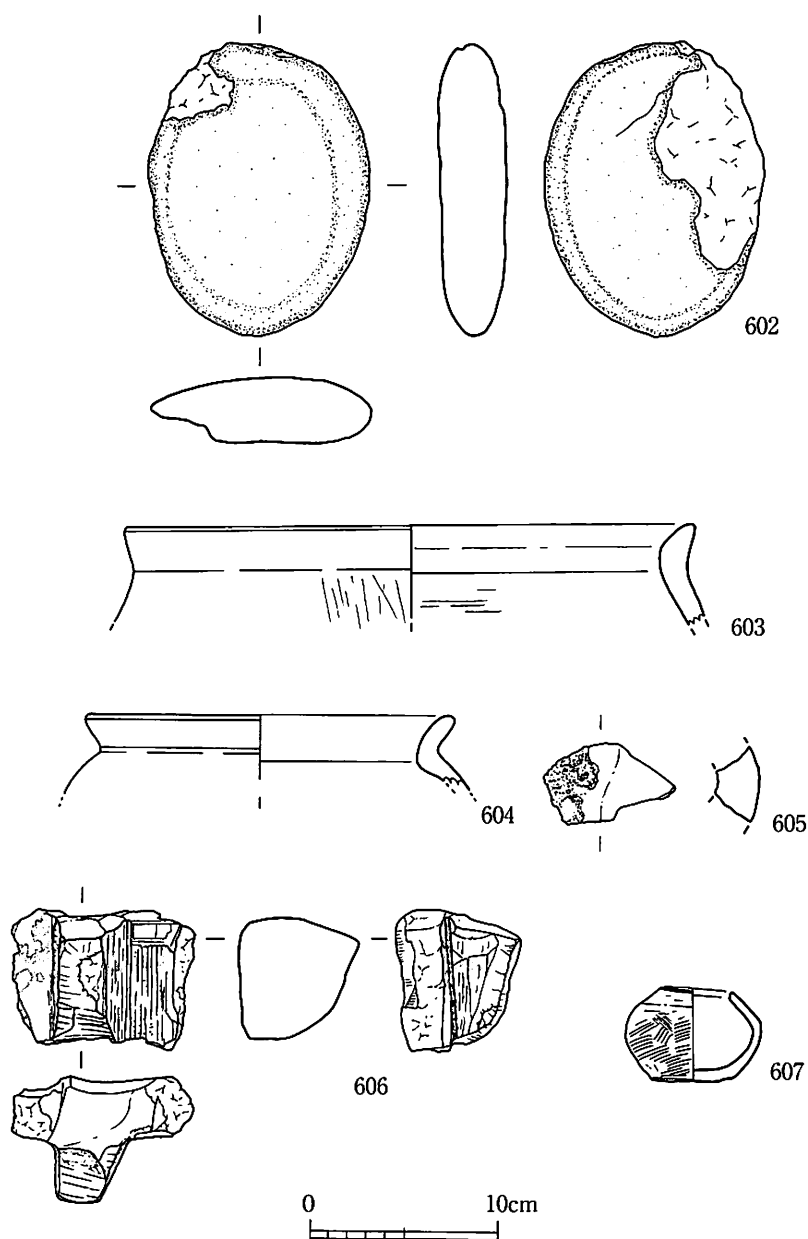
577は甕の口縁部片である。口縁部の直下には1本の凸帯を巡らせている。578は外来系の甕である。579は在地系甕の脚台である。580から588は壺である。580は壺口縁部の破片である。頸部に凸帯を巡らせている。581は小さな二重口縁壺で、頸部には刻目を配し、胴部には粗い叩き目を施している。582は破片である。583は壺口縁部である。頸部には刺突文を配している。584は土師質の短頸壺の破片である。585はE-7区出土の553と同一個体の可能性もある。586は頸部から少し間隔をもって凸帯が巡っている。587は壺の底部である。588も壺の底部であるが、底部にヘラ描きで丸に十文字状の施文がある。589は古式土師器の高杯である。口縁部が大きく、杯部が小さい。590も高杯である。口縁部を欠損している。591は脚台の破片である。592と593は鉢である。593は底部のみで僅かに高台風に底部を作っており、指痕が確認できる。593は小型の鉢である。594は鉢の破片で、片口である。595は小型の甌である。596は黒色土器である。口縁部と高台を欠いている。内面はヘラ研磨が見られる。597と598



第67図 遺構に伴わない遺物実測図⑨



第68図 遺構に伴わない遺物実測図⑩



第69図 遺構に伴わない遺物実測図⑪

は把手である。598は刺突文を3面に施している。ジョッキ形土器に装着するよう、基部に突起を作っている。

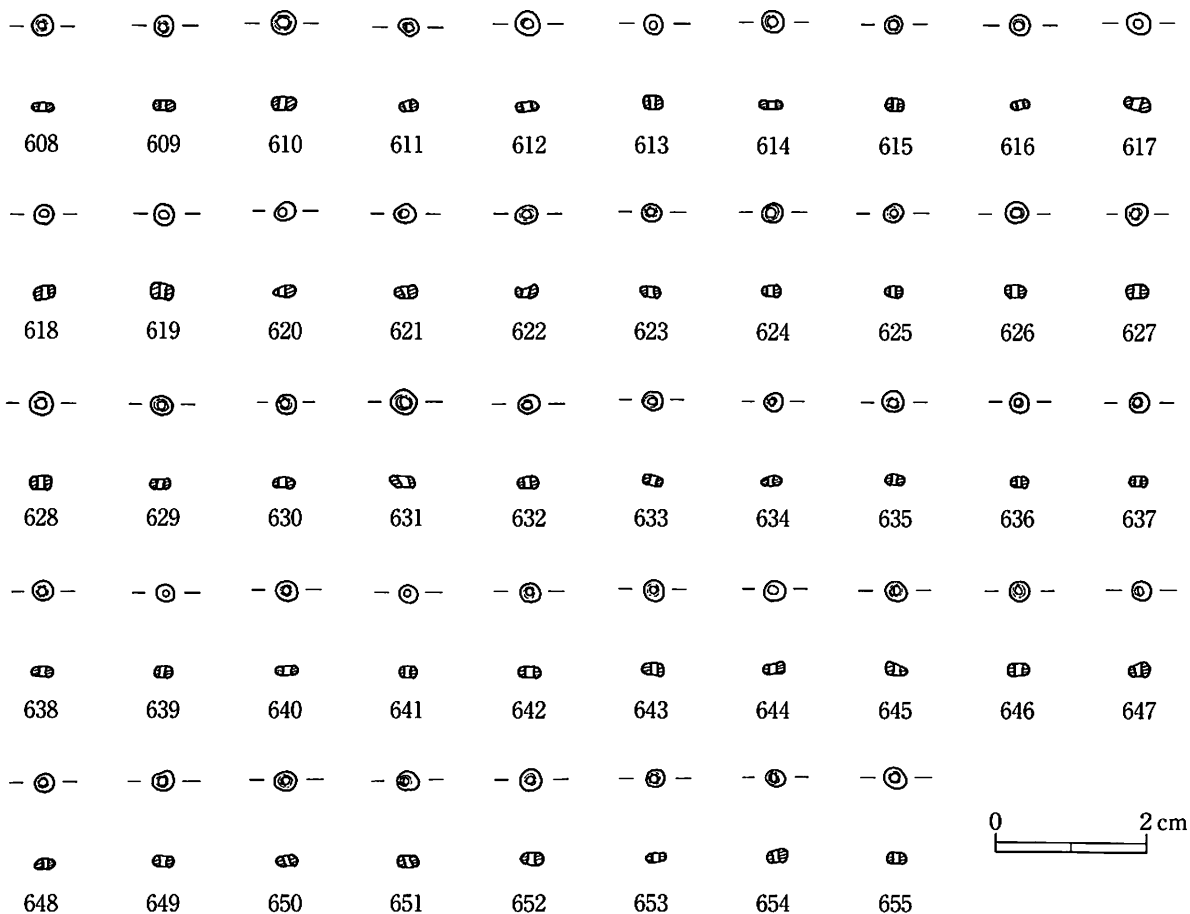
599は壺の口縁部片である。櫛描きによる半円模様があり、大溝出土の273に類似している。600は袋状口縁部のミニチュアである。601もミニチュアで脚部である。602は熱によって紅色に変色している礫である。603は縄文土器である。深鉢の口縁部片である。604は土師器の甕である。表面に赤色顔料を塗っている。605は轡の羽口片である。先端部は熱により溶変している。606は

滑石製石鍋の破片である。周囲を加工し転用されている。

607は小型の無頸壺である。この壺の近くからガラス製小玉がまとまって出土した。608から645はガラス製小玉である。

Ⅳ まとめ

今回の調査では、遺構が確認できたものとして、弥生時代の溝が1号溝、2号溝、4号溝の3本。古墳時代の溝として3号溝。中世の溝として大溝。



第70図 遺構に伴わない遺物実測図⑫

古墳の築造に関連して周溝を検出することができた。2号溝と4号溝はほぼ平行して弧を描いている。

住居跡は4号溝の内側に集中するかのような配置で検出されたが、調査体制の不備からしっかりとした遺構検出が出来なかったことが悔やまれる。従って、住居跡としたものの中には、壁や柱穴、炉跡などが確認されないまま、硬化面や遺物出土状況から判断して住居跡としたものも見られた。

このため、住居跡としてふさわしくないかもしれないが、そのまま住居跡として取り扱った。

遺物として特筆すべきものは、赤色顔料の生産に関する資料である。石杵としての機能性を有する石器は、1号住居跡出土の16、5号住居跡出土の48、4号溝出土の270、大溝出土の290、周溝出土の331の5点が確認された。臼もしくは容器としての機能性を持った土器は、1号住居跡出土の

14、4号溝出土の213、周溝出土の299、309がある。遺構に伴わない遺物も写真図版 PL40に掲載した。

赤色顔料は今後科学的な調査を行う必要もあるが、最低限、朱であるかベンガラであるかを見極めをする必要がある。

方保田東原遺跡では、米の生産や、菊池川水系における漁労や水運など、多くの要素が複雑に絡み合っており、人々の生活が成り立っていたことは事実である。加えて経済的な優位性を誇示できるものが、赤色顔料の生産であったろうと考えられる。

このため、権力の象徴とされる青銅器が方保田東原遺跡から集中して出土していることは、他の地域より優位な立場にあったことを物語っている。

方保田東原遺跡における青銅器の出土数は平成20年の段階で巴形銅器1点、鏡10点、銅鏃9点と県内最多である。

周辺の遺跡でも菊池市小野崎遺跡では、鏡10点、銅釦1点、銅矛片1点が出土しており、菊池市台遺跡からは鏡と貨泉が出土している。

これらの遺跡は、菊鹿平野を中心に一辺4 kmの三角形をなすように位置しており、この範囲での弥生時代終末期の青銅器出土数としては全国的にも密度の高い集中地帯であるとの指摘も見られる。xiii

その中でも、古墳時代前期まで継続して集落が営まれたのは方保田東原遺跡だけである。

このことから、方保田東原遺跡の価値を理解することが出来るのではなかろうか。

-
- i 「下井手・前田遺跡」熊本県文化財調査報告第70集 1984 熊本県教育委員会
 - ii 第1次調査で22号住居跡から出土した遺物に類似点が多い。「方保田東原遺跡」山鹿市立博物館調査報告書 第2集 1982 山鹿市教育委員会
 - iii 「方保田東原遺跡Ⅳ」山鹿市文化財調査報告書第14集 2001 山鹿市教育委員会
 - iv SD09出土遺物。「南大門遺跡」玉名市文化財調査報告書 第8集 平成12年 玉名市教育委員会
 - v 註iiiに同じ
 - vi 註iiiに同じ
 - vii 註iiiに同じ
 - viii 「方保田東原遺跡（9）」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - ix 「方保田東原遺跡（9）」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - x 『ヘラ記号をもった弥生式土器の存在について』「方保田東原遺跡」山鹿市立博物館調査報告書第2集 1982 山鹿市教育委員会
 - xi 「方保田東原遺跡（9）」山鹿市文化財調査報告書第6集 2008 山鹿市教育委員会
 - xii 「中皆本遺跡」山鹿市文化財調査報告書 第3集 2007 山鹿市教育委員会
 - xiii 南 健太郎「前漢鏡の破鏡とその拡散形態」『王権と武器と信仰』同成社 2008

あとがき

調査に関して調整段階では、建設業者が遺構に影響の無いような工法が取れたにもかかわらず、県文化課の指導では永久構造物であるとの理由から発掘調査をするよう行政指導があった。

平成2年当時、小さな自治体の職員という立場から「遺跡を壊さずに開発が進められれば地域や業者にとって、この上ないことである。」と考えていたが、あえて県からは発掘調査を指示された背景には、市町村に専門調査員の確保と共に、調査体制の強化を狙ったのであろうと理解した。

しかしながら、山鹿市では財政状況に鑑み職員の増員は考えられず、一般職員を動員しての調査となってしまった。結果的には国庫補助を得て近くを調査していたこともあり、掛け持ちで調査を強行することとなった。

このため、調査員のみならず博物館職員に業務の負担を強いる結果となった。

文化財保護の立場から遺跡を調査し、広く市民に還元することは当然の事として理解しているが、発掘調査自体が遺跡破壊であることの認識に立てば、遺跡を調査せずに、保存できる事も考える必要があろう。

山鹿市では昭和53年（1978）に博物館が建設されて以来、文化財行政もあわせて行ってきた、このため展示のための調査や、展示作業を毎年数回行っており、その傍らで発掘調査を実施してきた。平成4年度には文化課が創設されたが、学芸員と調査員が兼務となり、実質的には博物館で実施して来た経緯がある。

県下の博物館を有している自治体で、博物館が発掘調査を行っているところはなく、唯一我々のみであろう。このような事態を改善すべく検討を重ねたが、現状では本来の姿には近づけないのが実情である。

遺物觀察表

第1表 遺物観察表その1

番号	原図	枝番	地区	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	屈張	備考
001	1		E-3	105	壺	肩部-胴部	不明	不明	灰黄褐色 10YR5/2	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	タタキ後ナメハケ後ナメハケ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ-ヘラケズリ	有	
002	2	2	E-3	122	壺	口縁-胴部	(15)	不明	灰白色 10YR8/2	角閃石 石英	良好	ナデ-タテハケ後ナデ-ナデ-ナデ	ヨコナデ-指調整後ヨコナデ	有	
003	2	1	E-3	104	壺	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	タタキ・ナデ-ナデ?切り込み	ヘラケズリ?の×印の切り込み	無	・内器面は黒、押し潰されたような底面
004	4	2	E-3	108	鉢	完形	10.6	4.3~4.6	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ナメハケ後ナデ	有	・少々歪みである
005	3	3	E-3	112	台付鉢	破片	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 石英	良好	ヨコナデ	ナメハケ後ヨコナデ	有	・脚部に焼成前の孔が2ヶ所が3ヶ所残っている
006	4	1	E-3	405	台付鉢	口縁-底部	(13.4)	12.35	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ-ヨコナデ-ナメハケ後ナデ	ヨコナデ-ナデ	無	・鉢と脚の粘土の継目あり
007	3	1	E-3	107	高坏	口縁-底部	(24.4)	不明	明赤褐色 5YR5/8	赤褐色粒 石 石英	良好	ヨコナデ-ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヨコナデ-ナメハケ後ナデ後ヘラミガキ	有	
008	3	2	W-3	120	高坏	脚部	不明(底) 12.6	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角閃石 長石 石英	良好	タテハケ後ヨコナデ-タテハケ	ナデ-ヨコナデ	有	
009	5		W-3	122	台付鉢	脚部	(不明) (底) 13.8	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	角閃石 雲母	良好	タテハケ・ナデ	砂型・ナデ	無	・上部が時に被熱している、鉄線右用の極の転用の可能性あり
010	6	2		119	ジョッキ形 手づくね (壺)	底部	(不明) (底) 13	不明	灰白色 2.5YR8/1	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ハケ調整後ナデ-ナデ	ハケ調整後ナデ-ヨコナデ	無	
011	6	1	W-3	121	勾玉	完形	長さ2×0.8 長さ3.1	7.3	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
012	7	1	W-3		ガラス玉	完形	縦4mm横4mm	不明	浅黄褐色 5YR6/8	-	良	指調整	-	無	・上部欠損
013	8	2			内器生付着 土器片	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ナメハケ	ヘラケズリ	無	
014	6	3			把手	破片	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
015	8	1		S-17	ペンガラ付 石	完形	長さ14.6 H15.9	不明	灰黄色 2.5Y7/2	-	-	-	-	-	・安山岩 ・変成岩?片面のみを砥石として利用
016	9			S-28	砥石	破片	長さ12.5 H17.2	不明	浅黄褐色 2.5Y7/3	-	-	-	-	-	
017	10			S-16	磨製石斧	破片	長さ10.4 H15.8	不明	黒色 2.5Y2/1	-	-	-	-	-	
018	11	1		211	壺	口縁-胴部	(16)	不明	浅黄褐色 2.5YR8/3	長石 石英	良好	ナデ・ナメハケ後タテハケ・ナメハケ・タタキ後タテハケ	ナデ・ヨコハケ後ハケ調整	有	
019	11	2		214	壺	底部	(不明) (底) 8.6	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石 長石 石英 雲母	良	降滅している為不明瞭 ナデ・タテハケ?	ハケ調整	有	
020	12	1		91	壺	底部	(不明) (底) 5.8	不明	にぶい黄褐色 7.5YR7/3	角閃石 長石 石英	良好	ナデ	ヘラケズリ	無	
021	12	2		208	壺	底部	不明(底) 9.4	不明	浅黄褐色 2.5YR8/3	角閃石 長石 石英	良好	タタキ-ナデ	ナデ	無	
022	12	4		93	鉢	口縁-胴部	(18)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角閃石 石英 雲母	良好	ナデ-ヘラケズリ後ナデ	ナデ	有	
023	12	3		205	高坏	坏部-脚部	(不明)	不明	灰白色 2.5Y8/1	角閃石	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ・ナデ	無	・キメ細かい丁寧な作り
024	14	2			コップ形?	胴部-底部	(底) (7.6)	不明	褐色 10YR6/1	角閃石長石石英	良好	ナデ-ヨコナデ	ナデ	有	
025	14	1			コップ形	口縁-底部	(12)	推定7.6	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	やや良好	ナメハケ	ナメハケ	無	・口縁2cm 胴7cm 残 (胴部より頭を削り実用)
026	13			S-15	砥石 (磨器用)	完形	長さ9.6 H13.7	不明	灰色 5Y4/1	-	-	-	-	-	・上部に2ヶ穴が開いている、紐などを通して下げた痕か?
027	17	2	W-3	134	壺	口縁-胴部	16.7	不明	浅黄褐色 7.5YR8/3	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナメハケ後ヨコナデ-タタキ後タテハケ	ヨコハケ-太ナメハケ後細タテハケ-細タテハケ	有	・タタキよく残る
028	15	2	W-3	134	壺	口縁-胴部	(18.2)	不明	黒褐色 10YR3/1	赤褐色粒 石英 雲母	良好	ヨコナデ-指調整後ヨコナデ-タタキ後タテハケ	指調整後ヨコナデ・ナメハケ-ナメハケ後ヨコナデ-ランダムにタテハケ	有	
029	16		W-3	132	壺	脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 2.5YR6/3	赤褐色粒 角閃石 石 雲母	良好	ナメハケ-ヨコナデ・ナメハケ後ヨコナデ-ヨコナデ	ナデ-砂型・ヨコナデ	有	・被熱している
030	15	1	W-3	135	壺	口縁-胴部	(20.4)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-ヨコナデ-タタキ後細ヨコナメハケ	ヨコナデ-ランダムなナメハケ	有	・煮こぼれ跡あり

第2表 遺物観察表その2

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
032	17	1	W-3	3住	131	壺	頸部-底部	(不明)	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 石英 雲母	良好	ヘラミガキ-ナナメハケ後ヘラミガキ-ヘラミガキ	ヨコナデ-ランダムなナナメハケ	有	・胎土は砂ばくザラつき感あり・4点の窪から割りだし復原
033	18		W-3	3住	141	壺	底部	不明	不明	黒色 N2/	角四石 長石 石英	良好	ナデ-ハケメ	ハケメ	有	・非常に分厚い
034	19			4住		ジョキ形	胴部-底部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ヘラ調整後ナデ-ヘラ調整後ヨコナデ	ヨコナデ	無	・緻密な粘土
035	25			5住		甕	口縁-胴部	(18.6)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-ナナメハケ後ナデ	ヨコナデ-ナデ-指頭直痕あり	有	・胴部に砂き寄せ跡あり・タタキ痕が分らない位タテハケで消している
036	24	1		5住		甕	口縁-胴部	(15.8)	不明	黒褐色 10YR8/2	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-タタキ後タタキ	ヨコナデ	有	・No. 21-2と同一胴体の可能性あり
037	20	2	E-4	5住	203	甕	頸部-胴部	(不明)	不明	黒褐色 7.5YR3/1	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タタキ・タテハケ-ヘラ調整	ヨコナデ後ナナメハケ-ナナメハケ	有	・No. 20-2と同一胴体の可能性あり
038	21	2	E-4	5住	203	甕	底部	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR6/6	赤褐色粒 長石	良好	ナナメハケ-ナナデ	ハケ後タテハケ?	有	・No. 20-1と同一胴体の可能性高い
039	20	1	E-4	5住	202 90 199	甕	口縁-胴部	(16.7)	不明	黒褐色 7.5YR3/1	赤褐色粒 長石 雲母	良	ヨコナデ-細タテハケ-タタキ-ナデ	ナナメハケ後逆方向ナナメハケ-ランダムなナナメハケ-不明痕	有	・No. 21-1と同一胴体の可能性高い
040	21	1	E-4	5住	198	甕	底部	不明	不明	灰黄褐色 10YR6/2	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	・被熱している ・No. 20-1と同一胴体の可能性高い
041	24	2		5住		甕	口縁-胴部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ-タタキ後タテハケ-タテハケ	ヨコナデ-指押さえ後ナデ-ナナメハケ	有	・全体に剥離
042	22	1	E-3	5住	90	壺	口縁-胴部	(20.8)	不明	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ後刻目文-ナナメハケ後ナデ-ヨコナデ-ナナメハケ	ナナメハケ後ナナメハケ	有	・タタキ痕が分らない位タテハケで消している
043	22	2	E-4	5住	200	壺	底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナナメハケ後ナデ	ナナメハケ後ナデ	有	・全体に剥離
044	23		E-4	5住	203	高坏	底部-柱部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 長石 雲母	良好	タテハケ後ヨコナデ	ナデ-指調整	有	・底部分に剥離
045	28	2		5住		器台	完形	10.1	13	褐色 2.5YR6/6	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテナデ-ヨコナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ヨコナデ-ヨコナデ	無	・底部分に剥離
046	28	1		5住		ジョキ形	胴-底部	不明	不明	褐色 7.5YR6/6	長石 石英 雲母	良好	ナデ-一部ハケメあり-ヨコナデ	タテナデ-細ナナメハケ-指押さえ把手は両面長タテハケ	有	・底部分に剥離
047	27	4		5住		ジョキ形	胴-底部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	ハケ調整後ナデ	無	・全体に剥離
048	29			5住		石片 (ベンガラ付着)	破片	縦15.3 横7.2	厚さ4.4	灰黄色 2.5YR6/2	-	-	-	-	-	・全体の半分ベンガラははみ出る隙間は 削いだ跡のようにタタキした面残る 中央部の窪みは指が当たった面か?
049	28	3		5住		石包丁	破片	長さ4.25	厚さ6mm	灰色 N/6	-	-	-	-	-	・重さ25.8g
050	30			5住		刀子 (銅製品)	破片	長さ11.8 幅1.45		-	-	-	-	-	-	・茎子の所に木片が残っている
051	27	3		5住		碗	完形	15.8	6.6-6.25	にぶい黄褐色 10YR7/3	石英	良好	ヨコナデ後ヘラミガキ-ヨコナデ後ヘラミガキ-上見調整	ヨコナデ後ヘラミガキ	有	・内器皿もみ痕あり・緻密な粘土
052	27	2		5住		鉢 (土師器)	完形	13.4	5.8-6.5	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	・緻密な粘土
053	26		E-2 東園土器部	5住		台付鉢 (黒色土器)	完形	15.4	7.1	黒色 N2/	緻密な粘土	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ-ヘラミガキ	ヘラミガキ-ヨコナデ	無	・E-2東園土器部出土が3片であるが、口縁部の1片が5住から出土
054	27	1		5住		碗	胴部-底部	(不明)	不明	灰黄色 2.5YR7/2	緻密な粘土	良好	ヨコナデ-腕押正線文3ヶ所	ヨコナデ	無	・紋州漆系青磁(分類1-2b?)・目跡(7ヶ)あり
055	28	4		5住		連杯	ほぼ完形	縦1.9 横3.4	高さ4.25	灰色 N5/	-	-	-	-	-	・指裂 ・重さ10.2g
056	31		E-4	6住	235	壺	口縁-胴部	(11)	不明 (推定) 11.6	浅黄褐色 7.5YR6/6	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ヨコナデ後ヘラミガキ-樽底の為不明痕-ナナメハケ後ヘラミガキ-ナナメハケ後ナデ	ヨコナデ後ヘラミガキ-ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	有	・粘土の継目がはきり残る
057	32	1	E-4	6住	230	鉢	口縁-胴部	(13.4)	不明 (推定) 10.1	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	やや良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	ヨコナデ後ヘラミガキ-ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	有	・2杯になった孔が1ヶ所残る、全体数不明
058	33	2	E-4	6住	230	石付鉢	口縁-胴部	(8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 石英	良	タテハケ-剥離している為不明痕	ヨコナデ-ナデ	有	・内器皿底部が削ぎ上げられているように見える
059	33	1	E-4	6住	221	台付鉢	底部-脚部	(不明) (底) 15.5	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ハケメ-ヨコナデ	ハケメ-ヨコナデ	無	・2杯になった孔が1ヶ所残る、全体数不明
060	34	1	E-4	6住	216	高坏	底部-脚部	不明 (底) 18.5	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ-ナデ	ヘラミガキ?-指調整・ヨコハケ・ヨコナデ	有	・孔は2対1組で3ヶ所あると推測
061	34	2	E-4	6住	220	高坏	底部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコハケ-タテハケ	剥離-脚孔より上は指調整下はハケメ?	無	・ザラばい胎土
062	35		E-4	6住	219	コップ形 (ワイングラス)	ほぼ完形	6.5	10.12-9.9	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ-ヨコナデ後2ヶ所に孔	ヨコナデ-ヘラミガキ-ヨコナデ	有	・焼成前の孔相対する位置に3ヶ ヶである・緻密な粘土

第3表 遺物観察表その3

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺構番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
063	32	2	E-4	6住	234	台付鉢	口縁-脚部	(9.2)	不明	褐色 2.5YR6/8	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	ナナメハケ後ヘラミガキ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・赤色顔料 (ベンガラ)
064	34	3	E-4	6住	232	器台	胴部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	タテハケ	ヨコハケ-ヨコナデ・指調整-ヨ コハケ	有	・器壁が厚い
065	36			8住		台付鉢	脚部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	長石	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ-ナデ	無	
066	38	2	W-3	9住	125	甕	脚部	(不明) (底) 11.6	不明	灰黄褐色 10YR6/2	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	ヨコナデ	砂削-ヨコナデ	有	
067	38	1	W-3	9住	124	甕	脚部	(不明)	不明	7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長 石英	やや 良好	タテハケ	ヘラケズリ? -ヨコナデ	無	
068	37		W-3	9住	129	壺	ほぼ完形	(19.2)	33.6	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-タテハケ -ヨコナデ後内形の削突文-タテ ハケ後ナメ	ナナメハケ後ヨコナデ-ナナメハ ケ-ナデ	有	・焼成後の穴あり
069	38	3	W-3	9住	146	高坏	底部-柱部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	不明	ナデ-ヨコナデ	有	・十字の位置に4ヶの焼成前の孔あ り
070	38	4	W-3	9住		把手	破片	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	タテハケ後全面に2mm 前後の円 の削突文がある横8列・9列がある	タテナデ	有	・ジョッキの把手と思われる
071	38	5	W-3	9住	21	砥石	破片	不明	不明	褐色 7.5YR4/1	-	-	削と割れている・黒っぽくツルツ ルしている	-	-	・重さ67.2g
072	40	2	W-3	11住		甕	口縁-肩部	(26)	不明	灰白色 10YR8/2	角四石 長石	良好	ヨコナデ後斜目文-タテハケ-ヨ コナデ・突部に斜目-ナデ-タテ ハケ	ヨコハケ	無	・内面は2-5mmの円形刺調整あり
073	39			11住	145	甕	口縁-脚部	17.7	不明	黒褐色 5YR2/1	赤褐色粒 角四石 長 石英	良	ヨコナデ-タテハケ後タテハケ-タ タキ後タテハケ	ヨコハケ-ナナメハケ後逆方向に ナナメハケ	有	・全体が茶褐色で使用痕跡が深かつ たのでは・刺調整も激しい
074	40	1		11住		甕	口縁-肩部	(22.2)	不明	灰白色 10YR8/2	長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後タテハケ-タ タキ後タテハケ	ヨコナデ・ヨコハケ-ナデ	有	・頸部に竹管文
075	42			11住		ミニチュア (石付鉢)	底部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	長石	良	指ナデ	指ナデ	無	
076	41	1		11住	146	土埴	完形	縦2.5 横2.3	不明	浅黄褐色 10YR8/4	雲母	良好	指調整	指調整	有	・重さ12g
077	41	2		11住		土玉	完形	縦2.4 横2.4	不明	にぶい黄褐色 10YR5/3	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	指調整	指調整	無	・重さ9.8g
078	41	3		11住		異形土器	破片	不明	不明	褐色 5YR6/6	角四石 長石 石英	良好	ハケメ・ナデハケ後ヘラミガキ	ナデ	無	・87-1番地の22住から出土した物 と似ている
079	43	1	W-3	11住		ガラス玉	完形	縦4 横5	明さ3.5 欠1.3	透青色	-	-	-	-	-	・少し歪である
080	45	3		12住		不明土器	口縁部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ後斜目・ヨコハケ	ナデ刺調整している	無	
081	43	2	W-6	12住	427	高坏	杯底-柱部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	タテハケ後ナデ	タテハケ後ナデ	無	
082	45	1		12住		ミニチュア (高坏)	頸部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石	良好	ヘラミガキ・斜目	ナデ・ヘラケズリ	無	・緻密な粘土
083	44	1	W-6	12住	65	ジョギ形	脚部-底部	(不明) (底) 12	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	無	
084	44	2	W-6	12住	472	把手	把手部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ・斜目ナメハケ刺突文 (H) が2列並ぶ	-	無	
085	45	2		12住		縄文土器	破片	不明	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	ナナメハケ後斜目	ヘラミガキ?	無	
086	44	4	W-6W- 6.7	12住		蓋 (須恵 器)	口縁-つま み部	(14.6)	2.1	灰色 7.5YR6/1	角四石 長石 石英	良好	雑なヨコナデ	ヨコナデ	無	・少し歪である
087	44	5	W-6	12住		蓋 (須恵 器)	口縁	(11.6)	1.6	灰色 7.5YR6/1	長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	
088	44	3	W-6	12住	471	碗 (須恵 器)	口縁-底部	(12.6)	3.75	灰色 N5/	長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	
089	47		W-1-2	1号溝	335	高坏	柱部-脚部	不明 (底) 17.6	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ヘラミガキ-ナナメハケ後ナデ- ヨコナデ	ヘラケズリ-ナナメハケ-ヨコナ デ	有	・焼成前の孔2ヶ残.4ヶあったと思 われる
090	46		E-1	1号溝	236	鉢	完形	17.8	7.5	灰白色 10YR8/1	長石 石英	良好	タテハケ-ヘラケズリ	ナデ-一部1長の痕	無	
091	259	5		1号溝		ミニチュア (鉢)	口縁-肩部	(7.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	
092	259	2		1号溝		ミニチュア (鉢)	口縁-底部	(4.8)	2.7	褐色 10YR5/1	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	指調整・ナデ	ナデ	無	
093	61		E-1	2号溝		脚付甕	口縁-底部	19.6	不明	褐色 7.5YR4/2	赤褐色粒 角四石 長 石英	良好	ナデ-タテハケ後ナデ-タテハケ- ヨコハケ後タテハケ-ナデ	ナデ-タテハケ・ナナメハケ	有	

第4表 遺物観察表その4

番号	原図No.	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・泥入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
094	62	1	W-1	2号溝		甕	口縁-胴部	(21.6)	不明	赤褐色 10YR6/6	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ナデ-タテハケ後ヨコナデ- タテハケ後タテハケ-ナデ	ナデ-ナナメハケ	無	有
095	48	1	W-1-2	2号溝	350	甕	口縁-胴部	(17.6)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコハケ後ヨコナデ-ナナメハケ	無	有
096	60		W-1.2	2号溝		甕	口縁-胴部	(14)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	長石 石英	良	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ-タテハケ・ナナメハケ	無	有 ・披熟して剥離している
097	49	1	W-1-2	2号溝	351	甕	口縁-胴部	(20.5)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 石 雲母	やや 良好	ナナメハケ後ヨコナデ-タテハケ タテハケ剥離が激しい	ナナメハケ後ヨコナデ-タテ・ナ ナメハケ	無	有 ・全体に摩滅している
098	48	3	W-1-2	2号溝	353	甕	底部-脚部	不明 (底) 13	不明	にぶい褐色 10YR6/2	赤褐色粒 角四石 石 石英 雲母	良好	ナナメハケ-ナナメハケ	ナデ-ナナメハケ	有	無 ・明器面に致分(手鑑)付着No. 59に欠損
099	48	2	W-1-2	2号溝	349	甕	底部-脚部	不明 (底) 12.4	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ後ヨコナデ-ハケ調整 後ヨコナデ	有	有
100	50		W-1-2	2号溝	351	甕	ほぼ完形	18.9	49.8	褐色 5YR6/8	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	ヨコハケ後斜縁子ぎこナナメハケ 後ヨコナデ・表前に割目-タタキ ナナメハケ-ナナメハケ	ヨコハケ-タテハケ-摩滅	有	無
101	63	1	E-1. W -1	2号溝		甕	口縁-胴部	19.6	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-タタキ後 ナデ-ナナデ	ヨコナデ・ナナメハケ-ナナメハ ケ	有	無 ・ベンガラらしきものの付着
102	52	1	W-1-2	2号溝	352	甕	口縁-胴部	(19.6)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-タテハケ	ヨコハケ後ヨコナデ-ナナメハケ	有	無
103	49	2	W-1-2	2号溝	351	甕	口縁-胴部	(17)	不明	浅黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 石 雲母	やや 良好	ヨコナデ-ナナメハケ-タタキ? 脚突文	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ-ナ ナメハケ	無	有
104	54	1	E-1	2号溝	20	甕	口縁部	(19)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 雲母	良好	ナデ-タテハケ・割目	ナデ-タテハケ・ナナメハケ	無	無
105	52	2	W-1-2	2号溝	347	甕	胴部-底部	(不明) (底) 6	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	タテハケ後ナデ-ハケ後ナデ	ナナメハケ後ナデ	有	無 ・黒斑縦方向の帯状に付着
106	51		W-1-2	2号溝	351	甕	口縁-底部	(16.2)	34.1	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-ナ ナメハケ後ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコハケ後ヨコナデ-ヨコハケ- ヘラケズリ-ナナメハケ	有	有
107	53	2	W-1-2	2号溝	351	甕	頸部-胴部	(12.6)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコハケ- 割目-タタキ後逆方向からタタキ	ヨコハケ-ナナメハケ	有	無
108	53	1	E-1	2号溝	249	甕	ほぼ完形	12	12.5	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ -ナナメハケ-ナデ	ヨコハケ-ナナデ	有	有
109	69	2	E-1. 一 括	2号溝		甕	肩部	不明	不明	褐色 7.5YR7/6	長石 石英 雲母	良好	御描文(平行文・波状文)	ナデ・ハケ調整	有	無
110	69	1	E-1.	2号溝		ミニチュア (器)	口縁-底部	(7.2)	7.8	にぶい黄褐色 10YR7/2	長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	無
111	56	1	E-1. W -1	2号溝	128.19	高坏	坏部	30.7-31.2	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデその 上からヘラミガキ	有	無 ・全体に摩滅している
112	56	2	W-1-2	2号溝	348	高坏	坏部	24.6	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	ヨコナデ-ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ-ヨコナデ後ヘラミガキ	有	無 ・内器面中心に剥離している
113	57		E-1	2号溝	250	高坏	底部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	ハケ後ヘラケズリ-ヘラミガキ	ハケ後ヘラミガキ-ヘラケズリ	無	無 ・球がきれいに残っている
114	62	2	E-1	2号溝		鉢	口縁-胴部	(9.6)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ・ヨコハケ-ヨコハケ	有	無
115	64		E-1. W -1	2号溝		鉢	口縁-胴部	(15.2)	8.7	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 角四石 石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ-ナデ	ヨコナデ-ナデ	無	無
116	38	2		2号溝	351	鉢	口縁-胴部	(17.6)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 石 石英 雲母	良好	ナナメハケ後ヨコナデ-ナナメハ ケ後ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	無 ・ナメハケ後ナデ
117	55	1	E-1	2号溝	128	鉢	口縁-胴部	(14)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タタキ	ヨコナデ	無	無
118	38	1	W-1-2	2号溝	351	碗	口縁-底部	(11.8)	8.3	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 石 石英	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	有	無
119	65			2号溝		脚台付鉢	胴部-脚部	(14.2)	10	灰白色 10YR8/4	角四石 長石 雲母	良好	摩滅している為不明 タテハケ後ナデ?	ヨコナデ・ナデ-ナデ	無	無 ・形が重である
120	55	2	E-1	2号溝	128	右付鉢	脚部	不明 (底) 14	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	無
121	58	3		2号溝	351	台付鉢	胴部-脚部	(不明) (底) 18	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナデ-ヨコナデ	無	無 ・全体に点状の磨滅あり-北が1ヵ所 に3ヶあるが途中で終わっている
122	68	2	E-1	2号溝		台付鉢	口縁部	(14.6)	不明	灰色 5Y6/1	長石 石英 雲母	良好	ナデ後へつミガキ	ナデ	無	無 ・口縁部外器面はヘラミガキが丁氷 に施してある
123	66		E-1	2号溝		器台	ほぼ完形	上:12.7 下:13.7	15.9~16.2	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 石 雲母	良好	ヨコナデ後割目-ナナメハケ後ヨ コナデ-ナナメハケ-ナナメハケ 後ヨコナデ	ナナメハケ後ヨコナデ-ナデ	無	無
124	68	1	E-1	2号溝		ジョッキ形	口縁-胴部	(6.8)	8.2	褐色 5YR7/6	長石	良	ナデ	ナデ・シボリ	無	無

第5表 遺物観察表その5

番号	原図	枚番	地区	遺物名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
125	67	2	E-1	2号溝		壺棺	口縁部	(30)	不明	赤色 10YR5/8	長石	良好	ナデ	ナデ	無	・ペンガラが焼けている ・頸部に三角突起を施してある
126	67	1	E-1	2号溝		壺棺	口縁部	(32)	不明	赤色 10YR5/8	長石	良好	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	無	・口縁部に暗文あり、ペンガラを丁寧に焼けている
127	71		E-1	2号溝		砥石	砥片	長さ10.7 幅6		灰赤色 2.5YR5/2	-	-	-	-	-	・重さ342g
128	59		W-1-2	2号溝		鉢 (鉄)	砥片	縦3.8 横3.2		-	-	良好	ヨコナデ後割口・ナナメハケ後ヨコナデ・ナナメハケ・ナナメハケ	ナナメハケ後ヨコナデ・ナデ	無	・重さ7.2g・No.48-30の裏面に付いていた、向かって巻いた跡の筋痕あり
129	70		E-1	2号溝		打製石斧	砥片	縦8.8 横9.8	厚さ0.2	緑灰色 5G6/1	-	-	-	-	-	・重さ172g
130	73	2	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	頸部-脚部	不明 (底) 12	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	摩滅している為不明	ヨコハケ-砂型・ナデ	無	
131	73	1	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	底部	不明 (底) 13.1	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ-砂型・ナデ	有	
132	73	3	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	頸部-脚部	不明 (底) 9.9	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ハケメ-砂型・ナデ	有	
133	75	3	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	頸部-脚部	不明 (底) 12.2	不明	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ハケメ-ナデ	無	
134	72	1	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	ほぼ完形	14.2	20.2	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ-タテハケ-タタキ-ヘ ラ調整後ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ-ナデ-ナデ-ナナメハケ	有	・口縁部は向ぼって特徴的
135	77	1	E-1	2号溝 埋没後	128	甕	脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ後ナデ	コナデ・ナデ	有	
136	77	3	E-1	2号溝 埋没後	128	ジョキ形	口縁-脚部	(14.8)	不明	灰白色 10YR7/1	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	
137	74	1	E-1	2号溝 埋没後	128	鉢	完形	12	9.2	褐色 5YR6/8	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ-ナ デ・脚目のナナメハケ脱げる後ナ デ-ナデ	ナデ-細ナメハケ	有	
138	76	1		2号溝 埋没後	128	鉢	口縁-底部	(10.5)	7.6	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	
139	74	2	E-1	2号溝 埋没後	128	鉢	完形	19.5	8.1	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ・全体的に摩滅	有	・オレンジ色の色素あり
140	76	3	E-1	2号溝 埋没後	128	コップ形	ほぼ完形	7.8	12.3	灰黄色 2.5YR6/2	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ後ヘラミガキ-ナ デ	ヨコナデ-ナデ後ヘラミガキ-ヨ コナデ	有	
141	75	4	E-1	2号溝 埋没後	128	コップ形	頸部-脚部	(不明) (底) 10.6	不明	褐色 2.5YR6/6	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ナデ・全体的に摩滅	ナデ	有	
142	75	2	E-1	2号溝 埋没後	128	器台	口縁-脚部	(8.7)	不明	灰黄色 2.5YR7/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ-ヘラミガキ・ナデ	ハケメ-ナデ	無	
143	75	1	E-1	2号溝 埋没後	128	器台	底部-脚部	(不明) (底) 12.5	不明	浅黄褐色 7.5YR6/6	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ-ナデ	指調整	無	
144	77	2	E-1	2号溝 埋没後	128	台付鉢	口縁-脚部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ-液状文-ナデ-刻目	ナデ-ナナメハケ・ナデ	有	
145	76	2	E-1	2号溝 埋没後	128	ミニチュア	ほぼ完形	6.6	5.4	浅黄褐色 10YR8/3	角閃石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ後ヨコナデ-ヨコナデ後 ヘラミガキ	ハケ調整後ヨコナデ	有	
146	78		W-1-2	3号溝	339	甕	ほぼ完形	(17)	20.7	暗赤灰色 7.5YR4/1	長石 石英	良好	ナデ-タテハケ後液状文-タテハ ケ	ナデ-ヘラミガキ-指圧痕	有	・外器面全体に擦け、内器面底部 にも付着
147	79		W-1-2	3号溝	341	甕	肩部-底部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコハケ-タテハケ-ヨコハケ	ナデ-ヨコヘラミガキ-ナデ ナデ	有	・器壁が薄い、内外にも煤付着
148	80		W-1-2	3号溝	20	甕	底部-脚部	(不明) (底) 9.6	不明	灰黄褐色 10YR6/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ	ナデ-砂型・ナデ	有	
149	81		W-1-2	3号溝	341	甕	口縁-脚部	15.4	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ- タテハケ	ヨコナデ-ヨコハケ-ヨコナデ- 指圧痕-ヘラミガキ	有	・内外口縁-脚部にかけて赤色顔料 塗布
150	82		E-1	3号溝	240	甕	脚部-底部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナナメハケ後ナデ摩滅している	ハケ調整後ナデ	有	
151	83	1	E-1	3号溝	245	甕	底部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヘラミガキ	ナデ後ナナメハケ-ヘラミガキ	無	
152	85	2	E-1	3号溝	241	鉢	口縁-底部	(16.9)	9.6	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナナメハケ-ナナメハケ後ナデ	ナナメハケ-ナデ	有	
153	85	1	W-1-2 W-1	3号溝	345 23	鉢	ほぼ完形	16	5.1	灰褐色 5YR4/2	角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ヘラミガキ後ナデ	ナデ後ヘラミガキ	有	
154	83	2	E-1	3号溝	238	小瓶蓋	口縁-脚部	(13.5)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ナデ	無	
155	89	1	E-1	3号溝	238	台付鉢	口縁-底部	14.3	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ナデ-ヨコ ナデ	ナナメハケ-ヘラミガキ	無	

第6表 遺物観察表その6

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
156	86	2	W-1-2	3号溝	340	鉢	底部・脚部	不明(底) 20.4	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	有	・孔2处で3ヶ所あり
157	85	3	W-1	3号溝	28	台付鉢 (土師器)	底部・脚部	不明 (不明) (底) 9.6	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-ヨコハケ-ナナメハケ後ヨコナデ	ナデ-ヨコナデ	無	
158	86	1	E-1	3号溝	247	鉢	脚部	不明 (底) 11.7	不明	褐色 2.5YR6/6	角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ		無	
159	87	2	W-1-2	3号溝	343	器台	脚部	不明	不明	褐色 7.5YR7/6	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ	ヘラケズリ後ヨコナデ	無	
160	88		W-1-2	3号溝	342	器台	完形	8.3	8	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヘラミガキ-ヘラミガキ後タテハケ	ヘラミガキ-ヘラミガキ後ヨコハケ	有	・孔3ヶ所あり
161	87	1	E-1	3号溝	229	香炉器台	口縁・脚部	7.5	8.8	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タタキ	ヘラケズリ-ヨコナデ	無	
162	84		E-8	3号溝	244	鉢	口縁・脚部	(25)	不明	褐色 7.5YR6/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
163	89	2	E-2-2	3号溝	293	手づくね (鉢)	口縁・底部	(8)	4.9	にぶい褐色 7.5YR7/3	長石 石英 雲母	良好	ナデ-タテハケ-ナデ	ナデ-ナナメハケ-ナデ	有	
164	89	4	W-1-2	3号溝	338	把手	破片		厚さ 1.35×1.35	にぶい黄褐色 10YR7/3	石英	良好	ナデ		有	
165	89	3	E-1	3号溝	248	スプーン柄	破片		厚さ 1.8×1.9	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石	良好	ヘラミガキ		無	・固く焼き締まっている
166	85	4	W-1	3号溝	30	ミニチュア	口縁・脚部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
167	98	1	E-2-2	4号溝	287	脚台付臺	口縁・脚部	(16.2)	31.7	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ-ナデ-タテハケ	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	有	・土質が硬く焼成もよい
168	103		E-2E-2	4号溝	264 257 254	脚台付臺	ほぼ完形	19.2	32	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ-ナデ-タテハケ	ナデ-タテハケ-ナデ・ヨコハケ	有	・口縁歪
169	93		W-2-2	4号溝	305	甕	ほぼ完形	16.7	35.4	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	有	・内器面煤付着
170	104		E-2E-2	4号溝	265 261	脚台付臺	口縁・底部	18.6	不明	褐色 2.5YR7/8	長石 石英	良好	ナデ	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	有	
171	91		W-2-2	4号溝	264 257 263	甕	口縁・脚部	19.4	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ-タテハケ-ナデ-タテハケ	ヨコハケ後ヨコナデ	無	・脚部に孔あり、上半部熱している
172	92		W-2-2	4号溝	458	甕	口縁・脚部	(18.2)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコナデ-ナナメハケ	有	・脚部により脚部より脚部にかけて 剥離により剥離がもたらしている、内器面 全体に黒い
173	99	2	W-2-2	4号溝	304 305	甕	口縁・脚部	(19.4)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコハケ-ナナメハケ	ヨコハケ-ナナメハケ	有	・ハケメ粗い
174	99	3	E-2-2	4号溝	278	甕	口縁・脚部	(17.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコハケ-ナナメハケ	有	
175	90		E-2-2	4号溝	266 288 276 292	甕	口縁・脚部	(24.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ヨコナデ-ナナメハケ	有	
176	100	1	E-2-2	4号溝	254	甕	口縁・脚部	(24)	不明	浅黄褐色 10YR8/2	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-修減-タテハケ	ヨコナデ全体的に修減している	有	
177	133	2	E-2	4号溝		甕	口縁・脚部	20	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良	ナデ-タタキ後ヨコナデ	ヨコハケ-ナナメハケ-修減	有	
178	107	1	W-2-2	4号溝	307 470	甕	口縁・脚部	(24.4)	不明	灰白色 7.5YR8/1	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコハケ-ヨコナデ-ナナメハケ	有	
179	95		W-2-2	4号溝	470 475 467	甕	口縁・脚部	(18.2)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ハケ調整後タテハケ後ヨコナデ	ナナメハケ	有	
180	97	2	W-2-2	4号溝	317 320	甕	口縁・脚部	(16.7)	不明	赤褐色 10YR5/2	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タタキ後タテハケ-ナナメハケ	ヨコハケ-タタキ	有	・外器面口縁から脚部にかけて多量 に付着
181	136	1	E-2溝西 成面・E-2 溝西	4号溝		甕	口縁・脚部	(15.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	角四石 長石 雲母	良	ヨコナデ-タタキ後タテハケ	ヨコナデ-ナナメハケ-タテハケ	有	・脚部下半を中心に凝縮が凝しかつ たと思われる
182	133	1	E-2溝西 成面・E-2 溝西	4号溝		甕	口縁・脚部	(14)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良	ナデ-タタキ後タテハケ	ヨコハケ-ナナメハケ	有	
183	97	1	E-2-2	4号溝	264 265	甕	口縁・脚部	18.6	不明	黒色 N2/	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ	ヨコナデ-ヨコハケ-ナナメハケ	有	・全体的に黒い
184	99	1	W-2-2	4号溝	475	甕	口縁・脚部	(18)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ	有	
185	96	1	W-2-2	4号溝	305	甕	脚部・底部	(不明) (底) 11.7	不明	灰黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ後ナデ-ヨコナデ	ナナメハケ後ナデ-ヨコナデ	有	
186	105	1	W-2-2	4号溝	470	脚台付臺	脚部・底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	タタキ・タテハケ-タテハケ後ナデ	ナナメハケ-ナナメハケ後ナデ	有	・底部割れた後に受熱、割れた部分 に煤付着

第7表 遺物観察表その7

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒炭	備考
187	94		W-2-2	4号溝	299	甕	胴部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	タテハケ後ナデ-ヨコナデ	除滅-ヨコハケ後ヨコナデ	有	・内器面焼付着
188	105	2	E-2-2	4号溝	270	脚台付甕	胴部-脚部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	タテハケ-ナナメハケ後ナデ-ナ デ	ナナメハケ・ヨコハケ-ナデ-ヨ コナデ	有	・外器面は焼熱から剥離多い・内器 面に小さいビビあり、水分不足?
189	106	4	W-	4号溝 (W-)	320	脚台付甕	頸部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	長石 雲母	良好	ヘラミガキ	ランダムなヘラミガキ-ヘラミガ キ・ナデ	有	
190	134	3	E-2溝西 底面	4号溝		甕	脚部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナナメハケ後ナデ	ナデ	有	
191	141	2	E-2溝	4号溝		脚台付甕	底部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ヘラケズリ-砂型・ナデ	無	
192	100	2	W-2-2	4号溝	452	脚台付甕	頸部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/6	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ-ヨコナデ	ハケメ-ヨコナデ	無	
193	106	3	W-2-2	4号溝	323	脚台付甕	頸部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	タテハケ-タテハケ後ヨコナデ	除滅しているヨコハケ後ナデ	有	
194	106	1	W-2-2	4号溝	466	脚台付甕	頸部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR5/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ・ナデ	ヨコハケ-ヨコハケ・ナデ	無	
195	102	2	W-2-2	4号溝	456	脚台付甕	頸部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 雲母	良好	タテハケ・ナデ	砂型・ヨコナデ	有	
196	106	2	W-2-2	4号溝	322	脚台付甕	頸部-脚部	(不明)	不明	褐色 5YR6/6	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ・ナデ	タテハケ・ナデ	無	
197	134	2	E-2溝西	4号溝		甕	胴部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	長石 雲母	良好	ナデ・ハケ-ナナメハケ	ナデ	有	
198	98	2	E-2-2	4号溝	296 295	甕	口縁-胴部	(14.8)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ-除滅剥離	ヨコナデ-ヘラケズリ後ヘラ調整 -ナデ・指押さえ	有	・使用頻度高いと思われる・口縁外 面わずかに段差あり
199	96	2	E-2-2	4号溝	295	甕	口縁-胴部	15.7	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ナメハケ- ナナメハケ後ナデ	ヨコハケ後ヨコナデ-ヘラケズリ		
200	135	1		4号溝	275 266	甕	頸部-底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 石 雲母	良好	タテハケ-ナナメハケ-ナデ	ナナメハケ-ナデ	有	・ハケ単位1.7cm ぐらい
201	121	2	W-2-2	4号溝	467 470 305	甕	はば完形	13.7	14.7	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ハケ調整後ナデ	ナナメハケ後ヨコナデ-ハケ調整 後ナデ	有	
202	107	2	E-2-2	4号溝	267 275	甕	完形	14.1	20.6	にぶい褐色 7.5YR7/3	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ-ナナメハケ-ナデ	有	・布留蓋ではない・オレンジ色の色 素が広範囲にわたり浮きでている
203	138	1	E-2溝東 底面	4号溝		小甕鉢	口縁-胴部	10.7	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ナデ-ヘラミガキ	ナデ-ヘラミガキ	有	・外・内器面共に焼付着
204	113	2	W-2-2	4号溝	307 252	鉢	はば完形	13.2	17.5	にぶい褐色 7.5YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ後ナデ-ナナメハケ-ナ デ	ナデ-指押さえ-ヨコハケ-ハケ	有	
205	278			4号溝		甕	口縁-胴部	(22.5)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	徳描文-ヨコナデ-ナナメハケ- 刻目-徳描文-タテ・ヨコハケ	ヨコナデ-ヨコハケ-ナデ-ハケ メ	無	
206	110	2	E-2-2	4号溝	265 267	甕	口縁-胴部	22.5	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ・ヨコナデ・ 刻目	ヨコナデ	無	・内・外器面に赤色顔料焼布
207	112		E-2E-2 -2	4号溝	253	甕	頸部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 石 雲母	良好	タテハケ・ナデ-ヨコハケ・徳描 文-タテハケ・ヘラミガキ	ランダムなハケメ	有	・二重口縁逆?・徳描文の描き始め と終わりがよく分かる
208	115	2	W-2-2	4号溝	311 310	甕	口縁-胴部	(19.5)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石 雲母		ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ -ナナメハケ-ナナメハケ後ナ デ・平付文・波状文-ナナメハケ	ヨコハケ後ヨコナデ-ナナメハケ 後ナデ-ナナメハケ	無	・平付文から波状文と結んで描いて ある
209	110	1	E-2-2	4号溝	262	甕	口縁-胴部	22.2	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ・ナデ-波状 文	ヨコナデ-ヨコハケ・ナナメハケ	無	
210	137	3	E-2	4号溝		甕 (土師器)	頸部-脚部	(不明)	不明	明赤褐色 2.5YR5/8	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヘラミガキ-波状文-ヘラミガキ	ヨコナデ-ヨコハケ-ナナメハケ	無	
211	117	2	W-2-2	4号溝	315	小甕鉢	頸部-脚部	(不明)	不明	にぶい褐色 10YR7/3	長石 石英	良好	ナメハケ後ヨコナデ-ナナメハ ケ後波状文-ナナメハケ後ナデ	ヨコナデ-ナナメハケ後ナ デ	有	・波状文の描き方法が右で異なる・内 器面に輪状に黒くなっている
212	101		E-2E-2 -2	4号溝	56 280 284 287	甕	胴部-底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石 石英 雲母	良好	ハケ後タタキ-ナナメハケ・ナ デ-ヘラケズリ	ランダムなハケメ	有	
213	142		E-2溝	4号溝		甕 赤色顔料付着	胴部-底部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	タタキ後ナナメハケ-ヘラケズリ	ナナメハケ-ヘラケズリ	有	・外器面と断面にベンガラ
214	116		E-2-2	4号溝	284	甕	胴部-底部	(不明)	不明	にぶい褐色 10YR7/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ	ランダムなハケメ-ナデ	有	
215	118	2	E-2-2	4号溝	258	甕	胴部-底部	不明	不明	淡褐色 2.5YR7/2	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	タテハケ・ナデ-ナデ	ハケメ	有	
216	115	1	W-2-2	4号溝	463	甕	はば完形	9.4	10.2	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	
217	137	1	E-2溝	4号溝		小甕鉢	はば完形	11.4	7.6	褐色 5YR7/8	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	・土師器・口縁部が少し重

第8表 遺物観察表その8

番号	原図No	枚数	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
218	109			4号溝	254	甕	完形	15.2	40.5	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長 石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・タテハケ後ヨコナデ ナナメハケ	ヨコナデ・ヨコハケ後ヨコナデ ナナメハケ	有	無
219	108		W-2-2	4号溝	475 461	甕	口縁-底部	(14.3)	40.7	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ・ナナメハケ後ヨコナデ ナナメハケ	ヨコハケ・ナナメハケ後ヨコナデ ナナメハケ	有	・灰土上で接合
220	113	1	E-2-2	4号溝	269 275 258	甕	口縁-胴部	13.9	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長 石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	無
221	111		W-2-2	4号溝	307	甕	口縁-胴部	14.8	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	タテハケ・ナデ	ヨコハケ	有	無
222	102	1	E-2-2	4号溝	275	甕	口縁-口部	(16)	不明	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコハケ	無	無
223	114		W-2-2	4号溝	318	甕	頸部-底部	(不明)	不明	灰白色 10YR8/1	長石 石英	良好	刺突文・ナナメハケ後ヨコナデ ナナメハケ	ヨコハケ	有	・頸部に刺突文あり
224	123	1	W-2-2	4号溝	450 470	鉢	口縁-底部	(13.8)	17.2	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	無
225	121	1	W-2-2	4号溝	451	鉢	完形	14.5	15.1	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・少し歪である
226	122		E-2-2	4号溝	297	鉢	ほぼ完形	13.2	14.3	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・緻密な粘土
227	123	2	W-2-2	4号溝	475 464	鉢	口縁-胴部	(14.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・ナナメハケ後ヨコナデ
228	137	2	E-2溝	4号溝		小瓶	口縁-胴部	(9)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角四石 長 石	良好	ナデ	ナデ	有	・緻密な粘土
229	138	3	E-2溝	4号溝		鉢	口縁-胴部	(10.4)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	無
230	138	2	E-2溝 底面	4号溝		鉢	ほぼ完形	(11.6)	8.3	灰黄褐色 10YR6/2	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	無
231	134	1	E-2溝 一括	4号溝		片口	ほぼ完形	19.8	11	灰白色 2.5YR8/2	赤褐色粒 角四石 長 石 石英 雲母	良	ナデ	ナデ	有	・内器面は被熱して剥離している
232	126	1	W-2-2	4号溝	464 465	高坏	ほぼ完形	23.6	16.4	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長 石	良好	ナデ	ナデ	有	・孔1個あり
233	139		W-2溝	4号溝		高坏	口縁-胴部	(28)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	無
234	128	1	W-2-2	4号溝	462 162	高坏	口縁-胴部	(25.6)	不明	灰白色 10YR7/2	赤褐色粒 角四石 長 石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	無
235	127	1	E-2-2	4号溝	286	高坏	口縁-胴部	22.4	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 長石 石英	良	ナデ	ナデ	有	無
236	141	1	E-2溝	4号溝		高坏	口縁	(26)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	・オレンジ色の色素あり
237	124	1		4号溝	53	高坏	胴部-脚部	(底) 15.4	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	・脚部部に焼成前孔3個あり
238	127	3	E-2-2	4号溝	282	高坏	底部-脚部	不明	不明	灰白色 7.5YR8/1	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	・孔3個あり
239	126	2	W-2-2	4号溝	475 469	高坏	破片	(底) 17.7	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	・孔3個あり、4個あったのでは
240	125		W-2-2	4号溝	459	高坏	胴部-脚部	(底) 13.9	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	・歪である
241	140		E-2溝	4号溝		高坏	脚部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	長石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・ナナメハケ後ヨコナデ
242	127	2	W-2-2	4号溝	460	高坏	柱部-脚部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 雲母	良好	ハケ	ハケ	有	・ナナメハケ
243	124	3	E-2-2	4号溝	259	高坏	底部-脚部	(底) 14	不明	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長 石 石英 雲母	良好	ハケ	ハケ	有	・裾部の焼成前孔3個あり
244	124	2	E-2-2	4号溝	286	高坏	底部-脚部	(底) 13.6	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	赤褐色粒 長石 石英	良	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・胎土均質、焼成前孔直角の位置に 4個あり
245	119			4号溝	475 464	台付鉢	完形	10.1	17.1	浅黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・孔2対で3個あり
246	117	1	E-2-2	4号溝	268	台付鉢	口縁-鉢部	10.3	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	赤褐色粒 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ナナメハケ	有	・ヨコナデ後ヨコナデ
247	118	3	W-2-2	4号溝	475 470	台付鉢	底部-脚部	不明	不明	明黄褐色 10YR7/6	角四石 長石	良	ナデ	ナデ	有	・脚は扁平がり、被熱している
248	118	1	E-2	4号溝	229	台付鉢	完形	12.6	7.2	褐色 7.5YR7/6	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	有	・脚に3個の孔あり・脚内面は右同 りて粘土を挟み取り取った痕あり

第9表 遺物観察表その9

番号	原図No.	枝番	地区	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	照度	備考
249	120	1	E-2-2	4号溝	262	口縁-頸部	13.8	不明	にぶい褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヘラミガキ -ヨコナデ	ヨコナデ-ヘラミガキ後ヨコナデ -ヘラケズリ	有	
250	136	2	E-2	4号溝	口縁-腹部	(不明)		不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヘラミガキ-ヨコナデ	ヘラミガキ	有	・固く締まっている、丁寧な調整
251	120	2	E-2	4号溝	口縁-腹部	(11.1)		不明	にぶい褐色 10YR6/4	赤褐色粒 長石	良好	ナデ-タテハケ・ナデ	ナナメハケ	有	
252	130	1		4号溝	303	器台	上12 下12	17~17.3	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 長石 雲母	良好	刻目文-ナナメハケ後ヨコナデ- ナナメハケ-ヨコナデ	ナナメハケ	有	
253	130	2		4号溝	306	器台	10.7	16.8-16.5	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 長石 雲母	良好	刻目文-ナナメハケ後ヨコナデ- ナナメハケ-ヨコナデ	ヨコ・ナナメハケ-ナデ-ナナメ ハケ-ヨコナデ	有	
254	129	1	E-2-2	4号溝	288	器台	上11.6 下12.6	17.65	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコナデ-ナナメハケ後ヨコナデ -ナナメハケ	無	・割れた後に被熱?
255	129	2	E-2-2	4号溝	271	器台	上11 下不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	タテハケ後ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ナナメハケ	無	・受部は少し歪・割れた後に被熱?
256	128	2	E-2-2	4号溝	281315	器台	不明 (底) 13.2	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石 長石 雲母	良好	タタキ	ナデ	有	
257	132	3		4号溝	277	ジョッキ形 把手	-	-	浅黄褐色 10YR8/3	角閃石 長石 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	
258	131	1	W-2-2	4号溝	321	把手	-	-	にぶい黄褐色 10YR7/3	長石	良好	指ナデ	-	-	
259	132	1	E-2	4号溝	228	土製玉	縦2.3 横2.25	厚さ2.1	灰黄褐色 10YR5/2	角閃石 長石 石英	良好	ナデ	-	有	・重さ10.2g
260	144		E-2溝	4号溝		不明土製品	-	-	暗灰色 N3/	石英	良好	ナデ・ヘラケズリ?			
261	141	4	E-2溝	4号溝		ミニチュア (脚)	不明	不明	褐色 5YR4/1	角閃石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
262	141	3	E-2溝	4号溝		ミニチュア (鉢)	(7)	不明	灰白色 10YR8/2	角閃石 石英	良好	指調整	ヨコハケ	有	・手づくね
263	143	3	W-2溝	4号溝		脚	-	-	灰黄褐色 10YR4/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	タタキ-ヨコナデ後指調整	ナナメハケ	有	
264	143	2	W-2溝	4号溝		薬指飾り?	縦3.3 横5.9	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 角閃石 長石	良好	ナデ	ナデ	有	
265	143	1	W-2溝	4号溝		土製玉	縦1.3 横1.5	不明	褐色 5YR6/8	角閃石 長石	良好	指調整		無	・丸1個あり、貫通している
266	132	2	E-2-2	4号溝	23	磨製石斧	長さ14.5 巾6.5	厚さ4	暗灰黄色 2.5YR5/2		-	-	-	-	・重さ532.7g
267	131	4		4号溝	27	砥石	-	-	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	-	-	-	-	・重さ156.7g
268	131	2		4号溝	24	石包丁	-	-	暗灰色 N3/	-	-	-	-	-	・砂岩
269	131	3		4号溝	25	石器未成品	-	-	灰色 N4/	-	-	-	-	-	・重さ30.5g
270	145	1	E-2溝	4号溝		擦り石	-	-	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	-	-	-	-	・重さ54g
271	145	2	E-2溝	4号溝		不明砥石	-	-	にぶい赤褐色 5YR5/3	-	-	-	-	-	・重さ137.7g
272	203	1	東側	大溝		口縁-頸部	(15)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角閃石 長石 石英	良好	刻目-ナデ-刻目-タテハケ-ヨ コナデ	ヨコナデ-ランダムなハケメ	無	
273	203	4	西	大溝		口縁部	(20)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角閃石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
274	203	2	北側	大溝		腹部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ・沈線8本	ナデ-ヨコハケ	有	
275	203	3	-括	大溝		頸部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	角閃石 長石 石英	良好	ハケ	ヨコハケ	無	
276	208	3	西ノ西	大溝		腹部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	無	
277	206	2	東側	大溝		把手	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR8/6	赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ナデ・ヨコハケ		無	
278	204	2	北側	大溝		鉢	(13)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角閃石 長石 石英	良好	ナデ-タテハケ・ナデ-ナデ	ナデ	無	
279	204	1	北側	大溝		鉢	(13.7)	不明	灰白色 10YR7/1	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ナデ-ハケメ-ナデ	ナデ	無	

第10表 遺物観察表その10

番号	原図	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・泥入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
280		4	西側	大溝		鉢	口縁-胴部	(22.9)	不明	灰白色 10YR7/1	角四石 長石 石英	良好	ヨコハケ		有	
281		3	北側	大溝		鉢	口縁-胴部	(22.7)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	長石 石英 雲母	良好	ナデ-ヨコハケ・ナデ	ナデ	有	
282		1	南側	大溝		杯 (土師器)	口縁-底部	(10.6)	2.9	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-糸切	ナデ	無	
283		1	西側	大溝		移動式甕	底部	(不明) (底) 16	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコハケ	ヘラケズリ-ナデ	無	
284		2	東側	大溝		甕	底部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-ハケメ	ヘラケズリ	無	・穴を6ヶ確認
285		4	北側	大溝		土埴	破片	不明	不明	黒褐色 2.5YR3/1	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	指調整		有	・重さ8.5g・指紋痕あり
286		1	一括	大溝		スプーン形	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヘラミガキ・ナデ-ナデ		無	
287		2	西側	大溝		?鉢車	破片	縦1.8 横4.8	不明	浅黄褐色 7.5YR8/6	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	・重さ29.2g
288		3	一括	大溝		未成品 石包丁	破片	不明	不明	灰色 N5/	-	-	-	-	-	・重さ87.5g
289		1	東側	大溝		砥石	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR5/3	-	-	-	-	-	・重さ105.6g
290		3	西側	大溝		砥石	破片	縦8.2 横2.9	不明	にぶい黄褐色 10YR3/2	-	-	-	-	-	・重さ130.5g・ペンガラ付着
291		2	西/西	大溝		石錘	完形	縦5.7 横5.7	厚1.6	にぶい褐色 7.5YR6/4	-	-	-	-	-	・重さ75.5g
292		1	西側	大溝		石錘	口縁部	不明	不明	黒色 N2/	-	-	ノミで削って調整	ノミで削って調整	-	有
293		2	東側南壁	大溝		石錘	破片	不明	不明	黒色 N2/	-	-	ノミで削って調整	ノミで削って調整	-	有
294		4	西中央底	大溝		不明石	破片	不明	不明	灰色 N4/	-	-	全体に使用痕あり、深い物と浅い物が残っている		-	・滑石・重さ19.2g
295		1	E-7-2	周溝	424	脚台付甕	胴部-脚部	不明 (底) 11.2	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-指押さえ-ヨコハケ	ナデ-指押さえ-ヨコハケ	有	
296		4	W-9-2	周溝	365	脚台付甕	胴部-脚部	不明 (底) 12.7	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナデ	ナメハケ後ナデ	無	
297		2	E-7-2	周溝	417	脚台付甕	底部-脚部	不明 (底) 12.7	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ	ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ	無	
298		3	E-7-2	周溝	408	脚台付甕	底部-脚部	不明 (底) 9.5	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	長石 石英 雲母	良好	ヘラケズリ-指調整	ナデ-指押さえ	無	・指調整の痕がよく分かる資料である
299			W-8-2	周溝	404	甕	完形	(16)	23.4	浅黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-タテハケ ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-指押さえ後ヨコナデ-ヘラケズリ-指押さえ	有	・甕を十分にすりその断面に赤色顔料を塗布、顔料入れの容器？
300			W-9	周溝	402	甕	完形	16.5	22	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ	ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ ナメハケ後ヨコナデ-ヨコハケ	有	・外器面底部に残り物で傷つけたような痕あり
301		1	W-9-2	周溝	368	甕	口縁-頸部	(24.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
302			W-8	周溝	7	甕	口縁-胴部	(12.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
303		2	E-9-2	周溝	400	甕	口縁-胴部	(14.4)	不明	浅黄褐色 2.5YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	・かなり歪な形・調整様
304		1	E-7-2	周溝	416	甕	口縁-頸部	(30)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/6	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
305		2	W-9-2	周溝	375	甕	頸部-肩部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
306		2	E-9-2	周溝	402	甕	口縁-肩部	(13)	不明	灰白色 2.5YR8/2	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
307		2	E-7-2	周溝	429	甕	口縁部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	
308		2	E-9	周溝		甕 (赤色顔料付)	肩部-胴部	不明	不明	明黄褐色 10YR7/6	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	・外器面にペンガラ付着
309				周溝	183	大型甕	底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	・内器面底部に赤色顔料付着
310		4	E-9	周溝	14	甕	底部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	角四石 長石 石英	良好	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	ナメハケ後ナメハケ ナメハケ後ナメハケ	有	

第11表 遺物観察表その11

番号	原図No	柱号	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
311	163	3	W-8-3	周溝	403	壺	底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナナメハケ	タテハケ	有	・外器面にシミ痕2つあり、底部にもそれらしきものあり
312	186	1		周溝		片口 (土師器)	口縁-胴部	12	不明	にぶい褐色 7.5YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・器底が深い
313	196	1	E-7	周溝		鉢	破片	(14)	5.65	灰黄褐色 10YR6/2	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	有	
314	195	2	南-括	周溝		突帯付鉢	口縁-胴部	(6.9)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	有	・突帯の継より口縁の経を割り出す(5.5cm)
315	167	1		周溝	1	ジョキ形	口縁-底部	10	10.5	にぶい黄褐色 10YR7/2	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	無	・底面中央部盛り上がり、底面が割れているので破りが悪い
316	195	1	南-括	周溝		コップ形	口縁-胴部	(6.7)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラ調整後ナデ	有	・小片につき、反転復元に無理あり?
317	166	1	W-9	周溝	163	器台	口縁-胴部	(11)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
318	197	1	E-8	周溝		ミニチュア (装)	口縁-胴部	(6.4)	不明	灰褐色 N3	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	
319	197	2	E-7東	周溝		ミニチュア (高坏)	脚部	(不明) (底) 6.4	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3		-	-	-	-	
320	195	4	南-括	周溝		把手	破片	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR5/4	長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	有	・一部に赤色顔料付着
321	196	3	E-8西	周溝		縄文土器	口縁	不明	不明	にぶい褐色 5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	・北久根山式
322	179	1	W-9	周溝	165	土製勾玉	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR5/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	・緻密な粘土
323	178	5	E-9	周溝	191	スプーン形	唇のみ	不明	不明	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
324	197	4	E	周溝		把手	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	有	
325	192	4	南	周溝		不明土器	脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3			ヨコナデ	ヨコナデ	無	・参考資料用富吉原遺跡
326	201		南-括	周溝		砥石	破片	不明	不明	-	-	-	-	-	-	・砂岩製? 割れ口が赤く焼けている・重さ1.16g
327	198	1	南-括	周溝		砥石	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	-	-	-	-	・重さ94.7g・砂岩製?
328	202	2	南-括	周溝		砥石	破片	不明	不明	-	-	-	-	-	-	・砂岩製?・重さ136.7g
329	181	2	W-7	周溝	S-11	砥石	破片	不明	不明	灰色 7.5YR5/1	-	-	-	-	-	・鉄質付着・重さ200g
330	178	1		周溝	S-13	砥石	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/6	-	-	-	-	-	・重さ180g
331	181	1	W-9-2	周溝	S-29	擦り石	破片	不明	不明	灰色 N5	-	-	-	-	-	・端に濃くベンガラ付着・重さ580g
332	202	1	南-括	周溝		打製石斧	破片	不明	不明	-	-	-	-	-	-	・緑色片岩・重さ119.3g
333	178	2	W-8	周溝	S-2	石包丁	破片	不明	不明	灰黄色 2.5YR6/2	-	-	-	-	-	・重さ49g
334	198	3	南側	周溝		石包丁	破片	不明	不明	灰色 7.5YR6/4	-	-	-	-	-	・重さ10.5g・上面、下面から穿孔を開けているがずれている
335	192	2	E-南	周溝		石包丁	破片	不明	不明	灰色 N6	-	-	-	-	-	・重さ14g・穴は1ヶあるが欠けている
336	198	2	南側	周溝		不明石製品	破片	不明	不明	灰黄色 2.5YR7/2	-	-	-	-	-	・重さ24.5g・中央に穴あり
337	151	2	E-9	周溝	184	甕	口縁-胴部	(37.5)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
338	154	1	E-9	周溝	185	甕	口縁-胴部	(29)	不明	褐色 2.5YR6/6	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
339	156	2	E-7	周溝	69.67	甕	口縁-胴部	(26.4)	不明	淡赤褐色 2.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	
340	152	2	E-8	周溝	225	甕	口縁-胴部	(23)	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	
341	150	1	W-9	周溝	150	甕	ほぼ定形	20.2	13.9	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	・甕を甕に転用

第12表 遺物観察表その12

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
342	149		W-9	周溝	156	甕	口縁-胴部	(26)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ-ヘラケズリ	無	
343	152	1	E-9	周溝	188	甕	口縁-胴部	(22.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・黒斑の所はヘラミガキの擦る光沢あり
344	153	2	E-7	周溝	82	甕	口縁-胴部	(28.4)	不明	灰褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	
345	193	2		周溝		甕	口縁-胴部	(29.6)	不明	黒褐色 10YR5/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
346	150	2	E-9	周溝	175	甕	口縁-胴部	(24)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	
347	155	2	E-7	周溝	101	甕	口縁-胴部	(22)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	
348	152	4	W-9	周溝	164	甕	口縁-肩部	(23.6)	不明	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
349	152	3	E-9	周溝	189	甕	口縁-胴部	(19.4)	不明	明赤褐色 2.5YR5/6	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・内外に赤色顔料散布
350	151	1	E-9	周溝	174	甕	口縁-肩部	(25.5)	不明	明赤褐色 2.5YR5/6	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	・口縁内外、胴部内面の褐色顔料を散布
351	156	1	E-8-2	周溝	386	甕	口縁-胴部	(21)	不明	褐色5YR7/6	長石 石英 雲母	良好	ナデ-ヘラ押さえ? -ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	
352	182			周溝		甕	口縁-胴部	21	32.2	明赤褐色 5YR5/6	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・形は歪・胴部、底部に煤付着
353	155	1	E-7-2	周溝	426	甕	口縁-胴部	(19)	不明	褐色 2.5YR6/8	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
354	162	2	E-9	周溝	186,184	鉢	口縁-胴部	16.9	13.9	浅黄褐色 7.5YR8/4	角四石 長石 石英	良	ナデ-不明瞭	ナデ-ヘラケズリ	無	・かなり歪な形・調整難
355	153	1	E-7	周溝	71	鉢	口縁-胴部	(22)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケがランダムに混じる	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	
356	164	3	E-9	周溝	188	鉢	口縁-胴部	(30.6)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	
357	155	3	E-7	周溝	98	鉢	口縁-胴部	(25)	不明	にぶい褐色 7.5YR6/3	角四石 長石	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	・煤外器面にこびり付いている
358	165	1	E-2-2	周溝	409	鉢 (土師器)	口縁-底部	16.9	9.1	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヘラミガキ	無	
359	165	2	E-7	周溝	98	鉢 (土師器)	口縁-胴部	(15.5)	不明	明赤褐色 2.5YR5/6	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良	ヨコナデ	ヨコナデ	有	
360	163	2	W-8-2	周溝	384	甕	口縁-胴部	12.6	7.9	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ヘラケズリ	ナデ-ヘラケズリ	無	
361	187	6	南	周溝		甕	口縁-胴部	(不明) (底) 4.6	不明	褐色 7.5YR6/6	長石 石英	良好	ナデ	ナデ-一部大きな目のハケ	無	
362	196	2	E-8東	周溝		甕	口縁-底部	不明	不明	にぶい黄褐色 5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナナメハケ後ナデ	ハケ調整後ナデ	無	・底部に焼成前の穴が1ヶ所開いている
363	176	1	E-9	周溝	183	甕	口縁-胴部	(14.4)	不明	にぶい赤褐色 2.5YR5/6	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ヨコナデ-ナデ-指調整	ヨコナデ-ヘラケズリ-ヘラ調整 -ハケ後ナデ	無	・にぶい赤褐色(2.5YR5/6)の砂料を外全体に塗っている
364	192	1	南西側	周溝		甕	口縁-胴部	25.4	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ	無	・2個体の上部の接点はないが、厚み調整から1個体のものと見られるので両面上で成形した
365	175		W-9	周溝	159	甕	口縁-胴部	(22.4)	17.6	にぶい褐色 7.5YR7/3	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後タテハケ -タテハケ-ナナメハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ-ヘラ調整 -ハケ後ナデ	有	・本体から剥離したつぼの部分のみ・裏に1の下方と思われる
366	180		W-9	周溝	166	甕の残き口	口縁-胴部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ナデ		無	・胴部と把手の接合面がよく分かる・内面を作って繋ぎ合っている
367	177		W-9	周溝	158	把手	胴部	不明	不明	灰褐色 7.5YR5/2	角四石 長石 石英	良好	指ナデ	ヘラケズリ	有	・把手下部に煤あり
368	176	2	E-7-2	周溝	430	把手	胴部	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR8/4	長石	良好	指ナデ		無	
369	176	3	E-9	周溝	10	把手	胴部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	指調整		無	
370	167	3	E-7	周溝	97	坏 (土師器)	口縁-胴部	12.6	3.4	灰白色 5YR8/1	赤褐色粒 長石	良好	ナデ	ナデ	有	
371	189	5	南東	周溝		坏	口縁-底部	13.6	4.1	浅黄褐色 7.5YR8/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ナデ	無	
372	169	3	E-7	周溝	72	坏	口縁-胴部	14.2	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-ヘラケズリ	ナデ	無	

第13表 遺物観察表その13

番号	原図地	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
373	189	1	樹ライイン	周溝		鉢 (土師器)	口縁-底部	(9.8)	4.1	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 石 石英	良好	ヘラミガキ-ヘラケズリ	ヨコナデ後ヘラミガキ	無	
374	169	2	E-9	周溝	12	鉢	ほぼ完形	11.3	2.4	浅黄褐色 7.5YR8/3	赤褐色粒 石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	
375	169	1	W-9	周溝	167	鉢	ほぼ完形	13.4	3.8	浅黄褐色 7.5YR8/3	赤褐色粒 角四石	良好	ヨコナデ-糸切未調整	ヨコナデ	無	
376	168	1	E-9	周溝	180	鉢 (土師器)	口縁-底部	12.4	4	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	
377	168	2	W-7	周溝	44	鉢 (土師器)	口縁-底部	(10)	3.8	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ハケメ	有	
378	169	4	E-9	周溝	177	鉢	口縁-底部	(13)	3.1	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 石	良好	ヨコナデ-糸切未調整	ヨコナデ	無	
379	171	5	W-9	周溝	150	鉢 (須恵器)	底部	(不明)	不明	灰色 5YR5/1		良好	ナデ	ナデ	無	・底の厚さがとても薄い
380	192	3	南	周溝		碗(土師器)	口縁-底部	(11.2)	4.75	浅黄褐色 7.5YR8/4	赤褐色粒 角四石 雲母 石 石英	良好	ヨコナデ-回転ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	・底面は歪存しているが11.1は縁部は調整済
381	188	4	南	周溝		鉢	胴部-底部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	角四石 石 雲母	良好	ヨコナデ-底・削いた時の板目跡	ヨコナデ・指ナデ	無	
382	190	1	南側	周溝		鉢	底部	不明	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 石	良好	ナデ-ヘラ切り	ナデ	無	
383	190	4	南側	周溝		鉢 (土師器)	底部	(不明)	不明	褐色 5YR7/6	赤褐色粒 長石	良好	ナデ-回転ヘラ切り	ナデ	無	
384	191	1		周溝		皿 or 鉢 (土師器)	ほぼ完形	12.3	1.9	褐色 10YR6/1	長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ・指ナデ-ナデ・ヨコナ デ	無	
385	188	6	南-拵	周溝		灯明皿	完形	8	1.8	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒(石英)	良好	ヨコナデ-底部回転糸切	ヨコナデ	無	
386	191	4		周溝		灯明皿	完形	7.8	1.5	褐色 5YR7/6	赤褐色粒(長石)石英	良好	ヨコナデ-回転糸切	ヨコナデ-ナデ	無	
387	188	5	南-拵	周溝		皿	口縁-底部	(8.2)	1.2	にぶい褐色	雲母	良好	ヨコナデ-底部回転糸切	ヨコナデ・指ナデ	無	・キメの細かい胎土
388	187	1	南	周溝		皿	完形	9	1	にぶい褐色 5YR7/3		良好	ヨコナデ-静止ヘラきり	ヨコナデ-指ナデ	有	・外面面底部は釉に垂れた跡の横筋が見える焼き締まっている
389	171	2	W-7	周溝	60	鉢 (黒色土器)	口縁-底部	(11.7)	6.1	浅黄褐色 10YR8/3	長石	良好	ナデ	ヘラミガキ-ナデ	有	・内器面と外器面11.1縁部までが黒い
390	190	2	南側	周溝		鉢	底部-脚部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 石	良好	ナデ	ナデ	有	・少し歪
391	174	3	E-9	周溝	172	鉢 (土師器)	底部-脚部	不明	不明	灰白色 10YR8/2	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
392	174	6	E-9	周溝	13	鉢 (土師器)	底部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 石	良好	ナデ	ナデ	無	
393	187	3	南	周溝		鉢	胴部-脚部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-指ナデ-ヨコナデ-指 ナデ	無	・胎土は均質
394	174	4	E-7	周溝	66	鉢 (土師器)	底部-脚部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
395	187	4	南	周溝		鉢	胴部-脚部	不明	不明	黄灰色 2.5YR6/1	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-指ナデ-ヨコナデ-指 ナデ	無	・緻密な粘土・焼き締まって須恵器 になっている
396	187	2	南	周溝		鉢	胴部-脚部	不明	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-指ナデ-ヨコナデ-指 ナデ	無	・底部は歪な為場所により厚み違う
397	170		E-9	周溝	181	碗	口縁-脚部	15.4	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-回転ヘラケズリ	無	・粘土の縁口がよく分かる
398	187	5	南	周溝		鉢	胴部-脚部	(不明) (底) 7.8	不明	にぶい褐色	赤褐色粒(長石)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-指ナデ-ヨコナデ	無	
399	171	1	W-7	周溝	43	碗 (黒色土器)	胴部-脚部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒	良好	ナデ	ヘラミガキ-ナデ	有	・内器面のみが黒い
400	191	2		周溝		碗? (黒色土器)	底部-脚部	不明 (底) 8.6	不明	にぶい褐色	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ	ヘラミガキ-ヨコナデ・ナデ	無	
401	174	5	E-7	周溝	63	鉢 (土師器)	底部-脚部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 雲 母	良好	ナデ	ナデ	有	
402	174	2	E-7	周溝	62	鉢 (土師器)	底部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
403	188	2	南-拵	周溝		碗	胴部-脚部	不明 (底) 7.4	不明	にぶい褐色 7.5YR6/3	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ・指ナデ-ヨコナデ	無	

第14表 遺物観察表その14

番号	原図No	枚番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
404	164	1	E-9	周溝	179	坏 (土師器)	完形	15	不明	灰白色 10YR8/2	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	有	・内器面に煤?付着
405	188	1	南一括	周溝		甗	完形	12	4.3	灰白色 5YR8/2	赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-底部承切	有	
406	171	3	W-8	周溝	9	坏 (黒色土器)	底部-底部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒	良好	ナデ	ナデ後へラミガキ	無	・内器面のみが黒い
407	174	7	W-8	周溝	2	坏 (土師器)	底部-底部	(不明)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
408	174	1	E-7	周溝	59	坏 (土師器)	底部-底部	(不明)	不明	にぶい褐色 5YR6/4	角四石 長石 石英	良	ナデ	ナデ	有	・被熱している
409	189	2	南東	周溝		甗 (土師器)	口縁-底部	(11.6)	4.8	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	回転ナデ	回転ナデ	無	・緻密な粘土
410	193	1		周溝		坏	胸部-底部	不明 (底) 6.2	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-指ナデ	ヨコナデ-指ナデ	無	
411	173	5	E-9	周溝	192	坏 (須恵器)	底部-底部	(不明)	不明	灰色 N6/	角四石 長石	良	ナデ	ナデ	無	
412	190	3	南側	周溝		坏	底部-底部	(不明)	不明	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナデ-回転へラ切り	ナデ	無	
413	198	4	南側一括	周溝		坏	胸部-底部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	角四石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-指ナデ	有	
414	171	4	E-7	周溝	58	坏 (黒色土器)	頸部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 長石	良好	ナデ	へラミガキ-ナデ	有	・内器面のみが黒い
415	193	3		周溝		坏	口縁-胴部	(14)	不明	にぶい赤褐色 5YR5/4	赤褐色粒 角四石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	
416	188	3	南一括	周溝		坏	口縁-底部	(16)	不明	灰黄褐色 10YR6/2	長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	・小片からの復元である
417	184	1	E-8, E-9	周溝		甗	口縁-肩部	(不明)	不明	灰色 7.5YR5/1	長石 石英	良好	ヨコナデ-タタキ後ヨコナデ平打文	ヨコナデ-タタキ 同心円文	無	・自然釉あり ・口唇部のすぐ下に凹みあり・須恵器
418	160	1	E-9	周溝	173	甗 (須恵器)	口縁-肩部	(22)	不明	灰白色 7.5YR7/1	長石	良好	ナデ-一本の交線-ナデ-タタキ後ナデ	ナデ-青海波状文	無	・内器面の頸部に数mm2~3mmヘラなどで得た様な跡が見られる
419	154	2	E-7	周溝	88	甗 (須恵器)	口縁-肩部	(19.5)	不明	灰白色 10YR7/1		良好	ヨコナデ-タタキ	ヨコナデ-タタキ	無	・緻密な粘土
420	160	2	E-7	周溝	68	甗 (須恵器)	口縁-胴部	(22)	不明	暗紫灰色 5YR3/1	長石	良好	ナデ-タタキ後ナデ	ナデ-青海波状文	無	
421	184	2	E-7H	周溝		甗 (須恵器)	胴部	(不明)	不明	灰色 N4/	角四石 長石	良好	ヨコナデ	タタキ後ナデ 同心円文	無	・緻密な粘土・自然釉あり
422	184	3	E-8H	周溝		甗 (須恵器)	胴部	(不明)	不明	灰色 N5/	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ肩部のところが、粘土の繋ぎ目跡が混入している	無	・緻密な粘土
423	161	1	E-9	周溝	188	甗 (須恵器)	胴部-底部	不明 (底) 10.4	不明	灰色 N5/		良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ナデ-ヨコナデ	無	・内器面底部は渦巻状の凸凹が見える
424	161	2	E-9	周溝	176	甗 (須恵器)	底部	(不明) (底) 15.8	不明	灰色 N5/	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ	ナデ-ヨコナデ	無	・緻密な粘土
425	186	2		周溝		甗 (須恵器)	肩部-胴部	(不明)	不明	灰色 N4/		良好	刻目-ヨコナデ	ヨコナデ	無	
426	163	1	E-9	周溝	117	甗 (須恵器)	頸部-底部	不明	不明	灰色 N4/	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
427	185	2	南	周溝		高坏 (須恵器)	鏡片	(26)	(11.8)	黄灰色 2.5YR5/1	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	・緻密な粘土・杯部と脚部の接点なし、矢張り風上にて採行あり
428	185	1	南E	周溝		高坏 (須恵器)	杯部-柱部	(18.5)	不明	暗灰黄色 2.5YR5/2	角四石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	・緻密な粘土
429	166	2	E-7-2	周溝	428	高坏 (須恵器)	杯部-底部	不明 (底) 10.3	不明	暗灰黄色 N3/	長石	良好	ナデ	ナデ	無	
430	172	1	E-7	周溝	74	坏 (須恵器)	口縁-底部	14.6	3	暗灰黄色 2.5YR5/2	赤褐色粒 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
431	167	2	E-7	周溝	70	坏 (須恵器)	口縁-胴部	16.2	1.8	灰褐色 5YR6/2	長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	・少し重
432	189	4	南東	周溝		坏	蓋部	(12.8)	2.2	灰白色 2.5YR7/1	長石 石英	良好	回転ナデ	回転ナデ-ナデ	無	
433	173	4	W-9	周溝	152	坏 (須恵器)	口縁-底部	不明	不明	黄灰色 2.5YR5/1	長石	良好	ナデ	ナデ	無	
434	173	2	E-8	周溝	11	坏 (須恵器)	口縁-底部	(16.4)	7.7	灰色 5YR5/1	長石	良好	ナデ	ナデ	無	

第15表 遺物観察表その15

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面図整	内面図整	黒炭	備考
435	173	1	W-9	周溝	170	坏 (須恵器)	口縁-脚部	17.3	4.8	灰色 7.5YR6/1	長石	良好	ナデ	ナデ	無	
436	173	3	W-9	周溝	152	坏 (須恵器)	胴部-底部	(不明)	不明	黄灰色 2.5YR5/1	長石	良好	ナデ	ナデ	無	
437	172	3	E-8, E-9	周溝	188	坏 (須恵器)	口縁-脚部	(11.7)	4.7	にぶい黄褐色 10YR6/3		良好	ナデ	ナデ-回転ヘラケズリ	無	
438	172	4	E-9	周溝	183	甕 (須恵器)	口縁-脚部	(10.8)	4.4	にぶい赤褐色 5YR5/3		良好	ナデ	ナデ-回転ヘラケズリ	無	・自然釉が出ています
439	194	1	E-7	周溝		甕 (須恵器)	口縁-底部	(10.9)	4.3	にぶい赤褐色 5YR6/3	長石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ナデ-ヨコナデ	無	・赤焼
440	172	2	W-9	周溝	160	坏 (須恵器)	口縁-底部	(15.4)	3.5	灰色 N5/	長石	良好	ナデ	ナデ	無	
441	172	5	W-9	周溝	169	甕 (須恵器)	口縁-底部	11.3	3	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	赤褐色粒 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
442	189	3	南一括	周溝		坏	口縁-底部	(12.4)	2.15	灰色 7.5YR5/1	長石 石英	良好	回転ナデ	回転ナデ	無	
443	178	3	W-7	周溝	42	白磁	底部	(10)	2.7	明緑灰色 10G7/1	-	良好	ナデ後袖織布	ナデ後袖織布	無	
444	193	4		周溝		青磁碗	口縁-脚部	(17.8)	不明	オリーブ黄色 2.5Y6/1	-	良好			無	・模様あり (印)・釉薬の厚みは薄い
445	178	4	W-9	周溝	15	青磁	胴部-脚部	(不明)	不明	オリーブ黄色 5Y6/4	-	良好	ナデ後薄く袖織布底回転ヘラケズリ	ナデ後薄く袖織布	無	
446	179	3	E-7	周溝	102	碗	破片	8.95	不明	にぶい赤褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角閃石 石英	良好	ヘラ調整後ナデ	ナデ	無	・鉄滓が割れ口に行着
447	179	4	E-7	周溝	102	碗	破片	6.4	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヘラ調整後ナデ	ナデ	無	・鉄滓?
448	179	2	E-7	周溝	100	碗 (胡IT)	破片	4.9×4.7	不明	黄灰色 2.5YR6/1	赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	・磁石反応わずあり・羽口は黒っぽい鉄滓が狭山付着
449	179	5	E-7	周溝	102	碗	破片	不明	不明	灰黄色 2.5YR6/2	赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ヘラ調整後ナデ	ナデ	無	
450	191	3		周溝		土埴	定形	12	4.7	灰赤色 2.5YR4/2	長石 雲母	良好	指調整		無	・重さ4.9g
451	195	3	南一括	周溝		土埴	破片	外縁7.5 孔径3.5		にぶい褐色 7.5YR6/4	長石	良好	ナデ		無	・重さ1.3g
452	197	3	南側	周溝		土埴	ほぼ定形	1.2	4.5	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	磨減の為不明瞭		有	・重さ4.2g
453	178	6	E-7-2	周溝	433	土埴	定形	4×1.3	不明	褐色 7.5YR7/6	角閃石 長石 雲母	良好	ナデ		無	・重さ7.5g
454	199	1	南部東側	周溝		石鍋	口縁-胴部	外縁25 内径21.8	不明	灰色 7.5YR6/1	-	-	ケズリ	ケズリ	有	・滑石
455	199	2		周溝		石鍋	胴部	不明	不明	黒色 N2/	-	-	ケズリ	ケズリ	有	・滑石・焼成前の穿孔あり
456	191	5		周溝		石鍋	胴部	不明	不明	黒色 N2/	-	-	削り出した所が面となり残っている		無	
457	235		E-1	遺構外		甕	口縁-胴部	(18.7)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石 石英	良好	ナデ-タテハケ-ランダムなハケ	ナデ-ナデ-ナデ	有	・もみ痕が内と外にある
458	230	2	E-1	遺構外		脚台付甕	口縁-胴部	不明 (底) 10.4	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ナタメハケ-ナデ-ナデ	無	・脚台は破断している筈である
459	229		E-1	遺構外		甕	口縁-胴部	(22.2)	不明	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ-タタキ後ナメハケ-タテハケ	ナタメハケ-ナメハケ-ナメハケ?	有	・胴部外にもみ痕あり
460	230	1	E-1	遺構外		甕	口縁-胴部	(20.2)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナタメハケ-タタキ後タテハケ	ヨコハケ-ヨコナデ-ナタメハケ	有	
461	231		E-1	遺構外		脚台付甕	口縁-胴部	(不明)	不明	淡褐色 5YR8/3	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	タタキ後タテハケ-タテハケ-ナデ	ナタメハケ後一部ナデ-ナデ	無	・全体的に煤の付着ある
462	230	3	E-1	遺構外		甕	底部-脚部	(18.2)	不明	黒色 7.5YR2/1	赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナタメハケ-ヨコナデ-タタキ後タテハケ	ヨコナデ-ナタメハケ-指押さえ	有	
463	228		E-1	遺構外		甕	ほぼ定形	15.7	32	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-ナタメハケ後ヨコナデ-タタキ後タテハケ		有	・オレンジ色の色素浮出している
464	242	1	E-1	遺構外		甕	口縁-頸部	(15.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコハケ-タテハケ	ナデ-ナタメハケ	無	・二次的に火を受けたものでは?
465	239	1	E-1	遺構外		甕	頸部-胴部	(不明)	不明	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ナデ-刺突文-タタキ	ナデ-ナタメハケ・タテハケ	有	

第16表 遺物観察表その16

番号	原図No	地区	遺構名	遺構番号	器種	部位	口徑	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
466	240	E-1	遺構外		甕	胴部-底部	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR8/3	赤褐色粒角四石長石石英	良好	タタキ-タテハケ-タタキ	ナナメハケ-ナデ-ハケ・ヘラミガキ	有	無
467	236	E-1	遺構外		甕	肩部-底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒角四石長石石英	良好	細目-タタキ後タテハケ-タタキ デ後タテハケ	ナナメハケ-剥離している一部ナ ナメハケ	有	・歪である・肩部に剥離?のようなの ものあり
468	244	E-1	遺構外		鉢	口縁	18	13.2	灰白色 10YR8/1	角四石長石石英	良	タテハケ-ナデ	タテハケ-ナデ	無	・やや歪
469	244	E-1	遺構外		鉢	口縁-胴部	14	不明	明褐色 7.5YR7/2	角四石長石石英	良好	ナデ-タテハケ	ヨコハケ-ナデ	有	・やや歪
470	244	E-1	遺構外		鉢	口縁	12.6	9.3	灰白色 2.5YR8/2	長石石英	良	ナデ・タテハケ-ナデ・ヨコハケ	ナナメハケ-ナデ	有	・やや歪
471	245	E-1	遺構外		鉢	口縁-胴部	(15)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒角四石長石石英	良好	ナナメハケ-ナデ-ハケメ・ナデ	ナナメハケ-ナデ-ハケメ	有	無
472	245	E-1	遺構外		鉢	口縁-底部	14	6.5	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒長石	良好	ランダムなハケメ	ヨコハケ	無	・外器面口縁付近水分足りず?ヒビ 割れ状態
473	245	E-1	遺構外		台付鉢	口縁-底部	11.1	7.7	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒角四石長石石英	良	ヨコナデ	ヨコナデ	無	・孔2対で3ヶ確認
474	245	E-1	遺構外		台付鉢	口縁-底部	12.2	9.6	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒角四石長石石英	良	ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ-ヘラミガキ-ヨコナデ	有	・孔2対で2ヶ確認
475	217	E-1	遺構外	41	台付鉢	口縁-胴部	(11)	4.9	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒角四石長石石英 英雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ後ナデ-ナナ メハケ後ヨコナデ	ヨコナデ-磨減している	無	・少し歪
476	242	E-1	遺構外		台付鉢	口縁-胴部	(13)	不明	褐色 10YR6/1	角四石長石石英	良好	ナデ-ヘラミガキ-ナデ	ナデ-ハケメ	有	無
477	250	E-1	遺構外		高坏	口縁-体部	(25.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒角四石長石石英	良好	ヨコナデ-ナデ	ヨコナデ-ヨコハケ後ヘラミガキ	無	無
478	252	E-1	遺構外		器台	口縁	12	16.6	浅黄褐色 7.5YR8/6	角四石長石	良好	タテハケ-ナデ	ナデ・ヘラミガキ	無	無
479	262	E-1	遺構外		ジョッキ形	胴部-底部	(12)	不明	明黄褐色 10YR7/6	角四石長石	良好	ナデ-ヨコナデ	指調整後ナデ-ヨコナデ	無	無
480	242	E-1	遺構外		ジョッキ形	胴部	不明	不明	灰白色 10YR8/2	角四石長石	良好	タテハケ-ナデ	指調整後ナデ	有	無
481	259	E-1	遺構外		ミニチュア (高坏)	頸部-脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	角四石長石石英	良好	指ナデ	指ナデ	無	・継な作りをしている
482	259	E-1	遺構外		ミニチュア (鉢)	口縁-底部	(7)	2.5	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石長石	良好	指調整・ナデ	指調整・ナデ	無	・とても至な形
483	259	E-1	遺構外		ミニチュア (鉢)	口縁-底部	5.1	2.3	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒角四石長石石英 英雲母	良好	指調整	ヘラ調整後指調整	無	無
484	259	E-1	遺構外		ミニチュア (鉢)	口縁-底部	(4.7)	2.5	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石長石石英	良好	指調整・ナデ	ナデ	無	有
485	242	E-1	遺構外		把手	破片	不明	不明	黄灰色 2.5Y4/1	角四石長石石英	良好	ナデ	ナデ	無	・ジョッキの把手か?
486	269	E-1	遺構外		ミニチュア (高坏)	脚部	不明 (底) 2.2	不明	褐色 7.5YR7/6	角四石長石	良好	ナデ	ナデ	無	・歪である
487	268	E-1	遺構外	S-17	石包丁	ほぼ完形	不明	不明	褐色 7.5YR4/1	-	-	-	-	-	・重さ57g
488	268	E-1	遺構外		石包丁	破片	不明	不明	暗紫灰色 5Y3/1	-	-	-	-	-	・重さ28.7g
489	214	E-1	遺構外	S-18	砥石	破片	縦11.4横 5.2	不明	灰白色 10YR8/2	-	-	-	-	-	・剥れた後拭き直している
490	270	E-1	遺構外		砥石	破片	不明	不明	灰色 7.5YR6/1	-	-	-	-	-	・砂岩製3面が紙石・重さ179.5g
491	272	E-1	遺構外		石臼	破片	縦19.6mm 横6.8mm	不明	暗紫灰色 2.5Y4/2	-	-	-	-	-	・重さ122g
492	215	W-1	遺構外	36	甕	口縁-胴部	(14)	不明	黒色 N2/	角四石長石石英英雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-タテハケ	有	・重さ280g
493	215	W-1	遺構外	22	甕	底部-脚部	不明 (底) 13.4	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	角四石長石石英英雲母	良好	ナデ	ナデ	無	無
494	282	W-1	遺構外		甕	口縁-頸部	(15.2)	不明	にぶい褐色 5YR7/4	長石雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヨコハケ	無	・内、外にペンガラ塗布
495	269	W-1	遺構外		甕	胴部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石長石石英	良好	ヨコナデ・突部に波状文	ナナメハケ	無	無
496	224	W-1	遺構外	48	甕	口縁-胴部	(22.5)	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒角四石長石 母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ-タ タキ後ナナメハケ-タタキ後ヘラ 調整	ヨコナデ・ナナメハケ-ナナメハ ケ-ナナメハケ後ヘラ調整	有	・内器面粘上継目が顕著肩部に線 刻・口縁外器面に赤色顔料

第17表 遺物観察表その17

番号	原図版	枝数	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
497	216		W-1	遺構外	23	壺	胴部-底部	(不明) (底) 8	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ・ナデ-ナデ	タテハケ-ヘラケズリ	有	
498	220	2	W-1	遺構外	21	壺	底部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ヨコハケ-ヘラケズリ	有	
499	220	3	W-1	遺構外	21	鉢	口縁-底部	(19.5)	7.6	淡黄色 2.5YR8/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ランダムなハケメ後ナデ	ナデ-ハケメ	有	
500	246	1	W-1	遺構外		鉢	口縁-底部	20	7.4	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	タテハケ-ランダムなハケメ	ナデ	有	
501	222		W-1	遺構外	326	鉢	口縁-胴部	(33.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良	ナデ-タテハケ	ナデ-ヨコハケ	有	・激しく熱を受けている内器面に煤 付着
502	269	3	W-1	遺構外		石包丁	破片	不明	不明	灰色 N6/	-	-	-	-	-	・重さ14.2g
503	269	2	W-1	遺構外		石包丁	破片	不明	不明	黄灰色 2.5YR5/1	-	-	-	-	-	・重さ7.5g
504	269	4	W-1	遺構外		ガラス玉		縦3.8mm 横3.6mm			-	-	-	-	-	・J11.8mm
505	220	1	W-1	遺構外	32	鉢 (土師器)	口縁-底部	(12.2)	5.8	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナデ-ヘラケズリ	ナデ	無	
506	219	2	W-1	遺構外	354	坏 (土師器)	口縁-底部	(15)	3.1	浅黄褐色 7.5YR8/6	角四石 長石 石英	良好	ナデ-ヘラケズリ	ナデ	有	
507	219	3	W-1	遺構外	50	坏身 (須恵器)	ほぼ定形	12.4	1.9	灰白色 2.5YR7/1	角四石 長石	良好	ナデ	ナデ	無	
508	276		E・W-1	遺構外		壺	口縁-胴部	(20.5)	不明	灰白色 7.5YR8/2	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-ナナメハケ-タテハケ後タテ ハケ-タテハケ-タテハケ	ヨコハケ-ナデ	有	
509	277		E・W-1	遺構外		壺	口縁-胴部	(18.6)	不明	褐色 5YR7/6	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ヨコナデ-ナナメハケ-タテ・ヨ コベラミガキ	ヨコハケ後ナデ-タテハケ後ナデ ナデ	有	
510	275		E・W-1	遺構外		脚台付壺	胴部-胴部	(不明)	不明	淡褐色 5YR8/3	赤褐色粒 長石 石英	良好	タテハケ-ナデ-タテハケ・ナデ	ハケ-不明瞭-ナデ	有	
511	281		E・W-1	遺構外		壺	口縁-肩部	19	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石	良	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ- ヨコナデ-ナナメハケ	ヨコナデ-ナナメハケ	無	・剥離が激しい
512	279		E・W-1	遺構外		壺	肩部-底部	(不明) (底) 7	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナナメハケ後ヨコナデ後ヨコナデ- ナメハケ後ナデ-ナデ	ナナメハケ後ヨコナデ-ナナメハ ケ後ナデ-ナデ	有	
513	280		E・W-1	遺構外		壺	口縁-底部	(11.6)	19.8	にぶい赤褐色 5YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ- ナナメハケ-ナデ	ヨコナデ-ナナメハケ-ナナメハ ケ後ナデ	有	・分厚く、重い
514	283		E・W-1	遺構外		鉢	口縁-胴部	11.6	不明	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 長石	良好	タテハケ-ヨコナデ-タテハケ・ ナナメハケ-タテハケ	ヨコナデ-ヨコハケ	有	
515	282	1	E・W-1	遺構外		鉢	ほぼ定形	11.3	8.1	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ-タテハケ後ヨコナデ- ハケメラランダムに混じる-ナデ	ヨコナデ-ナデ	有	・内器面にも赤色顔料付着、朱かも？ ・滴の痕あり
516	259	7	E・W-1	遺構外		ミニチュア (甕)	口縁-胴部	(6.5)	不明	黄褐色 10YR8/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	指ナデ・ヘラナデ	指ナデ	無	・内器面に指紋痕残る
517	284		E・W-1	遺構外		把手	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	ランダムなハケメ		有	
518	237	2	E-2	遺構外		壺	口縁-頸部	(24.8)	不明	浅黄褐色 7.5YR8/6	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	胴目-ヨコナデ-タテハケ-ナデ -胴目	ヨコナデ-ナデ-ヨコハケ	無	
519	213	1	E-2	遺構外	115	コップ形	定形	(12.3)	8.2	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ-ナデ-ヨコナデ	有	・胴に施成前の穿孔1ヶあり、他2ヶ 所は欠けている
520	268	3	E-2	遺構外		石包丁	破片	不明	不明	灰色 7.5YR5/1	-	-	-	-	-	・重さ11.7g
521	218	2	W-2	遺構外	50	小型壺	口縁-肩部	(15.9)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ-薄いタテハケ	ナデ	無	
522	218	3	W-2	遺構外	328	甕	胴部	不明 (底) 10.1	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ後ヨコハケ	有	
523	227		W-2	遺構外	328	壺	口縁-胴部	(18.2)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-タテハケ・波状文1本-タ テハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	
524	221		W-2	遺構外	325	甕	頸部-胴部	不明 (底) 17.7	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナナメハケ-ナデ-タテハケ-ナ デ	ランダムなハケメ-ヨコハケ	有	・歪な形をしている
525	263	2	W-2	遺構外		壺	頸部-肩部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良好	線刻文-波状文	ナナメハケ後ナデ	有	
526	225		W-2	遺構外	48	壺？	胴部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナナメハケ後ナデ-タテハケ後ナ メハケ後ヨコナデ	ナナメハケ	有	・線刻あり (形は不明)
527	213	2	W-2	遺構外	116	把手付鉢	口縁-胴部	6.7	7.3	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ後ヘラミガキ	無	

第18表 遺物観察表その18

番号	原図	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色図	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	取斑	備考
528	263	1	W-2	遺構外		縄文土器	口縁部	(19.8)	不明	黒褐色 7.5YR3/4	赤褐色粒 石 石英 角四石 長 石 雲母	良好	ナナメハケ後ヨコナデ	ナナメハケ後ヨコナデ	無	無
529	223		W-2	遺構外	329	ミニチュア (鉢)	ほぼ完形	7.9	4.6	灰白色 10YR8/2	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	指調整・ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラケズリ	無	無
530	263	3	W-2	遺構外		ミニチュア (コップ形)	胴部・底部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ・ナデ	ナナメハケ後ナデ	有	無
531	263	4	W-2	遺構外		ミニチュア (コップ形)	口縁・胴部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	赤褐色粒 石 石英 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無
532	253	1	W-2	遺構外		甌	口縁・胴部	(26.6)	不明	褐色 7.5YR7/6	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	無	有
533	253	2	W-2	遺構外		甌	胴部・底部	(不明) (底) 20.8	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナデ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	無	有
534	253	3	W-2	遺構外		甌	口縁・胴部	(25.8)	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	無	・胎土に白粘土含む
535	265	1	北側一括	遺構外		壺	頸部・肩部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英	良	タテハケ・三角突帯・タテハケ・ 胎土突帯	ハケ調整	無	・底の肩部に胎土突帯あり
536	265	2	北側一括	遺構外		壺	底部	不明 (底) 7	不明	灰白色 10YR8/2	角四石 長石 石英	良好	ナデ・1本の線刻あり	ナデ	無	・底部に焼く7.7cmの1本線の線刻あり
537	265	3	北側一括	遺構外		把手	把手	長さ5cm 11.3cm	厚さ7mm	暗灰色 N3/	長石	良好	ナデ後刺突文	ナデ後ハケ調整	無	・木蓋しなどに付けるヨコナデの把 手、表面には黒色の刺突文を通して ある
538	266	4	北側一括	遺構外		ミニチュア	胴部・脚部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	有	・少し歪
539	266	5	北側一括	遺構外		ミニチュア	胴部・脚部	(不明)	不明	灰黄褐色 10YR4/2	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	無
540	266	7	北側一括	遺構外		ミニチュア (鉢)	完形	縦2.15 横2	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石	良好	ナデ		無	無
541	266	6	北側一括	遺構外		把手	把手	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ナデ		無	無
542	266	3	北側一括	遺構外		壺 (縄文)	口縁部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	タテ・ナナメ沈線文・ナデ	ヨコナデ	有	無
543	266	1	北側一括	遺構外		石包丁	破片	不明	3.4	暗灰色 N3/	-	-	-	-	-	・重さ22.8g
544	257	2	E・W-2	遺構外		手づくね	破片	不明	不明	黄灰色 2.5Y5/1	角四石 長石 石英	良好	指調整	ヘラ調整	無	無
545	257	1	E・W-2	遺構外		高坏	頸部	(不明)	不明	明褐色 7.5YR5/6	赤褐色粒 石 石英 角四石 長 石 雲母	良好	ナデ	ヘラミガキ	無	・坏下に赤色顔料付着
546	257	3	E-3	遺構外		ガラス玉	完形	縦6mm 横3.5mm		青色	-	-	-	-	-	無
547	218	1	W-3	遺構外	49	甌	口縁・肩部	(22.5)	不明	褐色 10YR4/1	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ヨコナデ・タテハケ後ヨコナデ	ヨコナデ・ナナメハケ	有	無
548	219	1	W-3	遺構外	334	器台	口縁・底部	(9.3)	13.7	褐色 10YR4/1	角四石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・タテハケ・指痕・タテ ハケ・指調整	ヨコハケ・ヘラケズリ	無	・手で握り締めた感じ難い作り
549	226		W-3	遺構外	406	甌 (須置器)	口縁・底部	15.2	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	有
550	212		W-4	遺構外	147	鉢	口縁・底部	(12.3)	不明	淡褐色 2.5YR6/3	角四石 長石 石英	良好	ヨコナデ・タテハケ・ヘラケズリ	ナデ	有	無
551	258	2	W-6・7	遺構外		ミニチュア (石付鉢)	口縁・胴部	(7)	不明	灰白色 2.5YR6/1	角四石 長石	良	ナデ・タテハケ	ナデ・ハケ調整	有	無
552	258	1	E-7	遺構外		壺 (甌)	口縁・胴部	(8)	不明	褐色 5YR7/6	長石	良好	ナデ・タテハケ・ナデ	ナデ・ハケ調整	有	無
553	267	1	E-7	遺構外		壺?	肩部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ナデ	ヨコハケ	無	無
554	267	2	E-7	遺構外		把手	破片	不明	不明	灰黄褐色 10YR4/2	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ハケメ		有	・スプーン形土器の柄では?
555	267	3	E-7	遺構外		縄文土器	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 石 雲母 角四石 長 石 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	無
556	267	4	E-7	遺構外		縄文	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	角四石 長石 石英	良好	ナデ・刻II	ナデ	無	無
557	267	5	E-7	遺構外		甌石	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	-	-	-	-	-	・重さ23.7g
558	243		W-7	遺構外		鉢	口縁・胴部	(13.2)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石	良	タテハケ後ナデ・タテハケ・ヘラ ミガキ	ナナメハケ・ナデ	有	・外器面は細かいハケメ痕跡が見ら れる

第19表 遺物観察表その19

番号	原図地	柱番	地区	遺構名	遺構番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	底斑	備考
559	234		W-7	遺構外		甕	底部	(不明) (底) 9	不明	にぶい褐色 7.5YR7/3	角四石 長石	良好	タテハケ-ヘラケズリ	タタキ後ヘラミガキ	無	・底部拓本
560	200	3	西側	周溝		把手	破片	不明	不明	灰黄色 2.5YR7/2	長石	良好	指調整		無	・横方向に付いていたのだろう
561	200	1	西側	周溝		瓶 (須臾器)	口縁-頸部	(10)	不明	オリーブ灰色 2.5GY6/1	長石	良好	ナデ-沈線-ナデ	ナデ	無	・内外とも丹塗り
562	200	2	西側	周溝		杯 (土師器)	口縁-底部	(16)	3	褐色 5YR6/8	長石	良好	ナデ-ヘラケズリ	ナデ	無	・断面共底石にしたのか、研いだ痕が見られる
563	200	4	西側	周溝		磨石	破片	不明	不明	-	-	-	-	-	-	・全体的に丸みを持つ、カドは研柄してある、少しヒビが入る
564	274		南側一括	遺構外		ガラス玉	ほぼ完形	径4mm 高4mm	41mm	細褐色 10YR7/3	赤褐色粒 角四石 長石	良好	摩滅している為不明瞭		無	・重さ4.2g
565	254	3	南側一括	遺構外		? 鉢車	ほぼ完形	径4.5 横4.7	不明	にぶい黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-ナナメハケ	ナデ-ヨコハケ	有	・中世のもの?
566	254	1	南側一括	遺構外		鉢	口縁部	(30)	不明	暗灰色 N3/	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナデ-ハケメ	ヨコハケ	無	・中世のもの?
567	254	2	南側一括	遺構外		鉢	口縁部	(23.5)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	赤褐色粒 石 石英	良好	ノミで削って調整	ノミで削って調整	無	・穴を2つ確認、突筋に刻み目あり、通し穴だったのか?
568	260	1	南側一括	遺構外		石鍋	口縁部	(19.8)	不明	褐色 10YR6/1	-	-	ノミで削って調整	ノミで削って調整	有	・穴を1つ確認、二次加工して磨帯カイトとして使用された物では?
569	260	2	南側一括	遺構外		石鍋	破片	不明	不明	黄褐色 2.5Y5/1	-	-	ノミで削って調整	ノミで削って調整	有	・やや歪
570	237	1		遺構外		小型壺	口縁-底部	(12.8)	11.9	浅黄褐色 10YR8/4	赤褐色粒 石 石英	良好	ナデ-ヨコハケ	ナデ-ヘラケズリ-ヘラ調整-ヘラケズリ	有	
571	247	1		遺構外		鉢	口縁-底部	16.2	11.3	にぶい黄褐色 10YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ナデ-タテ・ヨコハケ	ナデ	無	
572	247	2		遺構外		鉢	口縁-底部	(14.4)	6	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 石 石英	良好	ナデ-ヨコハケ-底・ヘラ調整-細ハケメ	ナデ-タテ・ヨコハケ-底・ヘラ調整	有	・内器面底部剥離している
573	247	3		遺構外		飯	完形	12.4	9.1	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 石英	良好	ナデ-ナナメハケ-ヘラケズリ-ヘラ調整	ナデ-ヘラケズリ	無	・やや歪
574	256	3	南2側	遺構外		甕	破片	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ・線刻か?	摩滅している為不明瞭	無	・線刻らしき痕あり、舟の形?
575	256	2	南2側	遺構外		土罐	ほぼ完形	径4.4 横1.1	不明	にぶい黄褐色 10YR3/5	長石 雲母	良好	指調整		有	・重さ3.5g
576	256	1	南2側	遺構外		杯 (土師器)	口縁-底部	(12.8)	3.7	明褐色 2.5YR5/6	赤褐色粒 角四石 長石 石英	良好	ナデ-底に粘土紐痕あり	ナデ	無	
577	232	4	一括	遺構外		甕	口縁-頸部	(29)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ-タテハケ	ナデ	無	
578	233		一括	遺構外		甕	口縁-胴部	15.6	不明	淡黄色 2.5YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石	良好	ヨコナデ-タタキ後ナナメハケ	ヨコナデ-ヘラケズリ	有	・底部にヘラ記号? 3横線あり
579	232	1	一括	遺構外		甕	底部-脚部	(不明) (底) 15.9	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ヨコハケ-砂利・ナデ	有	
580	211		一括	遺構外	333	壺	口縁-頸部	(22.6)	不明	褐色 5YR6/6	角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ後ナデ-ナデ-タテハケ	ナナメハケ-ヨコナデ-ナナメハケ	無	・長石、雲母多く含む、粒が大きい
581	238	1	一括	遺構外		壺	口縁-胴部	(18)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ-大きいナナメハケ-小さいナナメハケ-胴口-タタキ後ナナメハケ	ヨコナデ-ヨコハケ-指押さえ-ナナメハケ	有	
582	241	2	一括	遺構外		壺	口縁-頸部	(18.1)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ヨコハケ	有	
583	241	1	一括	遺構外		壺	口縁-胴部	18.5	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ-竹管文?	ナデ	無	
584	232	3	一括	遺構外		甕	口縁-胴部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-ナナメハケ	ナデ	有	
585	241	4	一括	遺構外		壺	胴部	不明	不明	褐色 7.5YR7/6	角四石 長石 石英	良好	ナデ	ナデ	無	
586	241	3	一括	遺構外		壺	胴部	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	赤褐色粒 角四石 長石 雲母	良好	ナデ-タテハケ	ナデ-ナナメハケ	有	
587	246	2	一括	遺構外		鉢	底部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/3	角四石 長石 雲母	良好	ナデ	ヨコハケ	有	
588	246	5	一括	遺構外		鉢	底部	不明	不明	褐色 5YR6/6	赤褐色粒 角四石 長石	良好	タテハケ	ヨコハケ	無	・底に記号線? あり
589	249		一括	遺構外		高杯	ほぼ完形	20.5	16.4	褐色 5YR7/8	赤褐色粒 長石	良好	タテハケ-ナデ-沈線1本・ヨコハケ	ナデ・ハケメ-ヘラケズリ-ナデ・ハケメ	有	・杯部はやや車脚に1本の沈線が1周・赤色顔料が塗ってあったか?

第20表 遺物観察表その20

番号	原図No	枝番	地区	遺構名	遺物番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・混入物	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	備考
590	251		一括	遺構外		高坏	頸部-脚部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ-ヘラケズリ-ナデ	ヨコナデ-ヘラケズリ・ナデ-ナ デ	有	無 ・坏部を故意に打ち欠いている
591	261	3	一括	遺構外		ミニチュア (器台)	脚部	不明	不明	灰黄褐色 10YR6/2	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ-ヨコハケ	有	無 ・孔2対で1ヶ確認
592	246	3	一括	遺構外		台付鉢	底部-脚部	(不明)	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ-底・未調整	タテハケ	有	無 ・雑な作りをしている
593	246	4	一括	遺構外		鉢	口縁-底部	9.3	7	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 雲母	良好	ナデ-ハケメ-底・手で調整?	ナデ-ヨコハケ	有	無 ・手づくねか?
594	261	1	一括	遺構外		片口鉢	口縁部	不明	不明	褐色 10YR4/1	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ハケメ-ヘラケズリ	ナデ	無	有
595	248		一括	遺構外		瓶	口縁-底部	13.2	9.7	浅黄褐色 10YR8/3	赤褐色粒 角四石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-ナナメハケ後ナデ	ナナメハケ	有	無 ・底部に焼成前の穿孔が1ヶあり
596	199	3	一括	遺構外		碗	底部	(不明)	不明	灰色 N4/		良好	回転ナデ	ヘラミガキ	無	無
597	262	2	一括	遺構外		把手	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	タテハケ		無	無
598	262	3	一括	遺構外		把手	破片	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2	長石 雲母	良好	外側3面を多数の刺突文で覆って いる	ナデ	無	無 ・体部との接合痕が明瞭である
599	261	2	一括	北土器 溜		鉢?	口縁部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ-渦巻状の模様?	ヨコハケ後ナデ	有	無
600	238	2	一括	遺構外		小型壺	口縁-肩部	(6)	不明	にぶい褐色 7.5YR7/4	長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	無
601	262	5	一括	遺構外		ミニチュア (箸)	底部-脚部	(不明)	不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	無
602	271	1	一括	遺構外		火を受け ている石	破片	縦15.5mm 横11.7mm	不明	にぶい赤褐色 5YR4/4	-	-	-	-	-	無 ・上下共に赤く受熱
603	262	4	一括	遺構外		縄文土器深 鉢	口縁-肩部	(30)	不明	黒褐色 5YR3/1	長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ-タテハケ	ヨコナデ-ヨコハケ	無	無
604	232	2	一括	遺構外		鉢	口縁-肩部	(18.4)	不明	明赤褐色 2.5YR5/6	角四石 長石 石英 雲母	良好	ナデ	ナデ	無	無 ・丹塗りの土器
605	264	2	一括	遺構外		碗	破片	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4		良好	ナデ	ナデ	無	無 ・半分程鉄滓が付着・磁石反応少し あり
606	264	1	一括	遺構外		石鍋	把手	不明	不明	灰色 N6/	-	-	-	-	-	無 ・土具で削り出した跡が残る・把手 上部・口縁外面に板付着
607	273	1	一括	遺構外		小9無頸密 (ガラス玉 容器)	完形	3.8-4.2 楕円形	5	灰白色 10YR8/2	長石	良好	指によるヨコナデ-ナナメハケ- 指調整後ナデ	指によるヨコナデ-指ナデ	有	無 ・この中にガラス玉他削入っていた ・形も調整も、そう丁寧ではない
608	273	2	一括	遺構外		ガラス玉 (48例)	ほぼ完形	縦3mm 前後 横1.2-2.3mm	41.1mm 前後	水色	-	-	-	-	-	無 ・すべて同じ色をしている
	209	1		人溝		石包丁	破片	不明	不明	赤灰色 2.5YR4/1	-	-	-	-	-	無 ・重さ24.5g
	209	2		人溝		石包丁	破片	不明	不明	暗灰色 N3/	-	-	-	-	-	無 ・重さ14.5g
	255	1		遺構外		小型壺	頸部-肩部	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	角四石 長石 雲母	良好	ナデ・ハケメ	ナデ	有	無
	255	2		遺構外		縄文土器	破片	不明	不明	にぶい褐色 7.5YR5/3	角四石 長石 雲母	良好	押刺文	磨滅している為不明瞭	無	無

圖 版



1 調査区全景



2 調査風景



1 遺構検出作業風景



2 調査区全景



3 1号住居跡（北側から）



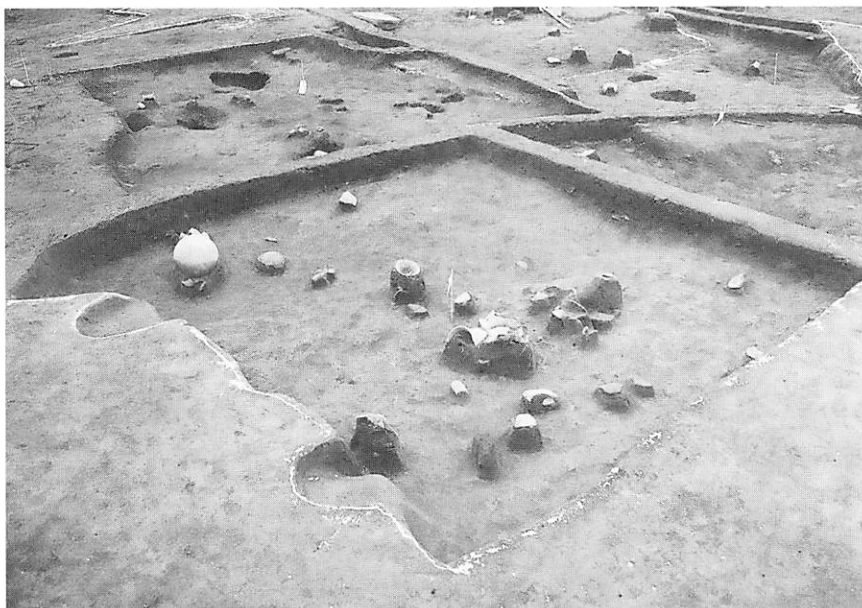
1 1号住居跡遺物出土状況



2 1号住居跡完掘状況



3 2号住居跡遺物出土状況



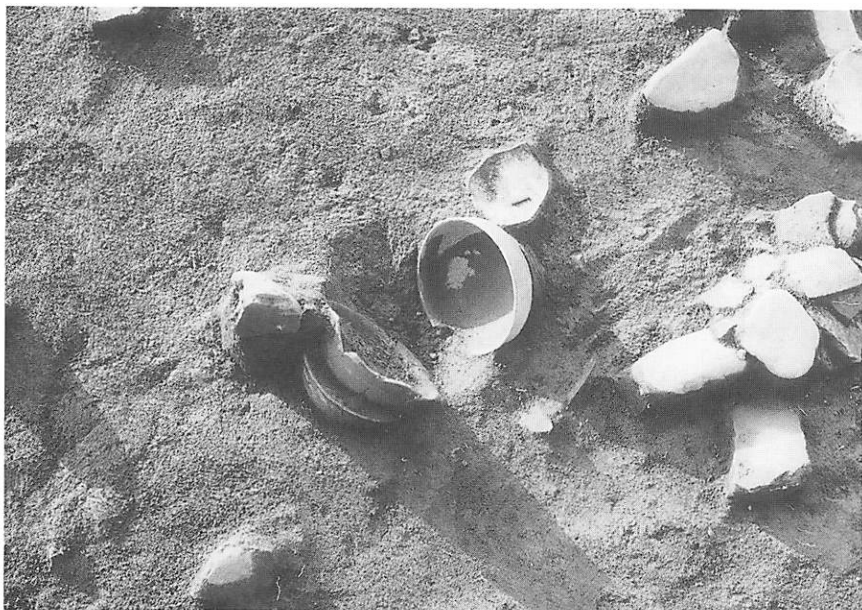
1 3号住居跡



2 2号住居跡と4号住居跡



3 5号住居跡遺物出土状況



1 5号住居跡遺物出土状況



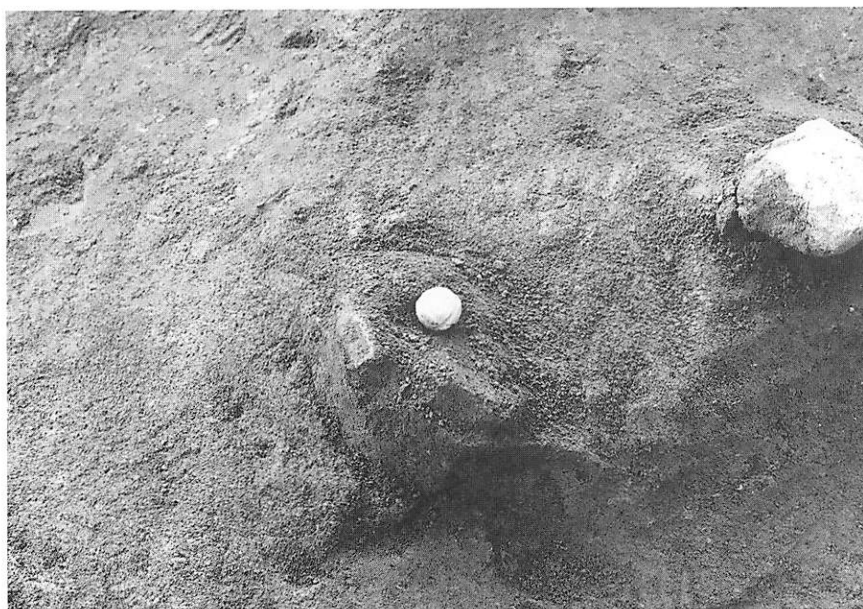
2 6号住居跡遺物出土状況



3 6号住居跡遺物出土状況



1 11号住居跡



2 11号住居跡遺物出土状況



3 12号住居跡



1 12号住居跡（東側から）



2 1号溝



1 2号溝



2 2号溝



3 2号溝



1 2号溝埋没後土器溜め



2 2号溝埋没後土器溜め



3 2号溝埋没後土器溜め



1 3号溝



2 3号溝



3 4号溝



1 4号溝（西側から）



2 4号溝（東側から）



3 4号溝遺物出土状況



1 大溝全景



2 大溝（西側部分）



3 大溝（東側部分）



1 大溝底面



2 周溝全景



3 周溝調査風景



1 1号住居跡出土遺物 (1)



5 1号住居跡出土遺物 (11)



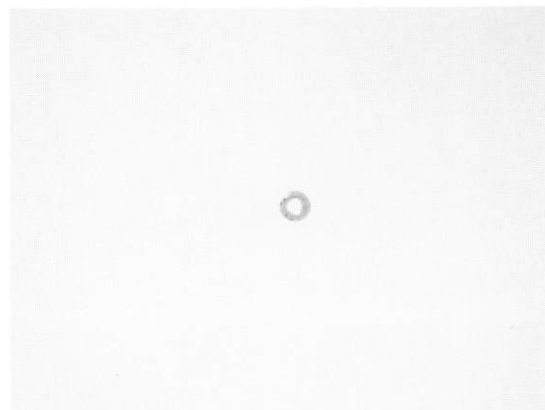
2 1号住居跡出土遺物 (4)



6 1号住居跡出土遺物 (12)



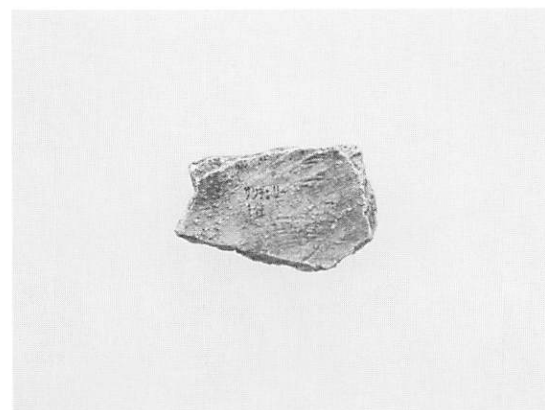
3 1号住居跡出土遺物 (6)



7 1号住居跡出土遺物 (13)



4 1号住居跡出土遺物 (8)



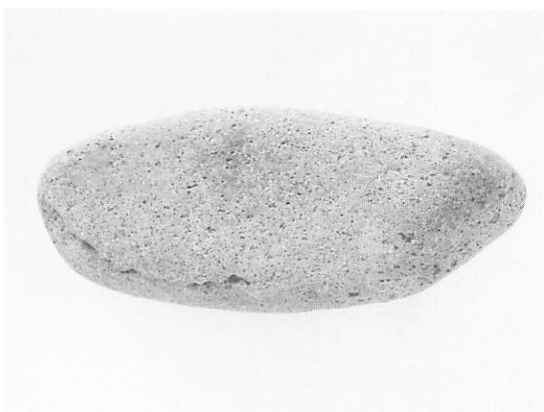
8 1号住居跡出土遺物 (14)



1 1号住居跡出土遺物 (15)



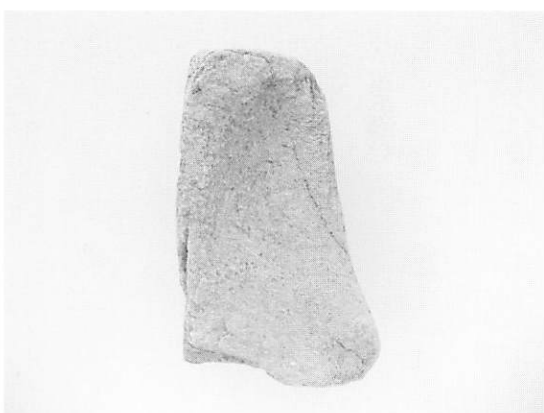
5 2号住居跡出土遺物 (19)



2 1号住居跡出土遺物 (16)



6 2号住居跡出土遺物 (24)



3 1号住居跡出土遺物 (17)



7 2号住居跡出土遺物 (27)



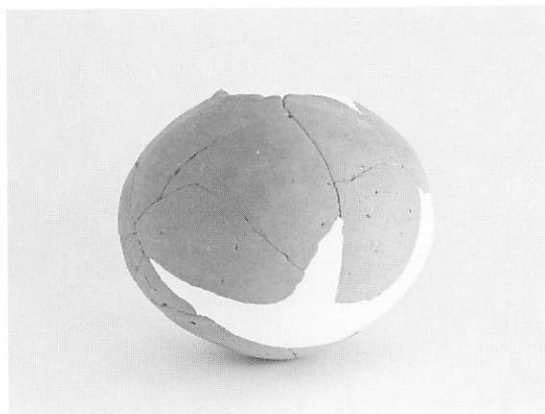
4 1号住居跡出土遺物 (18)



8 2号住居跡出土遺物 (27)



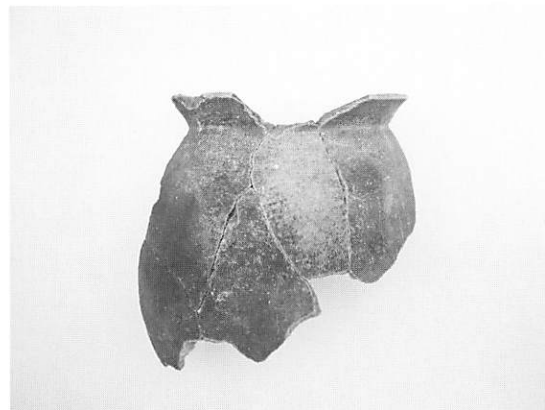
1 2号住居跡出土遺物 (27)



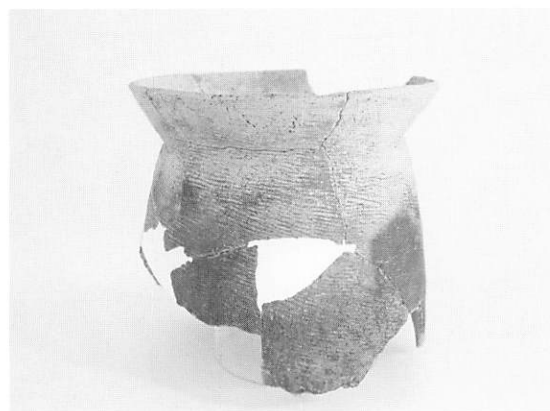
5 3号住居跡出土遺物 (32)



2 2号住居跡出土遺物 (27)



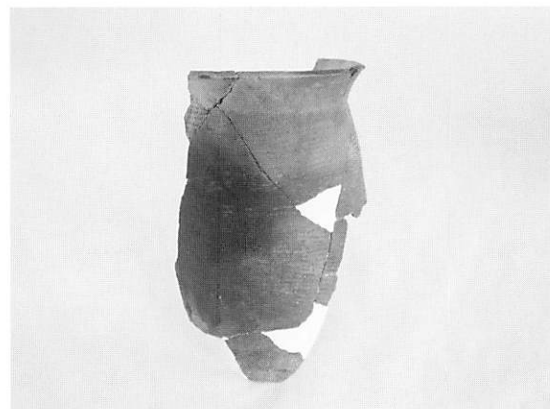
6 5号住居跡出土遺物 (36)



3 3号住居跡出土遺物 (28)



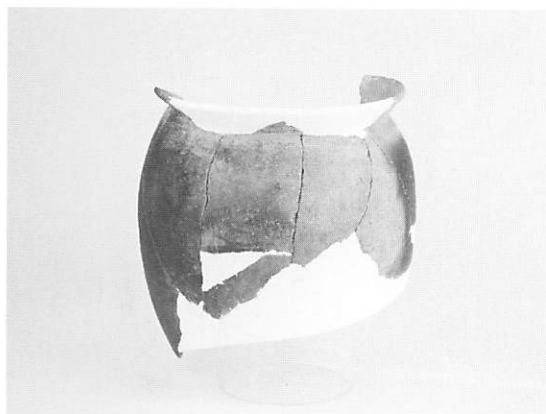
7 5号住居跡出土遺物 (37)



4 3号住居跡出土遺物 (29)



8 5号住居跡出土遺物 (39)



1 5号住居跡出土遺物 (41)



5 5号住居跡出土遺物 (48)



2 5号住居跡出土遺物 (42)



6 5号住居跡出土遺物 (48)



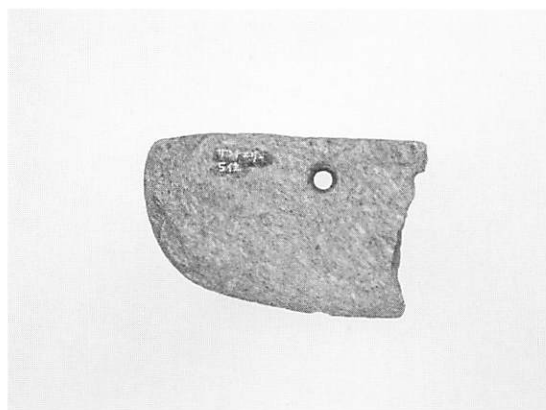
3 5号住居跡出土遺物 (45)



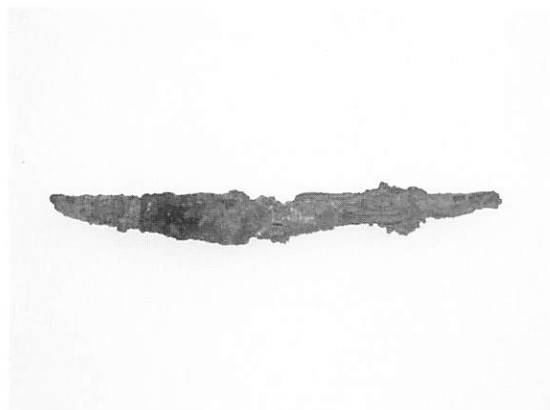
7 5号住居跡出土遺物 (48)



4 5号住居跡出土遺物 (46)



8 5号住居跡出土遺物 (49)



1 5号住居跡出土遺物 (50)



5 5号住居跡出土遺物 (53)



2 5号住居跡出土遺物 (51)



6 5号住居跡出土遺物 (54)



3 5号住居跡出土遺物 (51)



7 5号住居跡出土遺物 (55)



4 5号住居跡出土遺物 (52)



8 5号住居跡出土遺物 (55)



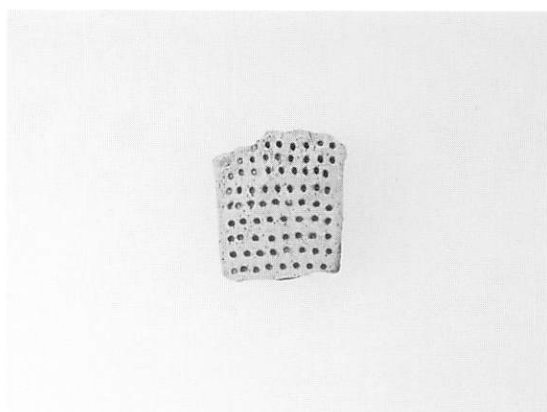
1 6号住居跡出土遺物 (56)



5 9号住居跡出土遺物 (69)



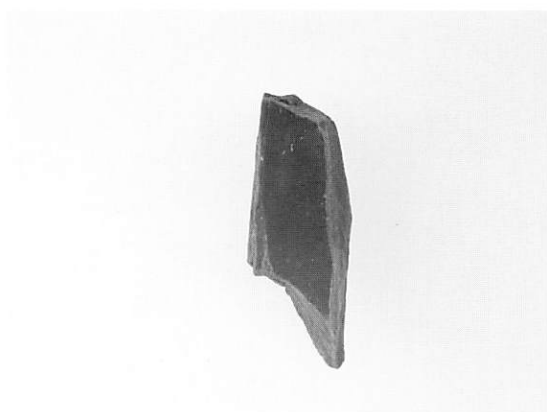
2 6号住居跡出土遺物 (57)



6 9号住居跡出土遺物 (70)



3 6号住居跡出土遺物 (62)



7 9号住居跡出土遺物 (71)



4 9号住居跡出土遺物 (68)



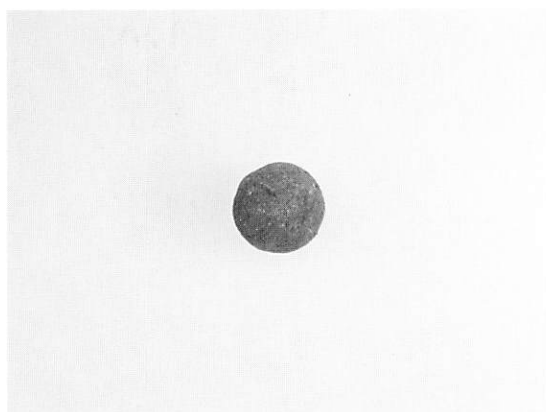
8 11号住居跡出土遺物 (73)



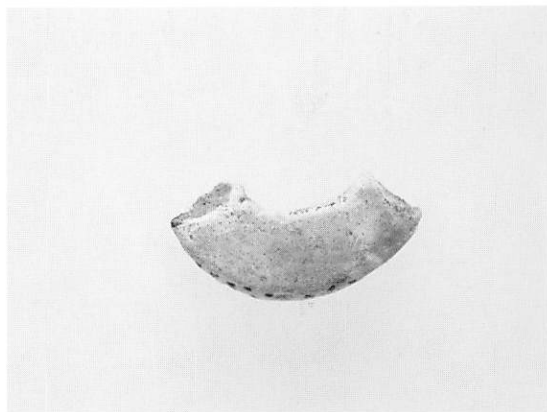
1 11号住居跡出土遺物 (76)



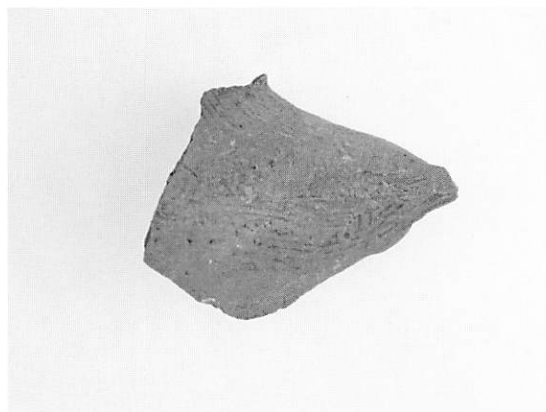
5 11号住居跡出土遺物 (79)



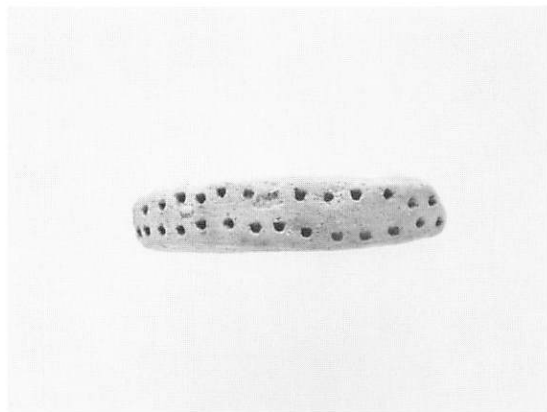
2 11号住居跡出土遺物 (77)



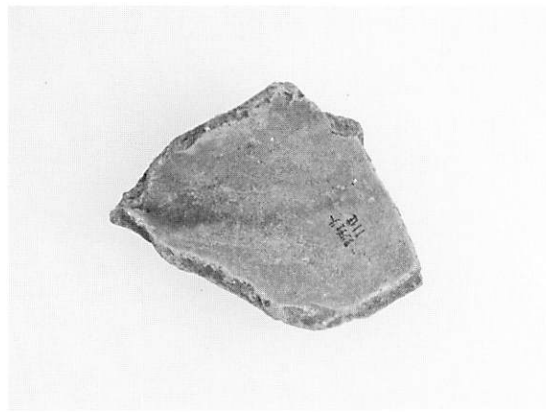
6 12号住居跡出土遺物 (84)



3 11号住居跡出土遺物 (78)



7 12号住居跡出土遺物 (84)



4 11号住居跡出土遺物 (78)



8 12号住居跡出土遺物 (88)



1 1号溝出土遺物 (89)



5 2号溝出土遺物 (96)



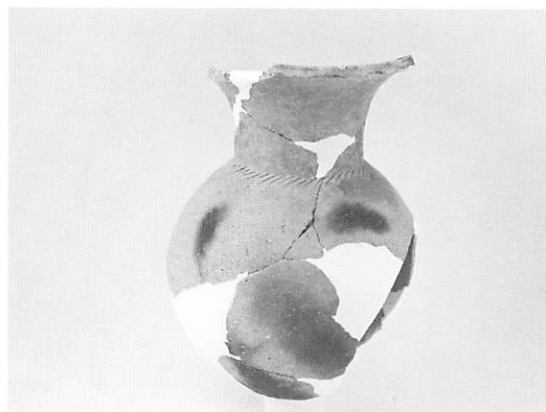
2 1号溝出土遺物 (90)



6 2号溝出土遺物 (100)



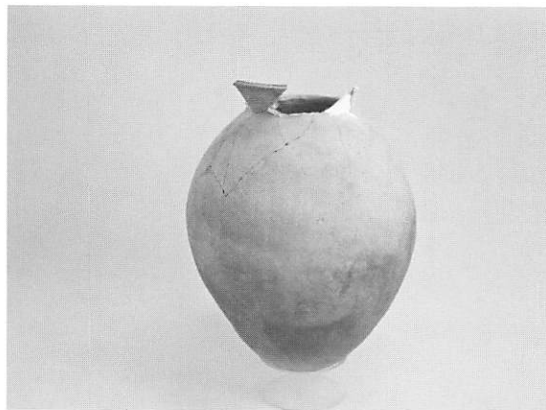
3 1号溝出土遺物 (92)



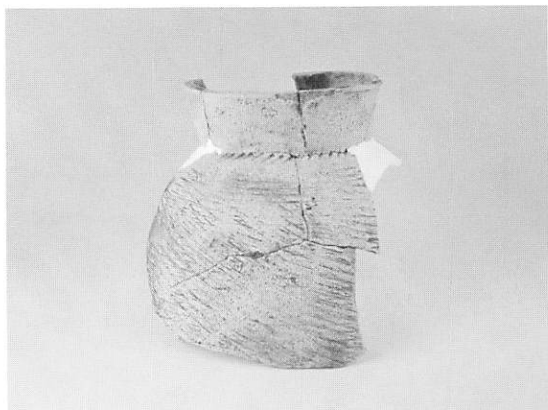
7 2号溝出土遺物 (101)



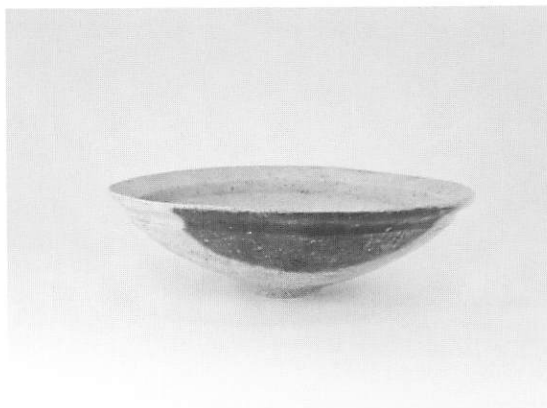
4 2号溝出土遺物 (93)



8 2号溝出土遺物 (106)



1 2号溝出土遺物 (107)



5 2号溝出土遺物 (112)



2 2号溝出土遺物 (108)



6 2号溝出土遺物 (115)



3 2号溝出土遺物 (110)



7 2号溝出土遺物 (118)



4 2号溝出土遺物 (111)



8 2号溝出土遺物 (122)



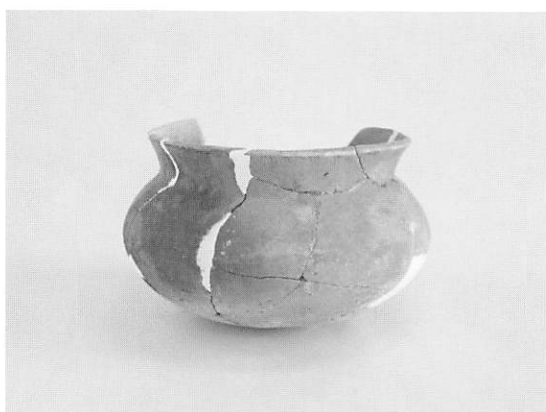
1 2号溝出土遺物 (123)



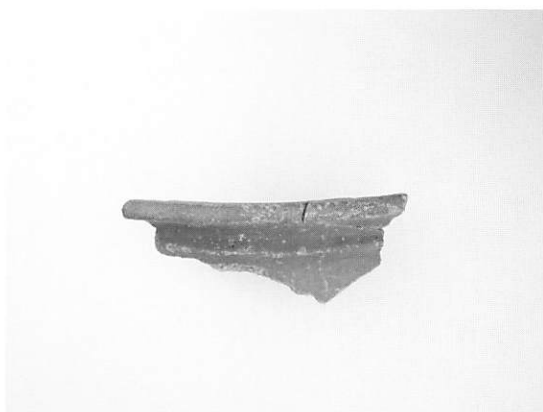
5 2号溝埋没後遺物 (134)



2 2号溝出土遺物 (124)



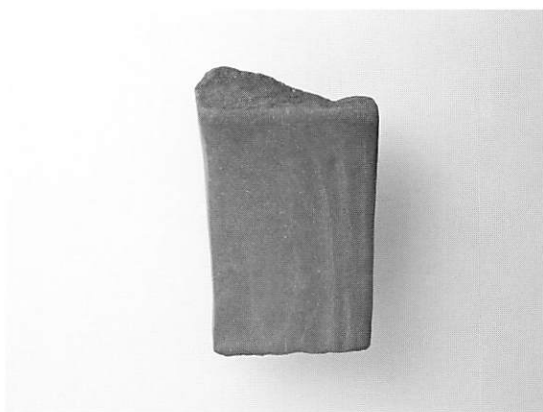
6 2号溝埋没後遺物 (137)



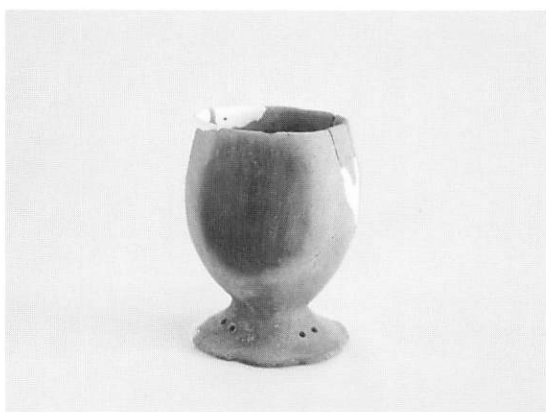
3 2号溝出土遺物 (125)



7 2号溝埋没後遺物 (139)



4 2号溝出土遺物 (127)



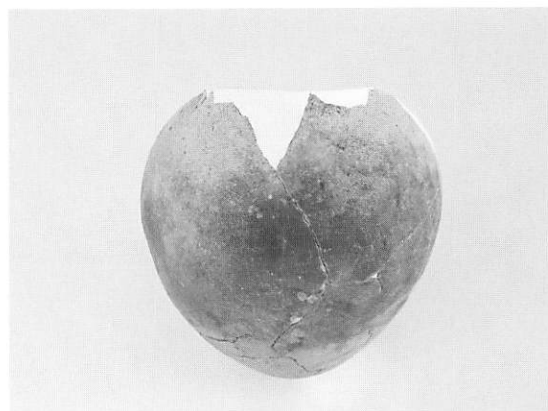
8 2号溝埋没後遺物 (140)



1 3号溝出土遺物 (146)



5 3号溝出土遺物 (155)



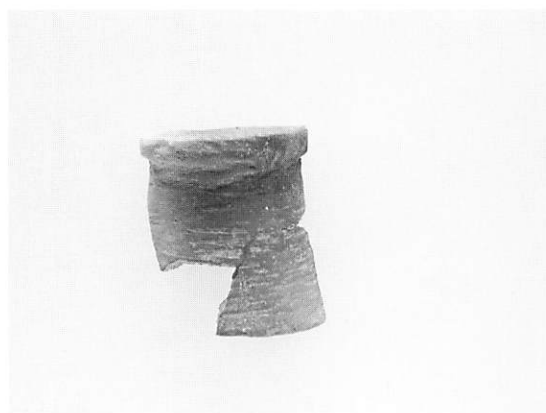
2 3号溝出土遺物 (147)



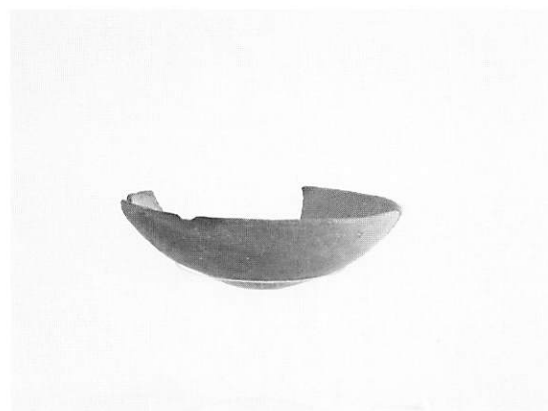
6 3号溝出土遺物 (160)



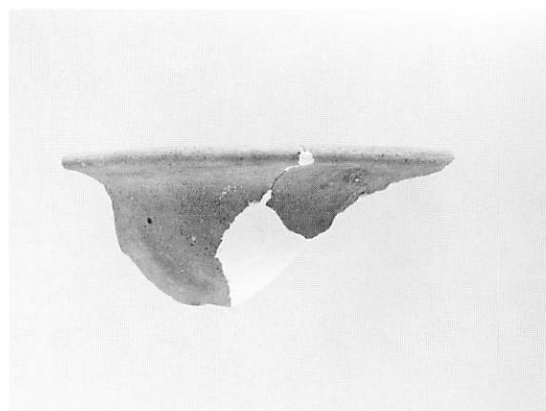
3 3号溝出土遺物 (149)



7 3号溝出土遺物 (161)



4 3号溝出土遺物 (153)



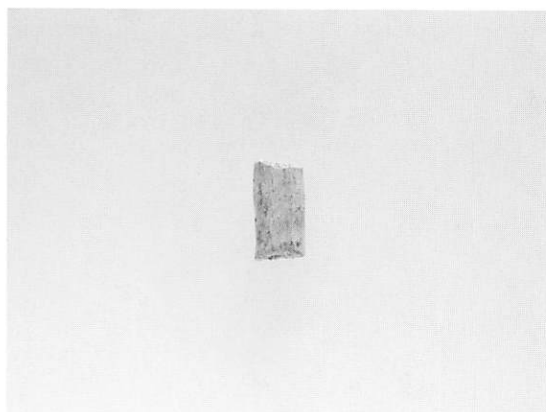
8 3号溝出土遺物 (162)



1 3号溝出土遺物 (164)



5 4号溝出土遺物 (168)



2 3号溝出土遺物 (165)



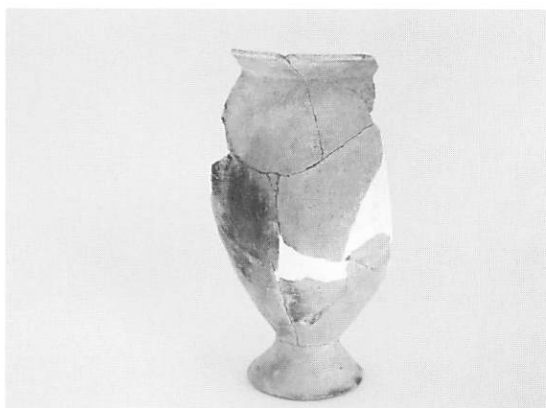
6 4号溝出土遺物 (169)



3 3号溝出土遺物 (166)



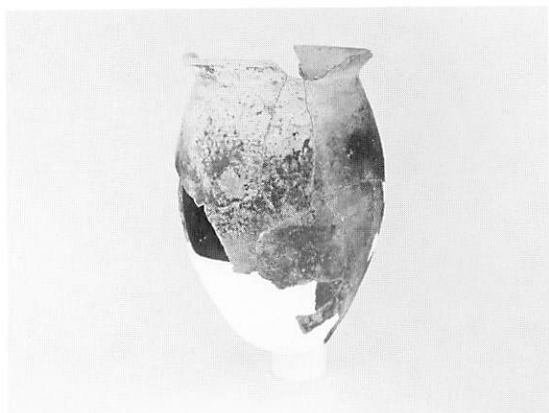
7 4号溝出土遺物 (170)



4 4号溝出土遺物 (167)



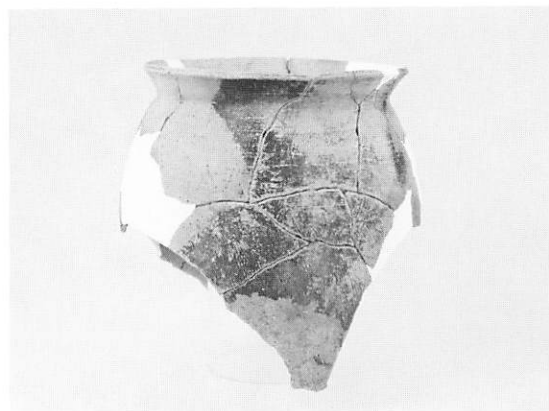
8 4号溝出土遺物 (171)



1 4号溝出土遺物 (172)



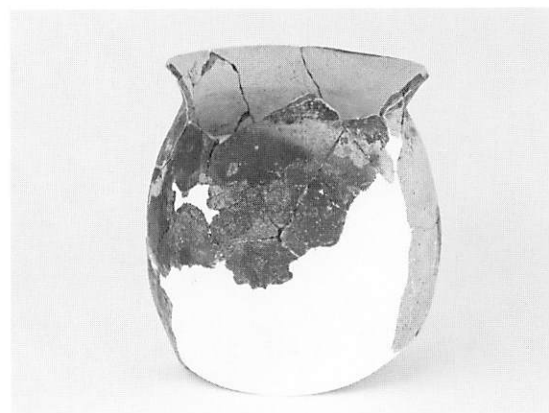
5 4号溝出土遺物 (182)



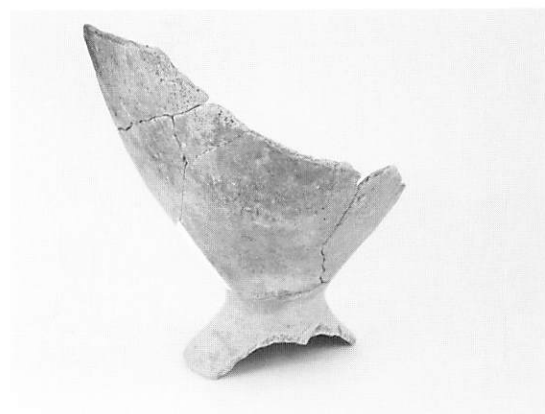
2 4号溝出土遺物 (177)



6 4号溝出土遺物 (183)



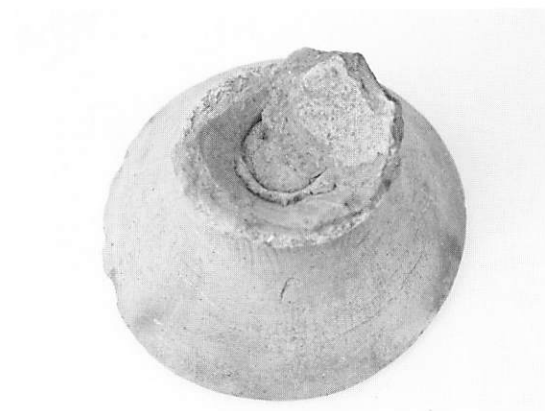
3 4号溝出土遺物 (179)



7 4号溝出土遺物 (187)



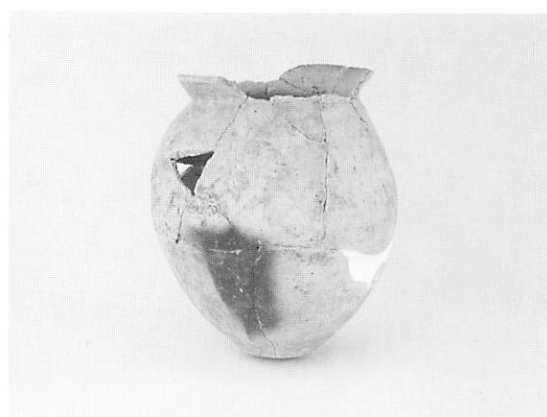
4 4号溝出土遺物 (181)



8 4号溝出土遺物 (195)



1 4号溝出土遺物 (198)



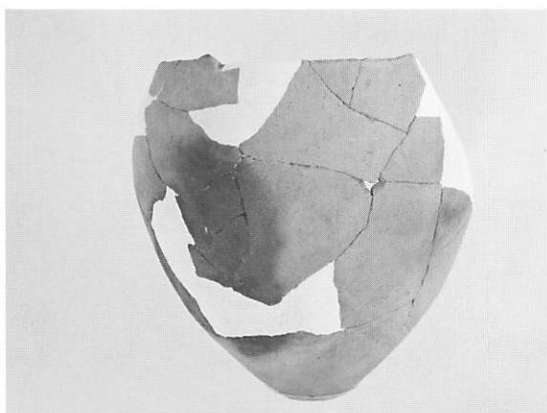
5 4号溝出土遺物 (202)



2 4号溝出土遺物 (199)



6 4号溝出土遺物 (203)



3 4号溝出土遺物 (200)



7 4号溝出土遺物 (204)



4 4号溝出土遺物 (201)



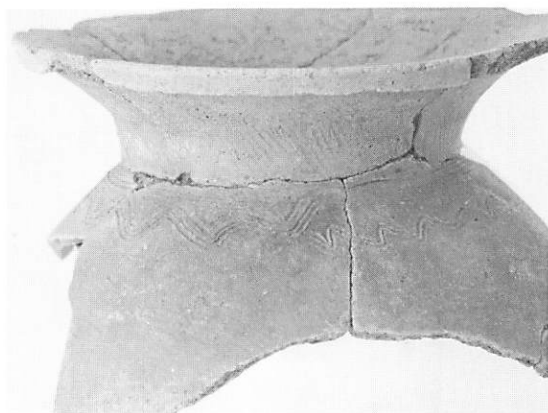
8 4号溝出土遺物 (206)



1 4号溝出土遺物 (207)



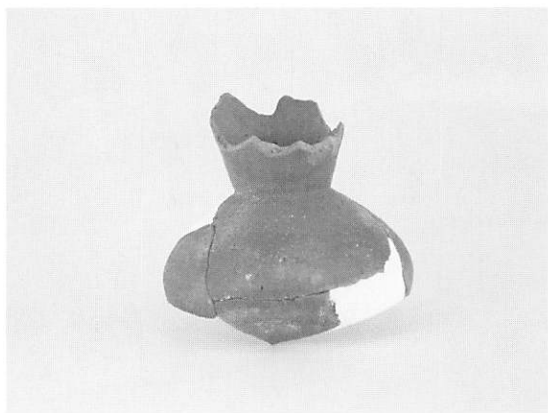
5 4号溝出土遺物 (213)



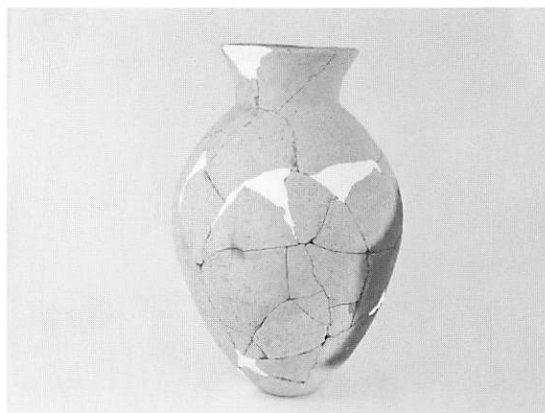
2 4号溝出土遺物 (208)



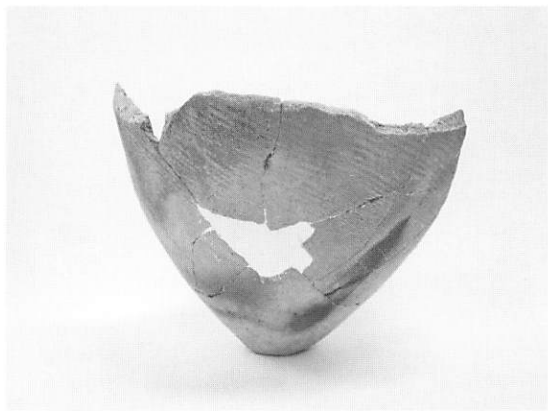
6 4号溝出土遺物 (217)



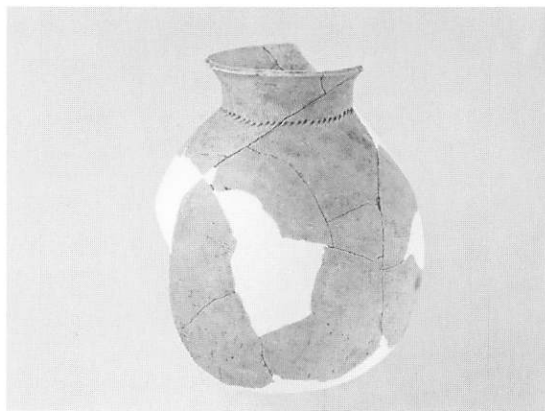
3 4号溝出土遺物 (210)



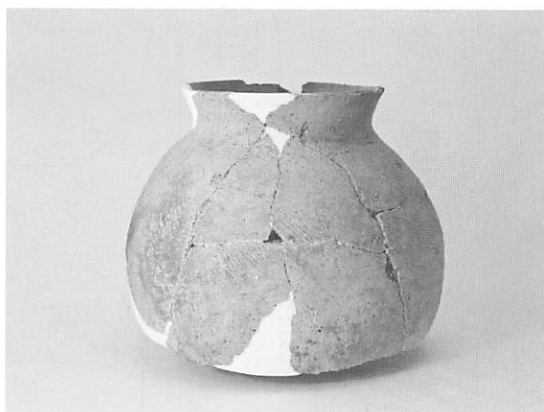
7 4号溝出土遺物 (218)



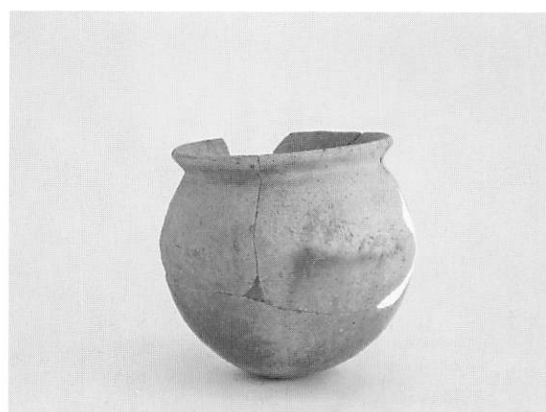
4 4号溝出土遺物 (212)



8 4号溝出土遺物 (219)



1 4号溝出土遺物 (220)



5 4号溝出土遺物 (226)



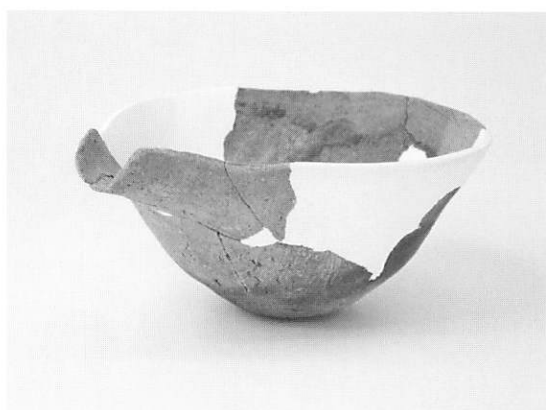
2 4号溝出土遺物 (221)



6 4号溝出土遺物 (230)



3 4号溝出土遺物 (224)



7 4号溝出土遺物 (231)



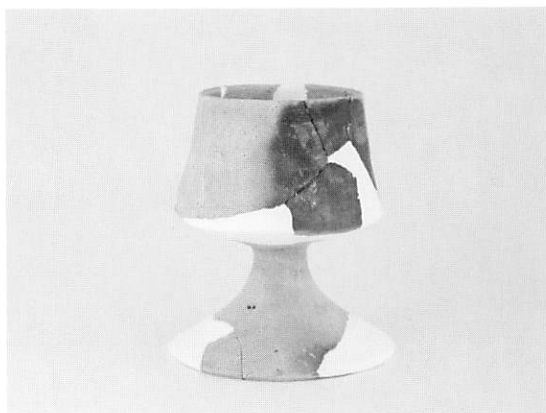
4 4号溝出土遺物 (225)



8 4号溝出土遺物 (232)



1 4号溝出土遺物 (237)



5 4号溝出土遺物 (245)



2 4号溝出土遺物 (239)



6 4号溝出土遺物 (246)



3 4号溝出土遺物 (240)



7 4号溝出土遺物 (248)



4 4号溝出土遺物 (241)



8 4号溝出土遺物 (249)



1 4号溝出土遺物 (252・253)



5 4号溝出土遺物 (268)



2 4号溝出土遺物 (259)



6 4号溝出土遺物 (269)



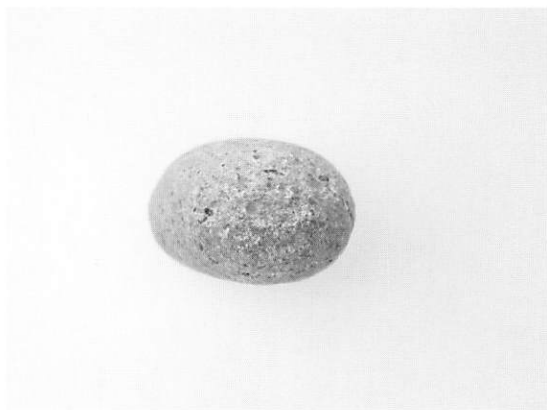
3 4号溝出土遺物 (266)



7 4号溝出土遺物 (270)



4 4号溝出土遺物 (267)



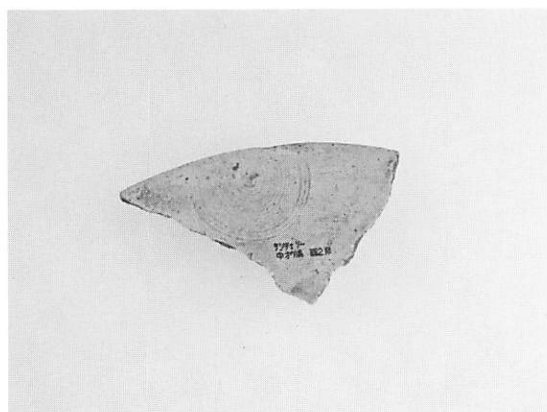
8 4号溝出土遺物 (270)



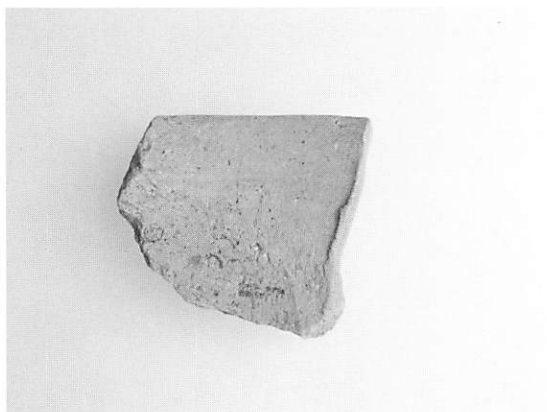
1 大溝出土遺物 (272)



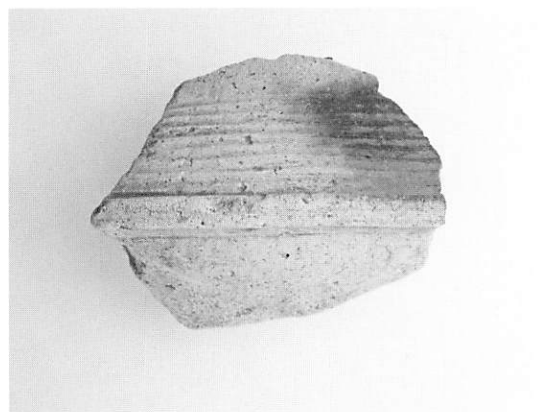
5 大溝出土遺物 (283)



2 大溝出土遺物 (273)



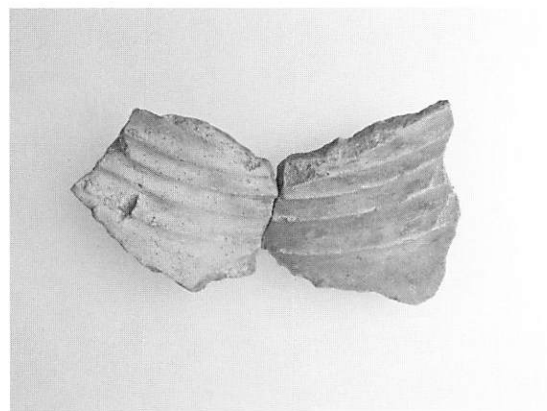
6 大溝出土遺物 (283)



3 大溝出土遺物 (274)



7 大溝出土遺物 (277)



4 大溝出土遺物 (275)



8 大溝出土遺物 (285)



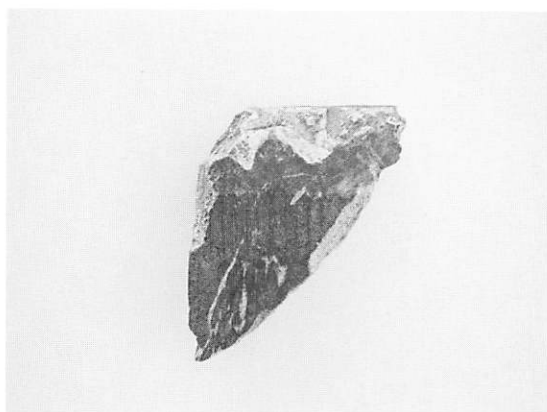
1 大溝出土遺物 (286)



5 大溝出土遺物 (291)



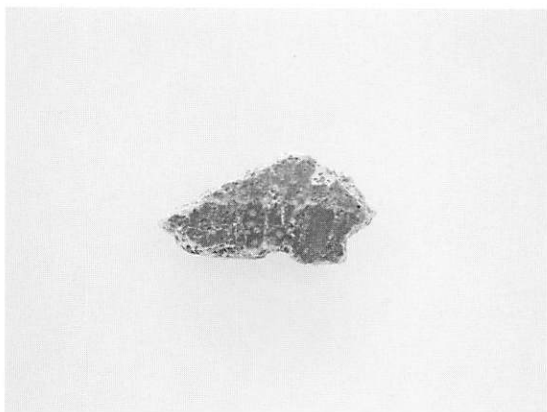
2 大溝出土遺物 (287)



6 大溝出土遺物 (292)



3 大溝出土遺物 (289)



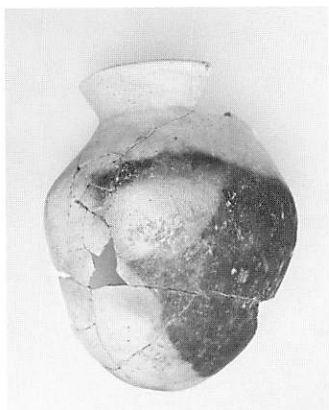
7 大溝出土遺物 (293)



4 大溝出土遺物 (290)



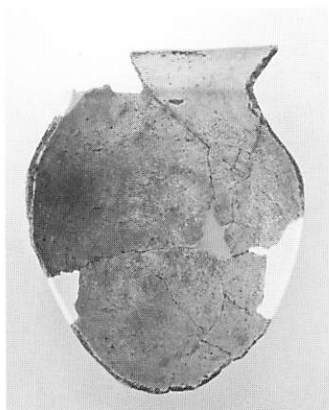
8 大溝出土遺物 (294)



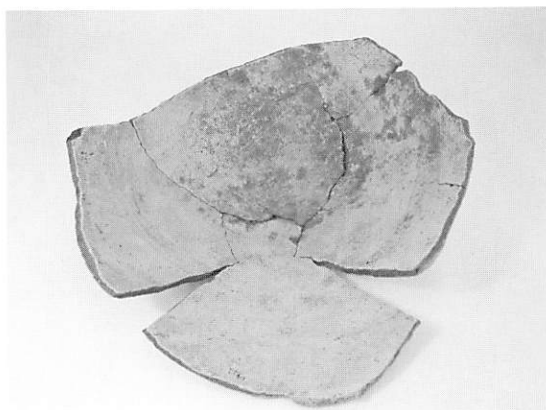
1 周溝出土遺物 (299)



5 周溝出土遺物 (309)



2 周溝出土遺物 (299)



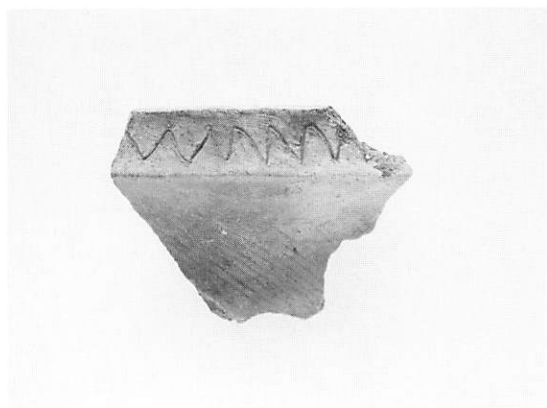
6 周溝出土遺物 (309)



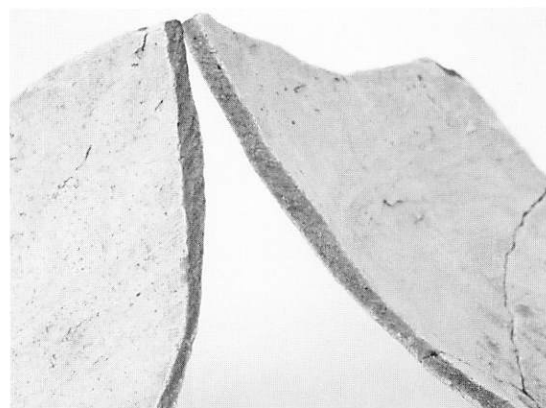
3 周溝出土遺物 (300)



7 周溝出土遺物 (309)



4 周溝出土遺物 (301)



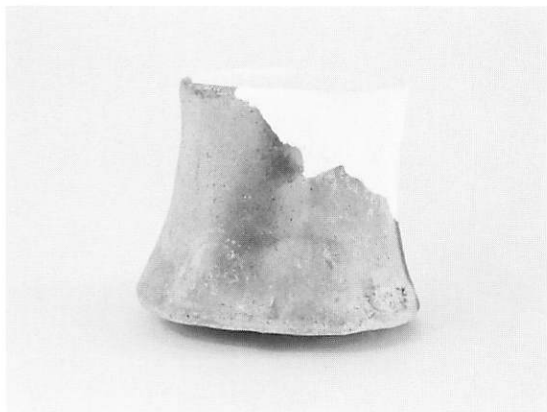
8 周溝出土遺物 (309)



1 周溝出土遺物 (305)



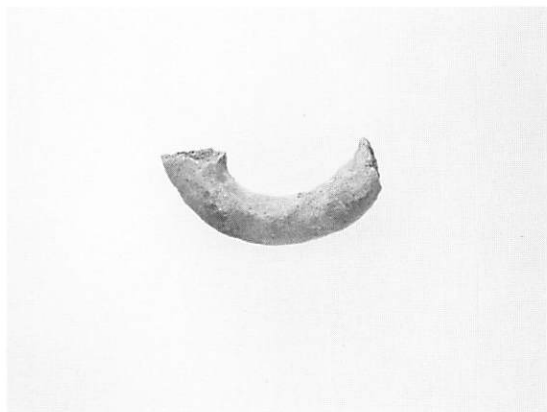
5 周溝出土遺物 (329)



2 周溝出土遺物 (315)



6 周溝出土遺物 (331)



3 周溝出土遺物 (320)



7 周溝出土遺物 (333)



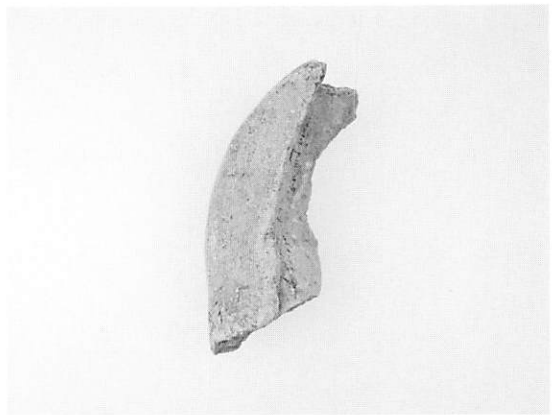
4 周溝出土遺物 (326)



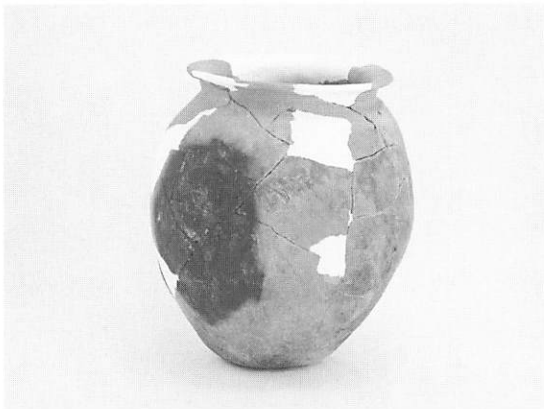
8 周溝出土遺物 (336)



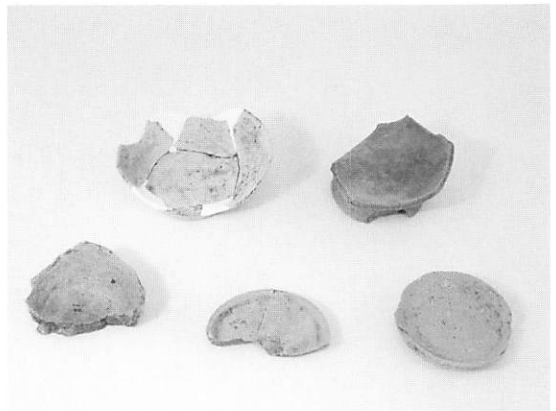
1 周溝出土遺物 (341)



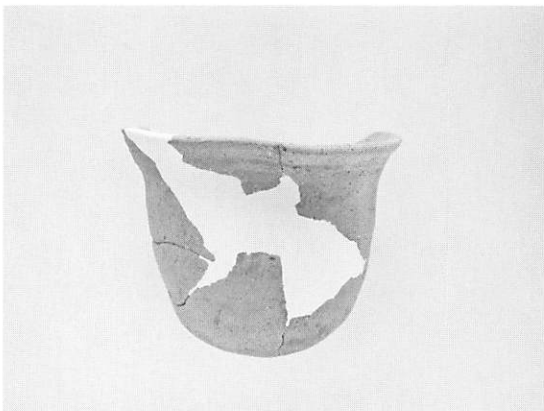
5 周溝出土遺物 (366)



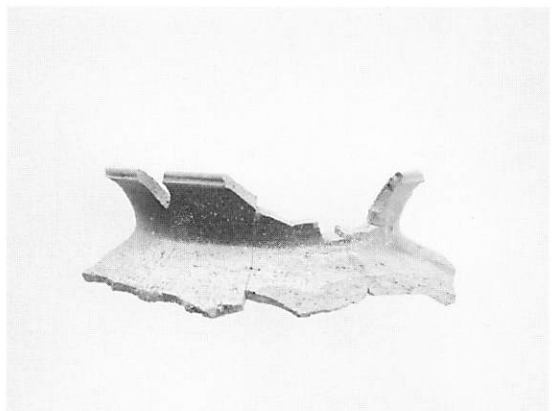
2 周溝出土遺物 (352)



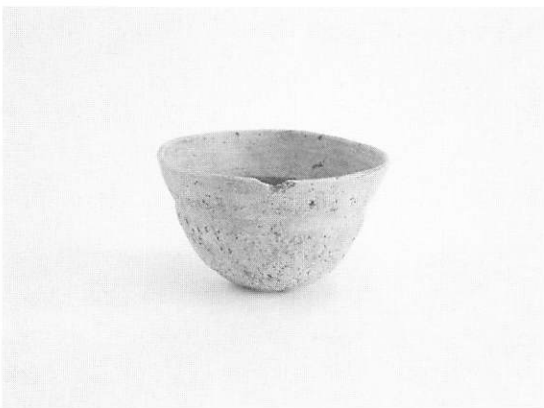
6 周溝出土遺物 (382ほか)



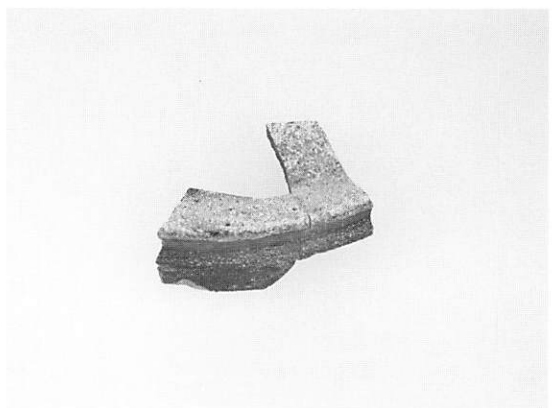
3 周溝出土遺物 (354)



7 周溝出土遺物 (420)



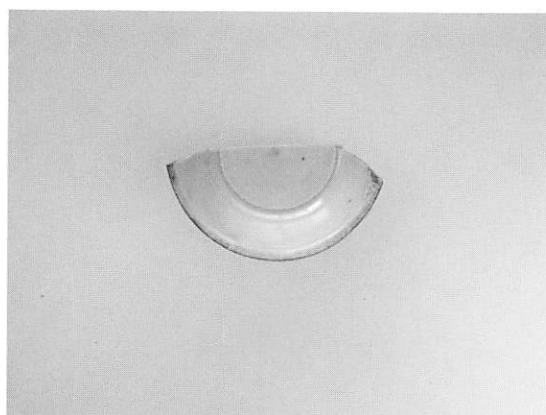
4 周溝出土遺物 (360)



8 周溝出土遺物 (421)



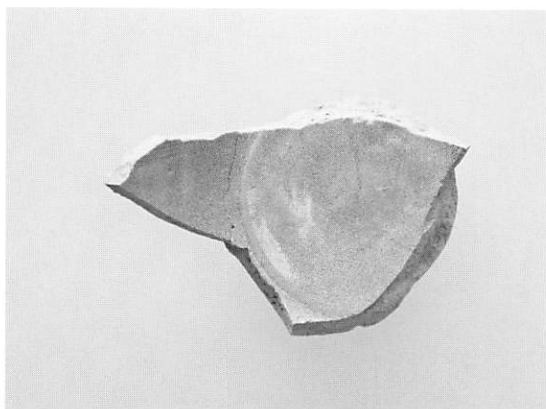
1 周溝出土遺物 (426)



5 周溝出土遺物 (443)



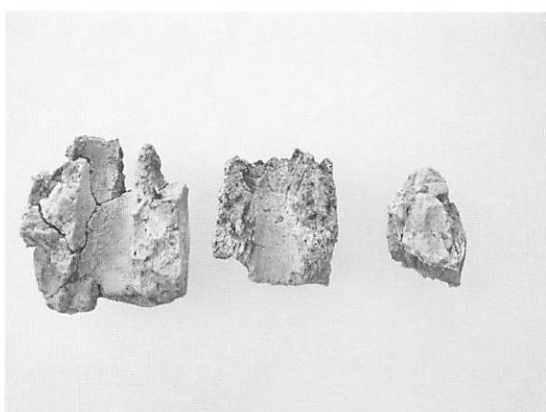
2 周溝出土遺物 (430)



6 周溝出土遺物 (445)



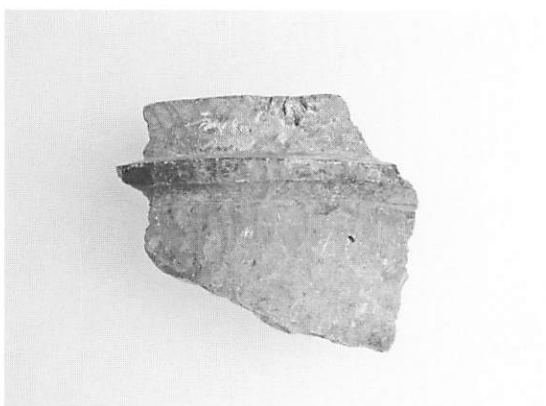
3 周溝出土遺物 (438)



7 周溝出土遺物 (446~448)



4 周溝出土遺物 (441)



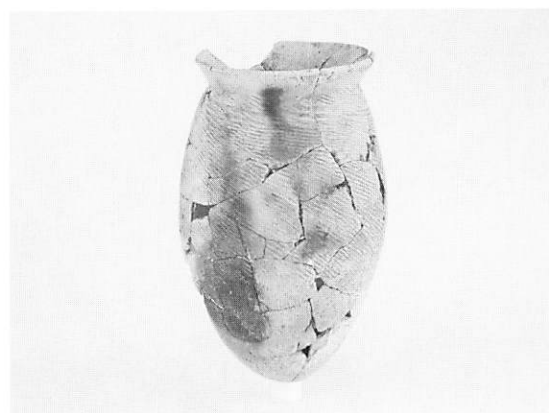
8 周溝出土遺物 (454)



1 遺構に伴わない遺物 (457)



5 遺構に伴わない遺物 (519)



2 遺構に伴わない遺物 (463)



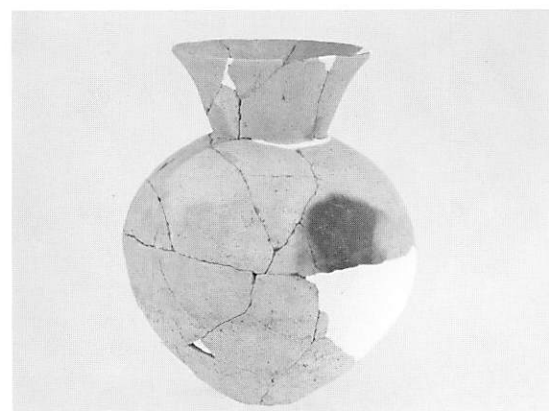
6 遺構に伴わない遺物 (526)



3 遺構に伴わない遺物 (487)



7 遺構に伴わない遺物 (527)



4 遺構に伴わない遺物 (496)



8 遺構に伴わない遺物 (535)



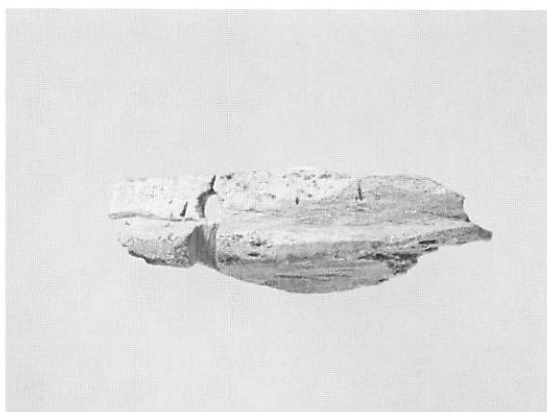
1 遺構に伴わない遺物 (540)



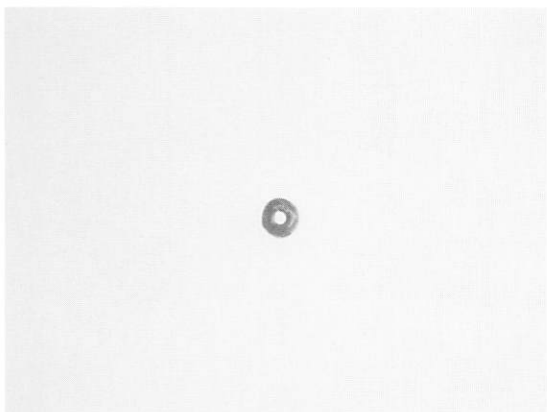
5 遺構に伴わない遺物 (566)



2 遺構に伴わない遺物 (543)



6 遺構に伴わない遺物 (568)



3 遺構に伴わない遺物 (564)



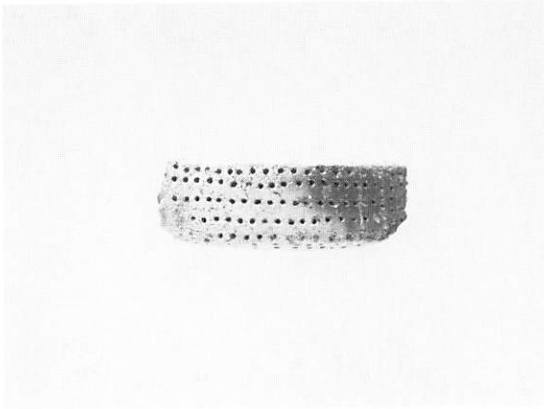
7 遺構に伴わない遺物 (569)



4 遺構に伴わない遺物 (565)



8 遺構に伴わない遺物 (578)



1 遺構に伴わない遺物 (593)



5 遺構に伴わない遺物 (図なし)



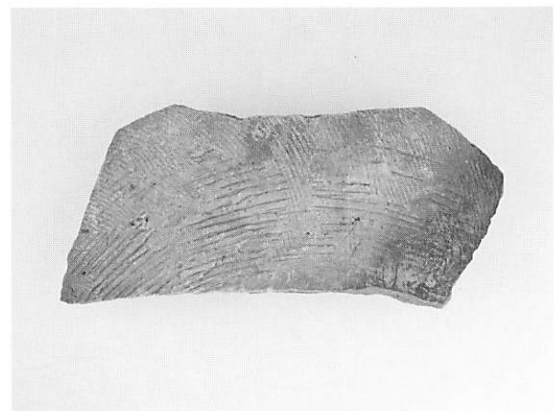
2 遺構に伴わない遺物 (606)



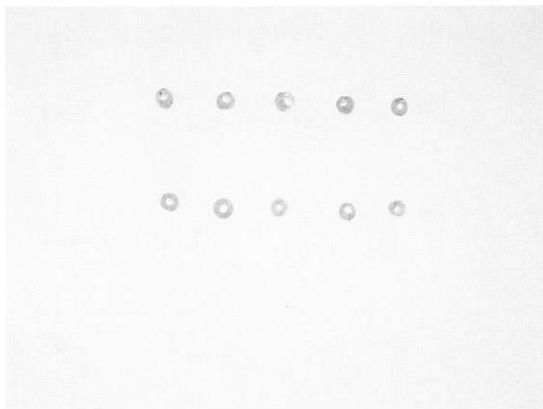
6 遺構に伴わない遺物 (図なし)



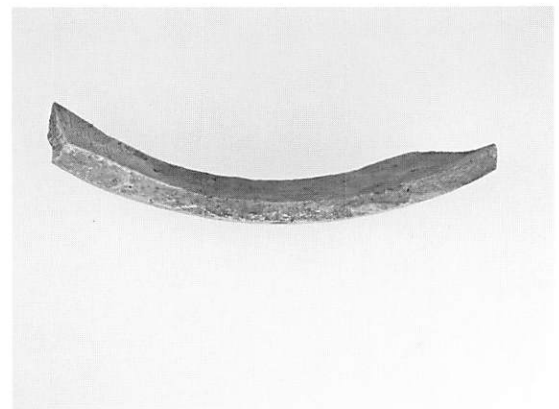
3 遺構に伴わない遺物 (607)



7 遺構に伴わない遺物 (図なし)



4 遺構に伴わない遺物 (608)



8 遺構に伴わない遺物 (図なし)

報告書抄録

ふりがな	かとうだひがしばるいせき							
書名	方保田東原遺跡11							
副書名	山鹿市文化財調査報告書							
巻数	第8集							
シリーズ名								
編著者名	中村幸史郎							
編集機関	山鹿市教育委員会							
所在地	〒861―0501 熊本県山鹿市山鹿1026―2							
発行年月日	平成21年2月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かとうだひがしばるいせき 方保田東原遺跡	くまもとけん 熊本県 やまがし 山鹿市 かとうだ 方保田 186-1	43208	179	32° 59' 45"	130° 42' 58"	平成2年 12月10日 ～ 4月4日	1,062㎡	サンチェ リー工業 増築工事
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	包蔵地	弥生時代、 古墳時代、中世		溝状遺構、 竪穴住居跡		弥生式土器、土師器、 須恵器、黒色土器、 石器		赤色顔料 精製関連 遺物出土

山鹿市文化財調査報告書第8集

方保田東原遺跡11

平成21年2月28日

編集 山鹿市教育委員会

発行 山鹿市教育委員会

印刷 シモダ印刷株式会社

熊本市上水前寺2丁目16-16

正誤表

『方保田東原遺跡(11)』 山鹿市文化財調査報告書 第8集 熊本県山鹿市教育委員会2009年

本文中

頁	左右	行 図 番	誤	正
31	右	7	154から158	155から158
40	左	3	215は小型の壺で、	216は小型の壺で、
40	左	4	216は土師器の	217は土師器の
56	左	11	405、415は	406、415は
58	左	15	肩部までの破片であるが	胴部までの破片であるが
58	左	25	468から471は	468から472は
58	右	34	482と接合面は見られないが	481と接合面は見られないが
66	右	3	542は石包丁の破片で	543は石包丁の破片で
67		第66図	No.564のスケールの数値が5	No.564のスケールの数値を2へ
68	右	3	542は石包丁の破片で	543は石包丁の破片で
68	右	21	593は底部のみで	592は底部のみで
70	右	4	608から645	608から655

※方保田東原遺跡(13) のP88 74図543に当調査区出土の犬型土製品を追加掲載

土器観察表

頁	番号	誤	正
75	34,46,47	ジョッキ形	ジョッキ形
75	061	番号61	番号64
76	064	番号64	番号61
76	083	ジョッキ形	ジョッキ形
78	125	甕棺	甕
78	126	甕棺	甕
78	136	ジョッキ形	ジョッキ形
79	156	口径 (底) 20.4	口径 (底) 17.6
82	257	器種 ジョッキ形 把手 部位 破片	器種 ジョッキ形 部位 把手
83	285	土錘	スプーン形
83	287	? 錘車	紡錘車
84	314	突帯付鉢	台付鉢
84	331	擦り石	磨石
87	425	甌	甌
90	519	口径 (12.3) 器高 8.2	口径 (6.4) 器高 7.3
90	521	口径 (15.9)	口径 (14.0)
90	527	口径 6.7	口径 不明
91	532	甌	甕
91	550	器高 不明	器高 8.2
92	559	甕	壺
92	561	甌	壺
92	565	? 錘車	紡錘車
93	608	番号 608	番号 608～655

図版

頁	番号	誤	正
128	PL32	5 (283)	(289)
129	PL33	3 (289)	(288)
131	PL35	1 (305)	(306)
136	PL40	1 (593)	(598)

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第8集 方保田東原遺跡 11』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第8集 方保田東原遺跡 11

発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話：0968-43-1651

URL：<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2025 年6月 19 日